一般国道９号（静間仁摩道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書５

古屋敷遺跡（B 区）

2017 年 6 月

国土交通省松江国道事務所
島 根 県 教 育 委 員 会

一般国道９号（静間仁摩道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書５

古屋敷遺跡（B 区）

2017 年 6 月
国 土 交 通 省 松 江 国 道 事 務 所
島 根 県 教 育 委 員 会

序

現在、一般国道9号の大田市静間町～仁摩町間は、急カーブや急勾配が連続する区間が多く、重大事故が発生しやすい状況にあります。また一般国道9号の代替路線がなく、交通事故や災害等の発生により、日常生活はもとより、地域の経済活動に多大な支障をきたしております。そのため、中国地方整備局松江国道事務所では、緊急時の代替路線の確保、医療・観光・物流活動の支援を目的として、静間・仁摩道路を平成20年度から事業化し、整備を進めています。

道路整備にあたり、埋蔵文化財の保護に十分留意しつつ関係機関と協議を行っていますが、回避することのできない埋蔵文化財については、道路事業者の負担により必要な調査を実施し、記録保存を行っています。本事業においても、静間・仁摩道路建設地内にある遺跡について島根県教育委員会の協力のもとに発掘調査を実施しました。

この報告書は平成25年度に実施した、大田市仁摩町大国地内に所在する古屋敷遺跡（B区）の発掘調査をとりまとめたものです。今回の調査では、島根県では数少ない弥生時代の水田跡が確認されたほか、縄文時代後期から晩期の土器が大量に出土し、当時の社会の様子がうかがうことのできる重要な資料を得ることができました。本報告書がふるさと島根県の歴史を伝える貴重な資料として、学術並びに歴史教育のために広く活用されることを期待します。

最後に、当所の道路整備事業にご理解、ご支援をいただき、本埋蔵文化財発掘調査および調査報告書の編纂にご協力いただきました地元の方々や関係諸機関の皆様に対し、深く感謝いたします。

平成29年6月

国土交通省中国地方整備局

松江国道事務所長　鈴木　祥弘

序

島根県教育委員会では、国土交通省中国地方整備局松江国道事務所から委託を受けて、平成25年度から一般国道9号（静間仁摩道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査を実施しています。本書は、このうち平成25年度に実施した古屋敷遺跡（B区）の発掘調査成果をとりまとめたものです。

古屋敷遺跡は、大田市仁摩町大国に所在する縄文時代後期から弥生時代前期の遺跡です。この調査で、島根県では数少ない弥生時代の水田跡が確認されたほか、縄文時代後期から晩期の土器が大量に出土し、当時の社会や人々の生活の様子を知る上で貴重な資料を得ることができました。本書が地域の歴史を解明していくための基礎資料として、広く活用されることを願っております。

最後になりましたが、発掘調査及び本報告書の作成にあたりご協力いただきました国土交通省中国地方整備局松江国道事務所をはじめ、大田市教育委員会、地元の方々並びに関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成29年6月

島根県教育委員会

教育長　　鴨木　朗

例　言

1．本書は、国土交通省中国地方整備局松江国道事務所から委託を受けて、島根県教育委員会が平成25年度に実施した一般国道9号（静間仁摩道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の内、大田市仁摩町大国地内に所在する古屋敷遺跡（B区：大田市仁摩町大国135番地外）の成果をとりまとめたものである。

2．調査組織は次のとおりである。

調査主体　島根県教育委員会

平成25年度　現地調査（B区）

［事　務　局］　廣江耕史（島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長）、渡部宏之（総務課長）池淵俊一（管理課長）

［調査担当者］　宮本正保（調査第二課調査第三係長）、林健亮（調査第二課長）、松山智弘（調査第二課臨時職員）、渡辺聡（同）、飯塚由起（同）、福田市子（同）、坂根健悦（同）、無川美和子（同）

平成28年度　報告書作成

［事　務　局］　萩　雅人（島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長）、渡部宏之（総務課長）池淵俊一（管理課長）

［調査担当者］　宮本正保（調査第一課調査第一係長）、柳浦俊一（高速道路推進スタッフ企画幹）飯塚由起（調査第一課臨時職員）

3．現地調査および整理作業において、以下の方々から御指導いただいた。（五十音順、所属役職は当時）

石丸恵利子（広島大学総合博物館研究員）　及川　穣（島根大学法文学部社会文化学科准教授）千葉　豊（京都大学文化財総合研究センター准教授）　中村健二（公益財団法人滋賀県文化財保護協会企画調整課副主幹）　中村唯史（島根県立三瓶自然館主幹）　幡中光輔（出雲市市民文化部文化財課主任）　濱田竜彦（鳥取県立むきばんだ史跡公園調査整備担当係長）　平郡達哉（島根大学法文学部社会文化学科准教授）　山田康弘（国立歴史民俗博物館研究部准教授）

4．発掘調査作業（安全管理、発掘作業員の雇用、掘削、測量等）については、島根県教育委員会から大畑建設株式会社へ委託した。

5．挿図中の北は、測量法による第Ⅲ平面直角座標系X軸方向を指し、座標系のXY座標は世界測地系による。また、レベル高は海抜高を示す。

6．本書第2図は、国土地理院発行の1/25,000地図（仁万）を使用して作成したものである。

7．本書に掲載した写真は、各調査員の外、株式会社ジェクトが撮影した。

8．本書の執筆は、第1～4章を宮本、第5章を石丸恵利子、上山晶子、渡辺正巳（文化財調査コンサルタント株式会社）、第6章を宮本・柳浦が行った。また、本書の編集は宮本が行った。

9．本書に掲載した遺物及び実測図・写真などの資料は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターで保管している。

凡　例

1．遺物実測図の断面は、土器については白ヌキ、石製品・土製品は斜線で示している。　また石製品の網かけ部分は磨滅範囲を示す。

2．本書で用いた土器の分類及び編年観は下記の論文・報告書に依拠している。

（1）縄文土器

千葉　豊編『西日本の縄文土器　後期』　真陽社　2010

濱田竜彦「山陰地方における縄文時代晩期土器について」『縄文時代晩期の山陰地方』　第16回中四国縄文土器研究会鳥取実行委員会　2005

（2）弥生土器

正岡睦夫・松本岩雄編『弥生土器の様式と編年　山陽・山陰編』　木耳社　1992

3．土器の色調は、小山正忠・竹原秀雄『新版標準土色帖』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修/(財)日本色彩研究所　色票監修）第37版　2014　に従った。

目　次

第１章　調査に至る経緯と経過……1
第２章　古屋敷遺跡の位置と歴史的環境……4
　１．古屋敷遺跡の位置と地理的環境……4
　２．古屋敷遺跡周辺の歴史的環境……4
第３章　発掘調査の方法……8
　１．調査区の設定……8
　２．調査の方法……8
第４章　古屋敷遺跡（Ｂ区）の調査……12
　１．Ｂ区の層位……12
　２．第１遺構面の調査……15
　３．第２遺構面の調査……27
　４．第３遺構面の調査……32
　５．第４遺構面の調査……46
　６．第５遺構面の調査……71
第５章　自然科学分析……90
　１．古屋敷遺跡Ｂ区から出土した動物遺存体……90
　２．古屋敷遺跡Ｂ区から出土した赤色顔料付着遺物について……100
　３．古屋敷遺跡Ｂ区発掘調査に伴う自然科学分析……105
第６章　総　括……115

表 目 次

第１表　各遺構・包含層の時期……126
第２表　各遺構面の時期……127
第３表　古屋敷遺跡（Ｂ区）出土土器観察表……128
第４表　古屋敷遺跡（Ｂ区）出土石器観察表……135
第５表　古屋敷遺跡（Ｂ区）出土土製品観察表……136

挿 図 目 次

第１図　古屋敷遺跡の位置 …… 4
第２図　古屋敷遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 5
第３図　古屋敷遺跡調査区配置図 …… 9
第４図　古屋敷遺跡（B区）グリッド・セクション配置図 …… 10
第５図　B区南壁土層図 …… 13
第６図　B区９ライン土層図 …… 14
第７図　第１遺構面遺構位置図 …… 16
第８図　試掘調査・第１遺構面包含層出土遺物実測図 …… 17
第９図　第１遺構面包含層出土遺物実測図 …… 18
第10図　SD01実測図 …… 19
第11図　SD03・04実測図 …… 20
第12図　SD01・03出土遺物実測図 …… 21
第13図　水田遺構・ピット１～５実測図 …… 22
第14図　水田畦畔土層図 …… 23
第15図　SR01実測図 …… 23
第16図　SR01出土遺物実測図 …… 24
第17図　SR01・水田遺構出土遺物実測図 …… 25
第18図　第１遺構面　遺構出土石器実測図 …… 26
第19図　地床炉１実測図 …… 27
第20図　第２遺構面遺構位置図 …… 28
第21図　第２遺構面出土土器実測図 …… 29
第22図　第２遺構面出土土器・土製品実測図 …… 30
第23図　第２遺構面出土石器実測図 …… 31
第24図　SK04実測図 …… 32
第25図　第３遺構面遺構位置図 …… 33
第26図　SK05実測図 …… 34
第27図　第３遺構面　遺構出土土器実測図 …… 34
第28図　SK13実測図 …… 35
第29図　SK13遺物出土状況実測図 …… 35
第30図　SK13出土遺物実測図 …… 36
第31図　SX01実測図 …… 37
第32図　SX01遺物出土状況実測図 …… 38
第33図　SX01出土遺物実測図 …… 39
第34図　第３遺構面　遺構出土石器実測図 …… 40
第35図　第３遺構面出土土器実測図１ …… 41
第36図　第３遺構面出土土器実測図２ …… 42

第 37 図　第 3 遺構面出土土器実測図 3 …… 43
第 38 図　第 3 遺構面出土石器実測図 1 …… 44
第 39 図　第 3 遺構面出土石器実測図 2 …… 45
第 40 図　SK12 実測図 1 …… 46
第 41 図　SK12 実測図 2 …… 46
第 42 図　第 4 遺構面遺構位置図 …… 47
第 43 図　SD09 実測図 …… 48
第 44 図　土器溜まり 1 実測図 …… 49
第 45 図　第 4 遺構面　遺構・土器溜まり 1 出土土器実測図 …… 50
第 46 図　土器溜まり 1 出土遺物実測図 1 …… 51
第 47 図　土器溜まり 1 出土遺物実測図 2 …… 52
第 48 図　土器溜まり 1 出土遺物実測図 3 …… 53
第 49 図　土器溜まり 1 出土遺物実測図 4 …… 54
第 50 図　土器溜まり 1 出土遺物実測図 5 …… 55
第 51 図　土器溜まり 1 出土遺物実測図 6 …… 57
第 52 図　土器溜まり 1 出土遺物実測図 7 …… 58
第 53 図　土器溜まり 1 出土遺物実測図 8 …… 59
第 54 図　SD09 出土石器実測図 …… 60
第 55 図　土器溜まり 1 出土石器実測図 1 …… 61
第 56 図　土器溜まり 1 出土石器実測図 2 …… 62
第 57 図　土器溜まり 1 出土石器実測図 3 …… 63
第 58 図　土器溜まり 1 出土石器実測図 4 …… 64
第 59 図　土器溜まり 1 出土石器実測図 5 …… 65
第 60 図　第 4 遺構面出土土器実測図 …… 66
第 61 図　第 4 遺構面出土石器実測図 …… 67
第 62 図　河道出土土器実測図 1 …… 68
第 63 図　河道出土土器実測図 2 …… 69
第 64 図　河道出土石器実測図 …… 70
第 65 図　地床炉 51 ～ 53 実測図 …… 71
第 66 図　第 5 遺構面遺構位置図 …… 72
第 67 図　緑灰色粘土出土土器実測図 …… 73
第 68 図　緑灰色粘土出土石器実測図 …… 74
第 69 図　青灰色粘土出土土器実測図 1 …… 76
第 70 図　青灰色粘土出土土器実測図 2 …… 77
第 71 図　青灰色粘土出土石器実測図 1 …… 78
第 72 図　青灰色粘土出土石器実測図 2 …… 79
第 73 図　暗オリーブ灰色粘土 I 出土土器実測図 1 …… 80
第 74 図　暗オリーブ灰色粘土 I 出土土器実測図 2 …… 81

第 75 図　暗オリーブ灰色粘土Ⅱ出土土器実測図 1 …… 82
第 76 図　暗オリーブ灰色粘土Ⅱ出土土器実測図 2 …… 83
第 77 図　暗オリーブ灰色粘土Ⅱ出土土器実測図 3 …… 84
第 78 図　暗オリーブ灰色粘土Ⅱ出土土器実測図 4 …… 85
第 79 図　暗オリーブ灰色粘土Ⅰ・Ⅱ出土土器・土製品実測図 …… 86
第 80 図　暗オリーブ灰色粘土Ⅰ・Ⅱ出土石器実測図 …… 88
第 81 図　青灰色砂礫出土土器実測図 …… 89
第 82 図　古屋敷遺跡縄文晩期編年表（1）…… 118
第 83 図　古屋敷遺跡縄文晩期編年表（2）…… 119
第 84 図　古屋敷遺跡縄文晩期編年表（3）…… 120
第 85 図　古屋敷遺跡主要遺構・河道位置図 …… 124

写真図版目次

図版 1.　B 区全景（東から）
図版 2.　B 区全景
南壁土層上半（1）
図版 3.　南壁土層上半（2）
南壁土層下半（1）
図版 4.　南壁土層下半（2）
9 ライン土層
図版 5.　SD01 全景
SD01 土層
図版 6.　SD01 遺物出土状況
SD03 南側
図版 7.　SD03 北側
SD03 土層
図版 8.　SD04 全景
SD04 土層
図版 9.　SD07 全景
水田遺構全景
図版 10.　水田遺構
畦畔土層 1
図版 11.　畦畔土層 4
P1 土層
図版 12.　P5 土層
SR01 全景
図版 13.　SR01 土層
SR01 遺物出土状況
図版 14.　地床炉 1 検出状況
地床炉 1 土層
図版 15.　第 2 遺構面　地床炉検出状況
第 3 遺構面全景（東から）
図版 16.　第 3 遺構面全景（西から）
SK04 全景
図版 17.　SK05 全景
SK05 土層
図版 18.　SK13 全景
SK13 土層
図版 19.　SK13 遺物出土状況
SX01 検出状況
図版 20.　SK12 全景 1
SK12 全景 2
図版 21.　SK12 石材検出状況 1
SK12 石材検出状況 2
図版 22.　SD09 全景
土器溜まり 1（西から）
図版 23.　土器溜まり 1 土層
土器溜まり 1 遺物出土状況
図版 24.　地床炉 51 ～ 53 検出状況
地床炉 51 土層
図版 25.　地床炉 52 土層
地床炉 53 土層
図版 26.　完掘状況（東から）
完掘状況（西から）
図版 27.　赤彩土器・土製品
赤彩土器・土製品
図版 28.　試掘調査・第 1 遺構面包含層出土土器
図版 29.　第 1 遺構面 包含層出土土器
SD01・03 出土土器
図版 30.　SD01・03 出土土器
SR01 出土土器
図版 31.　SR01 出土土器
SR01 出土土器
図版 32.　SR01・水田畦畔出土土器
第 1 遺構面出土石器
図版 33.　第 2 遺構面出土土器
第 2 遺構面出土土器
図版 34.　第 2 遺構面出土土器
第 2 遺構面出土土器
図版 35.　第 2 遺構面出土土器・土製品
第 2 遺構面出土土器
図版 36.　第 2 遺構面出土石器
第 3 遺構面 遺構・遺構面出土土器

図版 37. SK13 出土土器
SK13 出土土器
図版 38. SX01 出土土器
第 3 遺構面 遺構出土石器
図版 39. 第 3 遺構面 遺構出土石器
第 3 遺構面出土土器
図版 40. 第 3 遺構面出土土器
第 3 遺構面出土土器
図版 41. 第 3 遺構面出土土器
第 3 遺構面出土石器
図版 42. 第 3 遺構面出土石器
第 4 遺構面 遺構・土器溜まり 1 出土土器
図版 43. 土器溜まり 1 出土土器
図版 44. 土器溜まり 1 出土土器
土器溜まり 1 出土土器
図版 45. 土器溜まり 1 出土土器
土器溜まり 1 出土土器
図版 46. 土器溜まり 1 出土土器
土器溜まり 1 出土土器
図版 47. 土器溜まり 1 出土土器
土器溜まり 1 出土土器
図版 48. 土器溜まり 1 出土土器
土器溜まり 1 出土土器
図版 49. 土器溜まり 1 出土土器
土器溜まり 1 出土土器
図版 50. 土器溜まり 1 出土土器
土器溜まり 1 出土土器
図版 51. 土器溜まり 1 出土土器
土器溜まり 1 出土土器
図版 52. 土器溜まり 1 出土土器
土器溜まり 1 出土土器
図版 53. 土器溜まり 1 出土土器
図版 54. 土器溜まり 1 出土土器
SD09 出土石器
土器溜まり 1 出土石器
図版 55. 土器溜まり 1 出土石器
土器溜まり 1 出土石器
図版 56. 土器溜まり 1 出土石器
土器溜まり 1 出土石器
図版 57. 第 4 遺構面 土器溜まり 1 出土石核ほか（写真のみ）
第 4 遺構面出土土器
図版 58. 第 4 遺構面出土土器
第 4 遺構面出土土器
図版 59. 第 4 遺構面出土土器
第 4 遺構面出土石器
図版 60. 河道出土土器
河道出土土器
図版 61. 河道出土遺物
緑灰色粘土出土土器
図版 62. 緑灰色粘土出土土器
図版 63. 緑灰色粘土出土土器
緑灰色粘土出土石器
図版 64. 青灰色粘土出土土器
青灰色粘土出土土器
図版 65. 青灰色粘土出土土器
青灰色粘土出土石器
図版 66. 青灰色粘土出土石器
暗オリーブ灰色粘土Ⅰ出土土器
図版 67. 暗オリーブ灰色粘土Ⅰ出土土器
暗オリーブ灰色粘土Ⅰ出土土器
図版 68. 暗オリーブ灰色粘土Ⅰ出土土器
暗オリーブ灰色粘土Ⅱ出土土器
図版 69. 暗オリーブ灰色粘土Ⅱ出土土器
暗オリーブ灰色粘土Ⅱ出土土器（写真のみ）
図版 70. 暗オリーブ灰色粘土Ⅱ出土土器
暗オリーブ灰色粘土Ⅱ出土土器
図版 71. 暗オリーブ灰色粘土Ⅱ出土土器
図版 72. 暗オリーブ灰色粘土Ⅱ出土土器
暗オリーブ灰色粘土Ⅱ出土土器
図版 73. 暗オリーブ灰色粘土Ⅱ出土土器
図版 74. 暗オリーブ灰色粘土Ⅰ・Ⅱ出土土器・土製品
暗オリーブ灰色粘土Ⅰ・Ⅱ出土土器

図版 75.　暗オリーブ灰色粘土Ⅰ・Ⅱ出土石器
　　青灰色砂礫出土土器
図版 76.　青灰色砂礫出土土器
　　青灰色砂礫出土土器（写真のみ）
図版 77.　動物遺存体 1
　　動物遺存体 2
図版 78.　動物遺存体 3
　　動物遺存体 4
図版 79.　動物遺存体 5
　　動物遺存体 6

第１章　調査に至る経緯と経過

一般国道９号は京都府京都市から山口県下関市に至る総延長約 750km で、山陰地方の諸都市を結ぶ幹線道路である。この内、静間～仁摩間の現道は急カーブや急勾配が連続する区間が多く、重大事故が発生しやすい状況にある。また、この区間では、国際規格コンテナの通行支障トンネルや、事故・災害発生時の通行止めが発生し、大幅な迂回が必要となるなど、社会経済活動に大きな支障をきたしている。こうした問題を解決するため、島根県大田市静間町から大田市仁摩町大国に至る延長 7.9km を結ぶ自動車専用道路が計画され、平成 20 年度から「静間仁摩道路」として事業着手されている。

この計画に先立ち、国土交通省から島根県教育委員会に対して計画地内の埋蔵文化財についての照会があり、平成 16・17 年度に最初の分布調査を実施した。その後、平成 18 年２月、平成 22 年２月にも分布調査を実施した。島根県教育委員会では、平成 22 年５月 25 日付け島教文財第 233 号で、本線予定地内に所在する８遺跡と４カ所の要注意箇所を回答している。平成 23 年度末には工事用道路の分布調査を行い、これについては、平成 24 年４月９日付け島教文財第 49 号で回答した。

これらの結果を受けて、国土交通省と島根県教育委員会の間で、予定地内の埋蔵文化財の取り扱いについて協議が行われ、平成 25 年３月 26 日付け国中整松一官第 248 号で文化財保護法第 94 条第１項の規定による通知が国土交通省から文化庁長官あてに提出された。それに対し、平成 25 年３月 26 日付け島教文財第 11 号の 62 で、島根県教育委員会教育長から 10 遺跡について記録保存のための発掘調査の実施が勧告された。

この間の平成 21 年５月には、静間仁摩道路の計画線に近い大田市五十猛町に所在する鳴滝山鉛鉱山跡について、世界遺産である石見銀山の操業に関わる鉛鉱山である可能性があることから、同年７月に現地協議を行った。平成 23 年３月に再度分布調査を行った結果、坑道そのものは事業地内に含まれていないことを確認したが、坑道に至る古道、及びそこから枝分かれする通称「御大師山古道」の取り扱いについては、平成 25 年８月 19 日付け国中整松調設第 50 号で文化財保護法第 94 条第１項の通知があり、平成 25 年８月 20 日付け島教文財第 15 の 35 で発掘調査の実施が勧告された。鳴滝山鉛鉱山古道と御大師山古道については、平成 25 年９月に周辺の測量と発掘調査を行った。

静間仁摩道路と仁摩温泉津道路の接点で仁摩・石見銀山インターチェンジに隣接する大田市仁摩町大国地内には庵寺石塔と呼ばれる岩窟があり、宝筐印塔などが納められている。この遺跡は、平成 14 年３月の分布調査で確認されていたが、平成 15 年７月に仁摩温泉津道路に関係して島根県教育委員会教育長から国土交通省へ回答した際には、仁摩温泉津道路建設予定地内には含まれていないと認識されていた。その後、平成 19 年７月には『石見銀山遺跡とその文化的景観』が世界遺産に登録されると、この付近は世界遺産のバッファゾーンとなった。岩窟内に安置される宝筐印塔は、元禄二 (1688) 年銘がある福光石製石塔で、保存状態がよく、紀年銘があることから石見銀山にある同型式の石塔類研究の基準資料となるもので、貴重なものとされた。この石塔と周囲の遺跡の保存について、平成 22 年 10 月の取り扱い協議で、「静間仁摩道路」に事業地内に含まれることが判明したため、島根県教育委員会から国土交通省に対し重要性を説明。同月、大田市石見銀山課

が国土交通省に対し、「石見銀山景観保全条例」との調整について協議を行った。それを受けて、国土交通省では工法変更により岩窟付近を保存することになったが、工事の影響を受ける岩窟前面のテラス部分については遺構の広がりを確認する必要が生じた。

静間仁摩道路建設予定地内の試掘確認調査は、平成24年度の古屋敷遺跡を最初に、平成25年10月に大田市五十猛町地内で、平成26年7月から12月には大国地頭所遺跡など6カ所で実施、平成27年度は静間町及び仁摩町地内で7カ所の試掘確認調査を実施した。その結果、垂水遺跡・松林寺遺跡・大国地頭所遺跡・庵寺石塔群（テラス部分）の発掘調査を実施することとなった。

平成25年度には古屋敷遺跡（A・B区）を、平成26年度には古屋敷遺跡（C・D・E・F区）を、平成27年度には古屋敷遺跡の残された部分(G・H・I区)、大国地頭所遺跡の発掘調査を行った。なお、平成25年度には、工事用道路に関連する大田市仁摩町宅野の城ノ内遺跡の発掘調査を行う予定であったが、工事の都合により延期された。この年の6月10日には、城ノ内遺跡周辺の石塔類について、立正大学文学部教授の池上悟氏、元島根県文化財保護審議会委員の田中義昭氏の調査指導を受けた。

平成27年度には大国地頭所遺跡約3,500㎡及び古屋敷遺跡の残り約2,500㎡について発掘調査を行うとともに、本報告書に関わる部分及び、古屋敷遺跡(A・E区)の遺物整理作業を行った。翌平成28年度に本報告の執筆・編集・印刷を行った。

古屋敷遺跡　古屋敷遺跡は大田市仁摩町大国に所在し、以前から遺物散布地として知られていた。県道仁摩瑞穂線改良工事に伴い、圃場整備事業が計画されたことから、当時の仁摩町教育委員会が平成7・8年度に発掘調査を実施している。この時の調査は、現市道沿いの約600㎡について行われ、青磁や青花などの中近世の遺跡に伴う遺物が出土した他、弥生前期の壺や土坑を検出している。

その後に計画された静間仁摩道路では、古屋敷遺跡付近にインターチェンジや橋梁に関わる大きな橋台が造成されることとなった。平成23年度までの分布調査結果では、10,000㎡以上の広大な範囲が調査対象地とされていたが、島根県教育委員会では、平成24年5月と11～12月に試掘確認調査を実施し、調査対象範囲を約9,000㎡としたが、複数の遺構面が重なり、地表下3m近くまで続く遺物包含層の存在が明らかになり、調査の難航が予想された。

古屋敷遺跡の発掘調査は、平成25年5月から2班体制で着手した。調査区南端のA区700㎡と調査区北側にあるB区1,400㎡について実施することとなったが、A区の調査範囲を930㎡まで拡張した。しかし、調査は予想以上に難航したため、終了予定だった12月末からはさらに1班を増援し、翌年2月末まで調査を行った。

古屋敷遺跡A区の調査では縄文晩期の木棺墓と考えられる土坑を、B区の調査では弥生時代の水田跡や縄文時代晩期の土器溜まりなどを検出した。平成25年11月9日に現地説明会を行い、80名が参加した。平成25年9月21日には「第62回いにしえ倶楽部親子で発掘体験in仁摩」を開催し、46名が発掘調査を体験した。また、平成25年10月22日には及川穣氏、10月24日には中村健二氏、11月20日には山田康弘氏と濱田竜彦氏、平成26年1月20日には中村唯史氏の調査指導を受けた。また、平成25年12月10日に土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムの松下孝幸氏・松下真実氏の調査指導を受け、木棺墓出土の人骨と思われる遺存体の取り上げ、鑑定を依頼した。

平成26年度は、3パーティーを投入し、調査区中程のC区約1,800㎡、D区約1,800㎡、県道沿いで橋脚が計画されているE区約100㎡、北西側のF区約400㎡について調査を実施した。D区

では棺材が良好に残る木棺墓 (SK01) を検出したため、6 月 30 日に及川 穣氏、平郡達哉氏、7 月 7 日に会下和宏氏、7 月 20 日に山田康弘氏に調査指導を受けた。また、10 月には D 区で水さらし場遺構が発見されたことから、11 月 5 日に及川 穣氏、平郡達哉氏に再び調査指導を受けるとともに、12 月 8 日には、山田昌久氏の指導を得た。また、11 月 4 日には、自然科学の立場から中村唯史氏の指導を受けている。この間、7 月 25 日には花園大学の高橋克壽氏と徳島文理大学の大久保徹也氏、10 月 20 日には千葉 豊氏、11 月 19 日には山本悦代氏、山口雄治氏、12 月 11 日には松本直子氏が来訪し、指導を得た。

11 月 8 日には現地説明会を開催し、約 80 名が水さらし場遺構を中心に見学した。平成 26 年 8 月 7 日は埋蔵文化財調査センター主催で『教員のための文化財活用講座』が仁万まちづくりセンターで行われ、参加者が古屋敷遺跡を見学した。平成 26 年度も調査期間を延長し、翌年 1 月末まで現地調査を行った。

平成 27 年度には 2 パーティーを投入し、残る 2,500㎡ (G・H・I 区) の調査を実施した。調査区内を縦断する水路の移設工事が 9 月までずれ込んだため、まず水路周辺部分を残して調査を進め、水路移設の後にあらためて該当部分の調査を行った。H 区では弥生時代前期の水路に伴って杭列が出土したため、5 月 25 日にの会下和宏氏の指導を受けた。10 月 26 日には出土した種子等について小畑弘己氏の指導を受けた。平成 27 年 11 月 14 日には現地説明会を開催し、約 80 名の参加を得た。また平成 28 年 2 月には、弥生時代前期の水路跡から出土した水生昆虫について、林成多氏の指導を受けた。

調査にあたっては平成 25 年度の調査開始当初から各年度・調査区とも共通した 1 辺 10 mのグリッドを設定し、各グリッドは調査区北西側を起点に、南北方向にアルファベットを、東西方向に数字を割り振って、A1、A2・・・とした。耕作土の除去はバケットに平爪を装着したバックフォーを使用し、遺物包含層の掘削は、主にスコップを用いて人力で掘り下げたが、遺物が集中する箇所は草削り・移植ゴテ等で掘り下げた。

平面図は、遺跡調査システム「遺構くん」を用いて測量し、出力後補正を行った。必要に応じて手測りで平面図を作成し、その他報告書掲載が見込まれる遺物は遺跡調査システムで出土位置を記録した上で取り上げた。遺構の写真は、原則として 35mm デジタルカメラで撮影し、必要に応じて記録保存のため 6 × 7 判フィルムカメラによる撮影も行った。

古屋敷遺跡 (B 区) の遺物整理作業は、現地調査と並行してスタートし、他事業の発掘調査による平成 26・27 年度の中断期間をおいて、平成 28 年度から本格的に実施した。平成 28 年 9 月 8 日には千葉 豊氏に縄文時代後期の土器について指導を受け、9 月 13 日には中村唯史氏に石材の鑑定を依頼している。

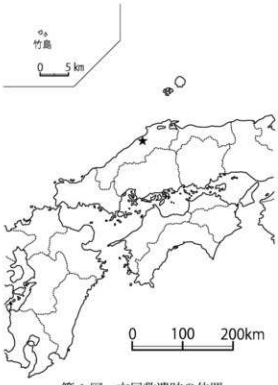
報告書作成は DTP 方式を採用し、遺物図面は実測図を、遺構図面は平面図・断面図等をレイアウトした下図をデジタルトレースした。トレースや図の加工などは Adobe 社製 Illustrator CS5・Photoshop CS5 を用いた。遺構・遺物写真はデジタルカメラで撮影した後、Photoshop CS5 を用いて調整し EPS データ化した。最終的な原稿執筆、編集作業は Adobe 社製 InDesign CS5 を用いて行った。

第２章　古屋敷遺跡の位置と歴史的環境

1. 古屋敷遺跡の位置と地理的環境

かつて石見国であった島根県西部は中国山地から北に伸びる丘陵が日本海に迫り、深い入り江となったリアス海岸と、その間に開けた平野や砂丘が交錯する変化に富んだ地形となっている。このうち、古屋敷遺跡の位置する大田市仁摩町は石見東部にあたり、北に大田市五十猛町、南に大田市温泉津町、東には世界遺産『石見銀山遺跡とその文化的景観』の中心部である大田市大森町に接している。遺跡のある大田市仁摩町大国地区は、大田市仁摩町冠方面から大きく蛇行して日本海に注ぐ潮川の下流部に位置し、狭い山間を抜けた潮川が仁万平野で急に開ける場所にあたる。古屋敷遺跡は、西流する潮川が運んだ堆砂によって形成された平野の最奥部に位置しており、周囲の標高は約 9m、日本海からは東へ約 2.2km の位置にある。大田市仁摩町付近では、海岸線が南北方向に伸びており、西に日本海が広がっている。よって、国道 9 号線・JR 山陰本線は北へ向かうと出雲・松江方面へ、南に向かうと江津・浜田方面へ向かうことになる。

遺跡の南側にある丘陵尾根上には平成 24 年までに発掘調査が行われた庵寺古墳群[註1]があったが、現在では仁摩温泉津道路の仁摩・石見銀山インターチェンジとなっている。また、遺跡に接して、元禄二 (1688) 年銘のある宝篋印塔などを納めた岩窟があり、岩窟とその周辺は庵寺石塔群と呼ばれる遺跡となっている。遺跡の北東には標高 153m の竜嵩山があり、その山頂付近は平坦面や土塁等が残っている。この竜嵩山の山頂周辺は、石見城跡として世界遺産『石見銀山遺跡とその文化的景観』の構成資産に含まれている。遺跡の北側には潮川が西流し、潮川北岸は斜面が迫っている。潮川右岸には大国地頭所遺跡、松林寺遺跡など弥生時代から中世に至る遺跡が知られている。

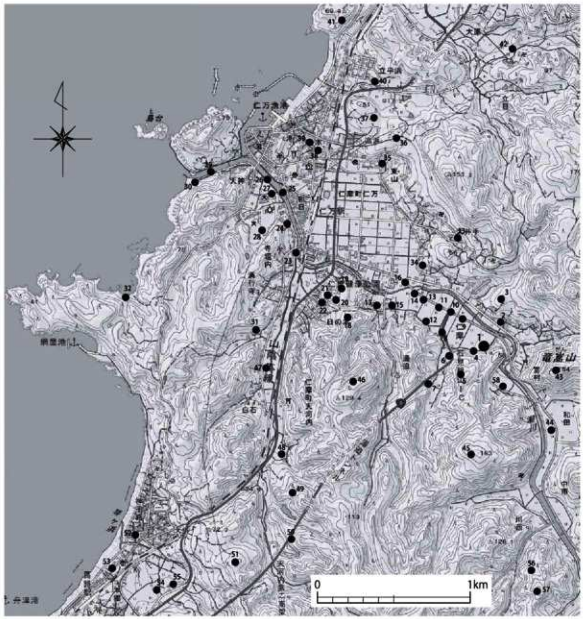


第１図　古屋敷遺跡の位置

2. 古屋敷遺跡周辺の歴史的環境

旧石器・縄文時代　大田市仁摩町周辺では旧石器時代の遺跡は知られていない。

久根ヶ曽根遺跡 (52)、鳥居原遺跡 (55)、仁万大橋遺跡 (24) などで縄文時代前期にさかのぼる土器が出土している。中期・後期になると川向遺跡 (26) や坂灘遺跡 (29) の他、古屋敷遺跡にも近い五丁遺跡 (8) など、次第に遺跡数が増加する。晩期の突帯文土器の時期になると庵寺遺跡 (6)、千後田遺跡 (14) などで土器の出土が知られようになる。これらの遺跡は、いずれも仁万平野縁辺の低湿地や海岸近くの砂丘にあり、当時、入り込んでいた入り海の周囲に縄文人の生活環境が広がっていたことが想像される。古屋敷遺跡から南東約 20km に位置する三瓶山北麓では三瓶小豆原埋没林が発見されており、炭化木片について 4310 ± 80yrsBP の年代が測定[註2]され、この頃に三瓶山の大規模な噴火があったことが推定される。三瓶山の東側にあたる飯南町の志津見ダム関連の発掘調査では厚い火山噴出



1	古屋敷遺跡	2	大国地頭所遺跡	3	松林寺遺跡	4	庵寺石塔群
5	庵寺古墳群	6	庵寺遺跡	7	於才迫遺跡	8	五丁遺跡
9	孫四田遺跡	10	大月遺跡	11	コヲスミ遺跡	12	ヒヨトリヶ市遺跡
13	京円原遺跡	14	千後田遺跡	15	入石遺跡	16	清石遺跡
17	白石遺跡	18	千人塚遺跡	19	檜ノ木谷横穴群	20	檜ノ木遺跡
21	安養寺古墳群	22	飯田遺跡	23	善興寺橋遺跡	24	仁万大橋遺跡
25	中配前遺跡	26	川向遺跡	27	毘沙門塚古墳	28	毘沙門遺跡
29	坂灘遺跡	30	坂灘古墳	31	矢迫屋横穴群	32	田尻遺跡
33	薮田遺跡	34	大井手遺跡	35	大寺遺跡	36	高浜遺跡
37	明神古墳	38	墓原遺跡	39	打落し遺跡	40	立平浜遺跡
41	赤崎山横穴群	42	宝隆寺裏古墳群	43	石見城跡	44	志源寺遺跡
45	大国城跡	46	天垣内城跡	47	横屋前遺跡	48	白石上屋敷遺跡
49	半城跡	50	ナメラ迫遺跡	51	狐城跡	52	久根ヶ曽根遺跡
53	琴ヶ浜遺跡	54	鳥居原古墳	55	鳥居原遺跡	56	虹ヶ谷城跡
57	茶臼山城跡	58	駒岩遺跡				

第２図　古屋敷遺跡の位置と周辺の遺跡

物層が確認されているが、仁摩町周辺は三瓶山の北西に当たるため三瓶山の噴火の伴う噴出物等はほとんど見られない。

弥生時代　圃場整備に伴って旧仁摩町が発掘調査を行った古屋敷遺跡[註3]からは、多量の弥生時代前期の土器とともに複数の土坑が検出されている。古屋敷遺跡に隣接する五丁遺跡 (8) や庵寺遺跡 (6) でも、縄文晩期から弥生前期に流れていたと見られる自然流路が見られ、庵寺遺跡では 34 点もの田下駄をはじめ木製品が出土している。川向遺跡 (26) では円形に配された杭列遺構をはじめ、前・中期の土器・石器・木製品など多くの遺物が出土している。

庵寺古墳群 (5) では、仁万平野を見下ろす丘陵上で後期の短期間に営まれた加工段が発見され、いわゆる高地性集落として注目される。檜ノ木遺跡 (20) からは後期の竪穴建物跡が検出された。この他、同時期の遺跡としては大寺遺跡 (35)、孫四田遺跡 (9) などがあり、仁万平野周辺の丘陵部に遺跡が点在している。

古墳時代　仁万平野を望む位置に築かれた安養寺 1 号墳は 12 × 8m の方墳で、箱式石棺をはじめ、4 基の主体部を持つ。安養寺古墳群 (21) や坂灘遺跡 (29) からは壺棺と見られる大型の土師器壺が出土している。坂灘古墳 (30) では、石を 2 ～ 3 段に積み上げた床面に石敷きの箱式石棺が明らかになっており、人骨や鹿角装刀子が出土している。また、古屋敷遺跡を見下ろす庵寺古墳群 (5) でも、八禽鏡を出土した 1 B 号墳など複数の古墳が前期に遡ることが確認された。

後期になると、明神古墳 (37)、鳥居原古墳 (54) をはじめ、五十猛の赤井穴ヶ迫古墳など、小平野毎に有力な古墳が築かれるようになる。庵寺古墳群でも、横穴式石室を持つ 1A 号墳が築かれるなど各地で横穴式石室が見られるようになる。この内、明神古墳は全長 10.1m の大形の横穴式石室に家形石棺を納め、金銅装円頭大刀や銅碗など優れた副葬品を持っていたことが知られ、鳥居原古墳でも双龍環頭大刀など優れた遺物が出土した。五十猛町の赤井穴ヶ迫古墳は石見地方では唯一の切石製横穴式石室を持つ古墳で、海上交通を介した出雲地方などとの交流を窺わせる。また、檜ノ木谷横穴群 (19)、矢迫屋横穴群 (31)、赤崎山横穴群 (41) など横穴墓も非常に多く知られる地域となっている。一方、大寺遺跡 (35)・藪田遺跡 (33) など古墳時代の遺物を出土する遺跡は少なくないが、住居跡を伴う集落遺跡の発見は少ない。

古代　この付近は、『和名類従抄』では邇摩郡大国郷に含まれると思われ、近隣には託農郷がある。また、『延喜式』に見える石見国には波祢、託農、楠道、江東、江西、伊甘の 6 駅家があったとされている。古代山陰道の位置は判明していないが、託農駅が現在の大田市仁摩町宅野付近であれば、比較的近くを山陰道が通っていた可能性がある。近隣での古代の遺跡の様相は明らかでないが、大田市温泉津町の中祖遺跡では古代の瓦を葺いた建物跡が発見された。また、大田市水上町の白坏遺跡からは「延喜九 (909) 年」と記された木簡が出土し、末端官衙の可能性が指摘されている。近隣では、五丁遺跡 (8) で条里制の畦畔が検出されている。

中世・近世　平安時代末～鎌倉時代の遺跡には白石遺跡 (17) などがある。多数の掘立柱建物跡の他、白磁・青磁などの貿易陶磁が出土した。

大永七年、石見銀山が再発見され、銀鉱山開発が活発化すると、戦国大名の争奪の場となる。大国地区においても世界遺産に含まれる石見城跡 (43) があり、銀山開発初期に銀鉱石を運んだとされる石見銀山街道鞆ヶ浦道が近くを通っている。

天正十五 (1587) 年、九州攻め中の豊臣秀吉の元に陣中見舞いに向かう細川幽斎は、その行程を『九

州道の記』に残している。丹後から日本海沿いに西に進む幽斎は石見銀山にも立ち寄っており、それによると、大浦に泊まり、大浦から仁万まで海路で移動し、仁万から石見銀山へ向かったとされていることから仁万から銀山へ向かう、つまり潮川沿いに古屋敷遺跡の対岸を石見銀山へ向かう道が当時のルートの一つであったと考えられる。

古屋敷遺跡南側の岩盤に穿たれた岩窟には元禄二 (1688) 年の銘を持つ大型の宝篋印塔や正徳五 (1715) 年銘の方柱状石塔などが納められ、その周辺を含め庵寺石塔群 (4) と呼ばれている。特に宝篋印塔は石見銀山最盛期に当たる 17 世紀代のもので、組み合わせ式でありながら、すべての部材が良好にそろい、保存状態も良いことから、きわめて貴重な資料となっている。

〈註〉

（1）『庵寺古墳群Ⅱ・大迫ツリ遺跡・小釜野遺跡』 島根県教育委員会　2014 年

（2）『三瓶埋没林調査報告書』 島根県環境生活部景観自然課　2000 年

（3）『五丁地区遺跡群発掘調査報告書』 仁摩町教育委員会　1996 年

〈参考文献〉

『増補改訂島根県遺跡地図Ⅱ（石見編）』 島根県教育委員会　2002 年

『島根県生産遺跡分布調査報告書Ⅱ　石見部製鉄遺跡』 島根県教育委員会 1984 年

『島根県中近世城館分布調査報告書〈第 1 集〉石見の城館』 島根県教育委員会　1997 年

『三瓶川流域遺跡他詳細分布調査Ⅱ』 大田市教育委員会　1984 年

『日本歴史地名体系第 33 巻　島根県の地名』平凡社　1995 年

『角川日本地名大辞典 32　島根県』 角川書店

第３章　発掘調査の方法

１．調査区の設定

周知の埋蔵文化財包蔵地である古屋敷遺跡は、14,000㎡にもおよぶ範囲が登録されている。工事計画の調整や試掘調査結果に基づいて調査対象を絞ったものの、最終的な調査対象面積は、道路の橋台が建設される約 8,900㎡と、潮川に架けられる橋梁の脚台部約 100㎡となった。また、地表下約 3m に亘って、遺構面が複数存在することが判明したため、調査区を分割し、３カ年をかけて調査を実施（第３図）した。

古屋敷遺跡の周辺は、平成８年に圃場整備が行われ、現状では水田となっている。平成７・８年度には、圃場整備事業に伴って仁摩町教育委員会（当時）が発掘調査[註1]を行っている。この時の調査区は、今回の調査地の東側に当たり、４つの調査区（第３図右側の仁摩町Ａ～Ｄ区）を設けて行われた。この調査で、掘建柱建物跡や白磁・青磁などが出土した中世の遺構面（第５層）は標高約 9.2m、弥生時代前期とされる遺構面（第９層）で標高約 8.8m であり、東側の丘陵から緩い勾配がついている。今回の調査地は現地表面の標高がすでに８～９ｍ程度あり、弥生時代前期の遺構面がその 0.5 m程度下に位置していることを考慮すると、遺跡全体が西向きの緩傾斜地であることが想定できる。

調査初年度となる平成 25 年度は、橋台部分の南北両側にあたるＡ・Ｂ区について実施し、平成 26 年度には、その間のＣ･Ｄ･Ｆ区、橋脚部にあたるＥ区について調査を行った。平成 27 年度には、残るＧ･Ｈ･Ｉ区の調査を実施した。古屋敷遺跡ではＧ･Ｈ･Ｉ区を横断するように用水路が通っており、当初からその処遇が懸案であった。平成 26 年１月、Ｃ区とＦ区から用水路側面までそれぞれサブトレンチを掘削したところ、いずれの場所でも用水路直下に遺跡が残存することが明らかになった。しかし、用水路の移設が平成 27 年９月下旬にずれ込んだため、この年の調査は当該部分以外から始め、10 月以降に用水路下へ調査区を拡張する形で対応した。

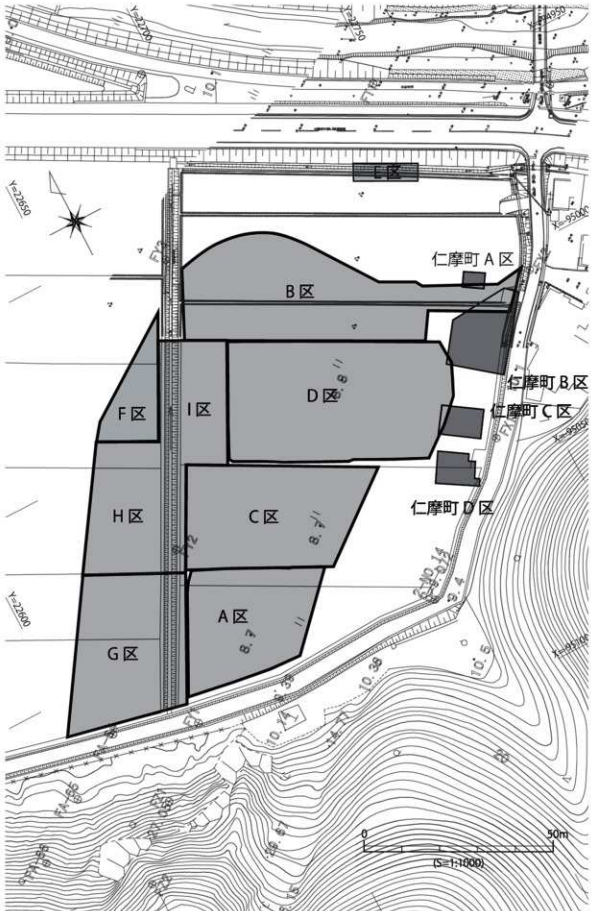
古屋敷遺跡の調査に際しては、測量法の第Ⅲ座標系 X=-94913.4586、Y=22659.14076 を基点にし、現水田面の区画方向に合わせて１辺 10m のグリッドを設定した（グリッド南北軸は座標系のＸ軸から 27.284 度東に振れている）。各グリッドは、南北方向が北からアルファベットを、東西方向は西から数字を振り、平成 25 年度から平成 27 年度まで共通して使用している。

２．調査の方法

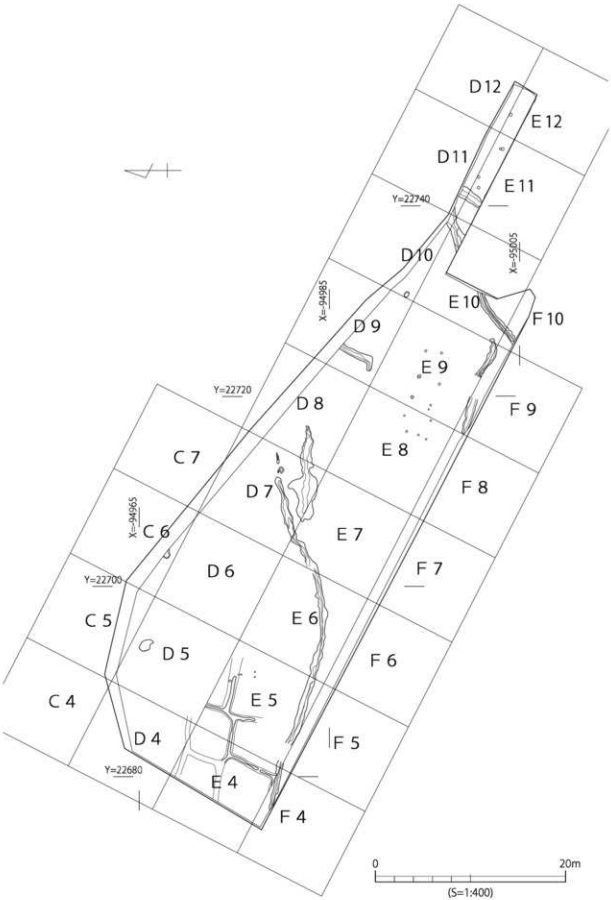
各調査区の発掘にあたっては、調査区の周囲に土層観察を兼ねた排水溝を掘削した。排水溝は、崩壊を防ぐための勾配を確保した上で、その時点での調査面から 0.5 ～１m程度低くなるように掘削し、調査面が下がるのに従い随時先行して掘り下げを行った。また必要に応じて調査区を横断するサブトレンチとセクションベルトを設定し、これらの相互関係を考慮しながら掘削した。

調査に際し、まず重機を使用して耕作土を 0.5 ～ 0.8m 除去し、これより下層を人力で掘削した。包含層の掘削においては、排水溝の土層断面を参考に土色や土質を考慮しながら掘削し、遺構等が確認された場合はなるべく面的に精査して遺構面を確定するようにした。この方法で調査区によっては５面の遺構面を確認した。

古屋敷遺跡は水田地帯に位置し、調査区周囲も含め現役の水田であったため、湧水対策が大きな



第 3 図　古屋敷遺跡調査区配置図 (1:1,000)



第 4 図　古屋敷遺跡（B 区）グリッド・セクション配置図 (1:400)

課題であった。常時湧き出す地下水と、降雨による雨水の流れ込みは、時として排水能力を超え、調査区が冠水することもあった。また遺跡を３ｍ近く掘り下げる必要があり、堆積土自体の含水率も高かったため、調査区の法面が緩んだり崩落することもあった。このため法面角度は必然的に緩くせざるを得ず、結果として調査区の面積は下層にいく程小さくなっている。またＢ区では排水路として先行掘削した部分や、法面崩落により調査不能となった部分は、遺構の一部が検出できなかったり、土層の記録がとれないところがあった。

本体と拡張区は層位的に齟齬がないよう調査を進めたが、部分的に多少の高低差が生じてしまった。また、本体調査時に排水路として先行掘削した部分や、法面崩落により調査不能となった部分は、遺構の一部が検出できなかったり、記録が採れないことがあった。

〈註〉

（1）『五丁地区遺跡群発掘調査報告書』仁摩町教育委員会　1999 年

第４章　古屋敷遺跡（B 区）の調査

1. B 区の層位（第５・６図）

第５図は古屋敷遺跡（B 区）の南壁土層図（第７図 B － B'）、第６図は調査区東側にある９ラインの土層図（第７図 C － C'）である。遺跡の地形は西側ほど低いことから、南壁ではわずかに土層が西へ傾斜している。なお B 区では、壁の崩落などのため土層が記録できた範囲が南壁の東側部分など一部にとどまり、調査区全体にわたる土層の対応関係は把握できなかった。また小規模な河川の氾濫などによる細かい土層の切り合いがあったことも鍵となる層の把握を困難にした。

B 区では５つの遺構面が検出された。第１遺構面は弥生時代前期、第２～第４遺構面は縄文時代晩期で、第５遺構面は縄文時代後期である。地表面は東側で標高約 8.7m、西側で標高約 8.4m で、約 20 ～ 30cm の厚さで水田耕作土や圃場整備に伴う客土が見られ、その下層からは古墳時代以前の遺物が出土する。

耕作土及び客土（第５図１層）の直下には、灰色系の粘土（同図７層など）が存在する。この上面では主に弥生時代以降の遺物・遺構が検出されている。第７図２層～４層は後述する SD03 に、同じく９層～ 13 層及び 61 層～ 65 層は SR01 に対応する。調査区南西端の一部では、灰色系の粘土が薄くなり、その直下にある砂礫層を除去したところ水田の畦畔が検出された。この層の上下に存在する遺構をあわせて第１遺構面とした。

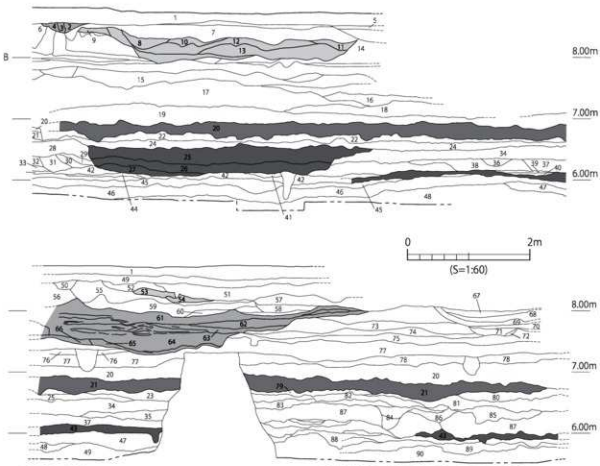
第１遺構面下には、突帯文土器を主体とする包含層が存在し、これを除去するとピット、地床炉などが検出された第２遺構面となる（第５図 75 層上面・第６図 55 層上面など）。第６図では標高 7.8m 付近、西側では標高 7.4m 前後である。第２遺構面下には縄文時代晩期前半の土器を主体とする包含層が存在し、これを除去すると、地床炉・ピット・土坑などを検出した第３遺構面となる。

第３遺構面は東側では第２遺構面とほぼ同じレベルとなり、第５・６図では第２遺構面と同じ面となっている。西側では標高 7.0 m前後である。この面では赤彩土器が出土した土坑や、貯蔵穴と見られる土坑も検出した。

第３遺構面下には、やはり縄文時代晩期の土器を主体とする包含層が存在し、地床炉、ピットや土器溜まりを確認した第４遺構面となる（第５図 77・78 層上面・第６図 56 層上面など）。標高は東側で 7.4 m、西側では 6.8 mである。また調査区北東には現在の潮川と平行する旧河道が存在するが、これは第４遺構面を切っている。

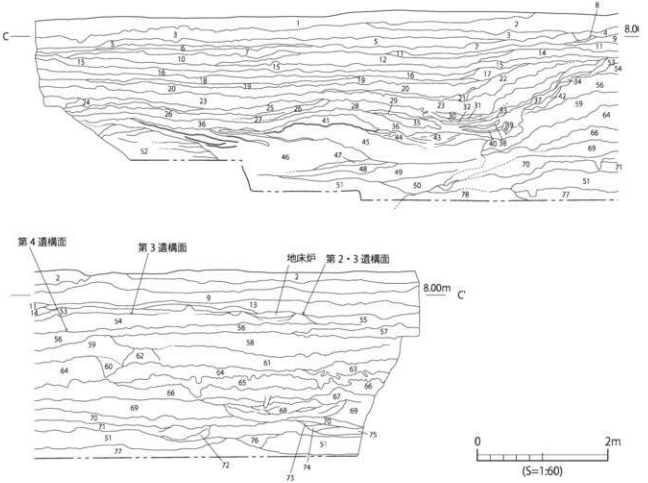
第４遺構面下には、暗オリーブ灰色粘土Ⅰ・Ⅱなど縄文時代後期の土器を含む包含層が存在する。これらの層の下位では、一部であるが地床炉を検出し、第５遺構面とした（第５図 47 層上面・第６図 71 層上面など）。第５遺構面は標高 6.1 m付近に位置する。また、南壁では遺構の可能性をもつ落ち込みが認められ（第５図 25 ～ 27 層）、第４～第５遺構面間に別の遺構面が存在したことも考えられる。第５遺構面の下位には縄文時代後期の遺物を包含する青灰色砂礫が存在する。

９ラインの土層を見ると、最上面が第１遺構面に相当する。標高 7.7 m付近が第２・第３遺構面である。東側ほど高い地形のため、第２遺構面と第３遺構面の高さがほぼ等しくなり、これより東側では第２・第３遺構面を区別できなかった。第４遺構面は、標高 7.5 m付近、第５遺構面は同じく 6m 付近である。９ラインの北側１/２程度は大きな河道が存在し、その土層が確認できるが、第４遺構面の時期には河道が存在し、それが徐々に埋没していったと考えられる。



1. 赤灰色土　鍛作土
4. 明褐色粘質土　マンガンを含む
5. 淡黄橙粘質土　マンガンを含む
6. 灰褐色粘質土　マンガン・砂を多く含む
7. 灰白色粘質土　マンガンを含む
8. 灰白色粘質土　マンガンを含む
9. 褐灰色粘土
10. 黄灰色粘質土　炭を含む
11. 灰黄褐色砂
12. 黄灰色砂質土
13. 褐灰色粘質土　木質含む
14. 灰白色粘質土　炭をわずかに含む
15. 明褐灰色粘質土　酸化物を多く含む　炭を含む
16. 灰色粘土　炭・酸化物をわずかに含む
17. 青灰色粘質土　酸化物・炭を含む
18. 青灰色粘質土　炭・酸化物をわずかに含む
19. 青灰色粘質土　炭を含む　酸化物をわずかに含む
20. 暗青灰色粘質土　炭を多く含む　2cm以下のレキをわずかに含む
21. 暗オリーブ灰色粘土Ⅰ　炭を含む　砂をブロック状に含む
22. 青灰色砂質土　炭を含む　1cm以下の礫をわずかに含む
23. 青灰色砂質土　1cm以下の礫を含む
24. 暗青灰色砂質土　1cm以下の礫を多く含む
25. 橙色粘質土　砂が混じる
26. 橙色粘質土　マンガンの粒子が非常に多い
27. 灰白色粘土　マンガンの粒子が非常に多い
　2.5～2.7は鉛色系の密なよくしまった粘土　かなり酸化が強く橙色になっている
28. 灰白色粘土　マンガンの粒子が2.6・2.7よりやは少ない
29. 灰色シルト質粘土　酸化物多く含む
30. 黄灰色粘質土　酸化物を多く含む
　2.5～2.7までではマンガン斑たいへん多い
　2.8～3.0まではマンガン斑2.5～2.7よりは少ない
31. 黄灰色シルト　下半は砂質となる均一な層
32. 暗青灰色砂質土　炭を含む　1cm以下のレキを含む
33. 青灰色砂質土　炭もわずかに含む　木質を含む
34. 青灰色砂質土　炭を含む　1cm以下の礫を含む　一部に粘土が混入
35. 暗青灰色砂礫　炭を含む　1cm以下の礫、細砂、粗砂が混在
36. 暗青灰色砂　1cm以下の礫を含む
37. 暗青灰色砂礫　3cm以下の砂礫を含む　炭をわずかに含む
38. 暗青灰色砂礫　3cm以下の砂礫を含む　炭をわずかに含む
39. 中黒色粘質土　炭を多く含む　木質主体か？
40. 暗赤灰色粘質土　木質主体　1cm以下の礫をわずかに含む　炭をわずかに含む
41. 淡黄砂礫層
42. 暗青灰色砂　炭・1cm以下の礫を含む
43. 暗オリーブ灰色粘土Ⅱ　炭を多く含む　3cm以下の礫を含む
44. 暗青灰色粘質土　炭を多く含む　1cm以下の礫を含む
45. 緑灰色砂礫層　砂層といってもよい
46. 青灰色粘質土　炭を多く含む　5mm以下の砂礫を含む
47. 暗青灰粘質土　炭・木片をごくわずかに含む　1cm以下の礫を含む
48. 青灰色砂質土　炭をわずかに含む　1cm以下の礫を含む
49. 黒色土　腐植土
50. 明黄褐色砂質土
51. 褐灰色粘質土
52. にぶい橙色粘質土
53. 明褐灰色粘質土
54. にぶい黄橙色砂質土
55. にぶい黄橙色砂質土
56. にぶい褐色砂質土
57. 青灰色砂質土　炭を含む　1cm以下の礫をわずかに含む
58. 明青灰色砂質土　1cm以下の礫を多く含む
59. にぶい橙色砂質土
60. 明褐灰色砂質土
61. 黄灰色砂質土
62. 暗青灰色砂質土　炭を含む　1cm以下の礫を含む
63. 褐灰色粘質土
64. 灰黄褐色砂
65. 黄橙色粘土質　酸化の影響　河流の底
66. 灰色砂質土　炭を含む
67. 灰黄褐色砂質土
68. にぶい黄橙色砂質土
69. 灰白色砂質土
70. 灰色粘質土
71. 灰白色砂礫　粗砂と礫が混在
72. 灰黄色砂
73. 灰白色粘質土
74. 青灰色砂質土　炭を含む
75. 灰白色粘質土　炭・炭を含む
76. 灰白色粘質土　炭・木質をわずかに含む　細砂をブロック状に含む
77. 明青灰色粘質土　炭・木質をごくわずか含む
78. 灰色粘土　均一に見えるが1cm内のレキや褐色系のブロック土がある
　ような静かに一定に堆積した感はないか　炭は少ない
79. 砂礫層　1cm程の礫を多く含みやや黒っぽい
80. 灰色砂質粘土　粒子粗く見えるが粘性あり
　炭はとんどない　5mmほどの砂粒含む
81. 灰色砂質粘土　粒子粗く見えるが粘性あり
　炭はとんどない　5mmほどの砂粒含む
82. 緑灰色砂礫層　砂層といってもよい
83. 青灰色砂層　82にはべやや青味が強い
84. 青灰色砂礫混じり粘土　1cmほどの石粒と混じり合った層
85. 青灰色砂礫混じり粘土　1cmほどの石粒と混じり合った層
86. 灰色砂礫混じり粘土　1cmほどの石粒と混じり合った層
87. 青灰色礫層
88. 暗青灰色土　1cm内の礫・炭を多く含む
89. 青灰色シルト質粘土　粘土と砂がラミナ状
90. 青灰色砂礫

第５図　B区南壁土層図 (1:60)



1 明黄褐色粘質土層 マンガン多く含む
2 橙色粘質土層 砂が多く混じる
3 灰白色シルト層
4 橙色粘質土層 マンガンの粒子が多い
5 灰白色シルト質粘土層 マンガン混多く含む
6 灰白色シルト層
7 灰色粘土層 マンガン斑多い
8 灰色粘土層 ※緑灰色シルト層～粗砂層由来
9 灰白色粘土層 マンガンの粒子が多い
10 黄色シルト質土層
11 灰白色シルト質粘土層
12 灰白色砂層 上半はシルト質粘土層で均一
13 灰白色粘土層 マンガンの粒子が多い
14 灰白色粘土層 均一で密
15 灰黄色粘土層 均一で密、よく解まる
16 灰黄色シルト質粘土層 均一で硬、よく解まる
17 灰黄色粘土層 均一で密、よく解まる
18 にぶい黄色粘土層 均一で密、よく解まる
19 灰黄褐色粘土層 含水に解まりが良く、一部に有機物腐食土が混入
20 灰色粘土層 非常に粘性の高い粘土
21 灰色粘土層 ややシルト質
22 黄灰色粘土層
23 灰白粘質土層 砂と粘土が混ざり不均一
24 灰白色砂層
25 オリーブ灰色砂層 粘土がラミナ状に薄く入る部分あり
26 黄灰色粘土層 非常に粘性強く、砂がラミナ状に入る
27 黄灰色粘土層と砂がラミナ状に入る層 木片多く入る
28 黄灰色粘土層 非常に粘性強く、砂がラミナ状に入る
29 暗灰黄色粘土層 有機物腐食り砂がラミナ状に入る
30 褐灰色粘土層 粘性が強く均一な層 有機物腐食土を含む
31 黒褐色粘土層 有機物腐食土を含む
32 灰白色砂層 比較的細かい粒
33 灰色シルト質粘土層
34 灰黄色シルト質土層
35 灰灰色砂層 粗い砂層
36 褐色粘土層（有機物腐食） ― 35～37 やや均一感欠ける
37 オリーブ黄色シルト質粘土層 ―
38 灰白色砂と粘土（有機物腐食）がラミナ状に入る層
39 黄灰色シルト質粘土層
40 黄灰色シルトと粘土（有機物腐食）がラミナ状に入る層

1～3 は灰色系の密なく解まった粘土。かなり優化が強く粒化になっている

41 黄灰色砂と粘土（有機物腐食）がラミナ状に入る
42 灰色砂質層
43 灰白色と淡黄色砂層 比較的粗い砂
44 灰白色砂層 比較的細かい砂
45 灰白色砂層
46 灰色砂層
47 オリーブ灰色粘土層 有機物腐食土 砂礫混入
48 オリーブ灰色砂層 粘土（有機物腐食）のブロック混入
49 灰色粘土層 有機物腐食土のブロック混入
50 褐灰色粘土層 ラン藻混含む
51 黄灰色礫層
52 灰色砂層 やや粗いり
53 黄灰色粘質土層
54 黄灰色シルト層 下半は砂質
55 灰色シルト質粘土層 炭化物多く含む
56 灰色粘質土層 やや均一性欠く
57 褐灰色粘土層 きめが細かい均質な粘土。炭をわずかに含む
58 灰色粘土層 粘土とシルトが細かくラミナ状になる。炭化物少ない
59 炭オリーブシルト層 粘性が低い、炭化物少ない
60 灰色粘土層 59・60・62 は分層が不明瞭
61 灰色粘土層 1 cm以内の暗や褐色系のブロック土を含む。炭は少ない
62 黒褐色粘土層 有機物腐食土が炭化物含む
63 暗青灰色粘質土 炭を多く含む 2 cm以下の礫をわずかに含む
64 暗オリーブ灰色粘土Ⅰ 1 cm以内の礫を含み、炭化物多く含む
65 灰色礫層 9 層に似る 1 cm大の礫を多く含み、やや重っぽい
66 褐灰色砂礫層 礫層か
67 青灰色砂礫層 9 層に似るがやや青みが強い
68 暗青灰色の礫層と炭オリーブ土の混在層
69 青灰色礫層
70 暗オリーブ灰色粘土Ⅱ 炭多い
71 青灰色シルト質粘土層
72 有機物腐食か
73 明緑灰色粘土ブロック層
74 青灰色砂礫層
75 灰色粘土層 砂礫混じり
76 青灰色シルト質粘土層 礫少し含む
77 青灰色シルト層
78 灰色砂と褐灰色粘土（有機物腐食土）層

第６図　B区９ライン土層図 (1:60)

2. 第１遺構面の調査

第１遺構面は、表土下の耕作土および圃場整備客土を取り除き、弥生時代～古墳時代の包含層を除去したのちに灰色系の粘土上面を中心に確認した遺構面である（第７図）。標高は東側で約 8.5 m、西側で約８mである。東側が高く西側が低い地形のため、特に東側で遺構面の上面が失われている可能性が高い。

第１遺構面では、溝状遺構 (SD01 ～ SD04)、ピット、土坑、自然河道 (SR01)、水田（畦畔）を検出した。水田は、厳密には灰色粘土の下面になると考えられるが、時期等も踏まえ第１遺構面に含めた。

試掘調査・第１遺構面包含層出土遺物（第８図・第９図）

第８図１～３は平成 24 年度に行われた試掘調査で出土した縄文土器である。１は鉢で疑似縄文が用いられる。２は口縁端部とそこからやや下った位置に刻目を施す。３は穿孔をもつ浅鉢である。４は弥生土器の甕で、口縁端部に刻目、頸部に２条のヘラ描き沈線を施す。５・６は土師器の甕で、複合口縁が退化したものと単純口縁のものが出土した。７は弥生土器で高坏の脚部、８は坏の脚部と見られ透孔をもつ。９・10 は底部である。

遺物の時期は１が縄文時代後期、２は縄文時代晩期である。４は弥生時代前期、７・８が同中期～後期、９・10 は弥生時代前期～中期、５・６が古墳時代中期～後期である。

第９図は同じく包含層から出土した石器である。１は打製石斧で、刃部先端を欠くが、使用痕と考えられる磨滅が認められる。石材は泥質片岩である。２は磨製石斧で刃部先端を欠くが、表面の大部分は磨滅している。裏面は磨滅が不明確で、成形時の敲打痕が残る。石材は塩基性片岩である。３は線刻礫で、長さ 1.5 ～ 3㎝の線刻が多数認められる。４は石鏃で、基部を欠いているが両刃につくられる。黒色で頁岩製である。５は石包丁で 1/3 程度が残存している。片刃で、使用による擦痕が認められる。穿孔も認められ、石材は頁岩である。

SD01(第 10 図)

調査区の西側に位置する長さ約 40 mの溝状遺構である。幅 0.2 ～ 0.4 mで東から西に流れていたと見られ、圃場整備による遺構面の削平により東側は消滅したと見られる。検出面の標高は東側で 8.3 m、西側で 8.1 m、底面の比高差もわずかである。溝の上端・下端とも不整形で、自然流路の可能性も考えられる。溝内からは土師器や須恵器が出土している。

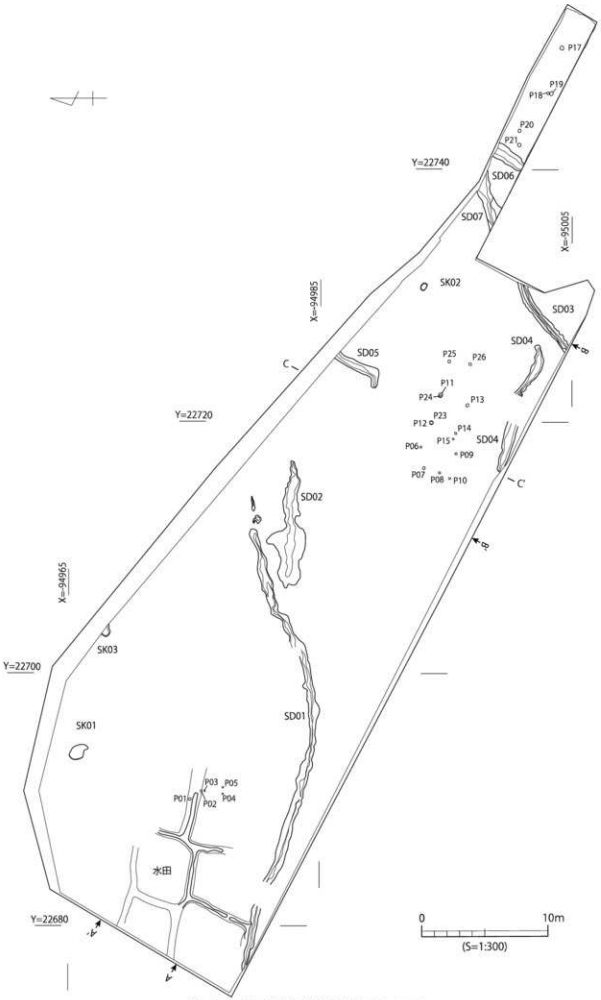
SD01 出土遺物 (第 12 図)

第 12 図１～６は土師器、７は須恵器である。１～３は甕の口縁で、１・２は複合口縁が退化したものである。４は高坏の坏～脚部、５･６は高坏または低脚坏の脚部である。７は甕の胴部である。

遺物の時期は古墳時代中期から後期である。

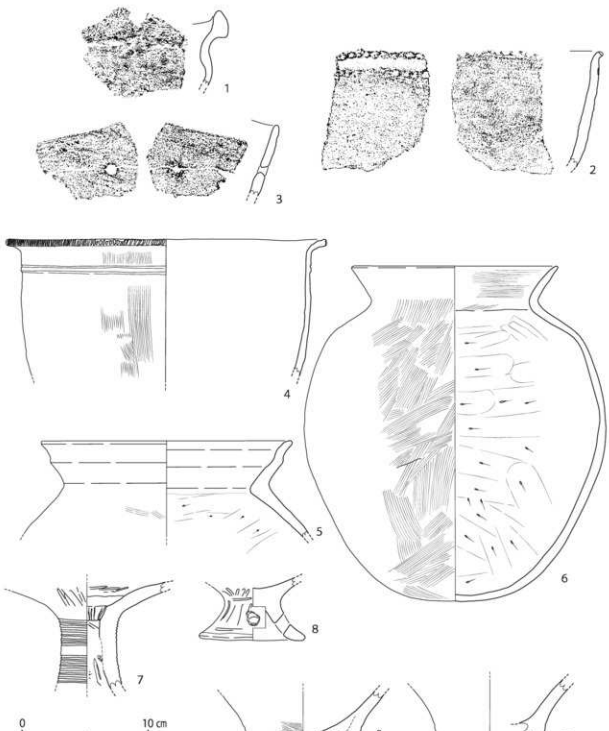
SD03・04(第 11 図)

いずれも調査区東端に位置する溝状遺構である。

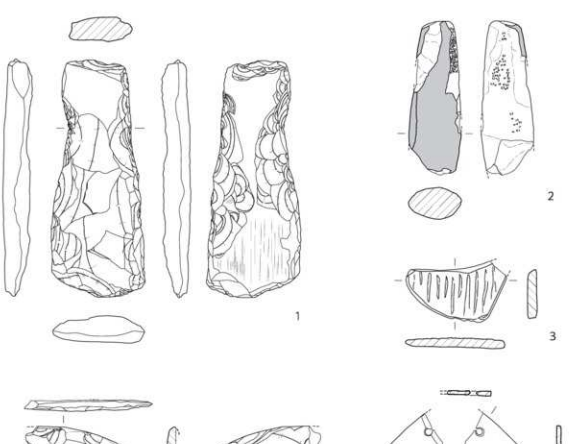


第 7 図　第 1 遺構面遺構位置図 (1:300)

SD03 は、調査区配置の関係で中央付近が調査できず、北東側と南西側に分かれているが一連のものと考えた。ただ、北東側の溝は、レベルが南西側よりも低くなっており、後述する SR01 と接続する可能性がある。検出した長さは未掘部分も含めると約 15 mであるが、調査区の北・南にも続いており、南に位置する D・C・H 区の SD01 に連続し、同一の遺構である。H 区では周囲に多数の杭が打ち込まれており、水田の灌漑用水路との想定もされている。この調査区では幅 0.8 ～ 1.5 m、深さ約 20㎝で北から南に向かって流れる。遺物は土器・石器が出土している。



第 8 図　試掘調査・第 1 遺構面包含層出土遺物実測図 (1:3)



第 9 図　第 1 遺構面包含層出土遺物実測図 (1:3)

SD04 は東から西に延びる長さ約 10 mの溝状遺構である。試掘時のトレンチにより中央付近を欠く。西端の一部は検出できなかったが、B 区内でほぼ完結すると見られる。幅 0.4 ～ 0.8m、深さ約 20㎝である。遺物は、石器が出土している。

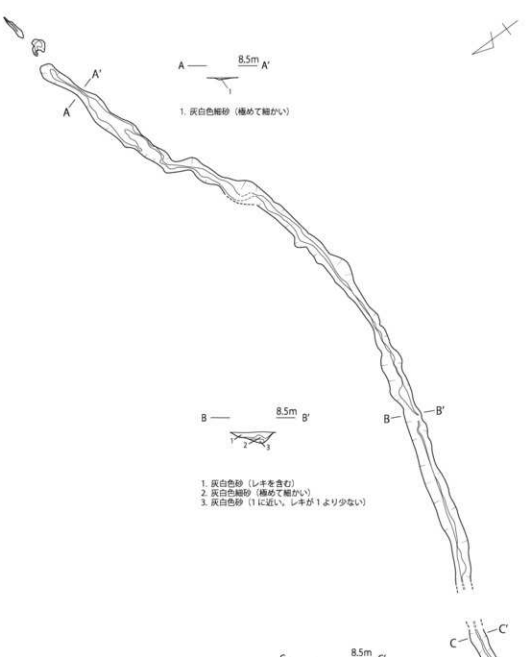
SD03 出土遺物 (第 12 図)

第 12 図 8 ～ 13 は弥生土器である。8 ～ 11 は甕で、8 は頸部にヘラ描きの刺突文を施し、その直下に段をもつ。9 も頸部に段をもつものである。10 は文様や段は持たないが、口縁が胴部より大きく張り出すもので、鉢の可能性もある。11 は頸部に 3 条のヘラ描き沈線を施し、胴部がやや張り出す形態をとる。12 は壺の口縁部で、頸部が屈曲して口縁部は肥厚する。文様は持たない。13 は壺の胴部最大径付近で、断面が三角形となる 2 条の突帯をもち、上位の突帯には刻目を施す。

遺物の時期は、8 ～ 10 が石見Ⅰ－ 2 様式、11 が同Ⅰ－ 3 様式、12 は、同Ⅱ－ 1 様式、13 は同Ⅰ－ 3 様式である。

水田遺構 (第 13 図)

調査区南西端で、水田遺構を検出した。灰色系の粘土を掘り下げ、さらに黄褐色土（第 14 図 5 － 1、5 － 2）などを除去すると橙色砂礫層（同図 9）を確認した。この砂礫層は河川の氾濫によって堆積



第 10 図　SD01 実測図 (平面図 1:160　土層図 1:80)

したものと考えられるが、この砂の層を取り去ると 15 m× 11 mの範囲に畦状の遺構が認められた。検出面の標高は 7.9 mである。

畦は高さ約 20㎝、幅 50 ～ 80㎝で、この畦によって仕切られる区画が認められた。区画の一辺は 3m ～ 5 mで、唯一区画の規模がわかるものは 4 m× 5 mである。

畦の土層は、平面で検出した箇所では分層しているが、西壁の土層（第 14 図）で見ると水田の土層と同質で、水田の耕作土を盛り上げて畦を形作ったものと考えられる。

水田遺構出土遺物（第 17 図）

第 17 図 8・9 は水田から出土した縄文土器である。8 は突帯文土器で、畦の中から出土したものである。口縁部直下に幅広で低い突帯を持ち、この突帯には刻目が施される。9 は水田形成層 (第 14 図 13 層) から出土した浅鉢である。短く屈曲する頸部をもち、頸部外面と口縁部内面に 1 条の沈線を施す。

遺物の時期は 8 が晩期Ⅳ～Ⅴ期、9 が同 1 期と見られる。

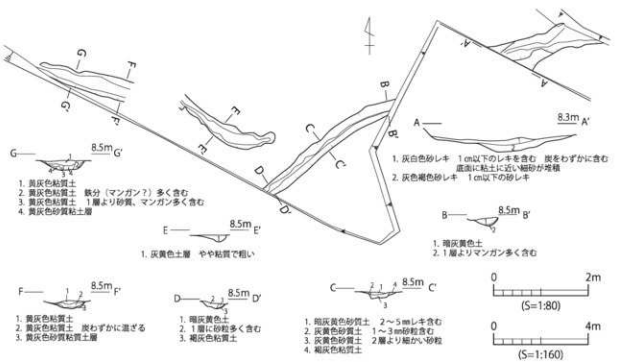
ピット 1 ～ 5（第 13 図）

水田の東側で杭を伴うピット 5 基を検出した。検出面の標高は 7.5 mである。P1 ～ 3 は畦に近い位置に、P4・5 は畦から離れた位置にある。ただ、ピットが検出された付近は畦の検出範囲の東端にあたり、本来はこの付近にも畦が存在していた可能性も否定できない。

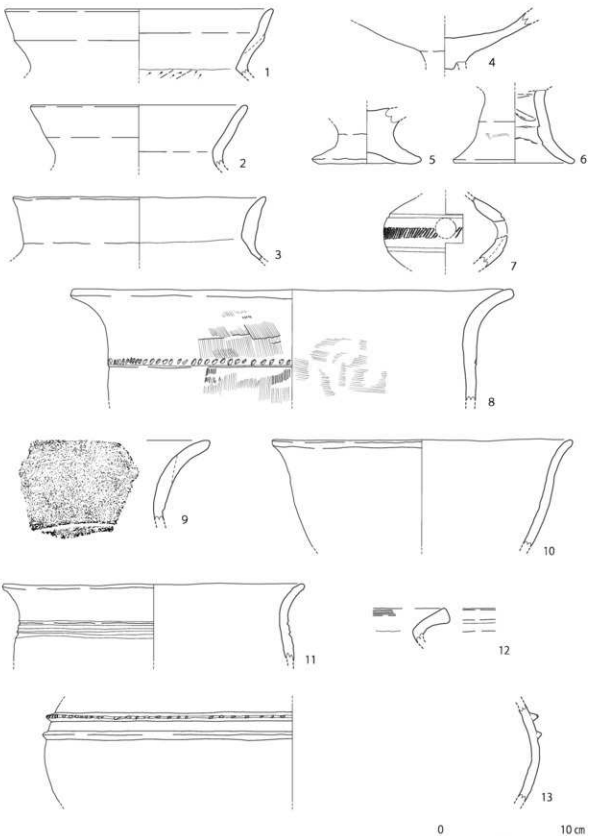
規模は、P1 が長径 50㎝で大きく、P2 ～ P5 は同 15㎝～ 20㎝とやや小規模である。杭の太さは P1 が 10㎝、ほかは 5㎝程度である。また、P1 のみ杭を打ち込むための掘形とみられる層位が確認された。遺物は出土していない。

SR01(第 13 図)

調査区東側に位置し、平面的には SD03・SD04 と重なる位置にある。灰色粘土を掘削中に検出されたもので、検出した長さは約 14 m、幅 1.2 ～ 2.4 m以上、深さ 50㎝である。酸化した粗い砂・礫と還元色の細かい砂が互層状になっており、土層の堆積状況から、強い流れと緩やかな流れが繰り返されたことがわかる。埋土からは弥生土器が、底面からは縄文晩期～弥生前期の土器が出土している。ほぼ完形の土器も含まれ、意図的に投げ込まれた可能性がある。



第 11 図　SD03・04 実測図 (平面図 1:160　土層図 1:80)



第 12 図　SD01・03 出土遺物実測図 (1:3)

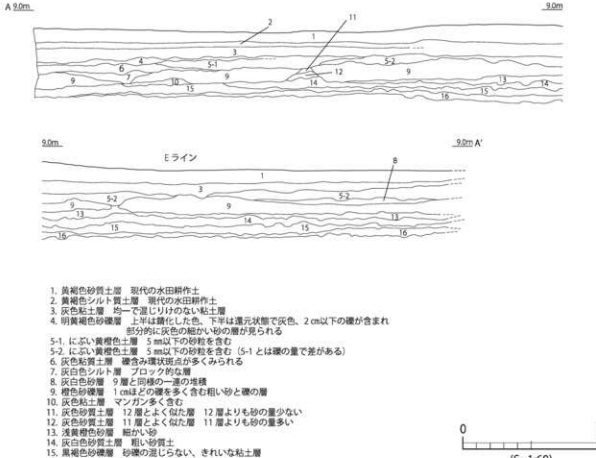
第 13 図　水田遺構・ピット 1 ～ 5 実測図 (1:100)(1:25)

SR01 出土遺物（第 16・17 図）

第 16 図は自然流路の埋土中から出土した弥生土器である。1 ～ 4 は甕で、1 は口縁端部に刻目を持ち、頸部に 2 条のヘラ描き沈線を施す。2 は頸部に段を有し、3 の頸部には 1 条のヘラ描き沈線を施す。4 は頸部に段を持つものである。5 ～ 7 は壺で、5 は口縁部が外へ屈曲し、頸部には段を持つ。6 も口縁部から頸部にかけては同様な形態をとる。胴部にも段を有し、最大径付近を羽状文、重弧文などで飾る。7 は口縁部で、内面に突帯を持つものである。8・9 は底部である。

第 17 図は SR 底面の出土遺物である。1 は口縁の直下に突帯を持つ突帯文土器で、口縁端部と突帯に刻目を施す。2 は浅鉢の口縁部である。3 ～ 4・6 は弥生土器の甕で、3 は頸部に 3 条の沈線を施す。4・6 は文様がなく、口縁部が短く外反する。5 は壺の胴部で、ヘラ描きの直線文と重弧文が認められる。

遺物の時期は、第 16 図 1 が石見Ⅰ－ 3 様式、2 が同Ⅰ－ 1 ～ 2 様式、3 ～ 6 はⅠ－ 2 様式、7

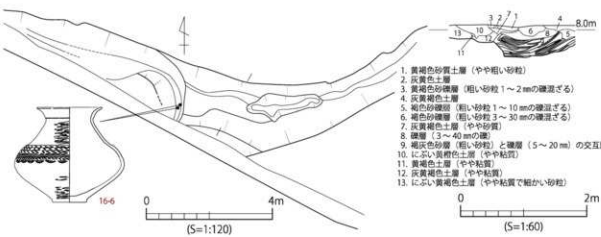


第 14 図　水田畦畔土層図 (1:60)

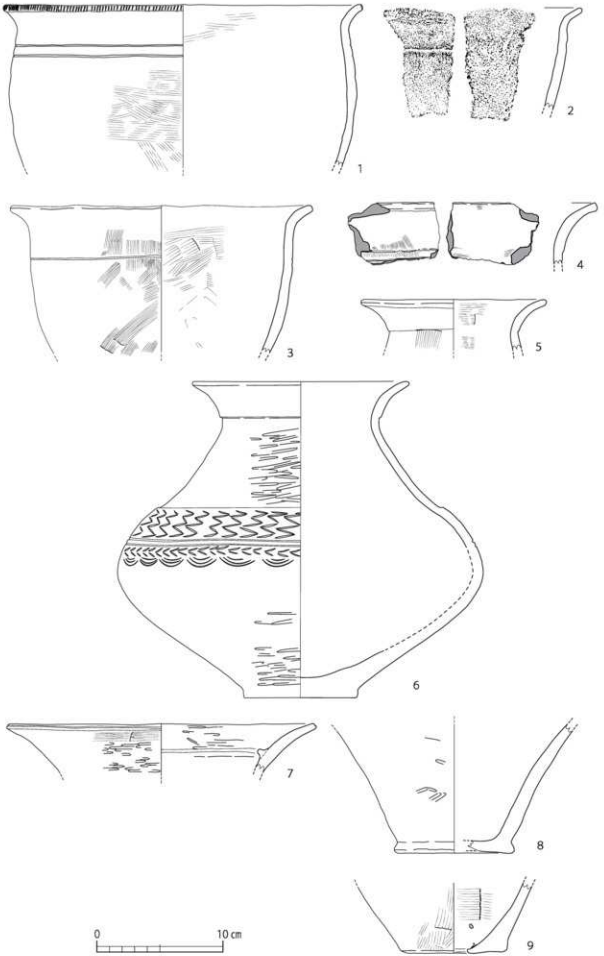
がⅠ－３～４様式である。８・９の底部も弥生時代前半期のものであろう。第 17 図 1 は晩期Ⅳ～Ⅴ期、２は同Ⅱ期である。３・４・６は石見Ⅰ－２様式、５は同Ⅰ－１様式である。７も弥生時代前期のものと見られる。

第 1 遺構面　遺構出土石器（第 18 図）

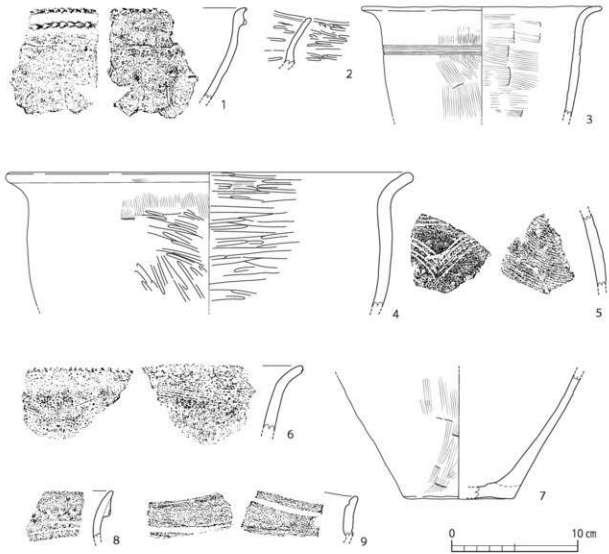
第 18 図 1 は SR01 出土の石器である。断面は長楕円形で、長軸の一方の端部を欠くが、もう一方の端部と側面には使用痕が認められる。使用痕からは磨石・敲石と判断されるが、石材は凝灰岩



第 15 図　SR01 実測図 (1:120)(1:60)



第 16 図　SR01 出土遺物実測図 (1:3)

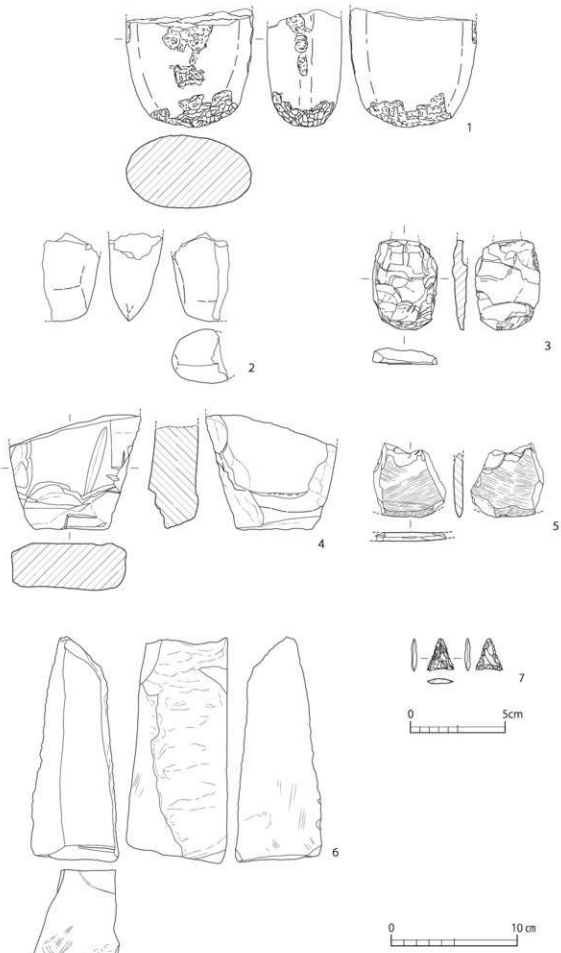


第 17 図　SR01・水田遺構出土遺物実測図 (1:3)

で軟質であることから、祭祀に用いられた石器の可能性がある。2 は SD03 出土の磨製石斧である。石材は緑色片岩で、基部などを欠いているが、全体的に著しく磨滅する。

3 ～ 6 は SD04 出土の石器である。3 はデイサイト製の打製石斧である。基部を欠き、厚さもあまりない。刃部先端に向かって幅が狭くなる形態である。4 は砥石である。石材は凝灰質砂岩で表面と裏面が強く磨滅している。5 は石包丁で大きく破損している。石材は頁岩で刃部は両刃に造り出される。また、刃部以外の表面・裏面のほぼ全体にも擦痕が認められる。6 は砥石で、石材は流紋岩である。表・裏面と長軸の側面に使用痕がある。

7 は水田畦畔の形成層から出土した石鏃で、石材は安山岩である。



第 18 図　第 1 遺構面　遺構出土石器実測図 (1:3)

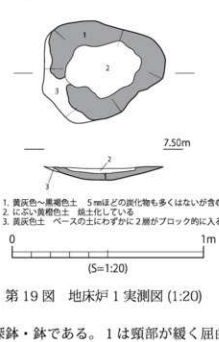
3. 第２遺構面の調査

第２遺構面は、標高約 7.8 ～ 7.4m で検出された遺構面で、西にわずかに下る傾斜地である（第 20 図）。検出した遺構はピット 21 基、地床炉 31 基である。調査区南西（E4 ～ 6 グリッド）と調査区北西（D7 ～ 9 グリッド）では遺構は確認できなかった。D7 ～ 9 グリッドについては後述する河道部分に相当し、他の遺構面も含めて遺構はほとんど認められなかった。また、第２遺構面の遺構では図化可能な出土遺物がなかった。

地床炉１（第 19 図）

地床炉は、地面を浅く掘りくぼめて造られた炉で、B 区では計 53 基が検出された。地床炉１を例示してその構造を述べる。

構造は浅い皿状の凹みに、焼土や灰が堆積したものである。地面を掘りくぼめるのみで、それ以外の加工は施されない。また、焼土など堆積土を除去した後の底面に被熱した様子は認められないことから、燃焼温度が低く、地床炉１基あたりの使用回数も少なかったと推定される。地床炉は平面形が円形または長楕円形で、図示した地床炉１は長径 0.6 mの楕円形を呈するが、大きいものは径が１mに達する。深さは平面規模にかかわらずいずれも数cmと浅いものである。



第 19 図　地床炉１実測図 (1:20)

第２遺構面出土土器・土製品（第 21・22 図）

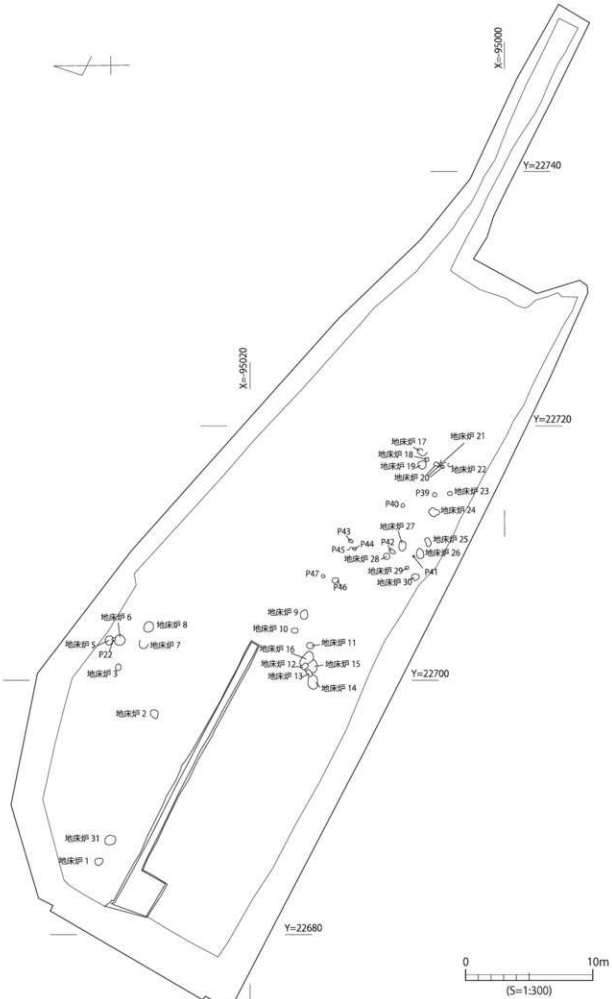
第 21 図には第２遺構面の出土土器を載せた。第 21 図は深鉢・鉢である。１は頸部が緩く屈曲して口縁が肥厚する。内外面ともミガキ調整する。2 ～ 8 は、口縁端部に刻目が施されるものである。口縁部が緩く外反するもの (2・3・5・7・8)、頸部から口縁へ直線的にのびるもの (4・6) がある。４は口縁部内面に刻目が施されるものである。９は深鉢胴部の屈曲部付近で、刻目が施され突帯文土器と見られる。10 も同様な部位で、縦方向と横方向の沈線が認められる。14 も胴部で、刺突文が巡るほか、突起状の浮文が貼り付けられている。

11 ～ 13・15 ～ 29 は突帯文土器である。11・12 は口縁端部と突帯の両方に刻目をもち、突帯は口縁のやや下につく。刻目は深く、大きいものである。13・15 ～ 17 も口縁端部と突帯の両方に刻目を持つが、突帯の位置が下がり、口縁から離れた位置になる。11・12 は口縁部近くに突帯をもつものである。

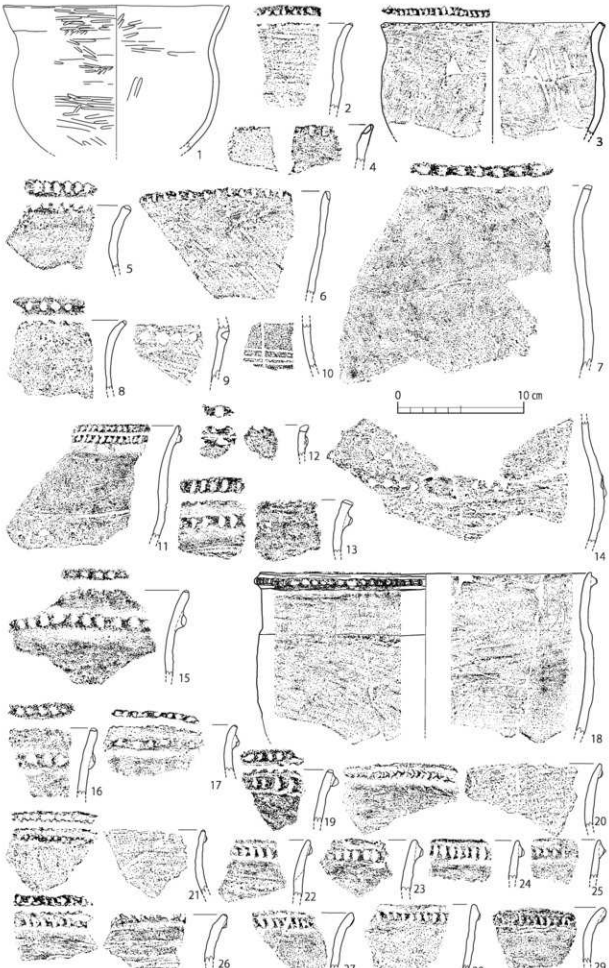
18 は、刻目が突帯のみに施され、突帯は口縁よりやや下がった位置につく。刻目は小さく、浅いものが用いられる。19 ～ 24 も突帯の位置は 18 と同様、口縁よりやや離れた位置となるもので、口縁と突帯の両方に刻目を施すものと、突帯のみに施すものがある。

25 ～ 29 は突帯の位置が口縁直下となり、口縁部と一体化したように見えるものもある。26 は口縁の上面と突帯の両方に刻目を施すが、ほかは突帯のみに刻目をもつ。

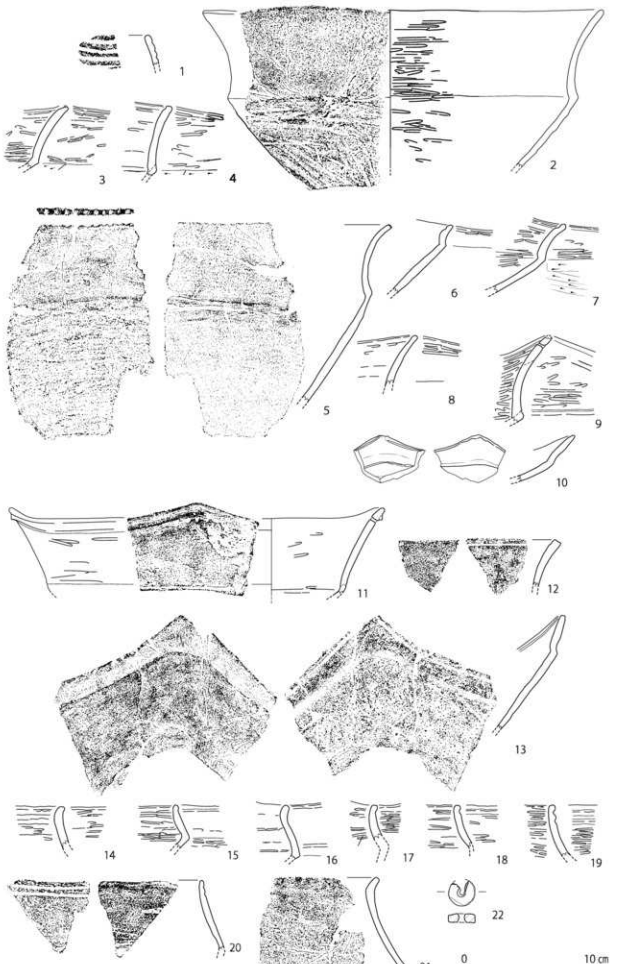
遺物の時期は、１がやや古く晩期Ⅱ期に比定される。2 ～ 8 は同Ⅲ期、11 ～ 17 がⅣ期、18 ～



第 20 図　第 2 遺構面遺構位置図 (1:300)



第 21 図　第 2 遺構面出土土器実測図 (1:3)



第 22 図　第 2 遺構面出土土器・土製品実測図 (1:3)

24 がⅤ期、25 ～ 29 がⅥ期と考えられる。

第 22 図は浅鉢と土製品である。1 は口縁部外面に 3 条の沈線が施される。2 ～ 5 は深さのある器形で、4 は口縁端部にわずかな屈曲をもち、5 は口縁端部に刻目が施される。6・7 は口縁部が短く屈曲する。いずれも口縁端部内面に段をもつものである。7 は方形浅鉢の可能性がある。8 は口縁部が直線的にのびるもので、端部がわずかに肥厚する。9 が口縁端部に孔をもち、屈曲部外面に段がつくものである。10 は浅い器形で口縁部内面に沈線が施されるが、波状口縁の頂点で途切れている。11 は口縁端部から下がった位置に突帯がつくものである。12 は口縁が肥厚し、端部に面をもつもので、口縁部内面には 1 条の沈線を施す。13 は方形浅鉢と考えられ、口縁部内面に 1 条の沈線を施す。

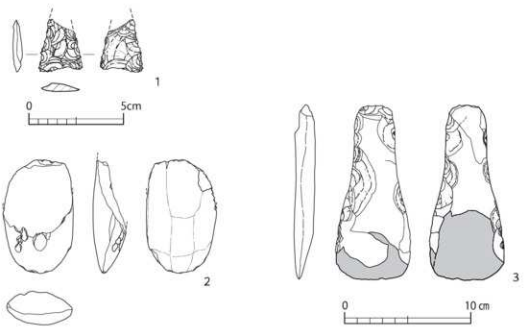
14 ～ 20 は口縁が内傾する浅鉢である。14 ～ 17 は端部がわずかに外反するものである。18 ～ 20 は口縁端部外面に沈線が施され、18 は 1 条、19・20 は 2 条の沈線を持つ。21 は壺で、内傾してのびる頸部に短く外反する口縁がつく。22 は環状の土製品である。玦状耳飾を模したものか。

遺物の時期は第 22 図 1 が晩期Ⅰ期、2 が同Ⅲ期、5 は同Ⅴ期以降、6・7 は同Ⅳ期か。11 は突帯を持つことから晩期Ⅴ期と考えられる。14 ～ 16 も晩期Ⅴ期、17 ～ 21 は同Ⅵ期のものであろう。

以上から、第 2 遺構面の出土土器は晩期前半のものも存在するが、突帯文土器出現以降の土器が多く出土していることがわかる。

第 2 遺構面出土石器（第 23 図）

1 は石鏃で、安山岩製である。基部の幅 2.5㎝とやや大形のもので、先端部を欠いており、製作途中で放棄された未成品と見られる。2 は磨製石斧で、片岩製である。基部を欠くもので、刃部は著しく磨滅し、先端にもわずかな欠けが認められることから、未成品ではなく実際に使用されたものと考えられる。3 は泥質片岩製の打製石斧で、刃部は両面とも著しく磨滅している。



第 23 図　第 2 遺構面出土石器実測図 (1:2)(1:3)

4. 第 3 遺構面の調査

第 3 遺構面は東側で標高約 7.6m、西側で約 7.0m 前後で確認した遺構面である（第 25 図）。調査区北東には大形の旧河道の上端が現れる。第 2 遺構面よりも遺構の数は多く、検出した範囲も旧河道を除くほぼ全面となる。検出した遺構は地床炉、土坑、ピットなどである。調査区の北側では主にピットが検出され、地床炉は 1 基のみであった。南側では検出したピットと地床炉の割合はほぼ同じである。

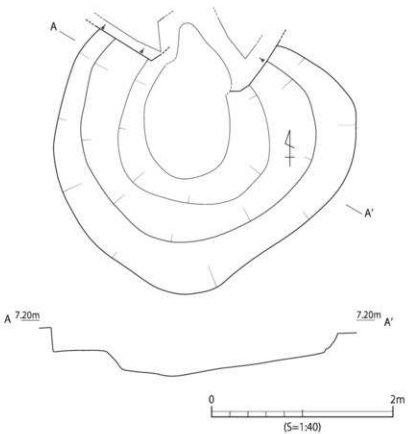
遺構の種類としては、第 2 遺構面と同様に地床炉とピットが主体である。しかし、土坑下半が広がる SK05、彩文土器が出土した SK13 など特徴を持つ土坑が確認されている。

SK04(第 22 図)

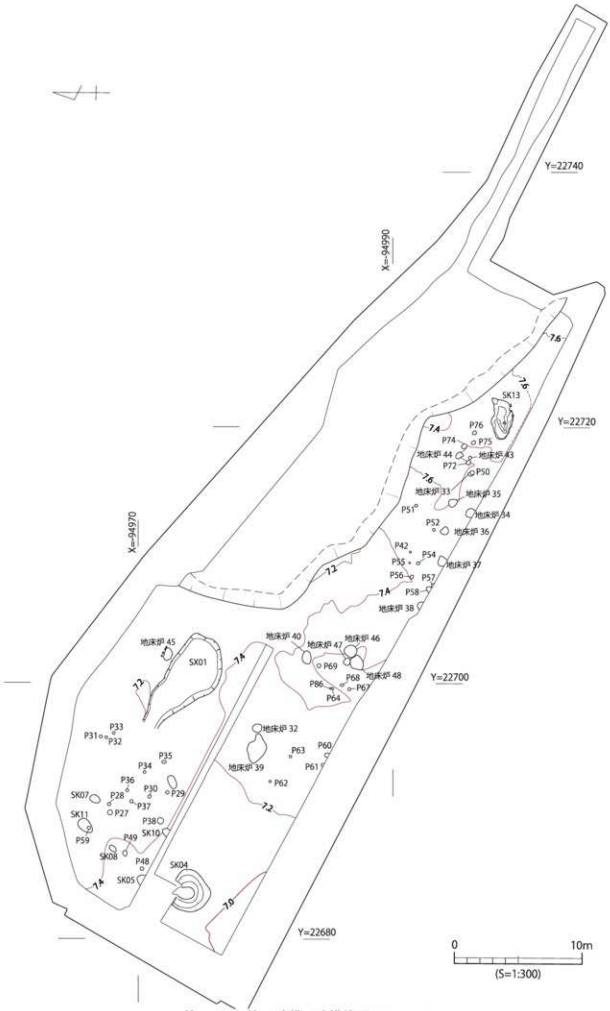
調査区西端で検出した大形の土坑である。検出面の標高は 7.1 mである。試掘トレンチにより一部を欠くが、規模は 3 m× 3.2 m、深さは 0.5 mである。上端から下端の間にわずかな段をもつような形に造られている。遺物は土器や石器が出土している。

SK04 出土土器 (第 27 図)

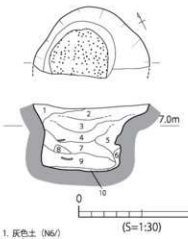
第 27 図 1 は深鉢か。頸部から緩やかに外反して口縁部がわずかに肥厚する。内外面ともミガキ調整する。2・3 は浅鉢である。口縁部が短く屈曲して上方にのびる。調整は内外面ともミガキである。遺物の時期は、晩期Ⅲ期に相当する。



第 24 図　SK04 実測図 (1:40)



第 25 図　第 3 遺構面遺構位置図 (1:300)



第 26 図　SK05 実測図 (1:30)

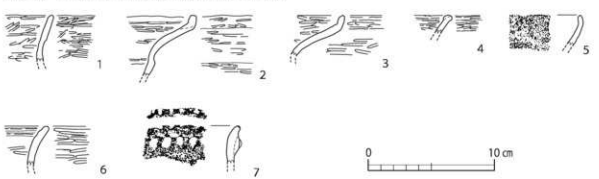
SK05(第 26 図)

調査区西側で検出された土坑で、検出面の標高は 7.2 mである。トレンチにより一部を欠くが、上端の直径 0.9 m、下端径は 0.6 mである。土坑の中ほどで径が 0.5 m まで小さくなり、下端が広くなるフラスコ状だったと考えられる。また、最下層は意図的に砂を敷いていたと見られる。

遺物は土器の小片が出土している。第 27 図 4 は浅鉢であろう。口縁端部が肥厚し、ミガキで調整する。詳細な時期は不明であるが、縄文時代晩期のものと見られる。

第 3 遺構面ピット出土遺物（第 27 図）

第 3 遺構面では、いくつかのピットから土器が出土している。第 27 図 5 ～ 7 はそれぞれ P49、P60 、P76 から出土した土器である。5 は鉢か。口縁部はわずかに内湾する。6 は浅鉢か。口縁部内面に沈線を施し、内外面ともミガキで調整する。7 は突帯文土器である。口縁部すぐ下に突帯をもち、口縁部・突帯の両方に刻目を施す。いずれも縄文時代晩期のもので、このうち 7 は晩期Ⅴ期と考えられる。



第 27 図　第 3 遺構面　遺構出土土器実測図 (1:3)

SK13(第 28 図・第 29 図)

調査区南西で検出した土坑で、検出面の標高は 7.5 mである。平面は大まかには長楕円形で、長径 3.1 m、短径 1.6 m、深さは 0.3 mと浅いものである。土層は、砂層と土器・炭化物を含む粘土層が交互に堆積している。遺物は土坑の底面付近を中心に土器や石器が出土している。

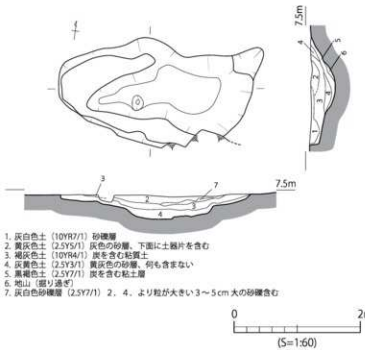
SK13 出土遺物 (第 30 図)

第 30 図 1・2 は口縁端部に刻目をもつものである。1 は口縁部が小さく外反する。2 は口縁部が直線的にのびるもので、口縁部のやや下にも刻目を施す。3 ～ 6 は突帯文土器で、いずれも口縁端部と突帯の両方に刻目を施す。突帯は口縁からやや下がった位置につく。

7 ～ 13 は浅鉢である。7・8 は口縁部が長く、比較的深い器形である。9 は口縁部内面と屈曲部外面に沈線が認められる。10 は口縁端部が細く収まるものである。11 ～ 13 は赤彩が施される浅

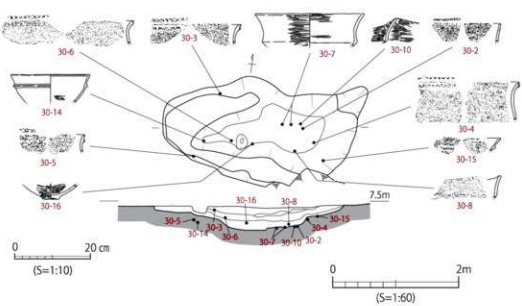
鉢で、11 は方形浅鉢の可能性もある。色調は黒褐色で丁寧なミガキ調整を施しており、口縁端部の内面と外面に沈線を入れる。また、屈曲部には、貼り付け突帯を巡らせる。13 も色調や器形の特徴は同様で、同一個体の可能性がある。12 は口縁部付近の破片で、口縁端部がやや外反するが、内面と外面に沈線を施す点は 11 などと同じである。

14・15 は鉢であろう。14 は胴部から緩やかに開く口縁部を持ち、口縁部内面には 1 条の沈線が施される。胴部には貼り付け突帯が巡る。内面にはミガキ調整が認められる。15 は口縁部の傾きが 14 よりやや大きいが、口縁部内面の沈線や貼り付け突帯をもつ点は共通し、内外面ともミガキ調整を行う。16 は浅鉢の底部と見られ、内外面ともミガキで調整する。

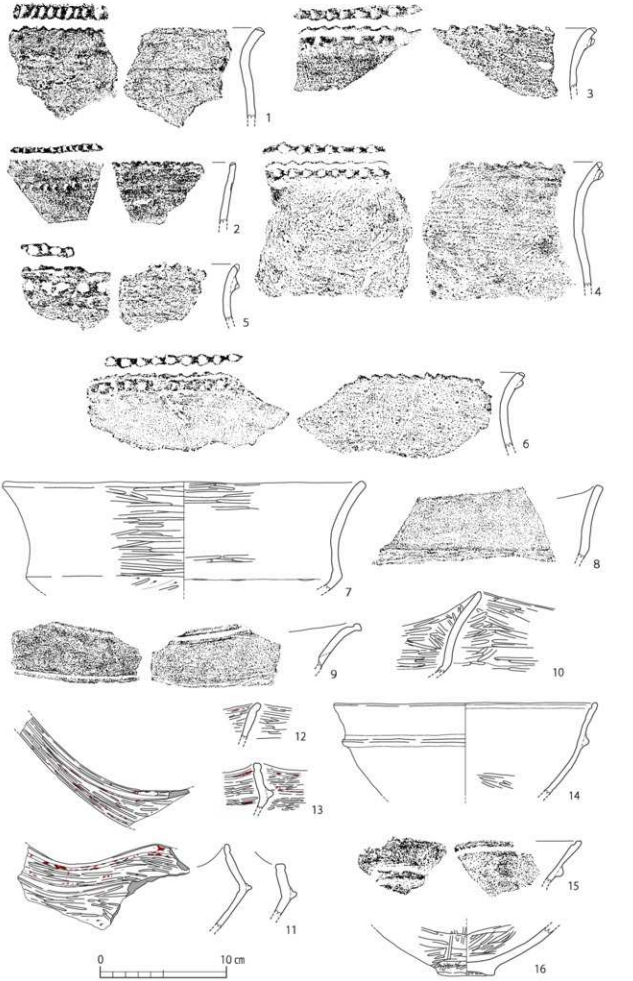


第 28 図　SK13 実測図 1(1:60)

遺物の時期は、1・2・7～10 が晩期Ⅲ期、3～6 がⅣ期である。11～13 は黒っぽい色調と丁寧なミガキから縄文時代後期末～晩期初頭の可能性がある。



第 29 図　SK13 遺物出土状況実測図 (1:60)(1:10)



第 30 図　SK13 出土遺物実測図 (1:3)

SX01(第 31・32 図)

調査区西側で検出された、浅い土坑状の遺構である。長さは確認できた範囲で 8.5 mであるが、北西側は境界がはっきりせず、次第に浅くなって消滅するようである。幅は 1.3 ～ 4 m、深さは 10cmと浅い。遺構内からは土器などが出土しており、出土位置がわかるものは第 32 図に示したが、それ以外にも図化できた遺物がある。また、土器転用の土製円盤が出土している。

SX01 出土遺物 (第 33 図)

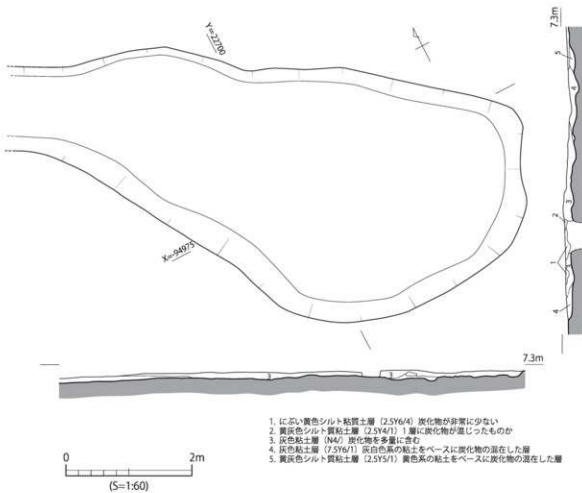
第 33 図 1 ～ 7 は深鉢である。1 ～ 5 は口縁端部に刻目を施すもので、口縁が直線的にのびるもの、やや内湾するもの、端部がわずかに広がるものなどがある。5 は口縁部からやや下がった屈曲部にも刻目が巡る。6 も深鉢の胴部で、浮文を貼り付け、刻目を施すものである。7 は波状口縁の深鉢である。8 は突帯文土器で、口縁よりやや下がった位置につく突帯にのみ刻目を持つ。

9 ～ 11 は土器を転用した円盤である。いずれもほぼ円形で、直径は 3 ～ 4cmである。

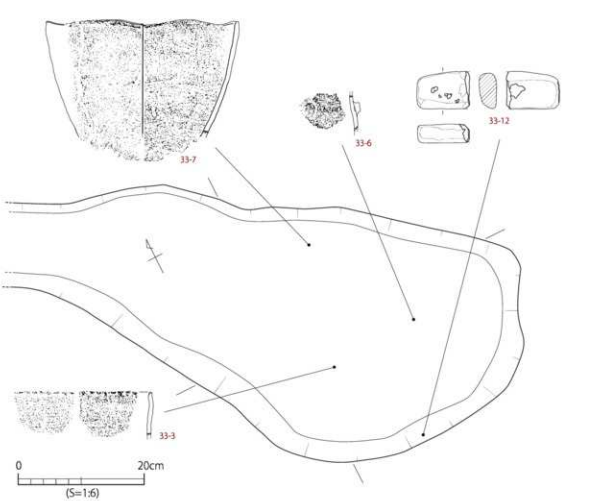
遺物の時期は 1 ～ 6 が晩期Ⅲ期、8 は同Ⅳ期である。

第 3 遺構面　遺構出土石器（第 34 図）

第 34 図 1 は、SK04 から出土した線刻礫である。石材は泥岩で、薄い板状の片面に筋状の線刻が認められる。もう一方の面は磨滅している。2 は SK08 から出土した打製石斧の未成品である。



第 31 図　SX01 実測図 (1:60)



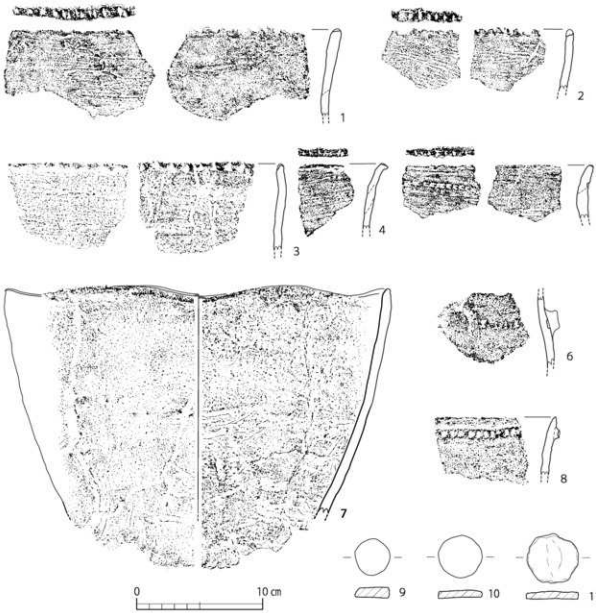
第 32 図　SX01 遺物出土状況実測図 (1:60)(1:6)

石材は流紋岩を使用する。

3 ～ 11 は SK13 出土の石器である。3 ～ 7 は石鏃で、いずれも安山岩製である。7 は両面とも主要剥離がのこり、縁辺部のみ細かな剥離が認められる。未成品の可能性もある。 8 は線刻礫で、石材は凝灰岩である。薄い板状の一方の面に直線状の線刻が認められる。9 は用途不明の石製品である。石材は緑色片岩で、全体に磨滅し、一部黒変している。被熱または炭化物が付着したとみられる。10 は砥石と考えられる。大きく破損し、表面のみ磨滅が認められる。石材は流紋岩である。11 は大形の凹石で、石材は砂岩である。表面は磨滅し、数か所に凹みが認められる。横断面は三角形である。

12 ～ 14 は SX01 から出土した石器である。12 は砥石と考えられる。石材は砂岩で軟質である。表面にわずかに磨滅が認められる。

13・14 は打製石斧で、比較的扁平なものである。石材はいずれも緑色片岩を用いる。13 は基部をわずかに欠くもので、刃部には使用痕である擦痕が顕著に認められる。14 は基部が欠損するほか、細かい剥離は認められず、未成品の可能性がある。



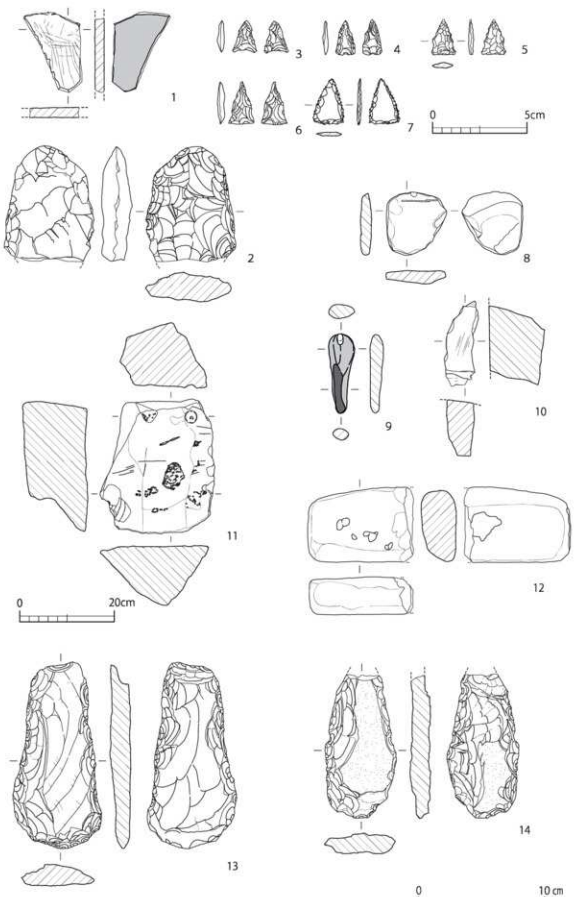
第 33 図　SX01 出土遺物実測図 (1:3)

第 3 遺構面　包含層・遺構面出土土器 (第 35 図～ 37 図)

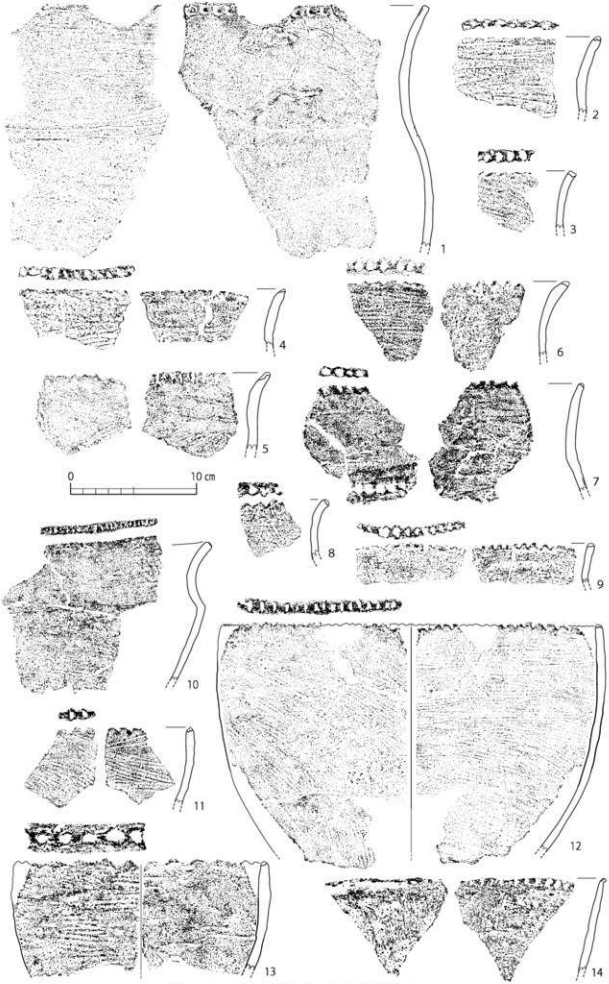
第 35 図は、第 3 遺構面出土の深鉢を載せた。いずれも口縁端部に刻目をもつもので、1 ～ 8 は頸部から緩やかに外反して口縁部に至る。9 は胴部が緩く屈曲して口縁が直線的にのびる。10 は胴部が屈曲して口縁が外反する。11 ～ 13 は口縁が内湾しながら立ち上がり、砲弾状の器形となるものである。14 は口縁部が直線的にのび、わずかに面を持つ端部の内面に刻目が施される。

第 36 図は突帯文土器である。突帯が口縁のやや下につくものと、2 のように口縁から離れた位置につくものがある。刻目は口縁と突帯の両方に施されるものが多いが、4 のように突帯のみにもつものや 7 など突帯を持たないものもある。

第 37 図は浅鉢である。1 は口縁部内面に沈線を施す。2 は胴部が屈曲し、口縁部がわずかに内湾する。3・6 は口縁部が短く屈曲する。4・5 は口縁部端部内面がわずかに凹むものである。7 は口縁端部が細く収まる。8 ～ 10・14 は口縁端部を丸く収める。11 は屈曲部付近で、口縁部外面に突帯を巡らせ



第 34 図　第 3 遺構面　遺構出土石器実測図 (1:3)(1:2)(1:8)



第 35 図　第 3 遺構面出土土器実測図 1(1:3)

第 36 図　第 3 遺構面出土土器実測図 2(1:3)

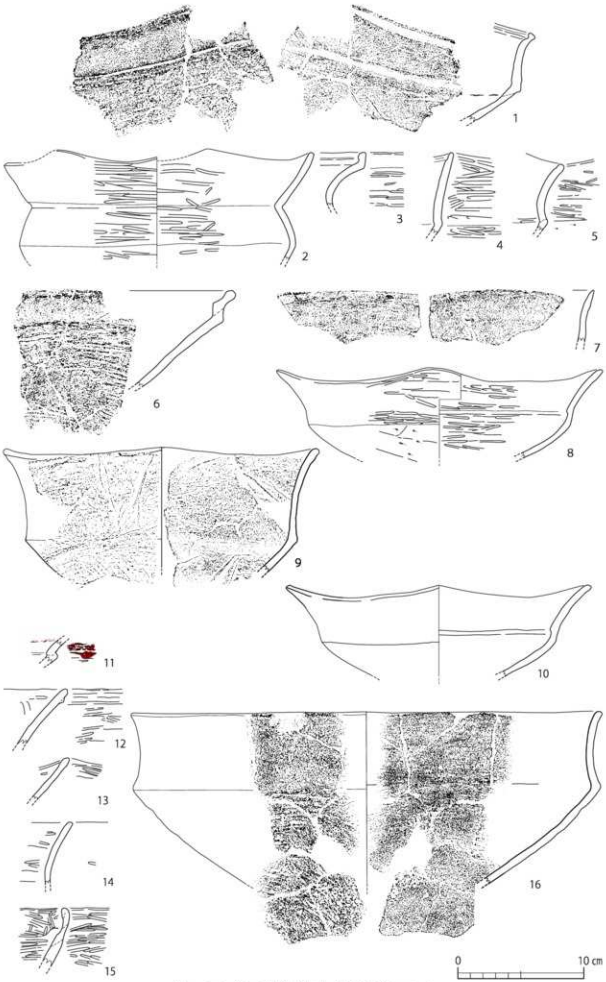
るものである。内外面に赤彩が認められる。13 は口縁部が肥厚する。15 は口縁部が内湾して、端部は肥厚する。

遺物の時期は、第 35 図は晩期Ⅲ期、第 36 図が同Ⅳ期と考えられる。第 37 図 1 ～ 7 が晩期Ⅲ期、8 以降は同Ⅴ期と考えられる。

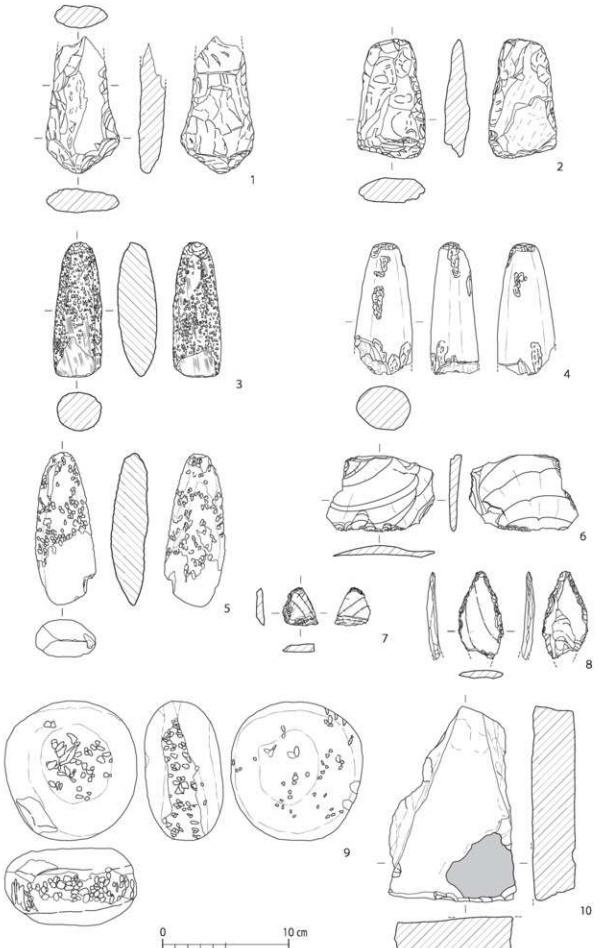
第 3 遺構面　包含層・遺構面出土石器（第 38・39 図）

第 38 図 1・2 は打製石斧で、石材はいずれも泥質片岩である。1 は基部が欠損し、刃部には使用による磨滅が認められる。2 は刃部が欠けており、使用による破損の可能性がある。3 ～ 5 は磨製石斧で、3・4 の石材は泥質片岩、5 は緑色片岩である。3 は成形時の敲打痕が良く残り、研磨痕も認められる。刃部は磨滅が著しい。4 は一部に成形時の敲打痕が残る。刃部は大きく欠損する。5 は敲打ののち研磨で成形する。刃部の一部を欠く。6 ～ 8 はスクレイパーである。石材はいずれも安山岩で、剥片を利用している。6・7 は主にいずれか一辺に細かい剥離が認められるが、8 は槍先のような形状で、2 辺に刃をつくりだす。9 は敲石・磨石で、石材はデイサイトである。表・裏面は磨滅、側面は敲打痕と各面に使用痕が残る。10 は砥石であろう。表面のみ磨滅し、石材は流紋岩である。

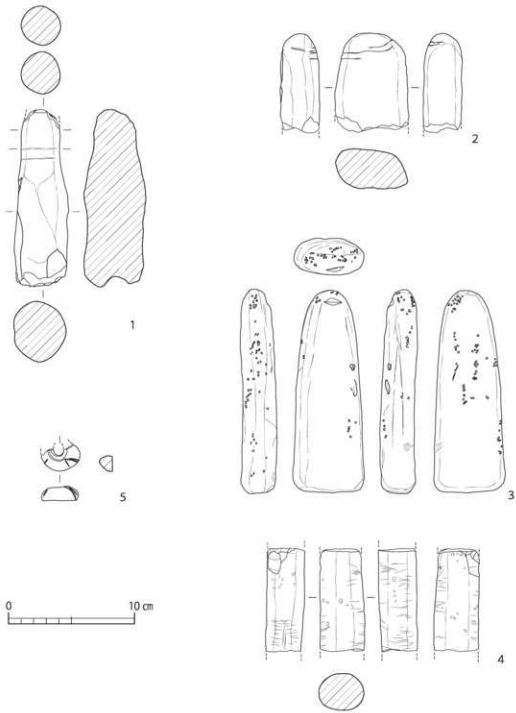
第 39 図 1・2 は石棒と見られる。石材は 1 が緑色片岩、2 は凝灰岩である。1 は下端を欠き、上端もわずかに欠損する。全体に磨滅が認められ、上端付近にくびれをもち、そこに線刻も行う。2 は軟質の石材で、先端付近に筋状の刻みをもつ。3・4 は用途不明の石器で、石材はいずれも凝



第 37 図　第 3 遺構面出土土器実測図 3(1:3)



第 38 図　第 3 遺構面出土石器実測図 1(1:3)



第 39 図　第 3 遺構面出土石器実測図 2(1:3)

灰岩である。3 は表面が磨滅による成形、側面・裏面は敲打による成形を行っている。4 は長軸の両端を欠き、全体的には円形の断面であるが、幅約 2㎝の面取りが行われている。側面には擦痕ともとれる線刻があり、敲打痕も認められる。5 は玉ないし耳飾のような装身具であろう。石材は凝灰岩だが、本来は緑色で緑色凝灰岩であった可能性がある。円盤状の石材の中央に穿孔したと見られ、表面側は丸みを持つが、裏面側は平坦である。表面には筋状の線刻が認められる。1/2 程度を欠いており、勾玉のような形状となることも考えられる。

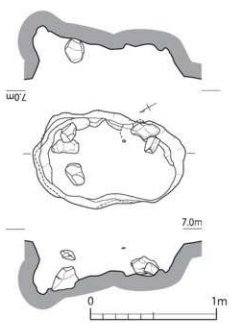
5. 第４遺構面の調査

第４遺構面は、標高 7.4m ～ 6.8m で確認した遺構面である（第 42 図）。土坑、ピット、地床炉を確認しており、ピットの検出数 116 基は遺構面の中では最多である一方、地床炉は２基と極めて少ない。また、調査区北西には土器溜まりが確認された。遺構が検出される範囲は第３遺構面までとほぼ同じであるが、遺構面全面にピットが検出され、とくに南西側で密集する。調査区北東の河道部分は大きく落ち込み、掘り下げ面の標高は約６ｍとなる。

SK12(第 40 図・第 41 図)

調査区北西で検出した土坑である。検出面の標高は 6.9 ｍである。平面形は長径 1.2 ｍ、短径 0.8 ｍの楕円形である。深さは 0.2 ～ 0.4 ｍで、床面は北東側が低くなっている。床面の周辺部は深く掘り込まれており、その内側からは 20㎝大の自然石が出土している。土器や石器などの遺物は出土していない。

第 40 図　SK12 実測図 1(1:30)



第 41 図　SK12 実測図 2(1:30)

SD09(第 43 図)

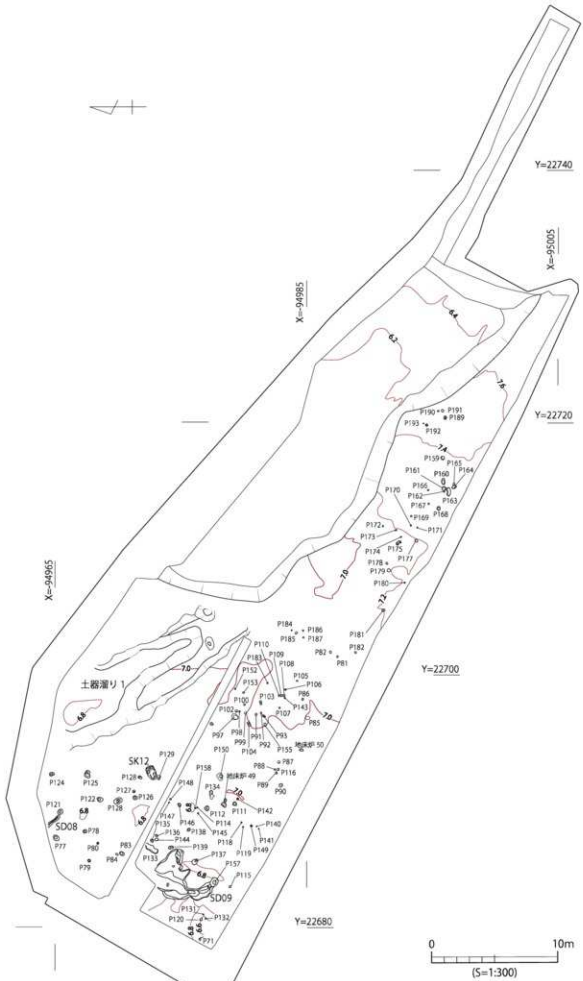
調査区西端で検出した不整形な溝状遺構である。検出面の標高は 6.9 ｍである。試掘トレンチにより北側を欠くが、長さ５ｍ、幅は 3.5 ～ 0.3 ｍと不整形で、深さは 0.2 ｍである。遺物は土器や石器がわずかに出土している。

SD09 ほか出土遺物 (第 45 図)

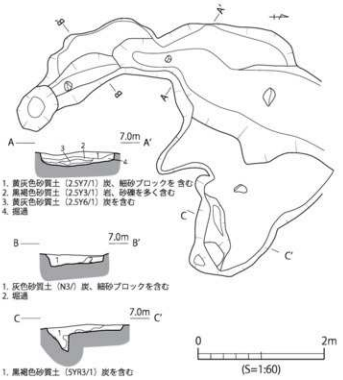
第 45 図１は鉢の胴部である。外面には斜行・横走する長短の沈線文を施すもので、赤彩も認められる。２は P211 から出土した浅鉢で、口縁部は短く立ち上がる。遺物の時期はいずれも晩期と見られるが、詳細は不明である。

土器溜まり１（第 44 図）

調査区北側で検出された溝状の土器溜まりである。長さ 16 ｍ、幅 2.6 ｍで、ピット状に落ち込む



第 42 図　第 4 遺構面遺構位置図 (1:300)



第 43 図　SD09 実測図 (1:60)

箇所や、一段深い溝状になる部分もある。遺構としては調査区外（北側）にも続いているが、土器が集中するのは概ね今回の調査区範囲内である。土器や石器以外にも、獣骨や鹿角などが出土している。

土器溜まり 1 出土土器（第 45 図～53 図）

第 45 図 3 ～第 50 図は深鉢または鉢である。3 は波状口縁で、口縁部外面に 1 ～ 3 条の沈線と刺突を施す。口縁部内面にも沈線を巡らせる。4・6・7 は口縁部と胴部に屈曲をもち、7 は突起の外面を凹ませている。5 は頸部が屈曲し、上方にのびる口縁部に沈線を施す。8 は口縁部が肥厚して段状になる。9・10 は頸部が屈曲して口縁が上方にのびる。

第 46 図 1・2 は口縁部が短く屈曲し、口縁部は胴部よりも薄くなる。3 ～ 10 は頸部が緩やかに屈曲し、口縁部は丸く収まる。4 は頸部に孔をもつ。10 は胴部の径が口径よりもかなり小さくなり、口縁部が胴部よりやや厚みをもつ。条痕とナデで調整するものが多いが、4・5 の内面はミガキである。

第 47 図 1 ～ 4 は、頸部が緩やかに外反して口縁部に面をもつ。1 は端部の上面に面をつくる。2 は口縁部外面と上面に面があり、複合口縁状になる。3 は端部が肥厚して上面に面ができる。4 は端部が上方にのびるように面を持ち、一部に押圧がなされる。5 は胴部が屈曲して口縁部はわずかに肥厚して波状口縁となる。6 は口縁端部が細くつくられる。7・8 は口縁部がわずかに内湾するものである。7 の外面には横方向の沈線が施される。9 は頸部が外反して波状口縁をもつ。

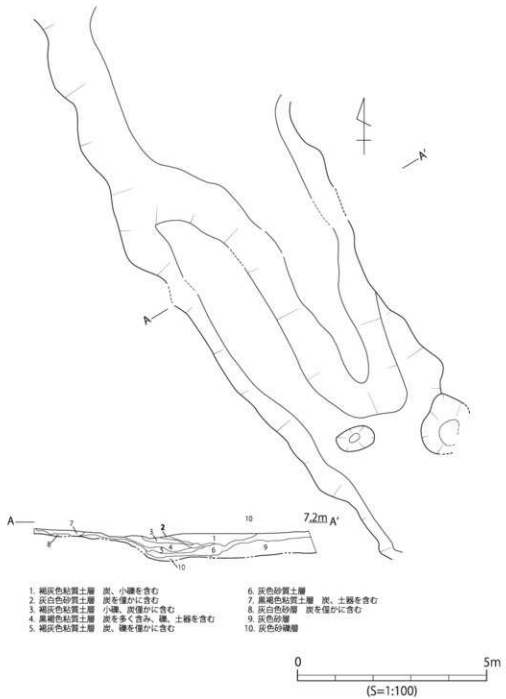
第 48 図 1 は口縁が外反し、内面に刺突を施す。2 は口縁が緩やかに外反するもので、3 は直立する口縁部をもつ。いずれも口縁端部に刻目を施す。4 ～ 8 は無文の深鉢である。4 ～ 7 は口縁が内湾気味にたちあがるもので、8 は外傾して直線的にのびる。

第 49 図は粗製の深鉢で、口縁部は先端に向かって細くなる。1・3 は口径が胴部最大径よりも小さくなる砲弾形の器形である。2・4 は口縁部が上方にのびるもので、4 は口縁部に孔を設ける。調整は 1・2 は条痕、3・4 はナデである。

第 50 図も粗製の深鉢で、1 は第 49 図 4 と同様に口縁部が上方にのびるもので、器壁は胴部よりやや厚くなる。2 ～ 6 は胴部と体部の傾斜に変化がなく、細身の器形である。調整は 1・2 が条痕とナデ、3・4 は条痕、5・6 はナデである。

これらはいずれも縄文時代晩期のものと考えられ、第 45 図 3 ～ 7 は晩期 I 期か。同図 8 ～第 47 図は晩期 II ～ III 期、第 48 図～第 50 図 1 は晩期 III 期で、第 50 図 2 ～ 6 も晩期 III 期であろう。

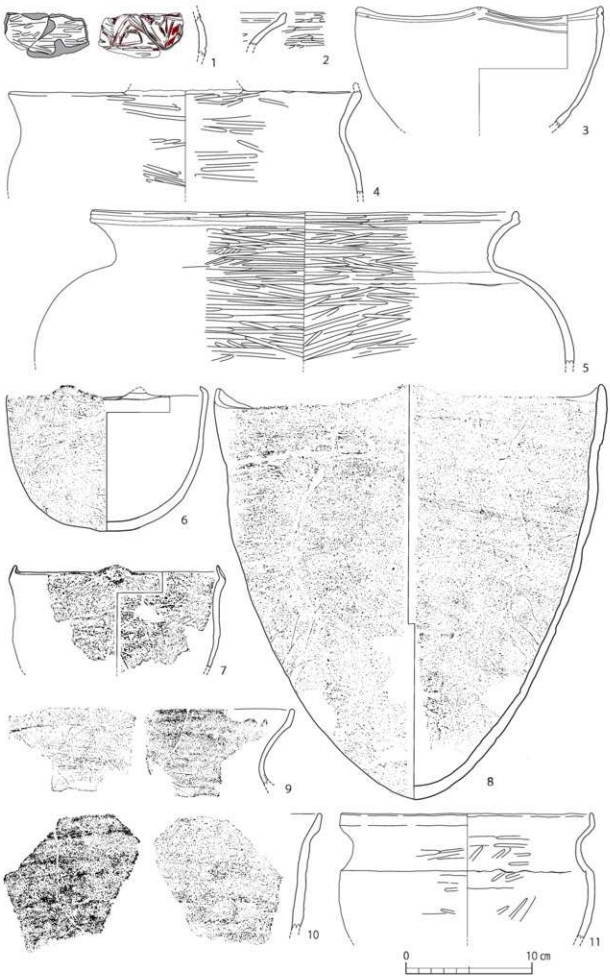
第 51 図～第 53 図は浅鉢である。第 51 図 1 は胴部・頸部が屈曲し、斜格子文を施す。2 は頸部が屈曲し、口縁内面がわずかに凹む。3 は胴部・頸部が屈曲し、口縁は内湾しながら大きく広がる。4



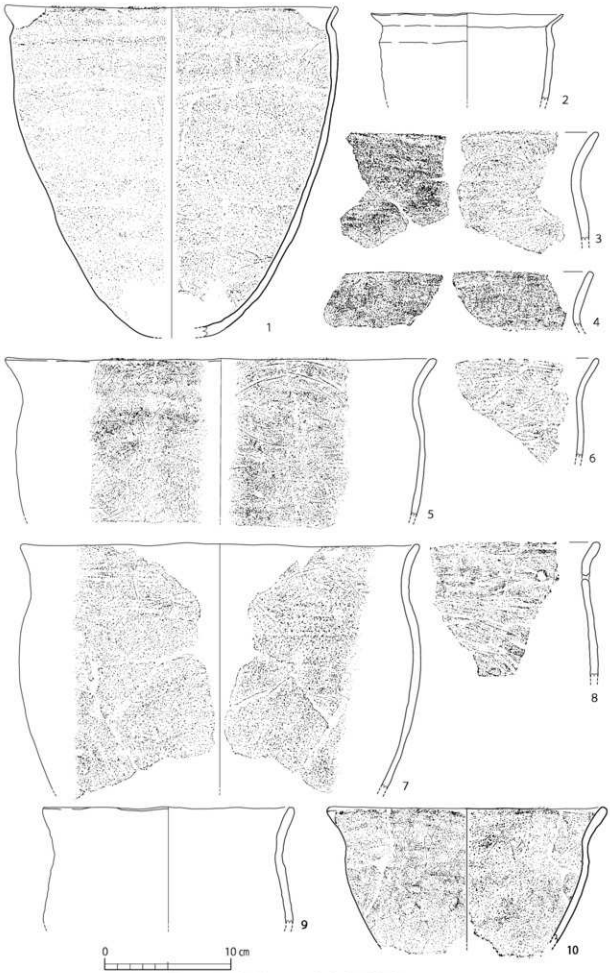
第 44 図　土器溜まり 1 実測図 (1:100)

は頸部が 2 段に屈曲して短い口縁がつき、口縁部内面には沈線状の凹みをもつ。5 は屈曲する頸部に短い口縁部がつくものである。6 ～ 10 は口縁部に文様をもつものである。6 はいわゆる樋原文様に類似した文様が施されるもので、7 ～ 10 も同様な文様をもつが、8 はいわゆる三田谷文様の可能性もある。また、7 には縄文が認められる。11 は胴部の屈曲が丸みを帯びたものになり、内湾する口縁部をもつ。

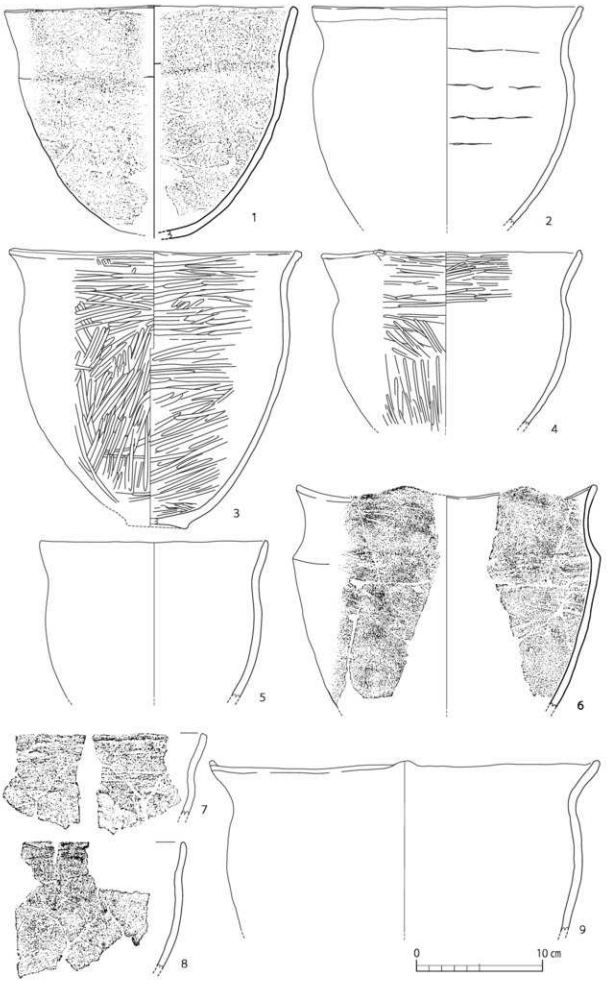
第 52 図 1・2 は口縁端部が肥厚して、外面に 1 条の沈線を施す。3 は胴部・頸部の屈曲がなく、口縁部やや下が帯状に凹むものである。4 ～ 8 は胴部・頸部が緩やかに屈曲し、口縁端部が内側に突出するもので、5・7 では内側に沈線が施される。9 は頸部から口縁部が直線的にのびる。10 ～第 53



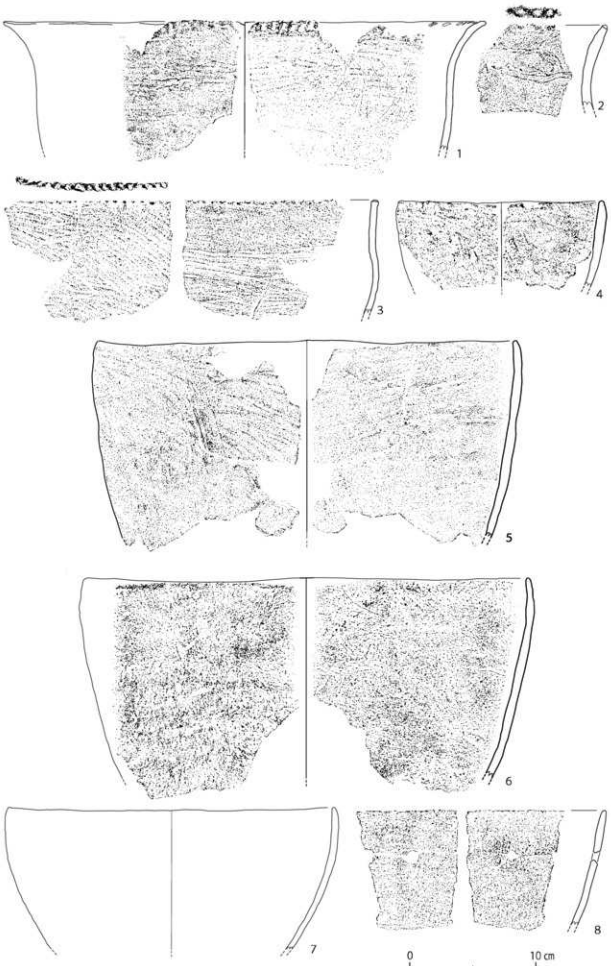
第 45 図　第 4 遺構面　遺構・土器溜まり 1 出土土器実測図 (1:3)



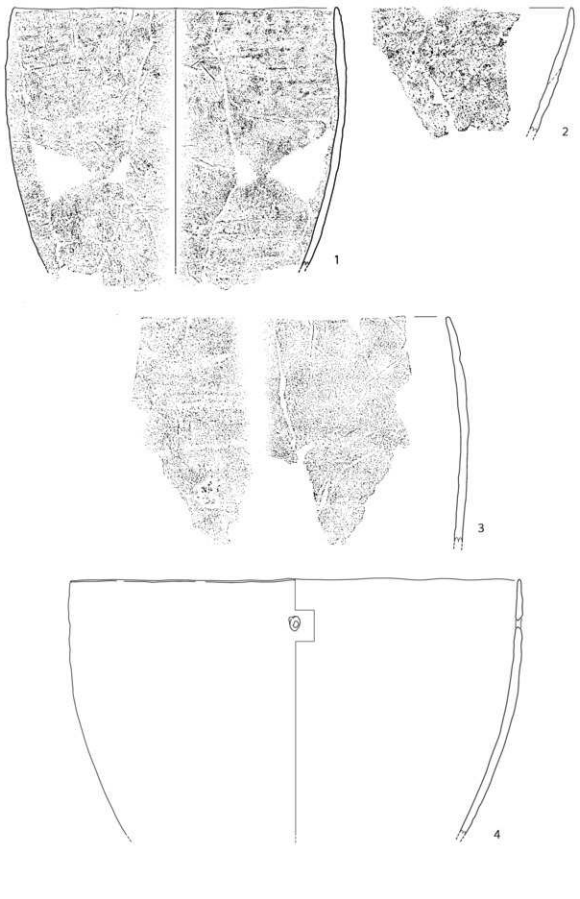
第 46 図　土器溜まり 1 出土土器実測図 1(1:3)



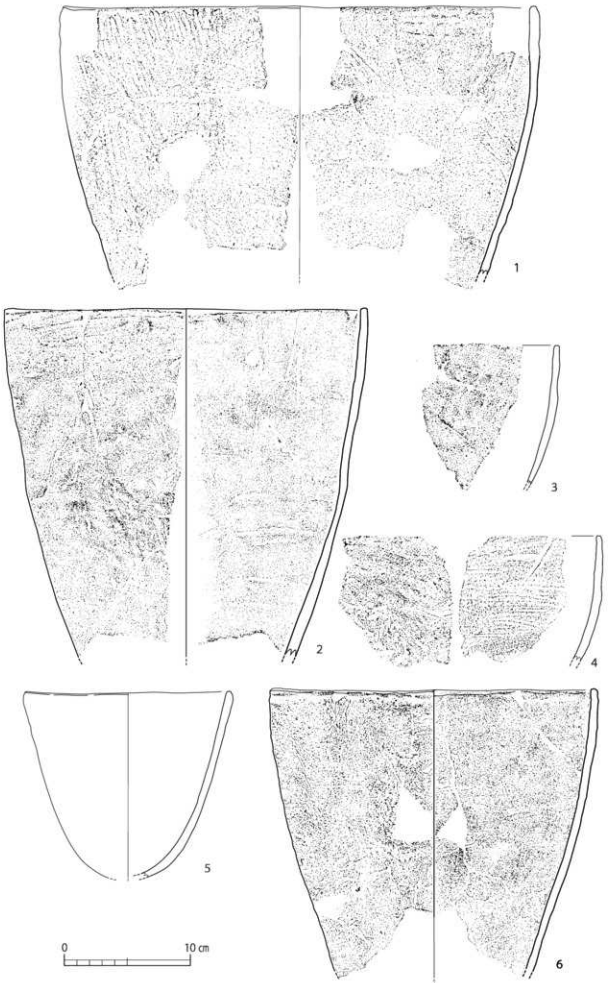
第 47 図　土器溜まり 1 出土土器実測図 2(1:3)



第 48 図　土器溜まり 1 出土土器実測図 3(1:3)



第 49 図　土器溜まり 1 出土土器実測図 4(1:3)



第 50 図　土器溜まり 1 出土土器実測図 5(1:3)

図4は口縁端部が上方に拡張する。第53図5～7は頸部が緩やかに外反する。5は口縁端部が上方に屈曲し、7はやや肥厚する。8は口縁端部外面に面をつくる。9は口縁部下側が凹むものである。10・12は胴部・頸部に屈曲がないものである。11は頸部に突帯を貼り付ける。13は口縁端部に突帯がつくものである。14は口縁部が屈曲し、上方へ立ち上がる。

15～18はその他の器種を載せた。15は注口、16は壺形土器の肩部付近であろう。17・18は文様をもつ小片で、17は梯子状の文様が複数列、18は多数の刺突と沈線を施す。19・20は底部である。これらの土器の時期は、概ね晩期と考えられる。第51図1～10は晩期Ⅰ期、第51図11～第52図3は晩期Ⅱ期、第52図4～第53図8は同Ⅲ期である。16～18は晩期初頭の可能性がある。

SD09出土石器（第54図）

第54図1はデイサイト製の敲石・磨石で、長軸側面の一方に使用痕が認められるほか、裏面に敲打痕・擦痕がある。2は凝灰岩製の線刻礫である。表面と裏面に筋状の深い刻目を入れ、正中線または女性器を表現している可能性がある。3は大形の石皿で、表面にのみ擦痕が認められる。破損した状態で出土したが、表面に打点があり、意図的に割ったとも考えられる。

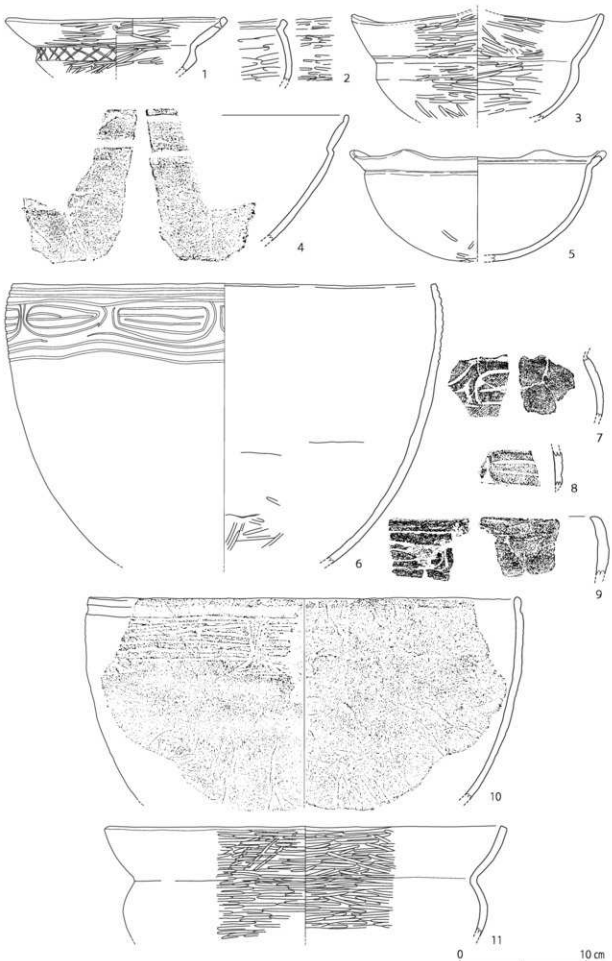
土器溜まり1出土石器（第55図～第59図）

第55図は打製石斧を掲載した。1は流紋岩製で、表・裏面とも自然面が大きく残り、刃部・基部を中心に加工する。刃部は磨滅している。2は安山岩製で、基部を欠いている。3は流紋岩製で、長さに比べて幅広で剥離も少ないことから未成品の可能性がある。4はデイサイト製で、基部を欠くが、厚みのあるものである。5は安山岩製で、平面形が三角形に近いものである。一次剥離が大きく残り、自然面が残る部分もある。6は流紋岩製で刃部が欠損する。表面には自然面が大きく残る。7は平面形が長方形で、未成品である。石材はデイサイトである。8もデイサイト製で、基部が大きく欠ける。表・裏面とも自然面が残る。9は安山岩製で、製作途中で放棄された未成品であろう。長軸の一方の端部を欠き、裏面は、一次剥離がほぼそのまま残る。

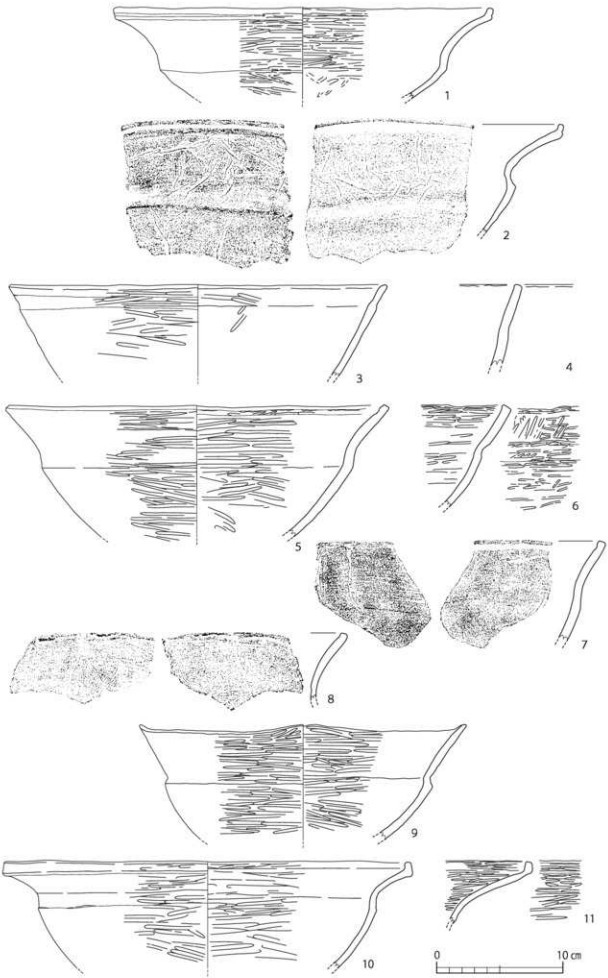
第56図は磨製石斧・石鏃などである。1・2は磨製石斧で、緑色片岩製である。1は表・裏面の広い範囲に使用痕と見られる磨滅面がある。2は刃部を大きく欠くもので、広範囲に磨滅面が認められる。3・4は安山岩製の石鏃である。3は先端部を欠き、細かい剥離が見られないことから破損した未成品であろう。5～16はスクレイパーである。石材には安山岩、流紋岩、デイサイトが使用される。17は剥片であるが、一部に細かい剥離も認められる。

第57図は磨石・敲石と石皿である。1～4・6は磨石・敲石である。1は流紋岩製で、表面と側面も広い範囲に敲打痕が見られるほか、表面には筋状の凹みをもつ。2はデイサイト製で、表面と側面に磨滅面を持つ。砥石の可能性もある。3はデイサイト製で、表・裏面の中央と側面に敲打痕が見られる。4はデイサイト製で、表・裏面中央と側面全体に使用痕があり、ほかは磨滅する。6は流紋岩製の石皿で、表面が滑らかである。側面には剥離が認められ、大きさや形態を調整した可能性がある。5は流紋岩製の石皿か。表面がやや滑らかで側面に整形痕が残る。

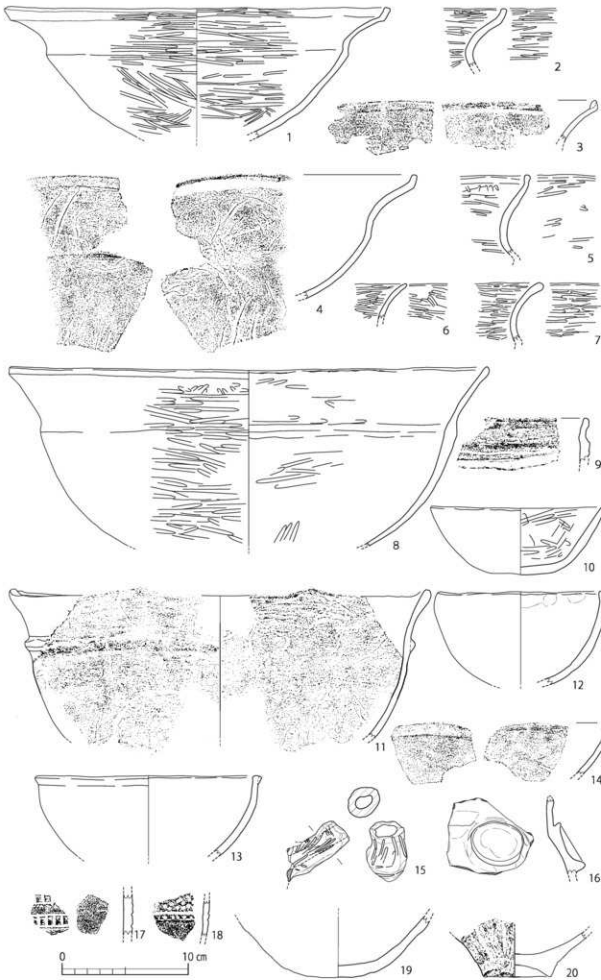
第58図は石棒などである。1は石刀か。緑色片岩製で、弧を描く側面に刃を造り出す。図の下側は擦痕が見られる。2・4は凝灰岩製の扁平なもので、4は全面磨滅している。線刻礫の素材と考えられる。3も凝灰岩製で敲打により成形し、磨いていると見られる。5は表・裏面に、9は表



第 51 図　土器溜まり 1 出土土器実測図 6(1:3)



第 52 図　土器溜まり 1 出土土器実測図 7(1:3)



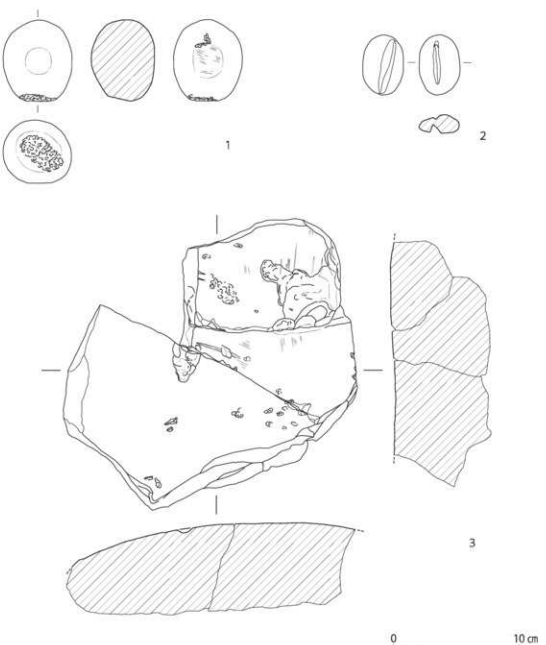
第 53 図　土器溜まり 1 出土土器実測図 8(1:3)

面に凹みをもつが、凝灰岩製で実用的な凹石とは考えにくい。6も長軸の端部に剥離があるが、実用性は低い。7・8は石棒であろう。7はデイサイト製で、元々存在した欠けを加工して抉りのようにつくったものと見られる。8は両端が欠損するが、全面に磨滅が認められ、研磨したものと考えられる。

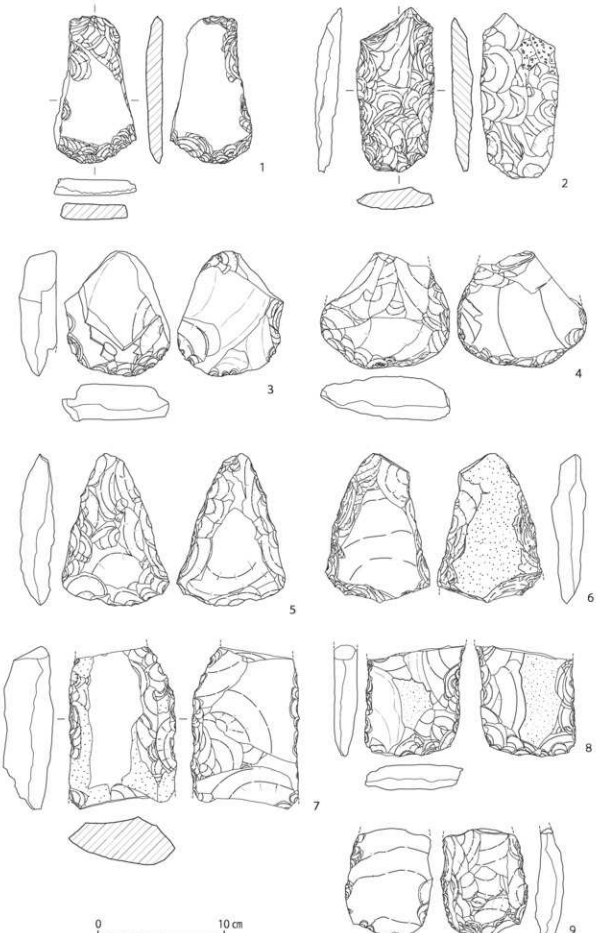
第59図は石錘である。1は短軸の両端に抉りを入れる。2は長軸の一方の端部と短軸の両端に抉りをもつ。3は長軸・短軸に抉りが見られる。石材は1・2が凝灰岩、3はデイサイトである。

第4遺構面及び包含層出土土器（第60図）

第60図1～3は深鉢である。1は頸部が屈曲して口縁部は短く、やや肥厚する。2・3は頸部が緩やかに外反するものである。4～8は浅鉢である。4は多条の沈線が認められ、いわゆる櫛原文様

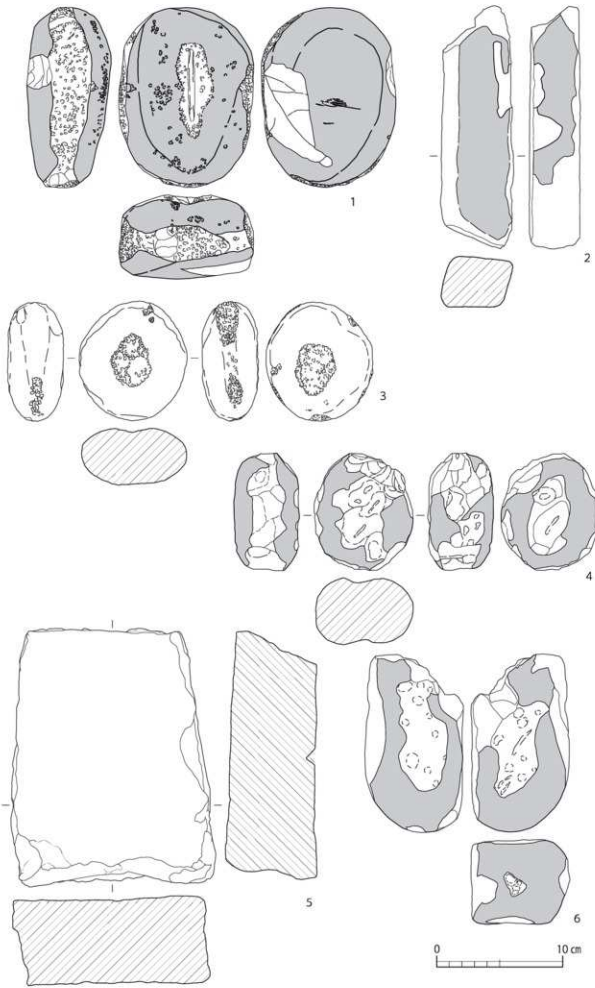


第54図　SD09出土石器実測図(1:3)

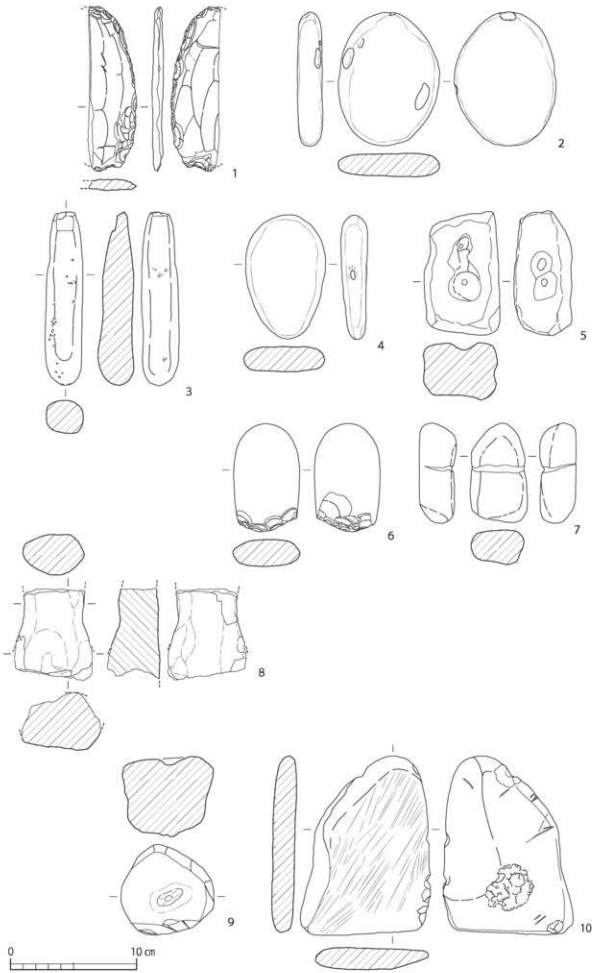


第 55 図　土器溜まり 1 出土石器実測図 1(1:3)

第 56 図　土器溜まり 1 出土石器実測図 2(1:3)



第 57 図　土器溜まり 1 出土石器実測図 3(1:3)



第 58 図　土器溜まり 1 出土石器実測図 4(1:3)

と見られる。5は頸部が緩やかに外反し、口縁部は短く屈曲する。6はボウル形の器形で、口縁部は外反して端部が肥厚する。7は口縁部の内面と外面に沈線を施すもので、この遺跡ではあまり見られない。8は5に近い器形だが、口縁部外面に明瞭な面をもつ。9は注口土器で、2条の沈線が施される。

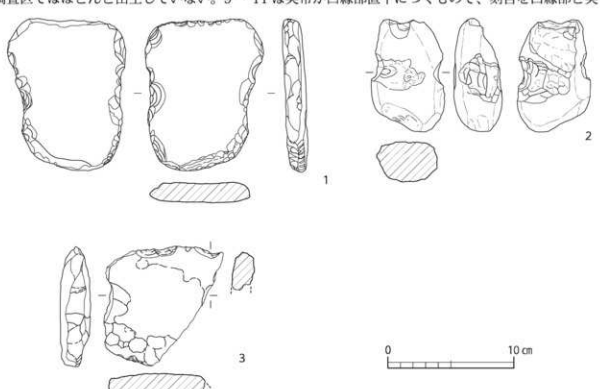
時期は1・2・4・7が晩期Ⅰ期～Ⅱ期、5・6・8は同Ⅲ期である。9は詳細な時期は不明である。

第4遺構面出土石器（第61図）

第61図1は打製石斧である。泥質片岩製で裏面は自然面が多く残り、表面にも一部見られる。刃部は著しく磨滅し、使用頻度の高さがわかる。2～4は磨製石斧で、いずれも泥質片岩製である。敲打により成形したのち全体を軽く研磨している。刃部には擦痕が見られる。3は厚みがなく、全体的に研磨される。刃部など部分的に破損がある。4は敲打により成形され、基部と側面の一部が欠損する。刃部は両面に擦痕が認められる。5・6は板状の素材で、石材は安山岩である。5は素材剥片で、長軸両端が欠けている。裏面には二次的な剥離が見られる。6は石核で、図の上方が切断されている。7は磨石・敲石で、表面と側面の一部に敲打痕があるほか、側面はほぼ全面使用され、磨滅している。石材は流紋岩である。8は表面に凹みをもつものである。表面や側面の一部は研磨されたと見られる。石材は凝灰岩で、祭祀的な性格をもつと考えられる。

河道出土土器（第62図・63図）

第62図は深鉢である。1・2は口縁部が内湾して端部に刻目をもつ。3は口縁端部が内側に肥厚し、そこに刺突を施す。4・5は口縁が外反して、端部に刻目をもつものである。6～11は突帯文土器で、6・7は口縁端部と突帯の両方に刻みをもち、突帯は口縁から離れた位置につく。8は2条突帯で、この調査区ではほとんど出土していない。9～11は突帯が口縁部直下につくもので、刻目を口縁部と突

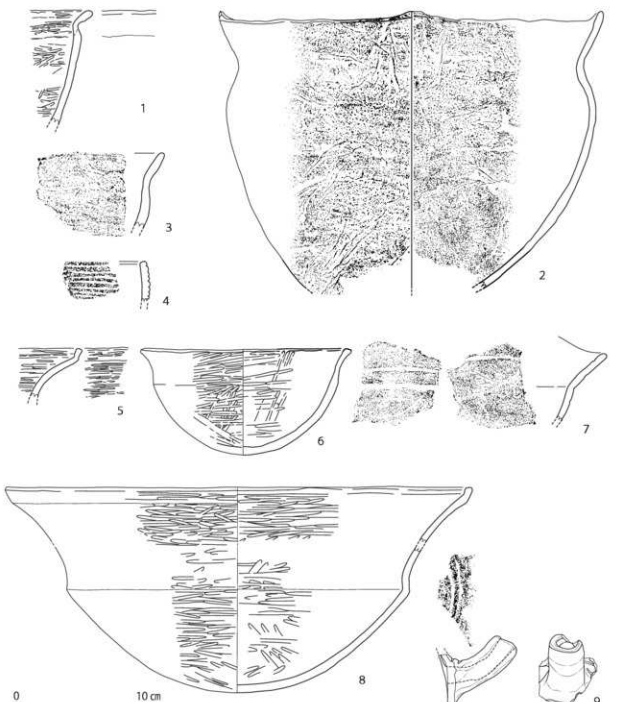


第59図　土器溜まり1出土石器実測図5(1:3)

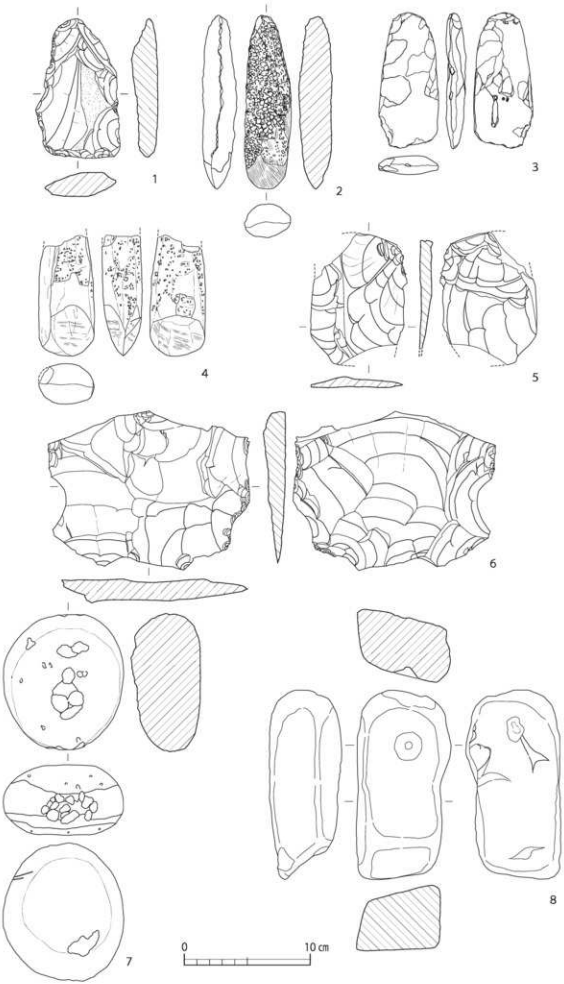
帯の両方に施すものと、突帯のみのものがある。12 は口縁部が内湾する。

第 63 図は浅鉢である。1 は口縁部が直線的に外傾し、2 ～ 3 条の沈線を施すものである。2 は小片であるが、いわゆる橿原文様に類似する文様をもつ。3 は底部から口縁まで外傾して直線的にのびる。口縁端部内側には浅い沈線を施す。4・5 は口縁部が緩やかに外反し、端部内面に沈線をもつものである。6 は屈曲する頸部に内湾する口縁部がつく。7・8 は口縁端部内面に沈線を施すもので、7 は口縁部が短く立ち上がり、8 は口縁が大きく外反する。9 は口縁端部が肥厚し、短く上方へ立ち上がる。10 も同様な形態だが、端部は肥厚しない。

11 は口縁部が内傾するもので、端部はわずかに上方にのびる。12 も同様な器形であるが、端部に



第 60 図　第 4 遺構面出土土器実測図 (1:3)



第 61 図　第 4 遺構面出土石器実測図 (1:3)

刻目をもつものである。13は胴部から口縁部へ緩やかに内湾して立ち上がるものである。14は細い胴部から口縁部へ大きく開く。15は底部でわずかに上げ底となる。

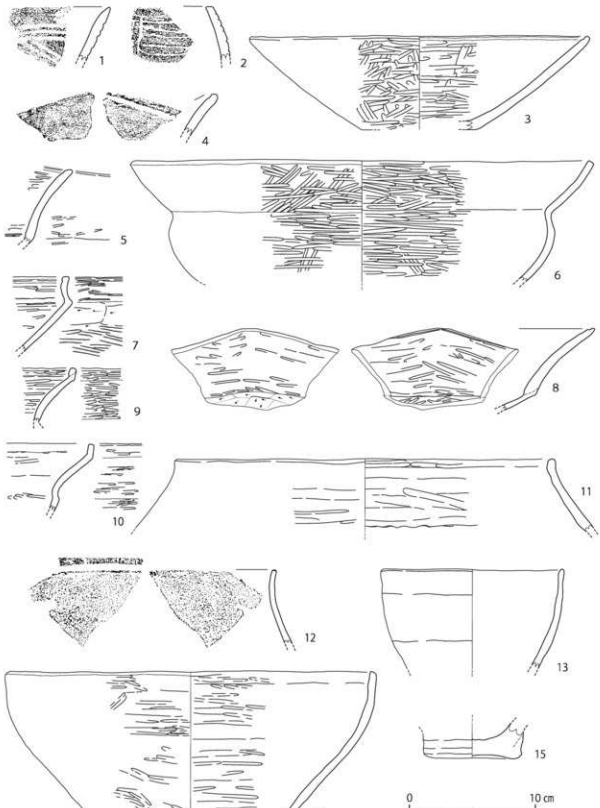
時期は、第62図1～5が晩期Ⅲ期、6・7が同Ⅳ期、8・9が同Ⅴ期、10・11が同Ⅵ期である。第63図は1が沖丈式、2が晩期Ⅰ期、3～6が同Ⅱ期、7～10が同Ⅲ期、11・12は同Ⅴ～Ⅵ期である。

河道出土石器（第64図）

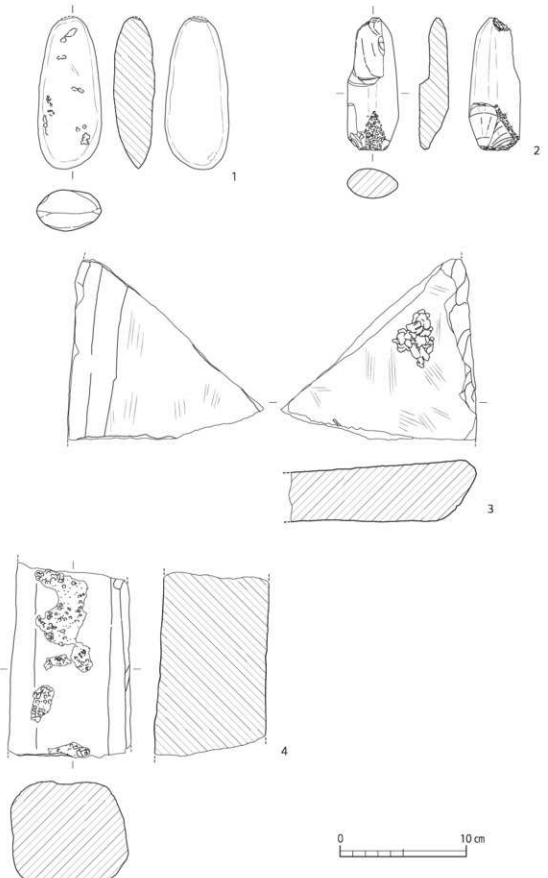
第64図1は磨製石斧である。1は全体に研磨されており、刃部は使用痕と見られる磨滅が顕著である。石材は緑色片岩である。2は自然石を利用した敲石・磨石であるが、磨製石斧の可能性もある。長軸端部の一方には敲打痕があり、また両端に見られる剥離は使用痕と考えられる。石材は泥岩であ

第62図　河道出土土器実測図1(1:3)

る。3は石皿で表・裏面に擦痕があり、表面には敲打痕も認められる。石材は凝灰岩であるが硬質で、実用品であろう。4は石棒か。横断面は丸みを帯びた四角形で、長軸の両端を欠くが、幅や厚さから大形のものだったと見られる。部分的に磨滅しているが、凹んだ部分は自然面のままである。石材は凝灰岩である。



第 63 図　河道出土土器実測図 2 (1:3)



第 64 図　河道出土石器実測図 (1:3)

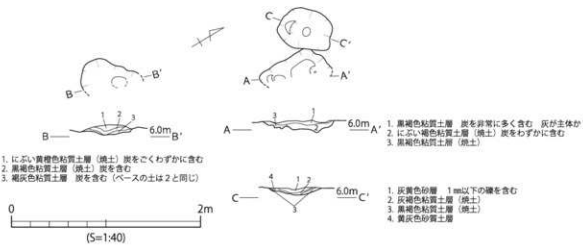
6. 第 5 遺構面の調査

第 5 遺構面は、標高 6 mで検出した遺構面である（第 66 図）。調査区の東側、E 9 グリッド付近のごく狭い範囲のみで確認した。面的に検出できたのは地床炉 3 基である。なお、南壁の土層（第 5 図）では、第 4 遺構面と第 5 遺構面の間、標高 6.5 mで落ち込みを確認している。面的な調査はできなかったが遺構であれば、遺構面がもう 1 面存在した可能性もある。

この遺構面の包含層は、緑灰色粘土、青灰色粘土、暗オリーブ灰色粘土Ⅰ、暗オリーブ灰色粘土Ⅱで、縄文時代晩期～後期の遺物が出土している（第 67 ～ 78・80 図）。またこの面の下層には、青灰色砂礫が存在し、縄文時代後期の遺物が出土した。（第 81 図）。

地床炉 51 ～ 53 実測図（第 65 図）

第 5 遺構面で検出した 3 基の地床炉である。検出面は約 6 mで、一部切り合いながら近接している。いずれも平面形は長楕円形で、浅い皿状の凹みに炭化物を含む褐色土や焼土が堆積する。第 2 ～第 4 遺構面で検出された地床炉と同様なものである。遺物は出土していない。

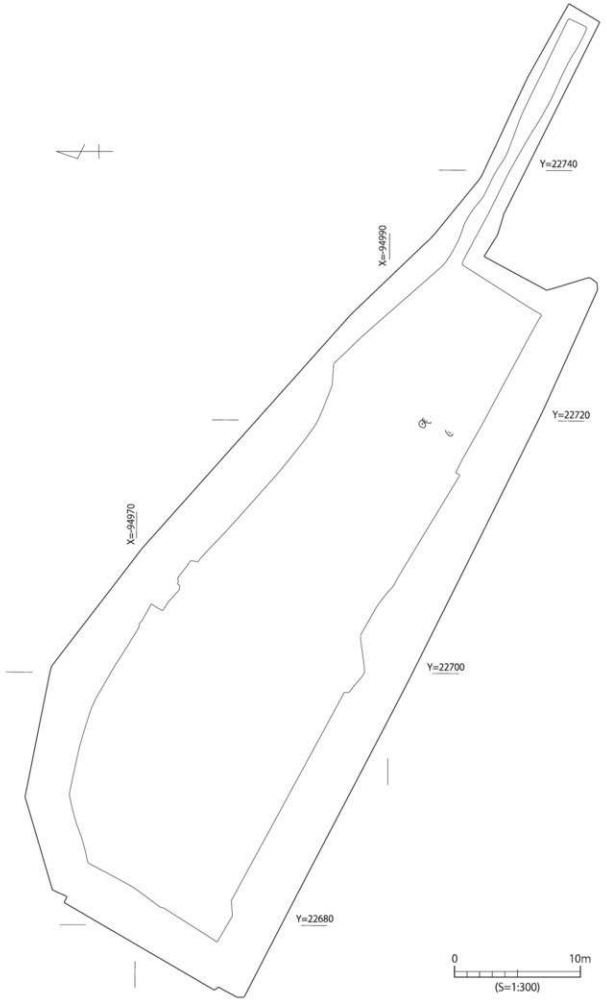


第 65 図　地床炉 51 ～ 53 実測図 (1:40)

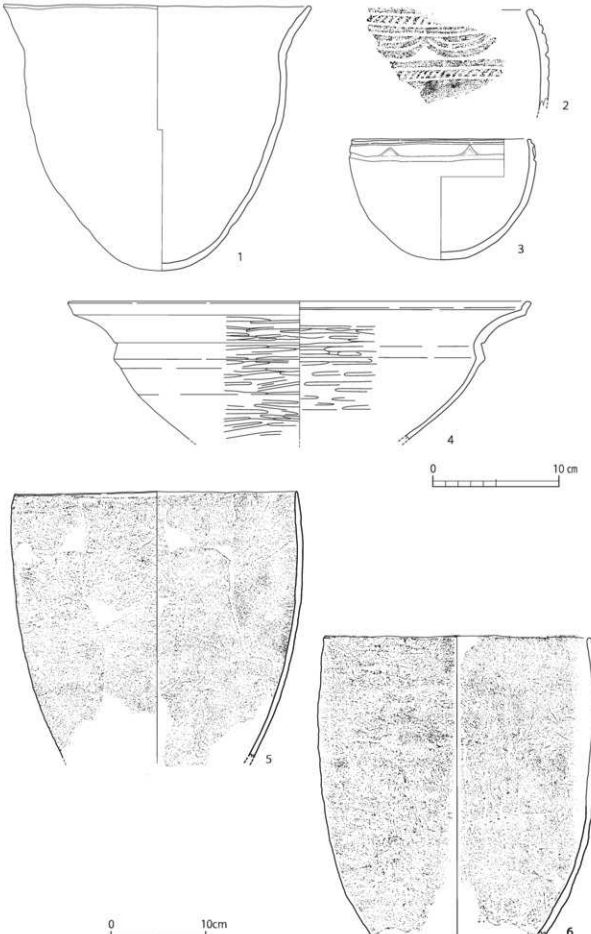
緑灰色粘土出土遺物（第 67 図・68 図）

第 67 図は土器で、1 は深鉢である。丸底で、頸部は緩やかに外反し、口縁部は直線的にのびる。2 ～ 4 は浅鉢で、2 は口縁部が内湾し、沈線、刻目、三角形の抉りなどの文様をもつ。3 は小形で口縁が内湾し、太い沈線や三角形の抉りを施す。風化のため調整は不明である。4 は胴部、頸部、口縁が鋭く屈曲し、頸部外面や口縁部内面の屈曲は沈線状になる。5・6 は大形の深鉢で、口縁が内湾し、砲弾形の器形となる。時期は、1・4 が晩期Ⅲ期、2・3 は同Ⅰ～Ⅱ期である。

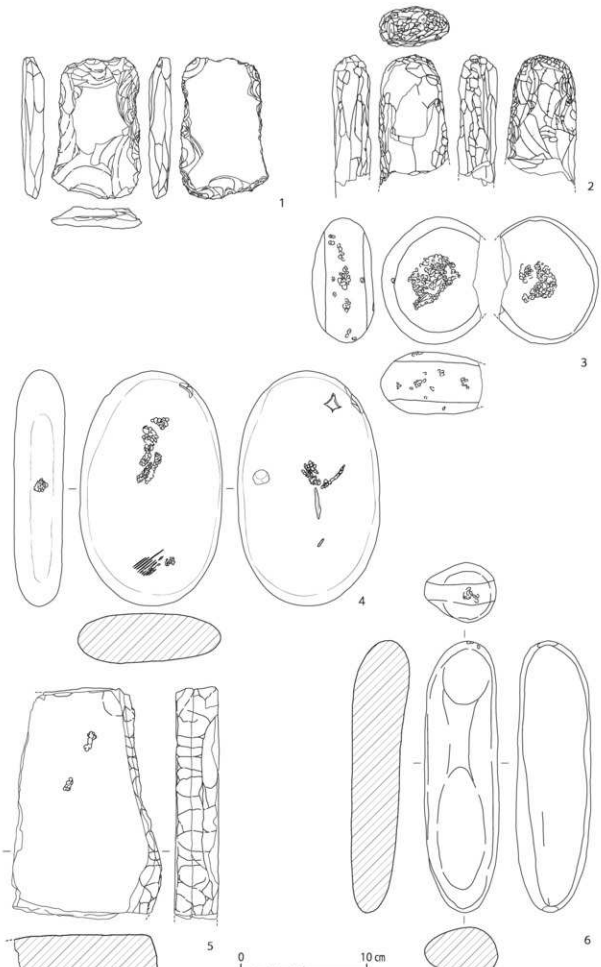
第 68 図は石器で、1 は打製石斧の未成品である。表・裏面の周辺部には剥離が認められるが、中央には自然面を大きく残す。石材は泥質片岩である。2 は石斧の未成品であろう。長軸端部の一方を欠き、もう一方の端部や側面に細かい剥離が認められる。石材は泥質片岩である。3 は敲石・磨石で、表・裏面はわずかに磨滅し、中央付近には敲打痕が認められる。側面も各所に敲打痕がある。石材は流紋岩である。4 はデイサイト製の磨石・敲石である。全面磨滅し、表・裏面と側面には敲打痕があるほか、表面の一部に擦痕も見られる。5 は石皿で、表・裏面は磨滅して平滑になる。側面には比較的細かい剥離が見られ、大きさを調整した可能性がある。石材は凝灰岩である。6 は石棒と見られる。全体に磨滅し、長軸端部に敲打痕が認められる。石材は流紋岩である。



第 66 図　第 5 遺構面遺構位置図 (1:300)



第 67 図　緑灰色粘土出土土器実測図 1 (1:3)(1:4)



第 68 図　緑灰色粘土出土石器実測図 (1:3)

青灰色粘土出土遺物（第 69 図～ 72 図）

青灰色粘土からは、縄文時代後期の遺物が出土した。第 69 図は有文の深鉢である。1 は内湾する波状口縁をもち、巻貝による疑似縄文と沈線が施される。2 は胴部から頸部で、胴部の上側に沈線と疑似縄文が認められる。3 は胴部の上側に直線・連続山形文と縄文（LR）が施される。4 は 3 と同様な施文で、山形文と連弧文が認められる。5 は沈線と縄文（LR）、7 は沈線と山形文、縄文（LR）を施す。3 ～ 5・7 は同一個体の可能性がある。6 は山形の沈線の頂点に巻き込み状の意匠をもち、また沈線内に連続刺突を行う。

第 70 図 1 ～ 3 は無文の深鉢である。5 は口縁部外面に疑似縄文をもつ鉢である。6 は粗製の深鉢であるが、外面に不定方向の沈線が施される。4・7 ～ 9 は浅鉢である。4 は口縁が薄くなるが、端部はわずかに肥厚する。7 は口縁が内湾して縄文と沈線を施す。8 は沈線の間に縄文ではなく刻目を施す。9 は沈線により横長の区画をつくりだすものである。10 は注口土器または壺の肩部で、沈線内刺突と縄文が見られる。

遺物の時期は、第 69 図 1・2 が沖丈式～権現山式古段階、3・4・6 が権現山式古段階、5・7 が同古～新段階である。第 70 図 7 が沖丈式～権現山式古段階、5・8 ～ 10 は権現山式古段階～新段階である。

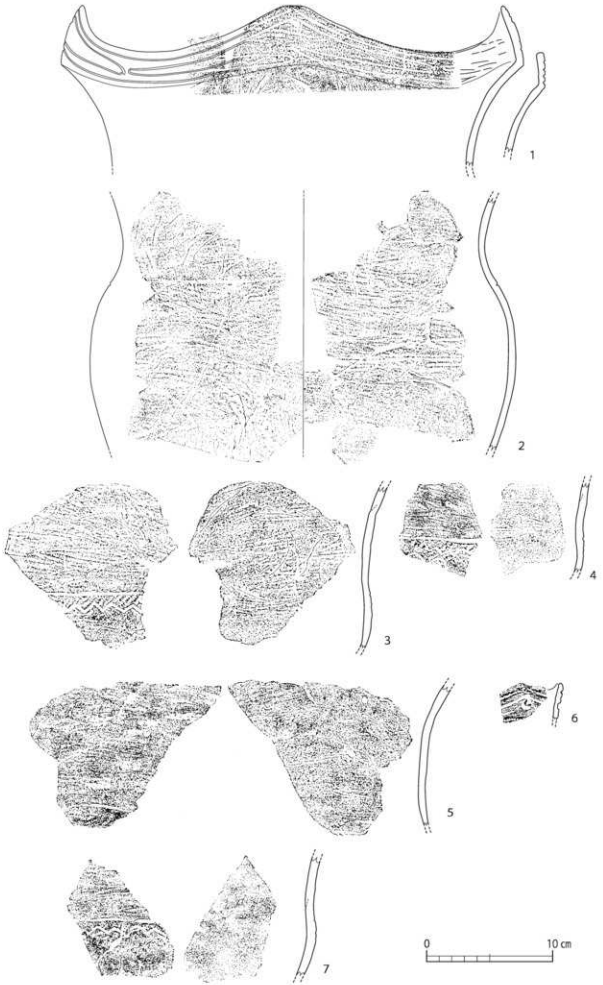
第 71 図 1 は砥石であろうか。全体に磨滅しているが、表面及び裏面の中央付近は特に磨滅が著しい。石材は凝灰岩と見られる。2 も砥石だが、磨滅する部分は表面と側面の一部である。石材は安山岩である。3 は磨石・敲石である。表・裏面の中央に敲打痕が見られ、その周囲は磨滅する。敲打痕は側面にも認められる。石材は閃緑岩である。4 は石棒であろう。自然面が一部残るが、全体的に磨滅している。

第 72 図 1 は線刻礫である。円形の扁平なもので、全体に磨滅する。表面に細い筋状の線刻が多数認められる。側面の一部は変色し、被熱したものと考えられる。2 は線刻礫の素材と見られる。敲打で成形し、全体をわずかに研磨したと見られる。石材は軟質の凝灰岩である。

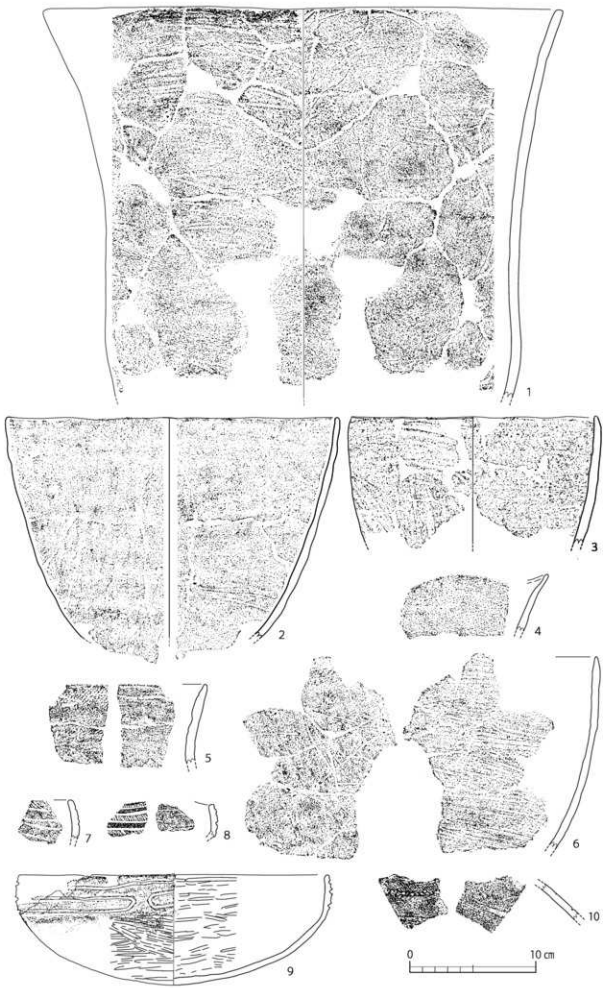
暗オリーブ灰色粘土Ⅰ出土土器（第 73 図・74 図）

第 73 図 1 ～ 15 は深鉢である。1 は口縁が内湾して肥厚するもので、横走する沈線と北白川上層式に見られる垂下蛇行線文が施される。2 は口縁外面に縄文帯（RL）をもつ。3 ～ 7 は縄文地鉢である。3 ～ 5 は肥厚する口縁端部に縄文（いずれも RL か）を施す。6 は口縁部が肥厚せず、縄文（RL）を施す範囲が広くなる。7 は頸部から胴部で、沈線と縄文（無節 L）が認められる。8 は口縁部に小さな突起をもつ。端部のごく狭い範囲に縄文を施す。9 は口縁端部の内外面両方に縄文（RL）を用いるものである。10 は風化のため文様等不明だが、縄文地鉢の可能性がある。11 は深鉢の肩部で、沈線と縄文が認められる。12・13 は口縁端部内面が肥厚する深鉢で、12 は指頭圧痕が顕著である。14・15 は無文の深鉢である。16 ～ 22 は浅鉢で、22 は口縁が大きく内湾し、沈線が施される。17 は太い沈線を入れ、その間に縄文を施す。18 は太い沈線が斜行して描かれる。19 は細い沈線が縦横に交差している。20 は横走する 2 条の沈線の間に、短い沈線で羽状文に似た文様を施す。21・22 は沈線と縄文が認められる。22 には赤彩がある。

第 74 図 1 は九州の北久根山第一型式の影響を受けた浅鉢である。口縁端部には縄文（RL）が、胴部には沈線と縄文（RL）が施される。2・4 も同じ型式で縄文・沈線が見られ、4 には赤彩が認められる。



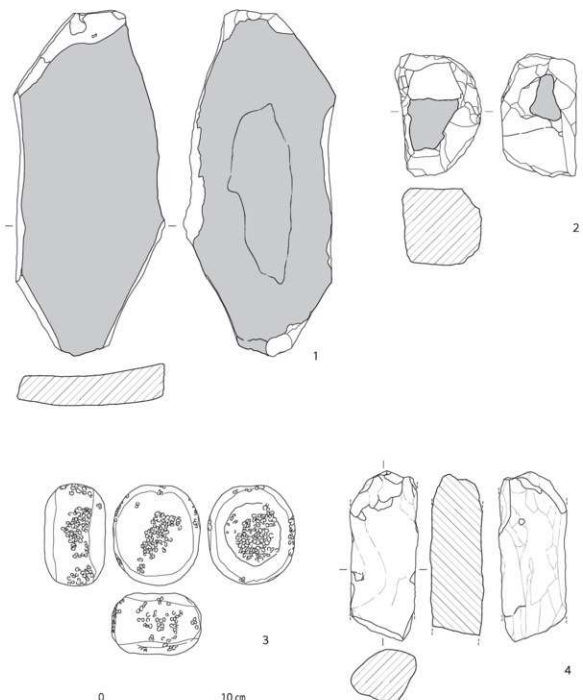
第 69 図　青灰色粘土出土土器実測図 1 (1:3)



第 70 図　青灰色粘土出土土器実測図 2(1:3)

3は沈線が認められる。5は注口土器または壺で、口縁端部には刻目、2条と4条の太い沈線間に縄文を入れる。6は単純口縁の鉢で、風化のため調整等は不明である。

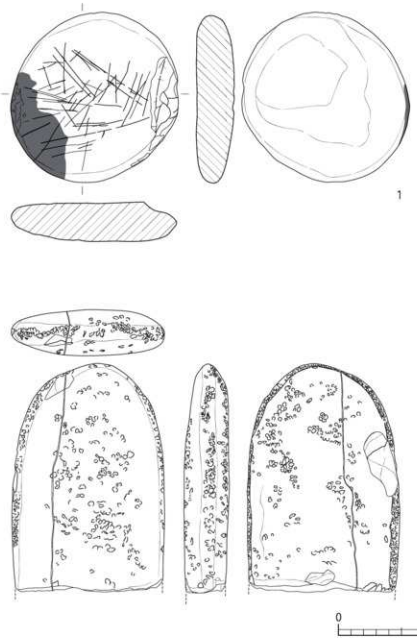
時期は、第73図1・2・7・9～11・18・19・21・22は沖丈式、11・12の内面肥厚深鉢は崎ヶ鼻2式～沖丈式に位置づけられる。そのほかの有文土器は崎ヶ鼻式である。第74図1～4は沖丈式または沖丈式併行、5が崎ヶ鼻式である。



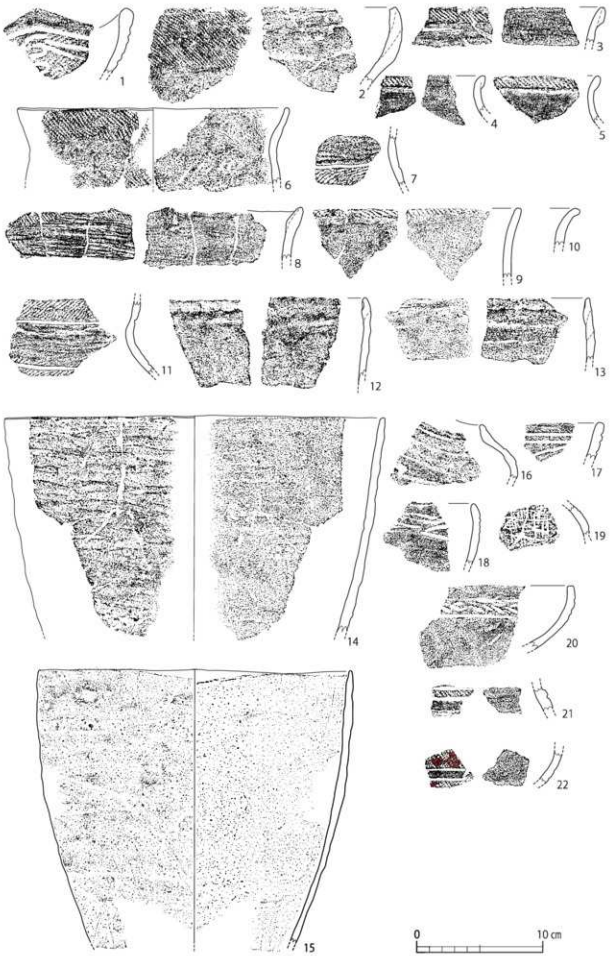
第71図　青灰色粘土出土石器実測図1(1:3)

暗オリーブ灰色粘土Ⅱ出土土器（第 75 図～ 78 図）

第 75 図 1・3 は同一個体と考えられる。1 は口縁部に突起をもち、1 条の凹線、縄文（単節 RL）を施す。頸部には入組文が認められる。3 は口縁部の突起に入組文、縄文を施す。2 は肥厚する口縁端部の上面に沈線と刻目を入れる。4 は山形の突起に凹線を入れ、その上下に縄文（単節 RL）を施す。頸部には縦方向の細い沈線と横走する凹線が見られ、凹線の下位には縄文（RL）が認められる。5 は口縁部に凹線を施し、突起部には 3 条の沈線で入組文を表現する。胴部には縄文（RL）を用いる。6 は口縁部全体が肥厚して突起はもたない。口縁部の上半に縄文（RL）を施す。7 は胴部で、横走・斜行する沈線と渦巻状の文様をもち、沈線間には縄文が見られる。8 は 2 条の横走する沈線、9 は斜行する多条の沈線、10 は横走するものと渦巻状の沈線が認められる。11 ～ 15 は縄文地鉢である。11 は口縁部がわずかに肥厚し、縄文は口縁と胴部に施される。12・14 も口縁部が肥厚し、12 は口縁部と胴部上半、14 は口縁部に縄文をもつ。13・15 は風化しているが、器



第 72 図　青灰色粘土出土石器実測図 2(1:3)



第 73 図　暗オリーブ灰色粘土 I 出土土器実測図 1 (1:3)

形から縄文地鉢と判断される。

第 76 図 1 ～ 8 は口縁部に刻目をもつ深鉢である。1 は口縁部上面と端部外面の貼り付け突帯に刻目を施す。2 ～ 8 は口縁部上面に刻目が施される。9 は口縁部外面にやや凹んだ面を持つ。10・11 は口縁部内面が肥厚する深鉢である。12 ～ 14 は口縁部が内湾する深鉢である。14 は口縁部に縄文が認められる。15 は口縁に縄文が施され、瘤状の突起をもつものもある。16 ～ 18 は頸部が屈曲するもので、18 の口縁部には沈線状の凹みが見られる。

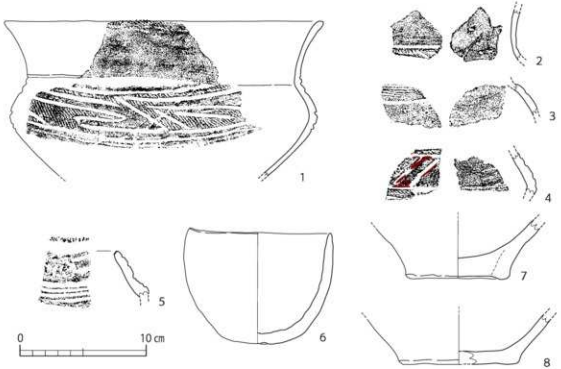
第 77 図 1 ～ 6 は深鉢である。4 は口縁が肥厚する。6 は口縁のやや下側に円形の刺突をもつ。7 ～ 12 は浅鉢である。7 は口縁部に山形の突起をもち、横走する凹線と縦方向の短い凹線、縄文 (RL) を施す。8 は北久根山第一型式に類似するもので、沈線・羽状文・縄文などを施し、赤彩も認められる。9 も北久根山式の影響を受けたものである。10 は口縁部が内湾して肥厚し、口縁部上面まで沈線・縄文を施す。11・12 は口縁部が短く外反するもので、11 は 2 個の孔が認められる。

第 78 図 1 は口縁が外傾して開くもの、2・4 は短く屈曲するもの、3 は端部が内湾するものである。5 は口縁部が肥厚し、頸部に 1 条の沈線を入れる。6 は口縁部が外反、7 ～ 9 は内湾、10 は口縁部が肥厚する。11 は双耳壺で突起部分には孔を設け、沈線による J 字、渦巻き状の文様を施す。風化しているためか、縄文は認められない。12 ～ 27 は底部で、平底、上げ底など形態は多様である。

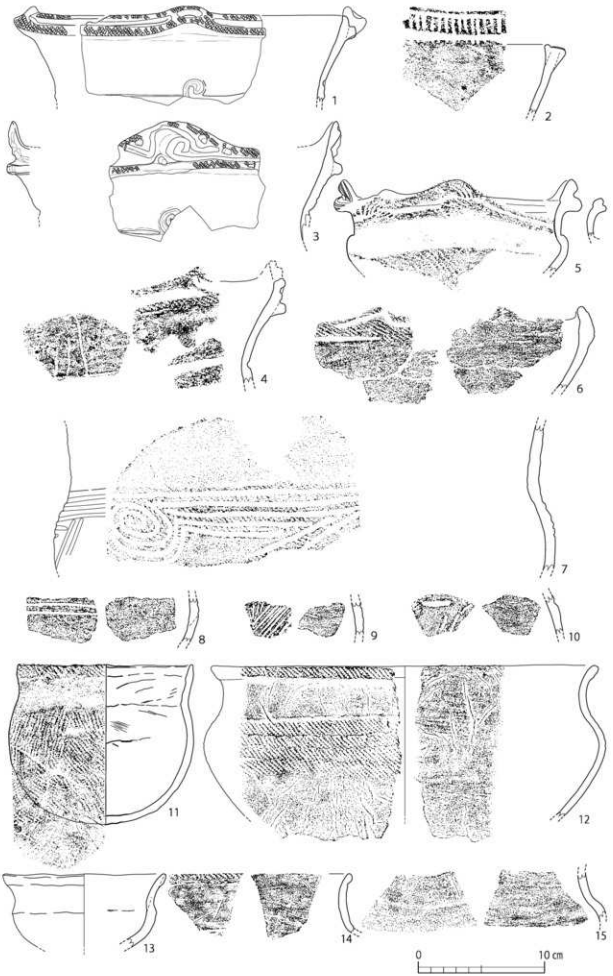
時期は、第 75 図 1 ～ 3 が布施式、4 ～ 6・8 ～ 15 は崎ヶ鼻式と考えられる。7 は沖丈式併行である。第 76 図 1 ～ 9 は崎ヶ鼻式、10・11・15 は崎ヶ鼻 2 式～沖丈式である。18 は沖丈式と見られる。第 77 図 7・11・12 は布施式、8・9 は沖丈式併行、10 は沖丈式である。第 78 図 1 は布施式～沖丈式、2・3 は崎ヶ鼻式、11 は暮地式である。

暗オリーブ灰色粘土Ⅰ・Ⅱ出土遺物（第 79 図）

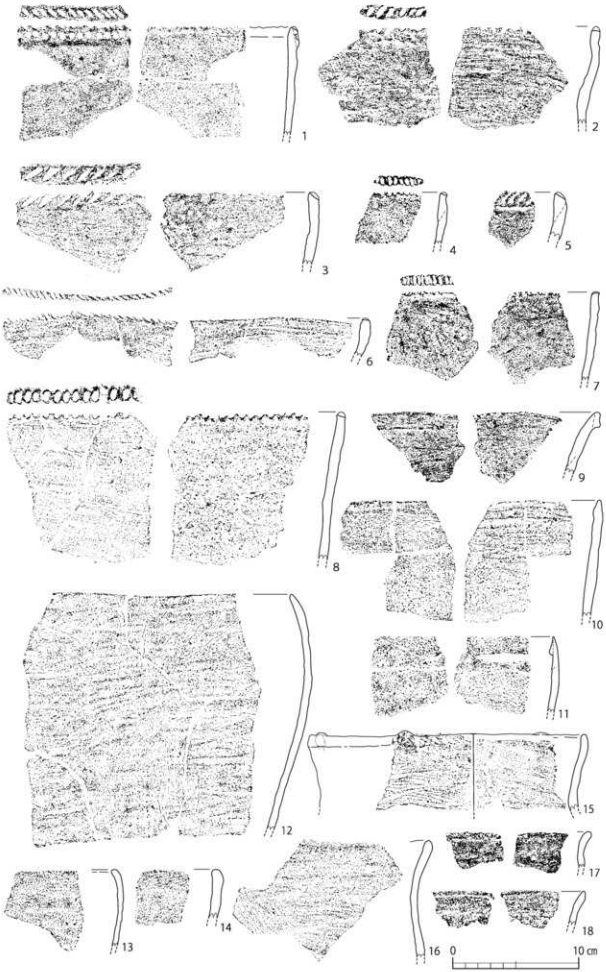
第 79 図は、暗オリーブ灰色粘土ⅠまたはⅡから出土した土器及び土製品を掲載した。1 は内湾す



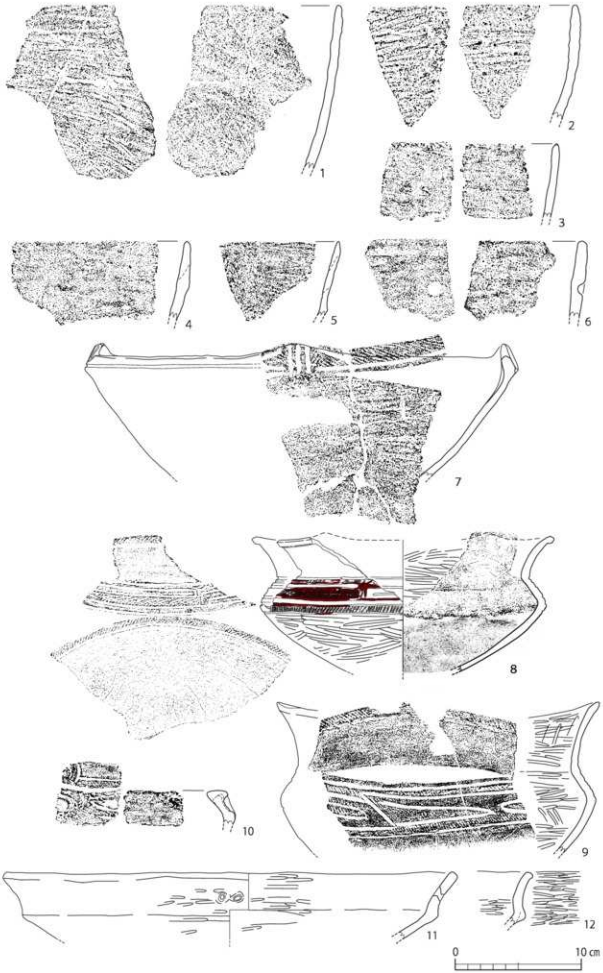
第 74 図　暗オリーブ灰色粘土Ⅰ出土土器実測図 2 (1:3)



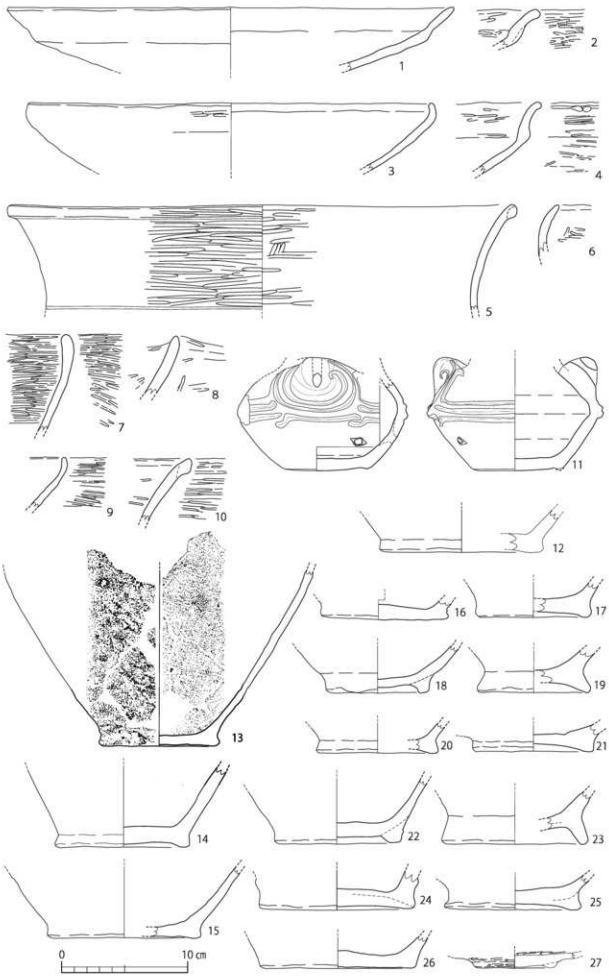
第 75 図　暗オリーブ灰色粘土Ⅱ出土土器実測図 1 (1:3)



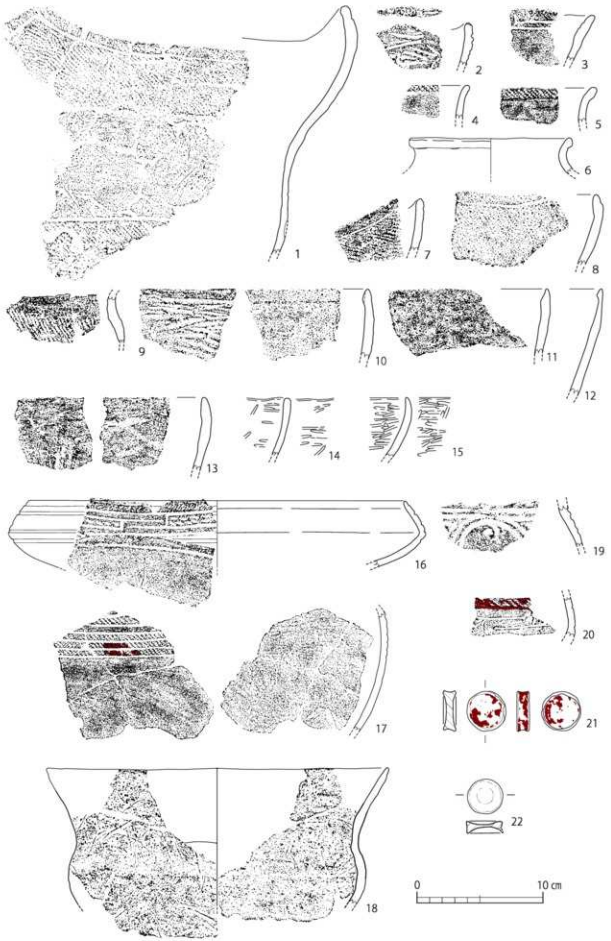
第 76 図　暗オリーブ灰色粘土Ⅱ出土土器実測図 2(1:3)



第 77 図　暗オリーブ灰色粘土Ⅱ出土土器実測図 3(1:3)



第 78 図　暗オリーブ灰色粘土Ⅱ出土土器実測図 4(1:3)



第 79 図　暗オリーブ灰色粘土Ⅰ・Ⅱ出土土器・土製品実測図 (1:3)

る大きな波状口縁をもち、口縁部と胴部に沈線・縄文が施される。2は口縁上面に刻目、外面には短い沈線を施す。3は口縁部内面に沈線があり、縄文も施されるようである。4～6は縄文地鉢で、5・6は口縁部が肥厚する。7・8は1と同様な器種と見られ、口縁部に沈線と縄文を施す。9は胴部に縄文を施すもので、縄文地鉢の可能性もある。10～12は口縁部内面が肥厚する深鉢である。13は粗製の深鉢、14・15は浅鉢であろうか。16は口縁部が内湾する浅鉢で、沈線・刺突文・疑似縄文を施す。17は口縁が緩やかに内湾する鉢で、磨消縄文を用い、赤彩も認められる。18は頸部が屈曲する鉢で、縄文地鉢に似た器形であるが、縄文を施さないものである。19は鉢で、渦巻き状J字文、横走する沈線が認められる。20は沈線・斜格子文などを施し、沈線の末端には刺突がある。赤彩も認められる。21・22は耳栓である。21には赤彩が見られる。

時期は、1・2が沖丈式～権現山式、3が権現山式、4～6・9が崎ヶ鼻式、7・8が沖丈式である。10～12は崎ヶ鼻2式～沖丈式、16・20は権現山式である。17・18は沖丈式、19は暮地式である。

暗オリーブ灰色粘土Ⅰ・Ⅱ出土石器（第80図）

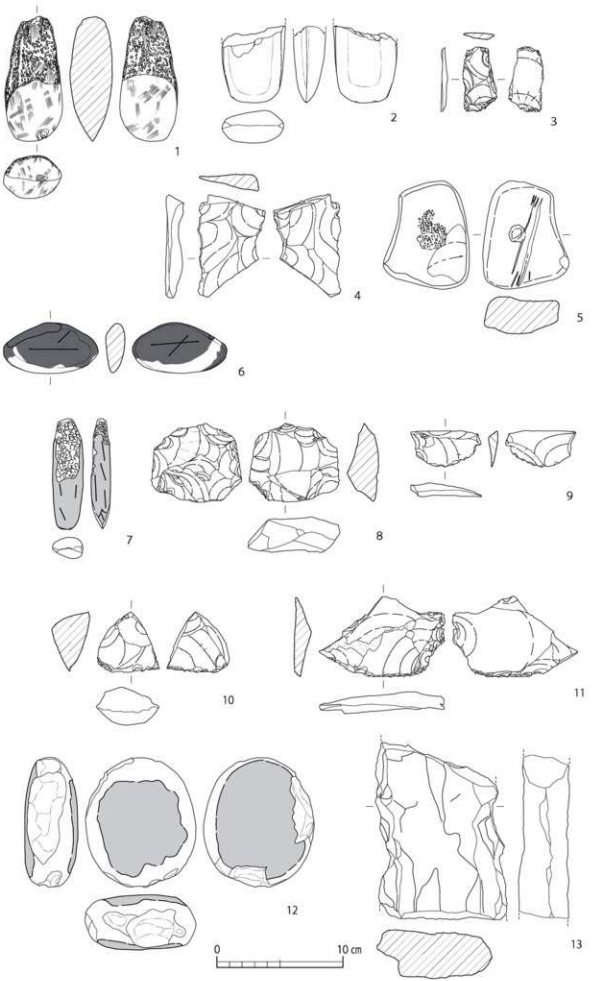
第80図1～6は暗オリーブ灰色粘土Ⅰから出土した石器である。1・2は磨製石斧で、いずれも緑色片岩製である。1は敲打により成形され、全体に軽く研磨される。刃部は磨滅し、擦痕が見られる。2は刃部のみの破片で、先端に使用痕が認められる。3・4はスクレイパーで、いずれも安山岩製である。3は側面に表・裏面から刃をつける。4は表面側の側面には細かい剥離があるが、裏面には見られない。5は線刻礫である。凝灰岩製で表面には長短の線刻があり、裏面の中央付近には敲打痕がある。6は用途不明の石材である。凝灰岩製で全体に磨滅し、表面の大部分が黒変する。

7～13は暗オリーブ灰色粘土Ⅱから出土した石器である。7は小形の磨製石斧で、石材は片岩と見られる。基部付近は敲打痕が見られるが、大部分は磨滅し、擦痕が認められる。刃部の先端は刃こぼれしており、使用痕であろう。8～11はスクレイパーである。8はデイサイト製で、図の下方側に細かい剥離が認められる。9は流紋岩、10は玉髄、11は安山岩を使用する。12は磨石・敲石である。石材は玄武岩で、表・裏面は磨滅が著しい。側面には使用痕と見られる欠けが認められる。13は石皿であろうか。石材は流紋岩で磨滅はさほど見られない。

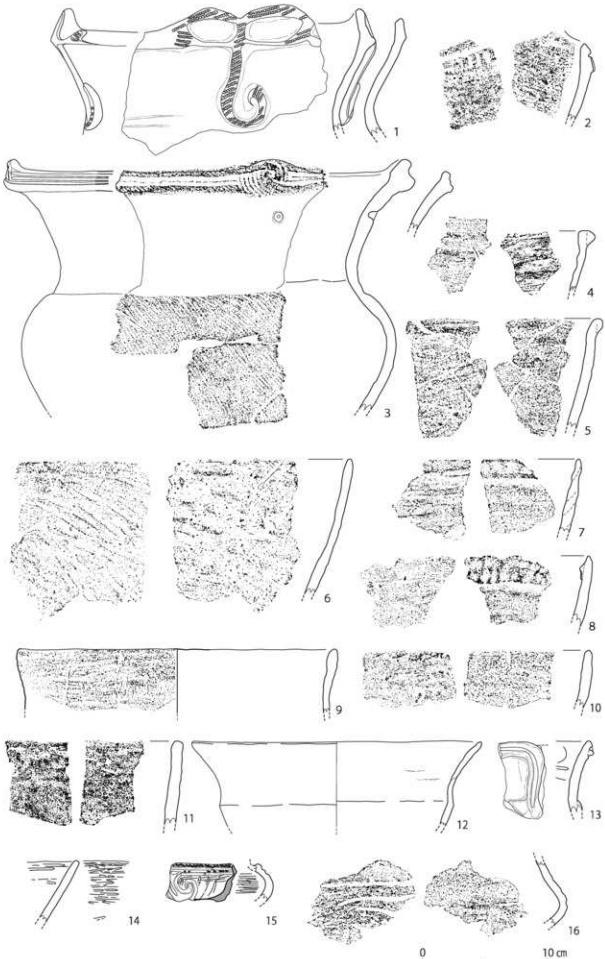
青灰色砂礫出土土器（第81図）

青灰色砂礫は、第5遺構面より下位で確認した遺物包含層である。1は2つで1組となる山形突起をもち、逆J字の突帯を貼り付ける。口縁部と突帯には縄文（LRまたは無節R）を施す。2は肥厚する口縁に横走する凹線と刻目を施す。口縁端部には縄文が認められる。3は肥厚する口縁部に縄文と2本の凹線を施し、山形突起部分には入組文をもつ。頸部には円形の刺突があり、胴部にも縄文が施される。4・5は口縁部が肥厚する無文の深鉢である。6は口縁部が肥厚せず、胴部から口縁へ緩やかに内湾するものである。7・8は口縁内面が肥厚するもので、肥厚する部分には指頭圧痕が目立つ。9～11は無文の深鉢で、9は口縁がわずかに肥厚する。

12は浅鉢で、胴部が屈曲して口縁が外反する。13は注口土器の口縁部に貼り付けられる突帯と考えられる。14・15は浅鉢で、14は外傾する単純口縁、15は内湾する口縁に横走する沈線・入組文・縄文（RL）を施す。16は屈曲する胴部に凹線が施される。時期は、1・2が布施式の新段階、3・7・8は崎ヶ鼻2式～沖丈式、15・16は崎ヶ鼻式である。



第 80 図　暗オリーブ灰色粘土Ⅰ・Ⅱ出土石器実測図 (1:3)



第 81 図　青灰色砂礫出土土器実測図 (1:3)

第５章　自然科学分析

1. 古屋敷遺跡Ｂ区から出土した動物遺存体

石丸恵利子

１　はじめに

古屋敷遺跡は島根県大田市仁摩町大国に所在する。日本海に流れ出る潮川下流域の左岸で、現在の海岸線より約 2㎞内陸に位置する。遺跡は、平成７・８年の発掘調査によって、弥生時代から近世の遺構・遺物が検出されており、この度平成 25 年度に国道の改築工事に伴う調査が行われ、縄文時代後期から古墳時代前期にわたる遺構・遺物が確認された。遺跡の北部にあたるＢ区からは動物遺存体が検出され、本稿ではそれらの資料の内容について報告する。

２　出土した動物の種類と部位

取り上げられた資料には、現場で目視によって直接ピックアップされたたものと、土壌ごと持ち帰ったのちに水洗選別を行って採集した資料が含まれる。ごく小さな破片や元々は一つの部位であったが破損により分割したものについては数を集計していないが、約 700 点の資料が検出されている。確認された種は、第１表に示した６綱 21 分類群で、各資料の種や部位および計測値などについての観察事項は、第２表に記した。以下、分類群ごとに各資料の特徴を述べる。

（１）　魚類

ネズミザメ上目の一種

サメ類の遊離歯が２点確認された。いずれも象牙質部分が消失して空洞となり、表面のエナメル質のみが残存したものであるが、残存する歯高は７～９㎜を測る。歯の形態はアオザメ型に属するもので、現在、島根県沖の日本海にも生息しているアオザメのものである可能性が指摘できる。

ニシン科の一種

いずれも破片であるが、ニシンに似る椎骨が２点確認された。中央付近で前後（頭方－尾方）に割れたもので、径 4.5 と 6㎜を測る。一方は火を受けて全体的に白色を呈する。

アユ

アユのものと考えられる椎骨が２点確認された。径 2.8 と 3.4㎜を測り、全長 17㎝の現生標本の椎骨よりやや大きな個体のものに復元される。潮川を遡上するアユを捕獲する淡水漁撈が行われた可能性が示唆される。

スズキ目の一種

破片であるため種の同定が困難であるが、歯骨の破片と考えられる資料を１点確認した。スズキ、クロソイなどのメバル科、あるいはブリなどの歯骨に類似する特徴をもつものである。火を受けて全体的に白色を呈する。大きさ的には体長 20㎝程度のあまり大型でないものと推測される。

イサキ科の一種

第一椎骨２点、前上顎骨１点を確認した。イサキの標本と比較して特徴が一致するものであるが、イサキ科に含まれるその他の種との比較が行えていないことからイサキ科の一種とした。いずれも

全長 29.6㎝の標本（口先側横径 5.8㎜）より小型のものである。

ヘダイ

前上顎骨を 1 点確認した。巨大な臼歯が生えていた痕跡が確認できることからヘダイに同定した。個体数としては 1 個体であるが、そのほかに遊離した臼歯が多く確認されており、複数個体含まれている可能性がある。前上顎骨の大きさは、体長 21㎝の現生標本の同一部位よりも小さく、体長 20㎝以下のものである。遊離した臼歯は長さ 3 ～ 4㎜のものが多いが、長さ 10.8㎜の巨大なものが 1 点確認でき、体長 40㎝を超えるような大型個体も捕獲されていたことがうかがえる。ヘダイは、松江市に所在する北浦松ノ木遺跡（縄文中期）や西ノ島町の兵庫遺跡（古墳後期）などからも出土が確認でき、古くから日本海で捕獲できた種であると考えられる（石丸 2016a、久保 1996）。

クロダイ属の一種？

前上顎骨を 1 点確認した。口先側の犬歯列の形態が、マダイ亜科やヘダイとは異なり、クロダイの特徴を持つことからクロダイ属に分類した。破片のため体長の復元は困難であったが、歯骨と考えられる破片も確認されている。クロダイは、縄文時代以降の多くの遺跡から出土する魚種の一つであるが、近隣であれば出雲平野にある上長浜貝塚（古代～中世）で報告が認められる（川上ほか 1994）。

マダイ亜科の一種

前上顎骨を 1 点確認した。体長 52㎝を測るマダイの現生標本よりも大型で、体長 60㎝を超える大型個体であったと推測される。その他、タイ科の犬歯や臼歯の遊離歯が多く確認されており、前述のヘダイやクロダイ属に加えて、マダイ亜科のものもこれらに含まれていると考えられる。また、コブダイなどのベラ科の咽頭歯と考えられる遊離歯も含まれている可能性もあるが、咽頭骨が確認されていないため、種名としては列挙せず、含まれている可能性があるにとどめた。

サバ科の一種

椎骨を 1 点確認した。前後半分程度の破片であるが、椎体の形態がマサバやゴマサバの腹椎に似ることからサバ科の一種に同定した。サバ科の中でも小型種であるマサバなどのサバ属のものである可能性が高い。マサバは日本列島近海で広く生息している種であり、島根県沖においても主にまき網で通年漁獲されている。サバ科の報告例としては、松江市所在の佐太講武貝塚（縄文前期）がある（内山 1994）。

（2）両生類

カエル類

カエルの尾骨を 3 点確認した。うち 2 点は火を受けて白色を呈し、一方はトノサマガエル大で、もう一方はそれより小型種のものだと考えられる。

（3）爬虫類

ヘビ類

種は不明であるが椎骨を 1 点確認した。椎体の関節面が一方は非常に丸みを帯びた凸形で、もう一方はそれを受けるように深い凹形の特徴を持つことでヘビ類の椎骨と判断できる。

（4）鳥類

種は不明であるが、足根中足骨、脛足根骨、烏口骨など7点を確認した。1点のみカラス程度のやや大きな個体のものが確認できるが、残りはいずれも掌に乗るような小型種である。すべて火を受けて白色を呈している。

（5）哺乳類

モグラ科の一種

大腿骨を1点確認した。モグラ科のすべての種と比較できていないが、近位幅がコウベモグラやアズマモグラと同程度の大きさである。現在の生息分布から推測すると、コウベモグラの可能性が高い。

イタチ

全体的に火を受けて白色化しており、やや収縮している可能性があるが、イタチの距骨と考えられる資料を1点確認した。

カワウソ

カワウソの上腕骨を1点確認した。破損はしているがすべて接合し、ほぼ完形に復元できる残存状態の良いものである。近位と遠位のいずれも化骨済で、全長90.6㎜を測る成獣のものである。30年以上目撃がないことから、2012年に絶滅種に指定されたが、かつては日本列島全土に生息していた種である。帝釈峡遺跡群内の縄文遺跡では、帝釈観音堂洞窟遺跡や帝釈弘法滝洞窟遺跡などの複数の遺跡で出土が確認されている（石丸2007）。

アシカ科の一種

肩甲骨の関節窩から肩甲頚周辺の破片が1点確認された。陸生哺乳類とは形態がやや異なることから、トド雄の標本と比較したところ類似しており、海生哺乳類のものだと考えられる。アシカ科の成獣個体の大きさを小さい方から並べると、オットセイ雌、アシカ雌、オットセイ雄、トド雌、アシカ雄、トド雄の順である。大きさはトド雄より小さいことから、アシカ科に含まれるオットセイかアシカの可能性が高い。オットセイとアシカの標本と比較できていないことから、アシカ科の一種とした。現在絶滅危惧種に指定されているニホンアシカは、遺跡出土例などからかつて日本列島沿岸に広く分布していたと考えられている。オットセイについては日本海では現在でも朝鮮半島中央部沖以東から佐渡沖以北の海域に生息しており、時に島根沖に姿を現していた可能性や、当時はより生息域が南方に広がっていた可能性などが指摘できよう。

近隣地域におけるアシカ科の出土例として、松江城跡でオットセイの上腕骨が確認されており、現在の大田市沖の日本海域に当時生息していたとするならば、近世においてもあまり遠くない海域で捕獲されたものが松江城下町に運ばれた可能性が指摘できる。

イノシシ

下顎後臼歯などの遊離歯、肩甲骨、大腿骨などの10か所の部位を計30点（小破片を除く）確認した。ニホンジカに次いで多くの資料を数える。残存の良い下顎第三後臼歯の摩滅の程度から、生後30か月程度の個体のものを1個体、55か月にもおよぶ個体を1個体確認することができた。また、遠位端が化骨済で成獣のものである中手骨もしくは中足骨（第2もしくは第5）の遠位も確

認されており、四肢骨端部が未化骨資料は1点も確認されておらず、出土した資料は成獣のものが多いことがわかる。遊離歯の破片については火を受けたものかどうか不明瞭なものもあるが、火を受けたことがわかる資料は3点のみ（全体の10%）で、積極的に焼くという行為や処理方法をうかがうことはできない。また、資料中に解体痕などの人為的な痕跡を観察できるものは確認されなかった。

ニホンジカ

鹿角や中手骨、基節骨などの複数部位を約70点（小破片を除く）確認した。確認された動物種の中で最も多い資料を数える。部位では、遊離歯がもっとも多く、36点（小破片を除く）を確認した。破片となっているため歯列を判断するのが困難であったが、下顎第三後臼歯を1点確認することができた。そのほか、前臼歯や切歯も出土している。次いで鹿角が多く、10点（小破片を除く）が確認された。頭蓋骨と角座が分離していない資料が3点確認さていることから、落角を遺跡に運んだのではなく、鹿角の生えた雄を獲得し、遺跡に持ち帰ったことがわかる。椎骨や四肢骨各部位や基節骨や足根骨などの四肢先端部も確認されていることからも、1個体すべてが持ち込まれて利用されたことがうかがえる。椎骨には椎骨板が化骨して癒合したものとしていないものがあり、また大腿骨にも化骨が完了していない資料があり、3歳までの比較的若い個体も獲得されていたと考えられる。肩甲骨（関節窩～肩甲頸）1点に解体痕と考えらえる複数の切創を観察することができた。火を受けて白色や褐色を呈する資料は10点を数え、ニホンジカ全体の14%に相当する。

ネズミ科の一種

ネズミ類の上腕骨や肩甲骨など5点を確認した。種は不明であるが、すべてアカネズミやヒメネズミなどの小型種のものである。

ノウサギ

破片となっているため歯列は不詳であるが、遊離歯片を3点確認した。側面に凹凸があることから下顎臼歯の破片であると考えられる。

ヒト

距骨が1点確認された。欠損しており完形ではないが、大きさから成人男性のものと考えられる。その他の部位は確認できなかった。

3　石見地方における動物資源利用

これまで本地域における動物遺存体の出土例はほとんどなく、多様な種が確認された本出土資料は、当時の動物資源利用の様相を知るための非常に貴重なものだといえる。大型の哺乳動物であるニホンジカとイノシシが主要な狩猟対象となり、ウサギやカワウソなどの複数の小・中型の陸生哺乳類を獲得し、カエル、ヘビ、鳥類も利用されていたことが明らかとなった。小破片となったものもあるが、鹿角も多く確認され、何らかの道具として加工して利用していた可能性が示唆される。また、遺跡は現在の海岸線から約2㎞内陸に位置するが、複数種の海産魚類と海生哺乳類が出土しており、海産資源の積極的な利用もうかがい知ることができた。日本海沿岸部（特に島根県）に位置する縄文時代から近世までの遺跡から出土する海産魚類として、ヘダイやクロダイ、マダイなどのタイ科、コブダイなどのベラ科、サメ類、マグロ類が特徴としてあげられるが、本遺跡においてもそれらの多くが確認された。動物遺存体についても注意が払われるようになった近年の調査成果

として、アシカ科に含まれる海生哺乳類が出土した例が増加しており、日本海沿岸部の遺跡における動物資源利用の特徴として注目される。また、アユやカワウソが確認されたことからは、河川流域での生業活動や河川を利用した内陸と沿岸部の移動が想定されるなど、当時の交流や生業域を読み取るうえでも出土動物遺存体の種類を知ることは今後も注視する必要がある。

本遺跡の出土資料から、豊富な動物資源が利用されていたことが明らかとなった。本地域における、今後更なる出土資料の増加が期待される。

謝辞

本報告執筆においては、島根県埋蔵文化財センターの宮本正保氏より分析の機会をいただき、遺跡の調査情報についてもご教示いただきました。また、一部の資料の同定作業において、奈良文化財研究所環境考古学研究室の所蔵標本を使用した。人骨資料については、土井ケ浜遺跡・人類学ミュージアムの大藪由美子氏に有益な情報をご教示いただきました。記して、厚く感謝いたします。

参考文献

阿部　永・石井信夫・伊藤徹魯・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明 2008『日本の哺乳類』改訂 2 版 東海大学出版会

石丸恵利子 2007「山間地域における縄文時代の狩猟と遺跡の利用形態－帝釈峡遺跡群の洞窟・岩陰遺跡の検討－」『動物考古学』24 1—23 頁

石丸恵利子 2016a「北浦松ノ木遺跡出土の動物遺存体」『北浦松ノ木遺跡』松江鹿島美保関線（北浦工区）防災安全交付金（交通安全）工事に伴う発掘調査報告書 松江市文化財調査報告書第 174 集 島根県松江市教育委員会・公益財団法人松江市スポーツ振興財団 28—32 頁

石丸恵利子 2016b「徳島城下町跡 徳島 1 丁目地点の動物資源利用－出土骨類の考察－」『徳島城下町跡徳島町 1 丁目地点－徳島地家簡裁庁舎敷地埋蔵文化財発掘調査報告書－』徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第 88 集 徳島県教育委員会・公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター 629—649 頁

内山純蔵 1995「出土動物・植物遺存体」『佐太講武貝塚発掘調査報告書』2 島根県鹿島町教育委員会 25—31 頁

大泰司紀之 1980「遺跡出土ニホンジカの下顎骨による性別・年齢・死亡季節査定法」『考古学と自然科学』13 51—74 頁

川上　稔・湯村　功 1994「島根県出雲市上長浜貝塚」『日本考古学協会年報』45 日本考古学協会編 561—563 頁

久保和士 1996「兵庫遺跡出土の動物遺体」『兵庫遺跡』第 2 集 島根県西ノ島町教育委員会 161—170 頁

中坊徹次編 2013『日本産魚類検索 全種の同定』第三版 東海大学出版会

Driesch, Angela Von Den 1976 A guide to the measurement of animal bones from archaeological sites. Peabody Museum Bulletins 1, Peabody Museum Press, Cambridge

Grant Annie 1982 The use of tooth wear as a guide to the age of domestic ungulates. Ageing and sexing animal bones from archaeological sites. BAR British Series 109, pp.91-108.

第1表　古屋敷遺跡出土動物遺存体種名一覧

門	綱	目	科	属/種
脊椎動物門 Vertebrata	軟骨魚綱 Chondrichthyes	ネズミザメ上目の一種 Galeomorpha ord., fam., gen. et sp. indet.		
	硬骨魚綱 Osteichthyes	ニシン目 Clupeiformes	ニシン科の一種 Clupeidae gen. et sp. indet.	
		サケ目 Salmoniformes	アユ科 Plecoglossidae	アユ？ *Plecoglossus altivelis*
		スズキ目 Perciformes	スズキ目の一種	スズキ属の一種 *Lateolabrax* sp.
			イサキ科の一種 Haemulidae gen. et sp. indet.	
			タイ科 Sparidae	ヘダイ *Rhabdosargus sarba*
				クロダイ属の一種 *Acanthopagrus* sp.
				マダイ亜科の一種 Pagrinae gen. et sp. indet.
			サバ科の一種 Scombridae gen. et sp. indet.	
	両生綱 Amphibia	無尾目の一種 Anura fam., gen. et sp. indet.		
	爬虫綱 Reptilia	ヘビ亜目の一種 Serpentes fam., gen. et sp. indet.		
	鳥綱の一種 Aves ord., fam., gem. et sp. indet.			
	哺乳綱 Mammalia	食虫目 Insectivora	モグラ科の一種 Talpidae gen. et sp. indet.	
		霊長目 Primates	ヒト科 Hominidae	ヒト *Homo sapience*
		食肉目 Carnivora	イタチ科 Mustelidae	イタチ *Mustela itatsi* カワウソ *Lutra lutra*
			アシカ科の一種 Otariidae gen. et sp. indet.	
		偶蹄目 Artiodactyla	イノシシ科 Suidae	イノシシ *Sus scrofa*
			シカ科 Cervidae	ニホンジカ *Cervus nippon*
		齧歯目 Rodentia	ネズミ科の一種 Muridae gen. et sp. indet.	
		兎目 Lagomorpha	ウサギ科 Leporidae	ニホンノウサギ *Lepus brachyurus*

＊種名については、中坊編(2013)、阿部ほか(2008)に従った。

第2表 古屋敷遺跡出土動物遺存体観察一覧表

No.	グリッド	出土遺構面	層位・遺構名	取上No.	日付	分類群	種名	部位	部分	左右	数量	観察	計測値*
1	D6	第4	土器溜まり1	2903	140207	哺乳綱	不明	不明			1	四肢骨骨幹部か、焼け(灰・白色)	
2	E9	第5	地床炉52		140218	哺乳綱	不明	不明			7	ニホンジカの中手/中足骨の骨幹部片か、焼け(白色・一部灰色)	
3	D6	第4	包含層	519	140128	哺乳綱	ニホンジカ？	遊離歯	エナメル質片		5	小破片に分割	
4	D6	第4	包含層	519	140128	哺乳綱	不明	不明			1	焼け(白色)	
5	D6	第4	包含層	517	140128	哺乳綱	ニホンジカ	遊離歯	臼歯片		複数		
6	D6	第4	土器溜まり1	2892	140207	哺乳綱	イノシシ？	遊離歯	臼歯片		1		
7	D6	第4	土器溜まり1	2892	140207	哺乳綱	不明	不明			複数		
8	D6	第4	土器溜まり1	2895	140207	哺乳綱	ニホンジカ	遊離歯	下顎切歯		7		
9	D6	第4	土器溜まり1	2895	140207	哺乳綱	不明	不明			複数		
10	D6	第4	土器溜まり1	2890	140207	哺乳綱	不明	不明			複数		
11	D6	第4	土器溜まり1	2931	140207	哺乳綱	ニホンジカ	椎骨	胸椎体	-	1	椎骨板癒合済、部分的に焼け(黒色)	
12	D6	第4	土器溜まり1	2922	140207	哺乳綱	ニホンジカ	鹿角			1	焼け(灰・白色)	
13	D6	第4	土器溜まり1	2922	140207	哺乳綱	ニホンジカ	中足骨	骨幹部		1	後方面、焼け(灰・白色)	
14	D6	第4	土器溜まり1	2922	140207	哺乳綱	不明	不明			1	焼け(灰・白色)、複数方向の切創あり	
15	E7	第5	暗灰色粘土	751	140213	哺乳綱	イノシシ	遊離歯	下顎M_3	左	1	摩滅指数a～b	L42.21,B16.34
16	D6	第4	土器溜まり1	2912	140207	哺乳綱	ニホンジカ	肩甲骨	肩甲頸～関節窩	左	1	肩甲頸後方に幅広やや深めの切創、より関節に近い部分にも幅広浅めの切創あり(いずれも軸に対して垂直=横方向)	SLC27.16
17	D6	第4	土器溜まり1	2912	140207	哺乳綱	不明	不明			複数		
18	D6	第4	土器溜まり1	3038	140210	哺乳綱	ニホンジカ	下顎骨	下顎体	左	1	複数破片P_3～M_3分の歯列あり	P3:12.8,8.04,P4:14.36,9.56,M1:14.91,M2:20.2,10.99
19	D6	第4	土器溜まり1	689	140207	不明	不明				複数	焼け(白色)	
20	D6	第4	土器溜まり1	3059	140210	哺乳綱	ニホンジカ	頭蓋骨～角座下		左	1	角座上が切り落とされたか不明瞭	
21	D6	第4	土器溜まり1	2980	140207	哺乳綱	イノシシ	下顎骨	下顎体	右	1	残存不良、M_1～M_3、M_3の摩滅指数e程度	M1:15.24,-,M2:22.22,15.4,M3:36.77,16.78
22	D6	第4	土器溜まり1	2894	140207	不明	不明	不明			複数	小破片	
23	D6	第4	土器溜まり1	2980	140207	哺乳綱	ニホンジカ	遊離歯	臼歯片		複数	小破片	
24	D6	第4	土器溜まり1	2980	140207	哺乳綱	ニホンジカ	鹿角	分岐部		1		
25	D6	第4	土器溜まり1	2980	140207	哺乳綱	イノシシ	下顎骨	下顎体	左	1	M3、摩滅指数d～e	L37.7
26	D6	第4	土器溜まり1	2980	140207	硬骨魚綱	マダイ亜科	前上顎骨		左	1		⑦11.76,⑩13.2,⑪7.78,⑫9.27
27	D6	第4	土器溜まり1	2932	140207	硬骨魚綱	タイ科？	前上顎骨？			1	破片	
28	D6	第4	土器溜まり1	2932	140207	哺乳綱	不明	犬歯？			1	破片、タイ科か？	
29	D6	第4	土器溜まり1	2932	140207	哺乳綱	不明	椎骨			1	テンより小	
30	D6	第4	土器溜まり1	2932	140207	哺乳綱	不明	不明			1	四肢骨骨幹部か、焼け(白色)	
31	D6	第4	土器溜まり1	2932	140207	不明	不明	不明			複数		
32	D6	第4	土器溜まり1	2932	140207	哺乳綱	不明	不明			複数	海綿質の大きな破片だが部位不明、1点ニホンジカ肩甲骨？の破片を含む	
33	D6	第4	土器溜まり1	2997	140207	哺乳綱	ニホンジカ	鹿角	第2分岐部より上の分岐部分		1	大きく4点に分割しているが接合・同一個体	
34	D6	第4	土器溜まり1	2997	140207	哺乳綱	ニホンジカ	鹿角	頭蓋骨～角座下・角座も含まれる	右	複数		
35	D6	第4	土器溜まり1	2891	140207	哺乳綱	イノシシ	下顎骨	下顎体	右	複数	破片となっているが、P_4～M_3部分が確認される	
36	D6	第4	土器溜まり1	2997	140207	哺乳綱	ニホンジカ	鹿角	先端に近い部分		複数	破片に分割	
37	D6	第4	土器溜まり1	2911	140207	哺乳綱	不明	不明			複数	四肢骨骨幹部破片か	
38	D6	第4	土器溜まり1	2911	140207	硬骨魚綱	タイ科	歯			複数	臼歯・犬歯あり	
39	D6	第4	土器溜まり1	3030	140207	哺乳綱	不明	不明			複数		
40	D6	第4	土器溜まり1	2868	140206	哺乳綱	不明	不明			複数	うち1点は焼けて白色(四肢骨骨幹部か)	
41	D6	第4	土器溜まり1	3125	140210	哺乳綱	イノシシ	遊離歯	上顎M^1	右	1		L37.07
42	D6	第4	土器溜まり1	2812	140206	哺乳綱	不明	不明			1	四肢骨骨幹部破片、焼け(白色)	
43	D6	第4	土器溜まり1	3042	140210	哺乳綱	不明	不明			複数	四肢骨骨幹部、同一個体か、接合はせず	
44	D6	第4	土器溜まり1	3039	140210	哺乳綱	不明	橈骨？	近位？	右	1	イノシシか？、他複数破片あり	
45	D6	第4	土器溜まり1	2888	140207	哺乳綱	不明	不明			複数	海綿質の多い破片、海生哺乳類？	
46	D6	第4	土器溜まり1	3015	140207	哺乳綱	ニホンジカ	大腿骨	遠位	左	1	大型であるが、化骨が完全でない。他に骨幹部破片複数あり	
47	D6	第4	土器溜まり1	3015	140207	哺乳綱	ニホンジカ？	椎骨	頸椎？		3		
48	D6	第4	土器溜まり1	516	140128	哺乳綱	ニホンジカ？	遊離歯	臼歯片		2	破片、同一個体か	
49	D6	第4	土器溜まり1	2814	140206	哺乳綱	不明	不明			1	四肢骨骨幹部片、焼け(白色・灰色・黒色)	
50	D6	第4	土器溜まり1	3043	140210	哺乳綱	イノシシ	上顎骨		右	1	顎骨部分は破片のため分割、P^4～M^3	P4:B14.81,M1:L16.82,B14.81,M2:L23.18,B17.67,M3:L37.35,B21.86
51	D6	第4	土器溜まり1	2893	140207	不明	不明	不明			4	うち1点は焼けて白色	
52	D6	第4	土器溜まり1	2997	140207	哺乳綱	ニホンジカ	鹿角			複数	一部接合	
53	D6	第4	土器溜まり1		140210	哺乳綱	アシカ科の一種	肩甲骨		左	1	トドと比較しより小、オットセイ・アシカ類	
54	D6	第4	包含層	515	140128	哺乳綱	不明	不明			複数	多くが焼けて白色	
55	D6	第4	土器溜まり1	2819	140206	哺乳綱	ニホンジカ？	遊離歯			複数	破片	
56	D6	第4	土器溜まり1	2852	140206	哺乳綱	ニホンジカ？	遊離歯	臼歯？		1	破片	
57	D7	第4	土器溜まり1	2732	140206	哺乳綱	イノシシ	遊離歯	下顎M_3	右	1	他の臼歯破片あり 摩滅指数a	L37.01,B15.78
58	D6	第4	土器溜まり1	2842	140206	哺乳綱	不明	不明			1	四肢骨骨幹部、焼けて灰色	
59	D6	第4	土器溜まり1	2838	140206	哺乳綱	ニホンジカ	中足骨	骨幹部		1	破片に分割、焼けて白色	
60	D6	第4	土器溜まり1	3040	140210	哺乳綱	イノシシ/ニホンジカ	肋骨			1		
61	D6	第4	包含層	518	140128	哺乳綱	ニホンジカ	遊離歯	臼歯		複数	破片	
62	D7	第4	土器溜まり1	2734	140206	哺乳綱	ニホンジカ	遊離歯	下顎M_3	左	1	破片に分割	
63	D7	第4	土器溜まり1		140207	哺乳綱	不明	不明			複数		
64	D6	第4	土器溜まり1	2888	140207	哺乳綱	不明	不明			複数		
65	D6	第4	包含層	514	140128	哺乳綱	ニホンジカ	基節骨	近位		1	焼け(白色)、化骨済	Bp10.64
66	D6	第4	包含層	520	140128	哺乳綱	ニホンジカ	遊離歯	臼歯		複数	破片	
67	E7	第5	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		140214	哺乳綱	ニホンジカ	遊離歯	臼歯		1	破片	
68	D5	第4	SK12		140123	両生綱	カエル類？	尾骨？			1	焼け(白色)	幅4.9mm
69	E9	第3	SK13	538	140131	不明	不明	不明			1	焼け(白色)	
70	C5	第3	包含層	504	140127	哺乳綱	不明	不明			1	焼け(白色)	
71	D6	第3	包含層	507	140128	不明	不明	不明			1	焼け(白色)	
72	E7	第5	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		1402	哺乳綱	不明	不明			1	焼け(白色)	
73	E7	第5	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		140213	不明	不明	不明			1	焼け(白色)	
74	E7	第5	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		140218	不明	不明	不明			2	焼け(白色)	
75	E7	第5	青灰砂礫～暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		140213	不明	不明	不明			複数	焼け(白色)、うち1点は焼けていない	
76	E5	第5	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		140213	不明	不明	不明			複数	焼け(白色)、四肢骨骨幹部含む、うち1点に切創あり	
77	E9	第5	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		140210	哺乳綱	不明	不明			3	焼け(白色)	
78	E7	第4	包含層		140123	哺乳綱	ニホンジカ	遊離歯			複数	破片、焼け(一部白色)	
79	E7	第5	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		140213	不明	不明	不明			複数	焼け(白色)	
80	E9	第5	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		140217	軟骨魚綱	サメ類	遊離歯			1	アオザメ属	長9.3mm,幅3.7mm
81	E9	第5	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		140217	硬骨魚綱	不明	第2臀鰭棘？			1	破片、タイ科？	
82	E9	第5	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		140217	鳥綱	不明	不明	骨幹部		1	焼け(白色)	
83	E9	第5	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		140217	哺乳綱	イノシシ	遊離歯			1	破片	
84	E9	第5	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		140217	硬骨魚綱	不明	椎骨			2	焼け(白色)	
85	E9	第5	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		140217	硬骨魚綱	不明	角骨？			1	焼け(白色)	
86	E8	第4	土器溜まり1	709	140212	硬骨魚綱	ヘダイ	遊離歯	臼歯		複数	タイ科の可能性があるものも含む	
87	E8	第4	土器溜まり1	726	140213	硬骨魚綱	不明	鱗			1	破片、焼け(白色)	
88	E8	第4	土器溜まり1	610	140204	不明	不明	不明			1	焼け(白色)	
89	E9	第5下位	青灰色砂礫	775	140217	不明	不明	不明			複数	焼け(白色)	
90	E9	第4	土器溜まり1	711	140212	不明	不明	不明			1	焼け(白色)	
91	E9	第4	土器溜まり1	673	140205	不明	不明	不明			複数	焼け(白色)	
92	E9	第4	土器溜まり1	654	140205	不明	不明	不明			複数	焼け(白色)	
93	E9	第5	暗オリーブ灰色粘土Ⅰ	649		不明	不明	不明			複数	焼け(白色)、うち1点はニホンジカ中手/中足骨の四肢骨骨幹部片	
94	E7	第4	遺構面	490	140123	哺乳綱	不明	不明			3	四肢骨骨幹部、焼け(白色)	
95	D7	第4	土器溜まり1	2733	140206	不明	不明	不明			1	焼け(白色)	
96	D7	第4	土器溜まり1	2977	140207	不明	不明	不明			1	焼け(白色)	
97	D6	第4	土器溜まり1		140212	不明	不明	不明			複数		
98	D6	第4	土器溜まり1		140212	哺乳綱	ニホンジカ	肩甲骨	関節窩	右	1		LG31.44,BG26.0
99	D6	第4	土器溜まり1		140212	哺乳綱	不明	遊離歯			複数	破片、焼け(白色)	
100	D6	第4	土器溜まり1		140212	硬骨魚綱	不明	椎骨	環椎		1	イサキに似る	
101	D6	第4	土器溜まり1		140212	硬骨魚綱	タイ科？	椎骨	環椎		1		
102	D6	第4	土器溜まり1		140212	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色)	
103	D6	第4	土器溜まり1		140212	不明	不明	不明			複数		
104	E8	第5下位	包含層		140217	不明	不明	不明			1	焼け(白色)	
105	E8	第5	暗オリーブ灰色粘土		140206	不明	不明	不明			複数	焼け(白色)	
106	E8	第5下位	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		140214	哺乳綱	ニホンジカ	中手骨？	骨幹部		1	焼け(白色)	
107	E8	第5下位	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		140214	哺乳綱	不明	不明			複数	焼け(白色)	
108	E8	第5	暗オリーブ灰色粘土Ⅰ		140211	哺乳綱	不明	不明			2	焼け(白色)	
109	E8	第5	暗オリーブ灰色粘土Ⅰ		140210	不明	不明	不明			複数	焼け(白色)、焼けていない破片も含む	
110	E8	第5	暗オリーブ灰色粘土Ⅰ		140203	不明	不明	不明			複数	焼け(白色)	
111	E8	第5	暗オリーブ灰色粘土Ⅰ		140204	不明	不明	不明			1	焼け(白色)	
112	E8	第5	暗オリーブ灰色粘土Ⅰ		140205	哺乳綱	不明	不明			1	焼け(白色)	
113	E9	第5下位	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		140217	不明	不明	不明			複数	焼け(白色)、哺乳類破片含む	

No.	グリッド	出土遺構面	層位・遺構名	取上No.	日付	分類群	種名	部位	部分	左右	数量	観察	計測値*
114	E9	第5下位	緑オリーブ灰色粘土Ⅱ		140217	哺乳綱	ニホンジカ	大腿骨	骨幹部(後方面)		1	焼け(白色)	
115	E9	第5下位	緑オリーブ灰色粘土Ⅱ		140217	哺乳綱	不明	不明			2	焼け(白色)	
116	E9	第5下位	青灰色砂礫		140217	不明	不明	不明			2	焼け(白色)	
117	E9	第5	緑オリーブ灰色粘土Ⅰ		140214	哺乳綱	不明	不明			複数	焼け(白色)	
118	E9	第5	緑オリーブ灰色粘土Ⅰ		140205	不明	不明	不明			2	焼け(白色)	
119	E9	第5	緑オリーブ灰色粘土Ⅰ		140210	硬骨魚綱	不明	鱗			4	焼け(白色)	
120	E9	第5	緑オリーブ灰色粘土Ⅰ		140210	哺乳綱	不明	不明			2	焼け(白色)	
121	E9	第5	緑オリーブ灰色粘土Ⅰ		140210	硬骨魚綱	サバ科	椎骨	腹椎		1	破片、マサバやゴマサバタイプ	横径4.1,縦径3.4mm
122	D5	第4	土器溜まり1		140204	不明	不明	不明			複数	焼け(白色)、褐色のものも含む	
123	D5	第4	土器溜まり1		140203	不明	不明	不明			複数	焼け(白色)	
124	D5	第4	土器溜まり1		140206	不明	不明	不明			1	焼け(白色)	
125	D5	第4	土器溜まり1		140218	不明	不明	不明			複数	焼け(白色)、焼けていない破片も含む	
126	D7	第4	土器溜まり1		140205	不明	不明	不明			2	焼け(白色)、うち1点は鳥類骨幹部？あり	
127	D6	第4	土器溜まり1	3003	140207	不明	不明	不明			2	焼け(白色)	
128	D6	第4	土器溜まり1	3003	140207	不明	不明	不明			複数		
129	D6	第4	土器溜まり1	3005	140207	哺乳綱	イノシシ	第2or4基節骨	遠位		1	焼け(白色)	Bd7.8
130	D6	第4	土器溜まり1	3005	140207	不明	不明	不明			2	焼け(白色)	
131	D6	第4	土器溜まり1	3005	140207	不明	不明	不明			2		
132	D6	第4	土器溜まり1	2397	140206	哺乳綱	イノシシ	遊離歯？	臼歯破片？		1	焼け(白色)	
133	D6	第4	土器溜まり1	1342	140211	不明	不明	不明			1	焼け(白色)	
134	D6	第4	土器溜まり1	3006	140207	不明	不明	不明			1	焼け(白色)	
135	D6	第4	土器溜まり1	3010	140207	不明	不明	不明			1	焼け(白色)	
136	D6	第4	土器溜まり1	3008	140207	哺乳綱	カワウソ	上腕骨		右	1	4分割しているがほぼ完形(接合可)。近位遠位ともに化骨済。骨幹部内部にビビアナイト析出。	BL:90.6,Bp:20.78,Bd:27.51
137	D6	第4	土器溜まり1	3008	140207	哺乳綱	ニホンジカ	脛骨	近位端	右	1	化骨済か	
138	D6	第4	土器溜まり1	3008	140207	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	尾椎		1		
139	D6	第4	土器溜まり1	3008	140207	硬骨魚綱	アユ科？	椎骨			1		径2.8mm
140	D6	第4	土器溜まり1	3008	140207	硬骨魚綱	不明	鱗			複数		
141	D6	第4	土器溜まり1	3008	140207	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色)	
142	D6	第4	土器溜まり1	3008	140207	不明	不明	不明			複数	破片、うち1点焼け(灰色)	
143	D6	第4	土器溜まり1	3008	140207	硬骨魚綱	不明	椎骨			1		
144	D6	第4	土器溜まり1	3008	140207	不明	不明	不明			1		
145	D6	第4	土器溜まり1	3012	140207	硬骨魚綱	タイ科	椎骨			1		
146	D6	第4	土器溜まり1	3012	140207	哺乳綱	不明	上腕骨	近位端		1	未化骨の近位端	
147	D6	第4	土器溜まり1	3012	140207	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色・灰色・黒色)	
148	D6	第4	土器溜まり1	3012	140207	不明	不明	不明			複数		
149	D6	第4	土器溜まり1	3012	140207	哺乳綱	ニホンジカ	遊離歯			4	破片	
150	D6	第4	土器溜まり1	3012	140207	硬骨魚綱	タイ科？	椎骨	尾椎		9		
151	D6	第4	土器溜まり1	3012	140207	硬骨魚綱	アユ科？	椎骨			1		径3.4mm
152	D6	第4	土器溜まり1	3012	140207	硬骨魚綱	不明	下尾骨			1		
153	D6	第4	土器溜まり1	3013	140207	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色・灰色)を含む	
154	D6	第4	土器溜まり1	3017	140207	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色・灰色)	
155	D6	第4	土器溜まり1	3017	140207	硬骨魚綱	タイ科	遊離歯	臼歯		1	焼け(白色)	
156	D6	第4	土器溜まり1	3017	140207	哺乳綱	イノシシ？	遊離歯			1	破片	
157	D6	第4	土器溜まり1	1345	140211	哺乳綱	イノシシ	遊離歯			3	破片	
158	D6	第4	土器溜まり1	1345	140211	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色・灰色)	
159	D6	第4	土器溜まり1	3019	140207	硬骨魚綱	不明	鰭	先端部		1	焼け(白色)	
160	D6	第4	土器溜まり1	3019	140207	不明	不明	不明			1	破片	
161	D6	第4	土器溜まり1	3020	140207	不明	不明	不明			複数	破片	
162	D6	第4	土器溜まり1	3035	140210	硬骨魚綱	タイ科	遊離歯			1		
163	D6	第4	土器溜まり1	3035	140210	不明	不明	不明			3	破片	
164	D6	第4	土器溜まり1	3052	140210	不明	不明	不明			1	破片、焼け(白色)	
165	D6	第4	土器溜まり1	3052	140210	不明	不明	不明			複数	破片	
166	D6	第4	土器溜まり1	3061	140210	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色)	
167	D6	第4	土器溜まり1	3067	140210	哺乳綱	不明	不明			1	破片	
168	D6	第4	土器溜まり1	3067	140210	哺乳綱	イノシシ？	遊離歯			1	破片	
169	D6	第4	土器溜まり1	3067	140210	不明	不明	不明			1	破片、焼け(白色)	
170	D6	第4	土器溜まり1	3068	140210	硬骨魚綱	ヘダイ	遊離歯			複数	焼け(白色)、タイ科の可能性があるものも含む	
171	D6	第4	土器溜まり1	3068	140210	哺乳綱	ネズミ科	遊離歯	下顎切歯？		1	焼け(褐色)	
172	D6	第4	土器溜まり1	3068	140210	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色)	
173	D6	第4	土器溜まり1	3070	140210	鳥綱	不明	足根中足骨	近位		1	焼け(白色)、やや変形	Bp3.3mm
174	D6	第4	土器溜まり1	3070	140210	哺乳綱	不明	不明			複数	破片	
175	D6	第4	土器溜まり1	3070	140210	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色)	
176	D6	第4	土器溜まり1	3071	140210	哺乳綱	ニホンジカ？	遊離歯			1	破片	
177	D6	第4	土器溜まり1	3071	140210	不明	不明	不明			2	破片、焼け(白色)	
178	D6	第4	土器溜まり1	3077	140210	不明	不明	不明			2	破片	
179	D6	第4	土器溜まり1	3081	140210	不明	不明	不明			4	破片、焼け(白色)	
180	D6	第4	土器溜まり1	3087	140210	哺乳綱	イノシシ	遊離歯			1	破片	
181	D6	第4	土器溜まり1	3087	140210	不明	不明	不明			複数	破片	
182	D6	第4	土器溜まり1	3087	140210	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色)、うち1点は哺乳類四肢骨骨幹部か	
183	D6	第4	土器溜まり1	3087	140210	硬骨魚綱	ヘダイ	遊離歯			1		
184	D6	第4	土器溜まり1	3088	140210	不明	不明	不明			1	破片、焼け(白色)	
185	D6	第4	土器溜まり1	3091	140210	哺乳綱	不明	遊離歯？			2	破片、歯エナメル質？	
186	D6	第4	土器溜まり1	3091	140210	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色、黒色)	
187	D6	第4	土器溜まり1	3094	140210	不明	不明	不明			複数	破片、うち1点焼け(白色)	
188	D6	第4	土器溜まり1	3097	140210	哺乳綱	不明	不明			複数	破片、うち1点焼け(白色)	
189	D6	第4	土器溜まり1	3099	140210	哺乳綱	イノシシ	遊離歯	臼歯		2	破片	
190	D6	第4	土器溜まり1	3099	140210	不明	不明	不明			1	破片、焼け(白色)	
191	D6	第4	土器溜まり1	3101	140214	哺乳綱	不明	不明			3	破片、焼け(白色・灰色)	
192	D6	第4	土器溜まり1	3101	140214	不明	不明	不明			2	破片	
193	D6	第4	土器溜まり1	3097	140210	硬骨魚綱	タイ科	遊離歯			2		
194	D6	第4	土器溜まり1	3097	140210	不明	不明	不明			3	破片	
195	D6	第4	土器溜まり1	3115	140210	不明	不明	不明			2	破片、焼け(白色)	
196	D6	第4	土器溜まり1	3117	140210	哺乳綱	ニホンジカ	足根骨		右	1	破片	
197	D6	第4	土器溜まり1	3117	140210	哺乳綱	不明	四肢骨？			1	破片、焼け(白色)、末節骨に似る	
198	D6	第4	土器溜まり1	3117	140210	不明	不明	不明			3	破片、焼け(白色)、うち2点は鳥類、うち1点は小型哺乳類の四肢骨か	
199	D6	第4	土器溜まり1	3117	140210	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色)、他に歯含む	
200	D6	第4	土器溜まり1	3117	140210	不明	不明	不明			1	破片	
201	D6	第4	土器溜まり1	3119	140210	哺乳綱	不明	不明	四肢骨骨幹部		1	破片、焼け(白色)	
202	D6	第4	土器溜まり1	3126	140210	哺乳綱	ニホンジカ？	遊離歯			3	破片	
203	D6	第4	土器溜まり1	3126	140210	不明	不明	不明			1	破片	
204	D6	第4	土器溜まり1	3126	140210	硬骨魚綱	不明	前上顎骨		右	1	破片、焼け(白色)	
205	D6	第4	土器溜まり1	3126	140210	硬骨魚綱	不明	鰭	先端部		1	破片、焼け(白色)	
206	D6	第4	土器溜まり1	3127	140210	哺乳綱	不明	不明			1	破片、焼け(白色)	
207	D6	第4	土器溜まり1	3131	140210	不明	不明	不明			1	破片	
208	D6	第4	土器溜まり1	3131	140210	不明	不明	不明			3	破片、焼け(白色)	
209	D6	第4	土器溜まり1	3133	140210	不明	不明	不明			3	破片、焼け(白色)	
210	D6	第4	土器溜まり1	3134	140210	不明	不明	不明			3	破片、焼け(白色)	
211	D6	第4	土器溜まり1	3135	140210	哺乳綱	イノシシ	遊離歯			1	エナメル質破片	
212	D6	第4	土器溜まり1	3152	140211	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色)	
213	D6	第4	土器溜まり1	3154	140211	不明	不明	不明			1	破片、焼け(白色)	
214	D6	第4	土器溜まり1	3160	140212	哺乳綱	不明	不明			1	破片、椎骨突起部？	
215	D6	第4	土器溜まり1	3168	140212	硬骨魚綱	タイ科	前上顎骨？			1	破片	
216	D6	第4	土器溜まり1	3168	140212	不明	不明	不明			複数	破片	
217	D6	第4	土器溜まり1	3168	140212	不明	不明	不明			1	破片、焼け(白色)	
218	D6	第4	土器溜まり1	3171	140212	不明	不明	不明			3	破片	
219	D6	第4	土器溜まり1	3189	140212	哺乳綱	不明	橈骨？	遠位部	右	1	破片、前方面に横方向の鋭い切創2本、内部にビビアナイト析出	
220	D6	第4	土器溜まり1	3189	140212	不明	不明	不明			複数	破片	
221	D6	第4	土器溜まり1	3189	140212	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色・灰色)	
222	D6	第4	土器溜まり1	3189	140212	硬骨魚綱	不明	鰭			1		
223	D6	第4	土器溜まり1	3199	140212	不明	不明	不明			1	破片、焼け(白色)	
224	D6	第4	土器溜まり1	3207	140212	哺乳綱	不明	中手/中足骨			4	小型哺乳類(ネズミ類か)	
225	D6	第4	土器溜まり1	3208	140212	不明	不明	不明			複数	破片、うち1点焼け(白色)	
226	D6	第4	土器溜まり1	3209	140212	硬骨魚綱	不明	鰭			2	破片	
227	D6	第4	土器溜まり1	3209	140212	硬骨魚綱	不明	椎骨？			1	破片	
228	D6	第4	土器溜まり1	3209	140212	不明	不明	不明			複数		
229	D6	第4	土器溜まり1	3214	140213	不明	不明	不明			1	破片、焼け(白色)	
230	D6	第4	土器溜まり1	3278	140213	不明	不明	不明			3	破片、焼け(白色)	
231	D6	第4	土器溜まり1	3279	140213	不明	不明	不明			1	破片、焼け(白色)	
232	D6	第4	土器溜まり1	3513	140214	不明	不明	不明			4	破片、焼け(白色)	
233	D6	第4	土器溜まり1	2014	140204	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色・灰色)	
234	D6	第4	土器溜まり1	2050	140204	不明	不明	不明			1	破片、焼け(白色)	
235	D6	第4	土器溜まり1	2106	140205	不明	不明	不明			1	破片、焼け(白色)	
236	D6	第4	土器溜まり1	2125	140205	不明	不明	不明			1	破片、焼け(白色)	

No.	グリッド	出土遺構面	層位・遺構名	取上No.	日付	分類群	種名	部位	部分	左右	数量	観察	計測値*
237	D6	第4	土器溜まり1	2263	140205	軟骨魚綱	サメ類	遊離歯			1	破片、アオザメ属か	長7.4mm
238	D6	第4	土器溜まり1	2265	140205	不明	不明	不明			1	破片、焼け(白色)	
239	D6	第4	土器溜まり1	2268	140205	不明	不明	不明			2	破片、焼け(白色)	
240	D6	第4	土器溜まり1	2323	140205	硬骨魚綱	不明	鰭			2	破片、焼け(白色)	
241	D6	第4	土器溜まり1	2323	140205	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色)	
242	D6	第4	土器溜まり1	2404	140206	哺乳綱	不明	不明			1	破片、焼け(白色)	
243	D6	第4	土器溜まり1	2414	140206	不明	不明	不明			3	破片、焼け(白色)	
244	D6	第4	土器溜まり1	2439	140206	哺乳綱	ニホンジカ	遊離歯	前臼歯		1	破片	
245	D6	第4	土器溜まり1	2474	140206	不明	不明	不明			1	破片、焼け(白色)	
246	D6	第4	土器溜まり1	2508		不明	不明	不明			1	破片、焼け(白色)	
247	D6	第4	土器溜まり1	2538	140206	不明	不明	不明			1	破片、焼け(白色)	
248	D6	第4	土器溜まり1	2579	140206	不明	不明	不明			1	破片、焼け(白色)	
249	D6	第4	土器溜まり1	2598	140206	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色)	
250	D6	第4	土器溜まり1	2602	140206	不明	不明	不明			1	破片、焼け(白色)	
251	D6	第4	土器溜まり1	2619	140206	不明	不明	不明			1	破片、焼け(白色)	
252	D6	第4	土器溜まり1	2628	140206	不明	不明	不明			1	破片、焼け(白色)	
253	D6	第4	土器溜まり1	2663	140206	鳥綱	不明	不明	骨幹部		1	破片、焼け(白色)	
254	D6	第4	土器溜まり1	2689	140206	硬骨魚綱	スズキ属	歯骨?			1	破片、焼け(白色)	
255	D6	第4	土器溜まり1	2689	140206	不明	不明	不明			1	破片	
256	D6	第4	土器溜まり1	2689	140206	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色)	
257	D6	第4	土器溜まり1	2692	140206	硬骨魚綱	不明	椎骨			1	破片	
258	D6	第4	土器溜まり1	2692	140206	不明	不明	不明			1	破片	
259	D6	第4	土器溜まり1	2692	140206	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色・灰色)	
260	D6	第4	土器溜まり1	2695		不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色)	
261	D6	第4	土器溜まり1	2695		哺乳綱	イノシシ	遊離歯			1	破片	
262	D6	第4	土器溜まり1	2695		哺乳綱	イノシシ?	遊離歯			複数	破片、切歯エナメル質?	
263	D6	第4	土器溜まり1	2695		哺乳綱	不明	末節骨			1	小型～中型哺乳類(タヌキ標本より小)	
264	D6	第4	土器溜まり1	2695		不明	不明	不明			複数		
265	D6	第4	土器溜まり1	2697	140206	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色・灰色)	
266	D6	第4	土器溜まり1	2701	140206	硬骨魚綱	ヘダイ	前上顎骨		左	1	破片、焼け(白色・灰色)	幅(高)8.84mm
267	D6	第4	土器溜まり1	2701	140206	不明	不明	不明			3	破片、焼け(白色)	
268	D6	第4	土器溜まり1	2703		不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色)	
269	D6	第4	土器溜まり1	2726		不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色)	
270	D6	第4	土器溜まり1	2782	140206	哺乳綱	ニホンジカ	遊離歯			1	破片	
271	D6	第4	土器溜まり1	2782	140206	硬骨魚綱	タイ科	遊離歯			2	焼け(黒色)	
272	D6	第4	土器溜まり1	2782	140206	硬骨魚綱	ニシン科の一種	椎骨			1	ニシンに似る、破片、焼け(白色)	径4.5mm
273	D6	第4	土器溜まり1	2782	140206	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色)	
274	D6	第4	土器溜まり1	2795	140206	哺乳綱	不明	不明	四肢骨骨幹部か		1	破片、焼け(白色・灰色)	
275	D6	第4	土器溜まり1	2801	140206	不明	不明	不明			1	破片、焼け(白色)	
276	D6	第4	土器溜まり1	2825		哺乳綱	不明	不明	四肢骨骨幹部か		1	破片、焼け(白色)	
277	D6	第4	土器溜まり1	2854	140206	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色)	
278	D6	第4	土器溜まり1	2866		硬骨魚綱	不明	鰭			1	破片	
279	D6	第4	土器溜まり1	2866		両生綱	カエル類	尾骨			1	破片、焼け(白色)	幅3.2mm
280	D6	第4	土器溜まり1	2866		不明	不明	不明			複数	破片	
281	D6	第4	土器溜まり1	2866		不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色)	
282	D6	第4	土器溜まり1	2867	140206	哺乳綱	不明	不明			1	破片	
283	D6	第4	土器溜まり1	2867	140206	不明	不明	不明			4	破片、焼け(白色)	
284	D6	第4	土器溜まり1	2881		不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色)	
285	D6	第4	土器溜まり1	2867	140206	不明	不明	不明			1	破片、焼け(灰色)	
286	D6	第4	土器溜まり1	2896	140207	硬骨魚綱	タイ科	遊離歯			1	焼け(白色)	
287	D6	第4	土器溜まり1	2896	140207	鳥綱	不明	足根中足骨	骨幹部		1	焼け(白色)	
288	D6	第4	土器溜まり1	2898	140207	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色)	
289	D6	第4	土器溜まり1	2898	140207	不明	不明	不明			複数	破片	
290	D6	第4	土器溜まり1	2898	140207	哺乳綱	イノシシ	足根骨		右	1	破片	
291	D6	第4	土器溜まり1	2898	140207	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色)	
292	D6	第4	土器溜まり1	2899	140207	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色)	
293	D6	第4	土器溜まり1	2902	140207	不明	不明	不明			複数	破片	
294	D6	第4	土器溜まり1	2904	140207	硬骨魚綱	ニシン科の一種	椎骨			1	破片、ニシンに似る	径6.0mm
295	D6	第4	土器溜まり1	2904	140207	硬骨魚綱	クロダイ属?	前上顎骨		右	1	破片、歯骨と思われる破片もある	前方幅4.75mm
296	D6	第4	土器溜まり1	2904	140207	硬骨魚綱	タイ科	歯骨		左	1	破片、焼け(白色)、非常に小型	
297	D6	第4	土器溜まり1	2904	140207	硬骨魚綱	イサキ科	前上顎骨		左	1	破片、イサキに似る	全長29.6cmと比較してより小
298	D6	第4	土器溜まり1	2904	140207	硬骨魚綱	イサキ科?	第一椎骨			1	イサキに似る	前方縦径3.53後方縦径2.85,前方横径4.23後方横径4.55(突起含
299	D6	第4	土器溜まり1	2904	140207	硬骨魚綱	不明	椎骨			3		
300	D6	第4	土器溜まり1	2904	140207	鳥綱	不明	脛足根骨	遠位	右	1	焼け(白色)、小型(トラツグミより小、ノゴマ♂よりやや大)	Bd2.6mm
301	D6	第4	土器溜まり1	2904	140207	哺乳綱	不明	大腿骨	骨幹部		1	焼け(白色)、イノシシもしくはニホンジカ	
302	D6	第4	土器溜まり1	2904	140207	哺乳綱	不明	中手/中足骨	遠位		2	タヌキよりやや小	
303	D6	第4	土器溜まり1	2904	140207	哺乳綱	不明	四肢骨?	端部		2		
304	D6	第4	土器溜まり1	2904	140207	哺乳綱	不明	遊離歯			複数		
305	D6	第4	土器溜まり1	2904	140207	不明	不明	不明			複数	焼け(白色、褐色)、多くは哺乳類か	
306	D6	第4	土器溜まり1	2904	140207	不明	不明	不明			複数		
307	D6	第4	土器溜まり1	2905	140207	哺乳綱	不明	遊離歯			複数	上顎後臼歯含む、テンより小?	
308	D6	第4	土器溜まり1	2905	140207	哺乳綱	不明	指骨?			3	焼け(白色)	
309	D6	第4	土器溜まり1	2905	140207	硬骨魚綱	不明	椎骨			1	焼け(白色)	
310	D6	第4	土器溜まり1	2905	140207	不明	不明	不明			複数	焼け(白色、灰色)	
311	D6	第4	土器溜まり1	2905	140207	不明	不明	不明			複数		
312	D6	第4	土器溜まり1	2905	140207	硬骨魚綱	イサキ科?	第一椎骨			1	欠損あり	後方縦径2.68,前方横径428後方横径3.35(突起含まず)
313	D6	第4	土器溜まり1	2910		哺乳綱	イタチ?	距骨		右	1	破片、焼け(白色)	GL5.52mm
314	D6	第4	土器溜まり1	2910		不明	不明	不明			複数	焼け(白色、灰色)	
315	D6	第4	土器溜まり1	2910		硬骨魚綱	タイ科	椎骨	尾椎		4		
316	D6	第4	土器溜まり1	2910		硬骨魚綱	不明	椎骨			6	他に鰭7点	
317	D6	第4	土器溜まり1	2910		不明	不明	不明			1	破片、焼け(灰色)、カメ類背甲にも見えるが標本との比較をしていない	
318	D6	第4	土器溜まり1	2910		不明	不明	不明			2	破片、焼け(灰色、褐色)	
319	D6	第4	土器溜まり1	2910		不明	不明	不明			複数		
320	D6	第4	土器溜まり1	2913		不明	不明	不明			複数		
321	D6	第4	土器溜まり1	2915	140207	不明	不明	不明			1	破片、焼け(白色)	
322	D6	第4	土器溜まり1	2916		不明	不明	不明			4	破片	
323	D6	第4	土器溜まり1	2916		不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色、灰色)	
324	D6	第4	土器溜まり1	2916		爬虫綱	ヘビ類	椎骨			1	焼け(白色)	幅4.6mm
325	D6	第4	土器溜まり1	2919	140207	哺乳綱	イノシシ	肩甲骨	肩甲頸	右	1		SLC25.7mm
326	D6	第4	土器溜まり1	2919	140207	哺乳綱	イノシシ	大腿骨	遠位端	左	1	遠位端内側滑車片	
327	D6	第4	土器溜まり1	2919	140207	硬骨魚綱	タイ科	主上顎骨		右	1	キダイに似る形態	
328	D6	第4	土器溜まり1	2919	140207	哺乳綱	イノシシ?	肋骨		右	1		
329	D6	第4	土器溜まり1	2919	140207	鳥綱	不明	烏口骨		右	1	破片、焼け(白色) キジより小・カラス大?	
330	D6	第4	土器溜まり1	2919	140207	硬骨魚綱	不明	椎骨			複数		
331	D6	第4	土器溜まり1	2919	140207	硬骨魚綱	不明	鰭			複数	うち2点は焼け(白色、灰色)	
332	D6	第4	土器溜まり1	2919	140207	不明	不明	不明			複数	破片	
333	D6	第4	土器溜まり1	2919	140207	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色、灰色)	
334	D6	第4	土器溜まり1	2923	140207	不明	不明	不明			4	破片、焼け(白色)	
335	D6	第4	土器溜まり1	2926		哺乳綱	ノウサギ	遊離歯			4	破片	
336	D6	第4	土器溜まり1	2926		不明	不明	不明			複数	破片	
337	D6	第4	土器溜まり1	2935		不明	不明	不明			4	破片、うち1点は焼け(白色)	
338	D6	第4	土器溜まり1	2940		不明	不明	不明			複数	破片、うち2点は焼け(白色)	
339	D6	第4	土器溜まり1	2943	140207	不明	不明	不明			複数	破片、うち2点は焼け(白色)	
340	D6	第4	土器溜まり1	2946		哺乳綱	ネズミ科?	指骨			1	焼け(白色)	
341	D6	第4	土器溜まり1	2946		不明	不明	不明			1	焼け(白色)	
342	D6	第4	土器溜まり1	2955	140207	不明	不明	不明			1	焼け(白色)	
343	D6	第4	土器溜まり1	2957	140207	不明	不明	不明			複数	焼け(白色)	
344	D6	第4	土器溜まり1	2960	140207	不明	不明	不明			2	焼け(白色)	
345	D6	第4	土器溜まり1	2962	140207	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色)のもの含む	
346	D6	第4	土器溜まり1	2963	140207	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色)、魚類の鰭含む	
347	D6	第4	土器溜まり1	2964	140207	不明	不明	不明			2	破片、焼け(白色)	
348	D6	第4	土器溜まり1	2968	140207	哺乳綱	ニホンジカ	中手骨	近位	左	1	内側後方破片、焼け(灰色)	
349	D6	第4	土器溜まり1	2968	140207	哺乳綱	不明	不明			10	破片	
350	D6	第4	土器溜まり1	2968	140207	硬骨魚綱	タイ科	遊離歯			1	焼け(白色)	
351	D6	第4	土器溜まり1	2968	140207	硬骨魚綱	不明	椎骨			9	タイ科の可能性があるものを含む	
352	D6	第4	土器溜まり1	2968	140207	硬骨魚綱	不明	鰭			3		
353	D6	第4	土器溜まり1	2968	140207	哺乳綱	不明	指骨			1	小型哺乳類	
354	D6	第4	土器溜まり1	2968	140207	不明	不明	不明			複数	破片	
355	D6	第4	土器溜まり1	2968	140207	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色、灰色)	
356	D6	第4	土器溜まり1	2968	140207	硬骨魚綱	ヘダイ	遊離歯	臼歯		1	焼け(白色、灰色)	長10.8幅8.23mm
357	D6	第4	土器溜まり1	2968	140207	硬骨魚綱	タイ科	遊離歯			5	焼け(白色)	
358	D6	第4	土器溜まり1	2969	140207	硬骨魚綱	不明	角骨			1	破片、焼け(灰色)	
359	D6	第4	土器溜まり1	2969	140207	硬骨魚綱	不明	鰭			1	破片、焼け(灰色)	
360	D6	第4	土器溜まり1	2969	140207	不明	不明	不明			3	破片	

No.	グリッド	出土遺構面	層位・遺構名	取上No.	日付	分類群	種名	部位	部分	左右	数量	観察	計測値*
361	D6	第4	土器溜まり1	2969	140207	不明	不明	不明			10	破片、焼け(白色、灰色)	
362	D6	第4	土器溜まり1	2970	140207	哺乳綱	ニホンジカ	中足骨	近位	左	1	前方面	
363	D6	第4	土器溜まり1	2970	140207	不明	不明	不明			1	破片	
364	D6	第4	土器溜まり1	2970	140207	不明	不明	不明			8	破片、焼け(白色)	
365	D6	第4	土器溜まり1	2973	140207	哺乳綱	不明	不明			1	破片、焼け(白色)	
366	D6	第4	土器溜まり1	2975	140207	不明	不明	不明			3	破片、うち1点焼け(白色)	
367	D6	第4	土器溜まり1	2983	140207	不明	不明	不明			複数	破片	
368	D6	第4	土器溜まり1	2984	140207	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色、黒色)含む	
369	D6	第4	土器溜まり1	2988	140207	不明	不明	不明			1	破片、焼け(白色)	
370	D6	第4	土器溜まり1	2995	140207	不明	不明	不明			2	破片、うち1点は焼け(白色)	
371	D6	第4	土器溜まり1	2996	140207	哺乳綱	ネズミ科	上腕骨	近位～遠位部	右	1		
372	D6	第4	土器溜まり1	2996	140207	哺乳綱	ネズミ科	肩甲骨		左	1		
373	D6	第4	土器溜まり1	2996	140207	不明	不明	不明			複数	破片、うち2点は焼け(白色)	
374	E10·F10	第5下位	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		140217	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色)、うち1点焼けなし	
375	D6	第4	土器溜まり1			硬骨魚綱	不明	椎骨			1	焼け(灰色)	
376	D6	第4	土器溜まり1			硬骨魚綱	不明	鰭			3		
377	D6	第4	土器溜まり1			哺乳綱	ニホンジカ	遊離歯	前臼歯?	左?	2		
378	D6	第4	土器溜まり1			哺乳綱	不明	四肢骨?	骨幹部		1	焼け(白色)	
379						不明	不明	不明			複数	焼け(白色)	
380						不明	不明	不明			複数		
381	D6	第4	土器溜まり1		140211	哺乳綱	ニホンジカ	頭蓋骨～角座		右	1		
382	D6	第4	土器溜まり1		140211	哺乳綱	ニホンジカ	遊離歯	臼歯破片		複数		
383	D6	第4	土器溜まり1		140211	硬骨魚綱	タイ科	遊離歯	臼歯		1		
384	D6	第4	土器溜まり1		140211	硬骨魚綱	不明	鰭			1		
385	D6	第4	土器溜まり1		140211	不明	不明	不明			複数	破片、1点焼け(白色)含む	
386	D6	第4	土器溜まり1		140207	哺乳綱	ニホンジカ	腓骨		右	1		
387	D6	第4	土器溜まり1		140207	哺乳綱	ニホンジカ	椎骨	胸椎体		1	化骨済	
388	D6	第4	土器溜まり1		140207	哺乳綱	ニホンジカ	椎骨	腰椎体		1	椎骨板未化骨	
389	D6	第4	土器溜まり1		140207	哺乳綱	不明	大腿骨	骨頭	右	1	ニホンジカもしくはイノシシ	
390	D6	第4	土器溜まり1		140207	哺乳綱	ニホンジカ?	中手骨?	近位?	左	1	焼け?(やや褐色)	
391	D6	第4	土器溜まり1		140207	哺乳綱	ニホンジカ	鹿角?			2		
392	D6	第4	土器溜まり1		140207	哺乳綱	不明	四肢骨	骨幹部		2	うち1点焼け(白色、灰色)	
393	D6	第4	土器溜まり1		140207	哺乳綱	ニホンジカ	遊離歯			2	破片	
394	D6	第4	土器溜まり1		140207	硬骨魚綱	タイ科	遊離歯	臼歯		1	焼け(白色)	
395	D6	第4	土器溜まり1		140207	硬骨魚綱	タイ科?	椎骨			2		
396	D6	第4	土器溜まり1		140207	不明	不明	不明			複数	破片	
397	D6	第4	土器溜まり1		140207	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色、灰色)	
398	D6	第4	土器溜まり1		140210	哺乳綱	イノシシ	手根骨		右	1	欠損あり	
399	D6	第4	土器溜まり1		140210	哺乳綱	ニホンジカ	基節骨	近位		1	化骨済	近位前後幅20.1mm
400	D6	第4	土器溜まり1		140210	哺乳綱	イノシシ/ニホンジカ	椎骨	腰椎		1	右側面に切創?	
401	D6	第4	土器溜まり1		140210	哺乳綱	不明	不明			4		
402	D6	第4	土器溜まり1		140210	哺乳綱	ヒト?	距骨		右	1		
403	D6	第4	土器溜まり1		140210	不明	不明	不明			複数	破片	
404	D6	第4	土器溜まり1		140210	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色)	
405	D6	第4	土器溜まり1		140210	硬骨魚綱	不明	鰭			4	破片、焼け(灰色、褐色)	
406	D6	第4	土器溜まり1		140210	硬骨魚綱	不明	椎骨			2	破片、1点はタイ科か	
407	D6	第4	土器溜まり1		140210	鳥綱	不明	足根中足骨	遠位		1	小型種、焼け(白色)	Bd2.3mm
408	D6	第4	土器溜まり1		140211	哺乳綱	ニホンジカ	遊離歯	臼歯		複数		
409	D6	第4	土器溜まり1		140211	哺乳綱	不明	不明			複数	破片、うち3点焼け(白色)	
410	D6	第4	土器溜まり1		140212	両生綱	カエル類	尾骨			1	小型種	幅2.7mm
411	D6	第4	土器溜まり1		140210	哺乳綱	ニホンジカ	遊離歯	臼歯		複数	破片	
412	D6	第4	土器溜まり1		140210	哺乳綱	イノシシ	遊離歯	臼歯		3	破片	
413	D6	第4	土器溜まり1		140210	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色、灰色)、うち1点焼けなし	
414	D6	第4	土器溜まり1		140210	硬骨魚綱	不明	椎骨			2		
415	D6	第4	土器溜まり1		140210	不明	不明	不明			6	破片、焼け(白色)	
416	D6	第4	土器溜まり1		140210	不明	不明	不明			複数	破片	
417	D6	第4	土器溜まり1		140212	哺乳綱	ニホンジカ	遊離歯	臼歯		複数	破片	
418	D6	第4	土器溜まり1		140212	不明	不明	不明			3	破片	
419	D6	第4	土器溜まり1		140212	不明	不明	不明			4	破片、焼け(白色、灰色)	
420	D6	第4	土器溜まり1		140210	不明	不明	不明			2	破片	
421	D6	第4	土器溜まり1		140210	不明	不明	不明			5	破片、焼け(白色、褐色)	
422	D6	第4	土器溜まり1		140128	硬骨魚綱	タイ科	遊離歯	臼歯		1		
423	D6	第4	土器溜まり1		140128	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色、灰色)	
424	D6	第4	土器溜まり1		140210	不明	不明	不明			1	破片、焼け(白色)	
425	D6	第4	土器溜まり1		140207	硬骨魚綱	不明	鰭			2	破片	
426	D6	第4	土器溜まり1		140207	不明	不明	不明			2	破片	
427	D6	第4	包含層		140124	哺乳綱	不明	肋骨?			1	破片、焼け(白色)	
428	D6	第4	土器溜まり1		140212	哺乳綱	イノシシ	遊離歯	臼歯		1	破片	
429	D6	第4	土器溜まり1		140212	哺乳綱	不明	不明			5	破片	
430	D6	第4	土器溜まり1		140212	哺乳綱	モグラ科?	大腿骨	近位	左	1		Bp4.5,BTr4.8mm
431	D6	第4	土器溜まり1		140203	不明	不明	不明			8	破片、焼け(白色)、炭含む	
432	D6	第4	土器溜まり1		140129	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色)	
433	D6	第4	土器溜まり1		140210	不明	不明	不明			2	破片、焼け(白色)	
434	D6	第4	土器溜まり1		140207	硬骨魚綱	ヘダイ	遊離歯	臼歯		1	焼け?(灰色)	
435	D6	第4	土器溜まり1		140207	硬骨魚綱	不明	椎骨			1		
436	D6	第4	土器溜まり1		140207	哺乳綱	ニホンジカ	遊離歯			1	破片	
437	D6	第4	土器溜まり1		140207	哺乳綱	ニホンジカ	中手骨	骨幹部		1	破片、焼け(黒色、褐色)	
438	D6	第4	土器溜まり1		140207	不明	不明	不明			複数	破片	
439	D6	第4	土器溜まり1		140207	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色)	
440	E9	第3	SK13		140130	硬骨魚綱	タイ科	遊離歯	臼歯		1		
441	E9	第3	SK13		140130	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色)	
442	E9	第3	SK13		140130	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色)	
443	E9	第3	SK13		140130	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色)、骨でないものも含む	
444	E9	第3	SK13		140203	硬骨魚綱	タイ科	遊離歯	臼歯		1	焼け?(白色)、摩滅	
445	E9	第3	SK13		140203	硬骨魚綱	タイ科	遊離歯	臼歯		8	焼け(白色)、摩滅	
446	E9	第3	SK13		140203	哺乳綱	イノシシ	遊離歯			複数	破片	
447	E9	第3	SK13		140203	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色)	
448	E9	第3	SK13		140130	哺乳綱	イノシシ	遊離歯	臼歯		複数	破片	
449	E9	第3	SK13		140130	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色)	
450	E9	第3	SK13		140203	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色)	
451	E9	第3	SK13		140203	硬骨魚綱	タイ科	遊離歯	臼歯		複数	焼け(白色)、ヘダイ含む	
452	E9	第3	SK13		140203	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色)、イノシシ臼歯破片含む	
453	E9	第3	SK13		140203	不明	不明	不明			4	破片、焼け(白色)	
454	E9	第3	SK13		140130	哺乳綱	イノシシ	中手/中足骨	第2or5、遠位		1	化骨済、焼け(白色)	Bd10.9mm
455	E9	第3	SK13		140130	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色)	
456	E9	第3	SK13		140130	不明	不明	不明			2	破片、焼け(白色)	
457	E9	第3	SK13		140130	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色、灰色)	
458	E9	第3	SK13		140131	硬骨魚綱	タイ科	遊離歯			複数	一部焼けあり、ヘダイ含む	
459	E9	第3	SK13		140131	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色)	
460	E9	第3	SK13		140131	不明	不明	不明			2	破片、焼け(白色)	
461	E9	第3	SK13		140130	哺乳綱	不明	下顎骨	下顎体		1	破片、焼け(白色)	
462	E9	第3	SK13		140130	硬骨魚綱	不明	遊離歯	臼歯		1		
463	E9	第3	SK13		140130	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色、灰色)	
464	E9	第3	SK13		140130	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色)	
465	E9	第3	SK13		140130	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色)	
466	E9	第3	SK13		140131	哺乳綱	イノシシ	遊離歯	臼歯		複数	破片	
467	E9	第3	SK13		140131	哺乳綱	イノシシ	遊離歯	臼歯		複数	破片	
468	E9	第3	SK13		140131	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色)	
469	E9	第3	SK13		140131	硬骨魚綱	タイ科	遊離歯	臼歯		1	焼け(白色)	
470	E9	第3	SK13		140131	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色)	
471	E9	第3	SK13		140130	硬骨魚綱	タイ科	遊離歯	犬歯、臼歯		4		
472	E9	第3	SK13		140130	硬骨魚綱	タイ科	間神経棘			1	先端部破片、焼け(白色)	
473	E9	第3	SK13		140130	硬骨魚綱	不明	椎骨			1	破片、タイ科か、焼け(白色)	
474	E9	第3	SK13		140130	不明	不明	不明			複数	破片、焼け(白色)	

*イノシシとニホンジカの歯の摩滅指数については、それぞれGrant(1982)、大泰司(1980)に従った。計測場所については、Driesch(1976)と石丸(2016b)に従った。

2. 古屋敷遺跡B区から出土した赤色顔料付着遺物について

上山晶子

大田市古屋敷遺跡からは赤色顔料の付着した縄文時代後期から晩期にかけての耳栓や土器が出土した。古墳時代以前の赤色顔料は、硫化第二水銀（HgS）を主成分とする鉱物の辰砂に由来する水銀朱（朱）、酸化第二鉄（Fe_2O_3）を多く含むとされるベンガラが知られている（注1）。これらの遺物の性格を知る手がかりとして、蛍光X線分析による元素定性分析を行なった。

1. 分析の方法

分析方法は、蛍光X線分析による元素定性分析である。使用機器は島根県古代文化センター所有、島根県埋蔵文化財調査センター設置の「エスアイアイ・ナノテクノロジー（現：日立ハイテクサイエンス）社製SEA1200VX　卓上型ケイ光X線分析計（エネルギー分散型）」である。測定条件は、測定時間200秒（うち測定可能な有効時間は125～143秒）、試料室雰囲気は大気／真空、測定範囲は直径8.0㎜、管電圧50kV（測定室雰囲気真空時には15kV）、管電流115～436 μA（管電圧による自動設定）、X線管球はRh（ロジウム）、検出器はSi半導体検出器（SSD）、一次フィルタとしてPbフィルタ（測定室雰囲気真空時にはClフィルタ）を設定し、装置の仕様上、マイラーカバーを使用している。測定は肉眼、あるいは10～40倍の実体顕微鏡観察にて赤色顔料の付着がみられた箇所のうち赤彩が顕著な部分と、比較対照資料として胎土部分（土器の破断面）で行なった。このうち、水銀（Hg）と硫黄（S）を高く検出したものを水銀朱、鉄（Fe）を高く検出し、水銀と硫黄を検出しなかったものは、胎土部分のスペクトルピークの比較と顕微鏡観察の結果から、ベンガラ（ここでは酸化鉄を多く含む「広義のベンガラ」（注2））であると判断した。

2. 結果

測定を行なった試料とその結果を表1と蛍光X線分析スペクトルピークに示す。測定№B1・B2・B3・B4・B6・B7はHgとSのスペクトルピーク（以下、ピーク）を示した。これらの試料では、Feの高いピークも検出しているが、胎土部分からもFeの高いピークが検出されており、胎土に由来、もしくは埋蔵環境下における鉄分の二次的な付着が考えられる。したがって、水銀朱による塗彩は確実に行なわれているとみられる。また、Feの高いピークを示した、測定№B5については、胎土部分のピークとの比較と顕微鏡観察の結果から、ベンガラが塗布されていると推測される。

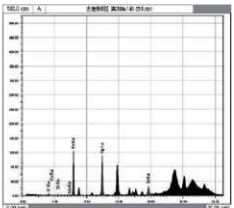
（注1・2）市毛勲　1998『新版　朱の考古学』雄山閣

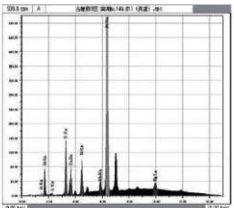
表1　古屋敷遺跡B区 出土赤色顔料付着遺物蛍光X線分析結果

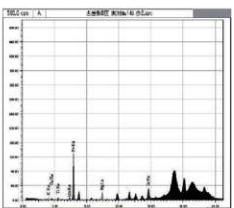
測定№	挿図№	種別	器種	測定箇所	検出元素			推測される顔料	備考
					Fe	Hg	S		
B1	30-13	縄文土器	浅鉢	外面	++	++	+	水銀朱	
				内面	++	+	+	水銀朱	
				破断面	++	+	-	-	
B2	30-12	縄文土器	浅鉢	外面	++	+	+	水銀朱	
				内面	+	++	+	水銀朱	
				破断面	++	+	-	-	
B3	30-13	縄文土器	浅鉢	外面	++	++	+	水銀朱	
				内面	+	++	++	水銀朱	
				破断面	++	+	-	-	
B4	37-11	縄文土器	浅鉢	外面	+	++	++	水銀朱	
				内面	++	++	+	水銀朱	
				破断面	++	+	-	-	
B5	45-1	縄文土器	鉢	外面	++	-	-	ベンガラ系	
				内面	×	×	×	-	赤彩なし
				破断面	+	-	-	-	
B6	30-11	縄文土器	浅鉢	外面	+	++	-	水銀朱	
				内面	+	++	++	水銀朱	
				破断面	+	+	-	-	
B7	79-21	土製品	耳栓	赤彩部分	+	++	++	水銀朱	
				非赤彩部分	++	+	-	-	

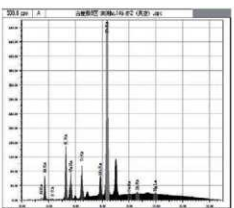
検出元素凡例；++…スペクトルピークが高く検出/+…検出/-…検出せず/×…測定せず（赤彩なし・試料形状により測定不可）

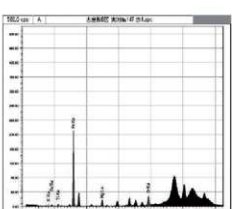
蛍光Ｘ線分析スペクトル

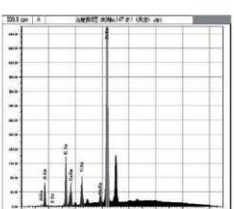

測定№B1（外面・大気）

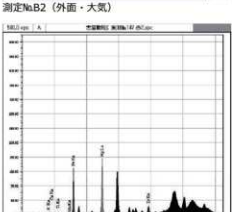

測定№B1（外面・真空）

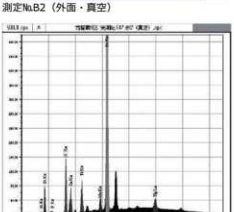

測定№B1（内面・大気）


測定№B1（内面・真空）

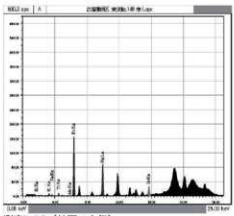

測定№B2（外面・大気）


測定№B2（外面・真空）

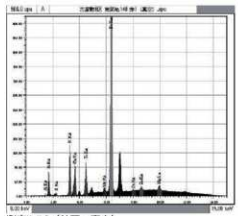

測定№B2（内面・大気）


測定№B2（内面・真空）

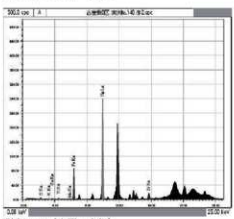
蛍光Ｘ線分析スペクトル



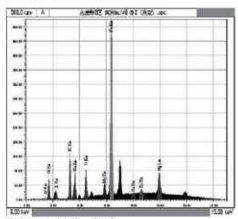
測定No.B3（外面・大気）



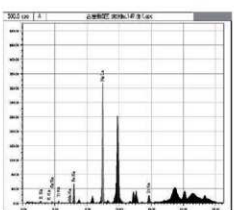
測定No.B3（外面・真空）



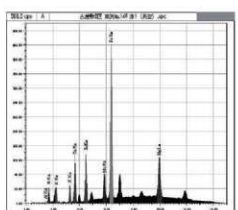
測定No.B3（内面・大気）



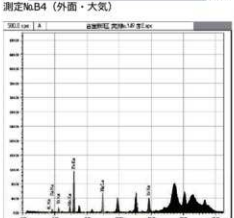
測定No.B3（内面・真空）



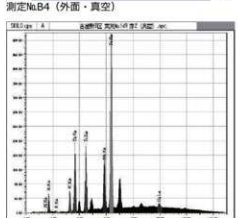
測定No.B4（外面・大気）



測定No.B4（外面・真空）

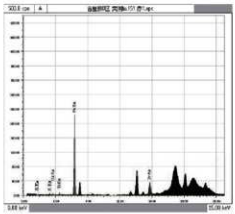


測定No.B4（内面・大気）

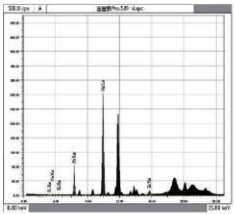


測定No.B4（内面・真空）

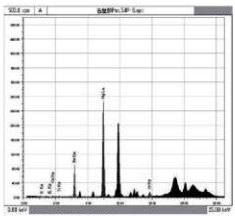
蛍光Ｘ線分析スペクトル



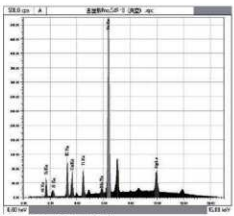
測定№B5（外面・大気）



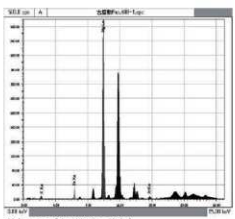
測定№B6（外面・大気）



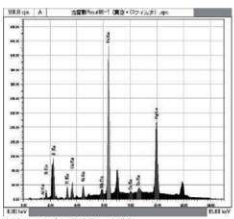
測定№B6（内面・大気）



測定№B6（内面・真空）



測定№B7（赤彩部分・大気）



測定№B7（赤彩部分・真空）

3. 古屋敷遺跡 B 区発掘調査に伴う自然科学分析

渡辺正巳（文化財調査コンサルタント株式会社）

1．はじめに

本報は、文化財調査コンサルタント株式会社が、古屋敷遺跡 B 区で検出された弥生時代の耕作遺構の時期を追従するとともに、作物について検討する目的で、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターから委託を受け実施・報告した、軟 X 線写真観察、花粉分析、植物珪酸体分析、AMS 年代測定報告書の概報である。

古屋敷遺跡は、島根県中央部、大田市仁摩町に立地する遺跡である。

2．試料について

古屋敷遺跡発掘調査での調査区の配置、及び調査区内での試料採取地点を、第 1 図に示す。さらに、各地点の断面図（第 2 図）中に、分析試料（軟 X 線写真観察用試料）の採取層準（位置）を示す。また、AMS 年代測定試料は調査区東壁の 15 層から採取し、その他の分析試料は軟 X 線写真観察試料から分取した。分取位置は、各ダイアグラム中にグレーのハッチで示している。

3. 分析方法

(1) 軟 X 線観察方法

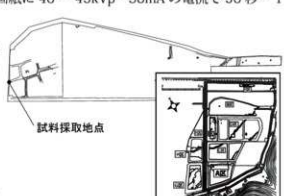
ブロック試料から、25cm × 10cm × 1cm の透明アクリルケースを用いて観察資料を分取し、調整を行った。軟 X 線撮影は、増感紙を挟んだ印画紙に 40 ～ 45kVp・30mA の電流で 50 秒～ 1 分 20 秒の間、軟 X 線を照射した（観察した軟 X 線写真は、ネガ画像である。）。記載は、「土壌記載薄片ハンドブック（久馬・八木：訳監修，1989）」に準じて実施した。

(2) AMS 年代測定方法

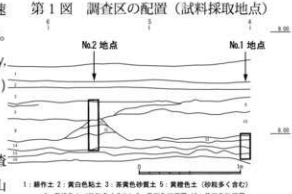
塩酸による酸洗浄の後に水酸化ナトリウムによるアルカリ処理、更に再度酸洗浄を行った。この後、二酸化炭素を生成、精製し、グラファイトに調整した。^{14}C 濃度の測定にはタンデム型イオン加速器を用い、半減期：5568 年で年代計算を行った。暦年代較正には OxCal ver. 4.2.4（Bronk Ramsey, 2009）を用い、INTCAL13（Reymer et al., 2013）を利用した。

(3) 微化石概査方法

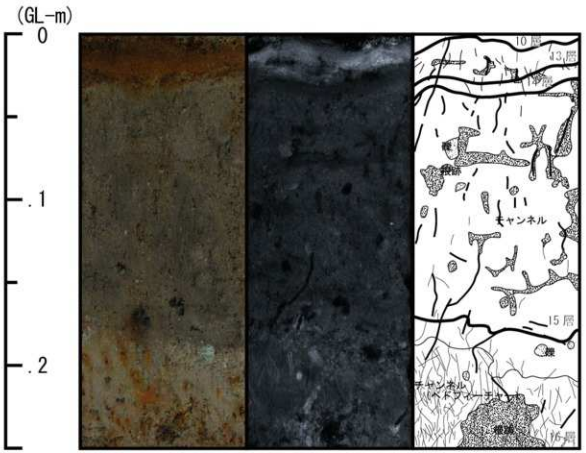
花粉分析用プレパラート及び花粉分析処理残渣を用いて花粉（胞子）、植物片、炭片、珪藻、火山ガラス、植物珪酸体の含有状況を概観し、5 段階で示した。



第 1 図　調査区の配置（試料採取地点）



第 2 図　試料採取地点断面図（試料採取層準）



第 3 図　№ 1 地点軟Ｘ線写真観察結果

(4) 花粉分析方法

渡辺（2010）に従って実施した。花粉化石の観察・同定は、光学顕微鏡により通常 400 倍で、必要に応じ 600 倍あるいは 1000 倍を用いて実施した。原則的に木本花粉総数が 200 粒以上になるまで同定を行い、同時に検出される草本・胞子化石の同定も行った。また中村（1974）に従ってイネ科花粉を、イネを含む可能性が高い大型のイネ科（40 ミクロン以上）と、イネを含む可能性が低い小型のイネ科 (40 ミクロン未満) に細分している。

(5) 植物珪酸体分析方法

藤原（1976）のグラスビーズ法に従い行った。プレパラートの観察・同定は、光学顕微鏡により通常 400 倍で、必要に応じ 600 倍あるいは 1000 倍を用いて実施した。同定に際して、表 1 に示す母植物との対応が明らかな、イネ亜科の機動細胞を中心とした分類群を対象とした。また、植物珪酸体と同時に計数したグラスビーズの個数が 300 を超えるまで計数を行った。

4．分析結果

(1) 軟Ｘ線観察結果

① № 1 地点

1) 10 ～ 14 層

下位から粘土 (14 層)、細粒砂（13 層)、粗粒砂（10 層）と移り変わり、洪水堆積物に特有の「逆級化」構造と考えられる。実視では、13 層（細粒砂）に酸化鉄が検出し、黄褐色を呈しいている。軟Ｘ線写真では直線的なチャンネルが幾つか認められるが、細く、短い。根跡と考えられる不定形の暗色部

が認められる。全体に細粒の小粒状ペッドが顕著であるが、この部分では細粒の小粒状ペッドが強度に発達するほか、幾つかが集まって、中～粗粒の二次ペッドを成している。

2) 15 層

粗～極粗粒砂混じり粘土質細～中粒砂からなり、有機物を多く含む。実視ではオリーブ黒色のマトリックスに、灰白色の粗～極粗粒砂が目立つ。また、根跡と考えられる空隙も顕著である。軟X線写真では根跡と考えられる暗色帯が不規則に認められ、実視での空隙と重なる。また、数 mm 幅の直線的なチャンネルが顕著であるが、細いものは目立たない。細～中粒の小粒状ペッドが強度に発達するほか、幾つかが集まって、中～粗粒の二次ペッドを成している。ただし二次ペッドの発達は中度である。

3) 16 層

粗砂混じりシルト質細粒砂からなる。実視では根跡に褐色の酸化鉄が染み出しているほか、黒色のマンガン斑が認められる。軟X線写真では上部の数 cm の範囲で細～中粒の小粒状ペッドが強度に発達するほか、中～粗粒の二次ペッドも強～中度に発達している。全体に直線状のチャンネルが多量に認められるが、細いものがほとんどである。また、チャンネルの太さに関係なく、周囲を酸化鉄で覆われる（準被覆）ペドフィーチャーが顕著に認められる。一方下部中央に、強度に発達した小粒状ペッドが集中しており、根跡と考えられる。

② №2 地点

1) 3 層

粘土質中～粗粒砂からなり、実視では黄～明黄褐色を呈す。軟X線写真では、細～中粒の小粒状ペッドが弱度に発達している。

2) 4 層

礫混じり粗粒砂からなる。実視では、砂粒の間が緩い部分が帯状に連なり、根跡と推定される。軟X線写真では、実視で認められた帯状の部分で小粒状ペッドの発達が強度で、中粒の二次ペッドも顕著に認められる。また、根跡と考えられる直線的なチャンネルの分布は、実視で認められる帯状の部分には少ない。

3) 5 層

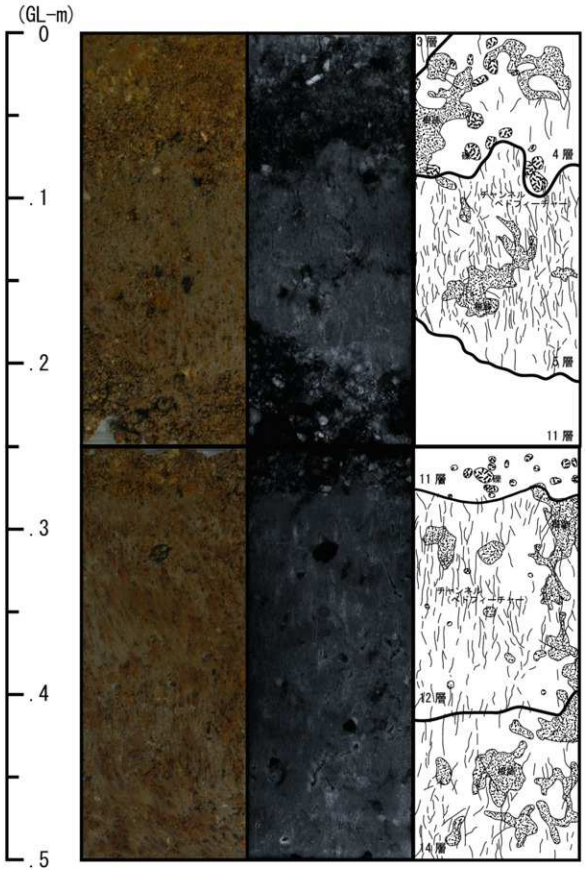
腐植質粗粒砂質シルトからなる。実視では中央部に粗粒砂のブロックが認められ、根跡と考えられる。また根跡と考えられる空隙の周囲に、酸化鉄が検出し、ペドフィーチャーを成している。また、下部には黒色のマンガン斑が認められる。軟X線写真では、根跡と考えられる直線的なチャンネルの周囲を準被覆するペドフィーチャーが顕著に認められる。根跡と考えられる粗粒砂のブロック周囲では細～中粒の小粒状ペッド及び二次ペッドが強度に発達する。また、上位の 4 層、下位の 11 層との境界近くでも細～中粒の小粒状ペッドが強度に発達するが、それ以外の部分では、小粒状ペッドの発達は弱～中度に止まる。

4) 11 層

礫混じり粗粒砂からなる。マトリックスに粘土がほとんど存在せず、崩れやすい。このため、下部（上部試料）が崩れている。

5) 12 層

僅かに礫が混じる細粒砂質シルトからなる。実視では試料右側に細～中粒砂がブロック状に点在



第４図　№２地点軟Ｘ線写真観察結果

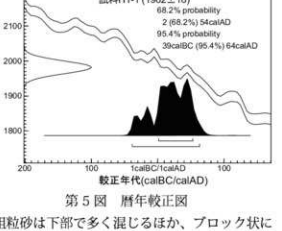
し、根跡と考えられる。また点在するマンガン斑も、この部分では集中する傾向にある。このほか、上部中央に、成形時に礫が抜けた跡が大きく口を開けている。軟Ｘ線写真では、全体に根跡と考え

第１表　AMS 年代測定結果

試料				前処理	測定年代[*1] (yrBP±1σ)	δ ^{13}C (‰)	暦年較正用年代 (yrBP±1σ)	補正年代[*2] (yrBP±1σ)	暦年較正年代[*3]		測定番号 (パレ)
試料No.	種類	出土地点など							1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲	
HY-1	炭化材	1号住 弥生時代の水田層	1号住 弥生時代の水田層	超音波洗浄→酸・アルカリ・酸処理(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:0.1N, 塩酸:1.2N)	2016±19	-27.01±0.20	1982±18	1980±20	AD2—54 (68.2%)	BC39—AD64 (95.4%)	25850

[*1] δ ^{13}C補正無年代 [*2] δ ^{13}C補正年代

られる直線的なチャンネルとその周囲を準被覆するペドフィーチャーが顕著に認められる。また、全体に弱～中度に発達した小粒状ペッドが認められる。小粒状ペッドが強度に発達し、二次ペッドを成す部分は試料右側に帯状に分布し、実視で根跡と考えた細～中粒砂のブロックと重なる。土壌構造ではないが、前述の礫の抜けた跡や、成形時に礫が移動した痕跡も認められる。



第５図　暦年較正図

6) 14 層

僅かに粗粒砂が混じる細粒砂質シルトからなる。粗粒砂は下部で多く混じるほか、ブロック状に集中が認められる。実視ではこの部分での酸化鉄、マンガン斑の検出が著しく、根跡と考えられる。軟Ｘ線写真では、全体に根跡と考えられる直線的なチャンネルが多く認められる。また、チャンネルの周囲を準被覆するペドフィーチャーも認められる。小粒状ペッドは弱～中度に発達し、認められない部分もある。一方、実視で酸化鉄やマンガン斑の認められる根跡と考えられる部分では、小粒状ペッドが強度に発達し、二次ペッドも認められる。

(2) ＡＭＳ年代測定結果

年代測定結果を第５図及び第１表に示す。第５図には、OxCal ver. 4.2 による暦年較正図を示した。第１表には、試料の詳細、前処理方法、δ ^{13}Ｃ値と測定年代など４種類の年代を示している。

(3) 微化石概査結果

花粉分析用プレパラート、及び花粉分析処理残渣を用いた微化石の概査結果は、第２表のとおりである。分析試料全般に、炭片を除く微化石、火山ガラスの含有量が少なかった。

(4) 花粉分析結果

分析結果を第６、７図の花粉ダイアグラム及び第３表の花粉組成表に示す。花粉ダイアグラムでは木本花粉総数を基数として分類群ごとに百分率を算出し、木本（針葉樹）花粉、木本（広葉樹）、草本・藤本花粉、胞子の区分でスペクトルの色を変えて示した。また右側に、区分ごとの累積百分率と、1g 当たりの花粉と胞子の含有量を示した。

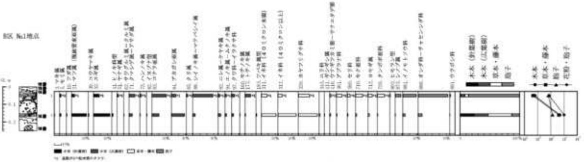
(5) 植物珪酸体分析結果

分析結果を第８、９図の植物珪酸体ダイアグラム及び第４表の植物珪酸体組成表に示す。植物珪

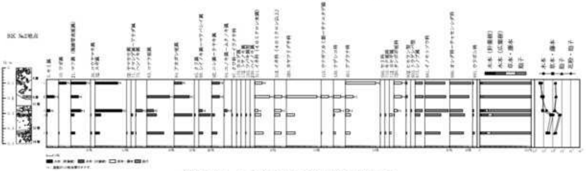
第２表　微化石概査結果

地点名	試料No.	花　粉	炭	植物片	珪　藻	火山ガラス	植物珪酸体
No.1地点	1	△	△	○	△×	△	○
	2	◎	△	◎	△×	△×	△
No.2地点	1	△×	△	○	△×	△×	△
	2	△×	△	△×	×	△×	△
	3	△	△	△×	×	△×	△
	4	○	△	△	×	△	△
	5	○	○	△	×	△×	△

凡例 ◎：十分な数量が検出できる　○：少ないが検出できる　△：非常に少ない
△×：極めてまれに検出できる　×：検出できない



第６図　No.１地点花粉ダイアグラム



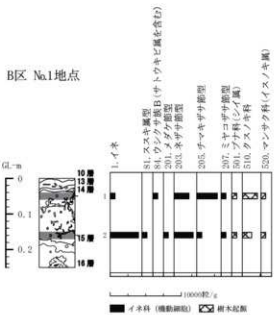
第７図　No.２地点花粉ダイアグラム

第３表　花粉組成表

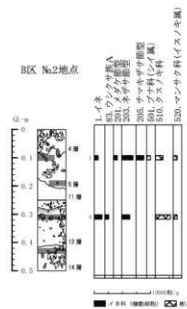
	調査区	B区													
	地点名	No.1地点				No.2地点									
	地層名	15層				5層				12層				14層	
	試料番号	1		2		1		2		3		4		5	
3 *Podocarpus*	マキ属			1	0%										
5 *Abies*	モミ属	1	2%	4	2%			1	13%	1	6%	1	1%	1	1%
10 *Tsuga*	ツガ属			2	1%	1	13%							1	1%
21 *Pinus(Diploxylon)*	マツ属：複維管束亜属	2	4%	45	21%	2	25%	1	13%	3	17%	6	6%	7	7%
30 *Sciadopitys*	コウヤマキ属			2	1%							1	1%	2	2%
32 *Cryptomeria*	スギ属	4	8%	50	24%	3	38%			8	44%	10	10%	8	8%
41 Cupressaceae type	ヒノキ科型			4	2%									1	1%
51 *Salix*	ヤナギ属	1	2%												
62 *Pterocarya-Juglans*	サワグルミ属－クルミ属			1	0%										
52 *Myrica*	ヤマモモ属													1	1%
71 *Carpinus-Ostrya*	クマシデ属－アサダ属	4	8%	10	5%							3	3%	4	4%
73 *Corylus*	ハシバミ属														
75 *Alnus*	ハンノキ属	1	2%	1	0%					2	11%	1	1%	1	1%
82 *Fagus japonica* type	イヌブナ型			1	0%										
83 *Quercus*	コナラ亜属	10	20%	21	10%			3	38%	2	11%	17	16%	29	28%
84 *Cyclobalanopsis*	アカガシ亜属	3	6%	39	18%	1	13%	2	25%			31	30%	32	30%
85 *Castanea*	クリ属	1	2%									2	2%		
88 *Castanopsis-Pasania*	シイノキ属－マテバシイ属	14	29%	7	3%					1	6%	20	19%	7	7%
92 *Ulmus-Zelkova*	ニレ属－ケヤキ属	1	2%	8	4%	1	13%	1	13%			5	5%	9	9%
94 *Aphananthe-Celtis*	エノキ属－ムクノキ属	1	2%	5	2%					1	6%	1	1%		
97 Moraceae-Urticaceae	クワ科－イラクサ科	2	4%	6	3%							1	1%		
132 *Zanthoxylum*	サンショウ属														
160 *Ilex*	モチノキ属			1	0%										
170 *Acer*	カエデ属											2	2%	1	1%
172 *Aesculus*	トチノキ属	4	8%	2	1%							1	1%		
178 *Tilia*	シナノキ属														
183 *Camelia* type	ツバキ属型			2	1%							2	2%	1	1%
202 Araliaceae	ウコギ科														
230 *Symplocos*	ハイノキ属											1	1%		
311 Gramineae(<40)	イネ科（４０ミクロン未満）	4	8%	45	21%	1	13%	2	25%	1	6%	11	10%	15	14%
312 Gramineae(>40)	イネ科（４０ミクロン以上）	3	6%	56	26%			1	13%	2	11%	10	10%	12	11%
320 Cyperaceae	カヤツリグサ科	8	16%	58	27%			4	50%			14	13%	15	14%
345 Liliaceae	ユリ科			3	1%										
411 *Rumex*	ギシギシ属			1	0%										
416 *Echinocaulon-Persicaria*	ウナギツカミ節－サナエタデ節	1	2%	3	1%			1	13%					1	1%
420 *Fagopyrum*	ソバ属														
422 Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科－ヒユ科														
430 Caryophyllaceae	ナデシコ科							1	13%	2	11%	2	2%	4	4%
461 Cruciferae	アブラナ科	4	8%	2	1%	4	50%	1	13%	1	6%	9	9%	8	8%
504 *Azukia*	アズキ属														
580 Umbelliferae	セリ科	2	4%	2	1%							1	1%	1	1%
601 *Trachelospermum*	テイカカズラ属														
710 Carduoideae	キク亜科	5	10%	4	2%							2	2%	2	2%
712 *Artemisia*	ヨモギ属	3	6%	5	2%							5	5%	3	3%
720 Cichorioideae	タンポポ亜科	5	10%	1	0%	1	13%	1	13%	1	6%	1	1%		
802 *Urostachys sieboldii* type	ヒモラン型	4	8%			5	63%	7	88%	1	6%	5	5%	9	9%
803 *Urostachys serratum* type	トウゲシバ型									3	17%	1	1%		
808 Subgenus *Lycopodium*	ヒカゲノカズラ亜属														
875 *Davallia*	シノブ属	50	102%	2	1%	36	450%	42	525%	19	106%	54	51%	77	73%
881 Pteridaceae	イノモトソウ科	119	243%	16	8%	97	1213%	108	1350%	61	339%	173	165%	197	188%
886 Aspid.-Asple.	オシダ科－チャセンシダ科	257	524%	25	12%	102	1275%	98	1225%	33	183%	160	152%	175	167%
891 Polypodiaceae	ウラボシ科	9	18%	1	0%	4	50%			3	17%	11	10%	24	23%
898 MONOLATE-TYPE-SPORE	単条溝胞子	30	61%	6	3%	13	163%	15	188%	6	33%	30	29%	46	44%
899 TRILATE-TYPE-SPORE	三条溝胞子	54	110%	10	5%	20	250%	21	263%	6	33%	57	54%	80	76%
木本花粉総数		49	8%	212	47%	8	3%	8	3%	18	11%	105	16%	105	14%
草本花粉総数		35	6%	180	40%	6	2%	11	4%	7	4%	55	8%	61	8%
胞子総数		523	86%	60	13%	277	95%	291	94%	132	84%	491	75%	608	79%
総数		607		452		291		310		157		651		774	
含有量(粒数/g)		742		10048		209		244		180		717		228	

左よりカウント総数、百分率

酸体ダイアグラムでは、1g あたりの含有数に換算した数を、検出した分類群ごとにスペクトルで示した。



第８図　No.１地点植物珪酸体ダイアグラム



第９図　No.２地点植物珪酸体ダイアグラム

第４表　植物珪酸体組成表

調査区	B区			
地点名	No.1地点		No.2地点	
地層名	11層		4層	12層
試料番号	1	2	3	4
1 イネ	10	6	11	2
	7	40	7	14
	0.21	1.18	0.20	0.40
81 ススキ属型	–	1	–	–
	–	7	–	–
	–	0.03	–	–
83 ウシクサ族A	–	–	–	1
	–	–	–	7
	–	–	–	–
84 ウシクサ族B（ヤトウキビ属を含む）	1	–	–	–
	7	–	–	–
	–	–	–	–
201 メダケ節型	–	1	1	–
	–	7	7	–
	–	0.03	0.03	–
203 ネザサ節型	3	7	3	2
	21	27	20	14
	0.10	0.13	0.10	0.07
205 チマキザサ節型	4	1	2	–
	29	7	14	–
	0.12	0.03	0.10	–
207 ミヤコザサ節型	1	1	1	–
	–	7	–	–
	0.02	0.02	–	–
501 ブナ科（シイ属）	1	1	1	–
	–	7	7	–
	–	–	–	–
510 クスノキ科	3	2	2	6
	21	13	14	27
	–	–	–	–
520 マンサク科（イスノキ属）	1	1	1	1
	7	7	7	7
	–	–	–	–
プラント・オパール総数	15	13	11	10
カウントガラスビーズ数	422	451	442	440
カウント回数	47	469	457	450
試料重量（×0.0001g）	707	7032	7037	7037
ガラスビーズ重量（×0.0001g）	134	134	134	134

上段：検出粒数
中段：検出密度（単位：×100粒/g）
下段：推定生産量（単位：kg/㎡･cm）

5. 年代測定値について

今回得られた年代は BC39 年～ AD64 年と、弥生時代中期から後期頃の値を示した。試料を採取した 15 層は、出土遺物及び遺構の斬り合いなどから古墳時代前期以前、縄文時代晩期以降（おそらく弥生時代）の水田層と考えられていた。年代測定値と推定年代に矛盾が無いことから、15 層は弥生時代の遺構であった可能性が高い。

6. 花粉・胞子化石の含有量が少なかった原因について

花粉・胞子化石の含有量が少ない場合、通常は以下のようなことが原因として考えられている。

１．堆積速度が速いために、堆積物中に花粉化石が含まれない。

２．花粉化石の平均的な粒径（数～ 100 μ）と堆積物の粒度が著しく異なり、堆積物中に花粉化石が含まれない。

３．土壌生成作用に伴う堆積物で、堆積速度が極めて遅く、堆積した花粉化石が紫外線により消滅した。

４．花粉化石が本来含まれていたが、堆積後の化学変化により花粉化石が消滅した。

５．有機物に極めて富む堆積物で花粉以外の有機物も多く、処理の過程で花粉化石が回収できなかった。

今回の分析試料について、軟Ｘ線写真観察により、多くの層準でベッドが強度に発達し、土壌化

が進んでいることが明らかになった。また、酸化鉄及び酸化マンガンの検出が顕著であった。更に、微化石概査結果で示したように、全ての種類で微化石の含有量が少なかった。層ごとに、その特徴から、花粉・胞子化石の含有量が少なかった原因について考察する。

15層上部（№1地点）、5層、12層上部（№2地点）では炭片（微粒炭）を含む有機物（植物質）が全体に少なかった。15層下部では花粉化石、植物片ともに含有量が多いことから、15層では相対的に炭（微粒炭）の含有量が少なく有機物が豊富に含まれており、堆積速度が遅かったと考えられる。15層上部では酸化鉄や酸化マンガンの検出が顕著であり、含まれていた有機物(植物質)や珪藻、プラントオパールなどの珪酸質までも、グライ化などの堆積後の化学変化によって分解したことが分かる。

12層下部では花粉化石の含有量が多いことから、相対的に炭（微粒炭）の含有量が少なく、有機物が豊富に含まれており、堆積速度が遅かったと考えられる。上部では11層（砂層）に接し、含まれていた有機物（植物質）や珪藻、プラントオパールなどの珪酸質までも、グライ化などの堆積後の化学変化によって分解したことが分かる。

5層では前述の12層、15層のような判断材料に乏しく、堆積速度が速く有機物が含まれなかった可能性も指摘できる。ただし現地調査で耕作層の可能性が指摘されていることから、本来は相対的に炭（微粒炭）の含有量が少ない有機物に富む地層であったが、グライ化などの堆積後の化学変化によって分解したと考えられる。

7. 弥生時代耕作遺構ほかについて

前述の様に弥生時代の耕作遺構面を構成する15層では、軟X線写真観察ではベッドの発達が強度であり、土壌化の程度が強い。また、植物珪酸体分析ではイネが検出される。15層上下でイネの検出量に差が認められるが、上部では堆積後の化学反応で溶解している可能性があること、あるいは植物珪酸体の特性を考慮すると誤差の範囲と見なすこともできる。一方花粉分析では、イネ科（40ミクロン以上）の出現率はイネ科（40ミクロン未満）、カヤツリグサ科と同程度であり、26％とさほど高くはない。耕作以前の母材にイネ科(40ミクロン未満)やカヤツリグサ科花粉が本来含まれており、耕作後にイネ科（40ミクロン以上）花粉が付加されたと考えることが可能である。また、イネ科（40ミクロン以上）花粉の含有量が少ないことから、耕作期間が短かった可能性が指摘できる。一方で水田の管理が不十分で、雑草が繁茂していた可能性も指摘できる。さらに、ウナギツカミ節-サナエタデ節、アブラナ科、セリ科など、栽培の可能性のある種類が検出されるが、検出量が少なく、栽培されたものか野生種（雑草）由来かの判断ができなかった。いずれにせよ、15層を作土とした稲作が行われていたことは確かである。

5層にも、遺構は検出されていないものの作土の可能性が指摘されていた。軟X線写真観察ではベッドの発達が強度であり、土壌化の程度が強い。また、植物珪酸体分析（図4-14）では僅かであるがイネが検出される。一方花粉分析では、花粉の含有量が極めて少なく、十分な考察に値するデータが得られていない。また、ウナギツカミ節-サナエタデ節、アブラナ科、セリ科など、栽培の可能性のある種類が検出されるが、検出量が少なく、栽培されたものか野生種（雑草）由来かの判断ができなかった。以上のことから、5層が作土で、稲作が行われていた可能性は指摘できるが、断定には至らなかった。

8. 周辺地域の古植生の推定

仁摩平野では、今回の調査地点から 100 ～ 200m ほど、潮川の下流に位置する五丁遺跡及び庵寺遺跡において花粉分析が実施・報告されている（渡辺・山田, 2010）。これらのうち庵寺遺跡では、今回の分析試料とほぼ同時期の堆積物も、分析されている。また、古屋敷遺跡 A 区と H 区でも花粉分析などが行われているが、主に縄文時代の堆積層を対象としたものであった（渡辺, 2017a, b）。

渡辺（2017b）は、今回の分析時期に先立つ縄文時代中期～晩期の古環境について、古屋敷遺跡 H 区及び五丁遺跡でのボーリング試料の花粉分析結果などから、「低地を広く覆っていたスギを主体とする林が、縄文時代中期頃以降に三瓶火山から流れ込んだ火砕流（あるいはこれらの再堆積）によって埋め尽くされた。三瓶火山による被害は仁摩平野周囲の丘陵にも及び、低地のスギ林、丘陵上のカシ林（照葉樹林）が壊滅状態になった可能性がある。その後、低地ではケヤキ類、低地から丘陵にかけてはマツ類やコナラ類が林を成すようになり、徐々にカシ類が加わっていった。」と推定している。更に縄文時代晩期の古環境について「丘陵上ではカシ林（照葉樹林）が復活しつつ、マツ類やコナラ類なども増える。古屋敷遺跡 A 区で遺構が見つかるなど、仁摩平野での人間活動が活発になることから、仁摩平野周囲の丘陵が薪炭林として活用されていた可能性が示唆される。堆積環境が不安定なために、スギ林はさほど広がらなかった。」としている。

庵寺遺跡下部地点Ⅴ帯 c' 亜帯（渡辺・山田, 2010）が、今回の分析試料とほぼ同じ、あるいはやや新しい時期の分析結果であった。ここで報告された花粉化石群集と比べて、今回の分析結果はスギ属が低率で、マツ属（複維管束亜属）、その他の針葉樹、コナラ亜属が高率を示している。互いに数 100m の位置関係であるが、庵寺遺跡が潮川本流から外れた支流（支谷）に立地することから、スギの生育に適していたと考えられる。

弥生時代中期から後期（№ 1 地点 15 層）では、スギのほか、マツ属（複維管束亜属）、コナラ亜属、アカガシ亜属が高率を示す。潮川流域で水利の良い場所は水田化するが、仁摩平野全域には及ばず、スギ林も残存していたと考えられる。また、アカガシ亜属に加え、マツ属（複維管束亜属）、コナラ亜属が高率を示すことなど、縄文時代晩期からの変化に乏しく、丘陵上での森林開発も盛んではなかったと考えられる。

その後、上位の畦畔（№ 2 地点 14、12 層）が作られる時期には、マツ属（複維管束亜属）、スギ属が低率に、コナラ類、カシ類などの広葉樹が高率に成る。沖積低地や丘陵の開発が進み、有用材としてのスギやマツが伐採され、ギャップにナラ類やカシ類などが入り込んでいったものと考えられる。一方、平野の中心部に近いことから、この推定は潮川上流域の植生を強く反映している可能性もある。

9. まとめ

仁摩平野の東端近くに立地する古屋敷遺跡において、耕作土と考えられる地層を対象とした花粉分析、植物珪酸体分析及び軟 X 線写真観察による堆積構造の記載、年代測定を行った。特筆すべき考察結果は、以下の事柄である。

(1) B 区西壁で 15 層から採取した炭片の暦年較正年代値として BC39 年～ AD64 年（2 σ）が得られた。この値は、15 層の年代として想定されていた弥生時代（前期以降）と良く一致した。

(2) 花粉分析を2地点7試料で実施したが、多くの試料で花粉化石の含有量が少なかった。軟X線写真観察、含有物概査結果を踏まえると、グライ化など堆積後の化学変化によって植物質、珪酸質が劣化、消滅したものと考えられる。

(3) 遺跡内の耕作について、以下の知見を得た。

① 15層（弥生時代耕作層）では、イネが栽培されていた。ただし、現在と比べ水田内の管理が悪くイネ科、カヤツリグサ科の雑草が繁茂していたと考えられる。また、イネ科（40 ミクロン以上）花粉、植物珪酸体の含有量が比較的少なく、耕作に用いられた期間は比較的短期間であったと考えられる。

② 5層でも、地層内での酸化作用が激しく植物質、珪酸質が劣化、消滅した可能性がある。このため、稲作が行われていた可能性が指摘できるが、断定には至らなかった。

(4) 縄文時代晩期から弥生時代における、遺跡周辺での古植生を推定した。従来（渡辺・山田, 2010）考えられていた植生より、低地でのスギが少なく、丘陵上の植生は多様性に富んでいたことが分かった。

引用文献

Bronk Ramsey, C. (2009). Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究 (1) 一数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法一．考古学と自然科学，9，15-29

久馬一剛・八木久義訳監修（1989）土壌記載簿片ハンドブック．p.176，博友社，東京．

Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J.(2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55(4), 1869-1887.

渡辺正巳（2010）花粉分析法．必携 考古資料の自然科学調査法，174-177．ニュー・サイエンス社．

渡辺正巳（2017a）古屋敷遺跡 A 区発掘調査に伴う自然科学分析．古屋敷遺跡 (A・E 区) 一般国道 9 号 (静間仁摩道路) 改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書，1，86-94，島根県教育委員会．

渡辺正巳（2017b）古屋敷遺跡 H 区発掘調査に伴う花粉分析．古屋敷遺跡 (C・F・H・I 区) 一般国道 9 号 (静間仁摩道路) 改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書，3，146-151，国土交通省松江国道事務所・島根県教育委員会．

渡辺正巳・山田和芳（2010）五丁遺跡・庵寺遺跡発掘調査に伴う自然科学分析．梨ノ木坂遺跡・庵寺古墳群・庵寺遺跡 II 一般国道 9 号仁摩温泉津道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書，3，129-131，国土交通省中国地方整備局・島根県教育委員会，93-130．

第6章　総括

1．古屋敷遺跡（B区）の調査成果

古屋敷遺跡（B区）では、縄文時代後期から弥生時代前期に至る5面の遺構面を確認した。各遺構面の時期は、第1遺構面が弥生時代前期、第2・第3遺構面が縄文時代晩期（突帯文期）、第4遺構面が晩期前葉である。第4遺構面と第5遺構面の間の包含層には縄文時代後期の単純層があり、第5遺構面は後期と考えられる。第5遺構面の下位にある包含層も縄文時代後期である。各遺構面の遺構・遺物から古屋敷遺跡（B区）の変遷を考える。

弥生時代中期以降

第1遺構面の包含層からは弥生時代後半期以降の遺物が出土したほか、SD01では古墳時代中期～後期の土師器、須恵器が確認された。今回の調査範囲では弥生時代中期以降の数少ない遺構である。B区も他の調査区と同様、圃場整備による削平を受けているが、少なくとも古墳時代後期までは人々が暮らしていたことがわかる。なお、仁摩町教育委員会（当時）が実施した調査で、中世以降の遺構・遺物が東側隣接地（第3図：仁摩町A区～D区）で確認されている。（仁摩町教委 1999）

弥生時代前期

弥生時代前期の遺構では、溝状遺構（SD03・04）が確認された。SD03は南に隣接するD区・C区・H区で検出された溝（遺構名：SD01）と一連のもので、SD01については杭列や配石といった施設の存在から灌漑用施設としての機能が想定されている。SD04も遺物は出土していないが、同一の検出面で規模も類似していることから弥生時代前期の可能性が高い。

また、B区西端では水田遺構を確認した。区画は一辺3～5mと小規模で、畦は区画ごとに互い違いに交わっている。遺物は畦を形成する高まりから突帯文土器が出土した。水田面からの出土遺物はなくAMS年代測定では弥生時代中期の測定値が示されている。（第5章参照）しかし、水田区画の規模や形態は、西日本の弥生時代前期の水田と同様なもので、前述したSD03（D・C・H区SD01）の存在を考えると、この水田は弥生時代前期と推定される。弥生時代前半期の水田遺構は、島根県内では浜寄・地方遺跡のもの（島根県教委 2006）が唯一で、弥生時代中期以前とされている。

このほか、SR01からは弥生土器が多数出土した。不整形な自然流路で、人工的なものではないが、完形の土器や大形の破片が出土し、意図的に投げ込まれた可能性が考えられる。また底面からは弥生時代前期初頭の土器とともに突帯文土器が出土している。

縄文時代晩期

縄文時代晩期の遺構面は第2～第4遺構面の3面が確認された。第2・第3遺構面では口縁部に刻目をもつ晩期前半の土器から突帯文土器までの遺物が出土しているが、土器の下限を見ると第2遺構面では晩期VI期であるのに対し、第3遺構面では同V期と古い傾向を示し、一定の時期差があることがわかる。また、第4遺構面では突帯文土器は見られず、遺構面の時期は縄文晩期前半と判断できる。

動物遺存体について見ると、第4遺構面の土器溜まり1を中心に多種多様な資料が採取されている。イノシシ、ニホンジカのほか、ノウサギ、ネズミといった小形のほ乳類も確認された。また、

カエルなどの両生類、ヘビなど爬虫類も確認されている。またニシン科、スズキ科などの海産魚類や、トドなど海生ほ乳類の骨が出土したほか、アユ・カワウソといった河川に生息する魚やほ乳類も確認されている。

当時は海岸線が遺跡に近い位置にあったと考えられるが、海、山、河川と周辺の自然環境を生かした動物資源の利用を行っていたことがわかる。なお、イノシシ・ニホンジカの資料のうち、火を受けたことがわかる資料はイノシシで10%、ニホンジカで14%である。種が不明なものを含めた資料全体では約4割の遺存体が火を受けているが、イノシシ、ニホンジカについてはこれより低く、直接火をあてるような処理は一般的ではなかったと考えられている。

この時期の遺構については、南に隣接するD区・C区と同様にB区においても地床炉とピットが多数確認されており、D区で見られた地床炉・ピットの範囲は北に拡張することになる。また、時期が古くなるにつれて地床炉の数が減少し、ピットの数が増大していくのが見てとれる。D区・C区においても地床炉は突帯文期に、ピットは晩期前半に集中して検出されることが報告されているが、これと同じ状況がB区でも確認され、古屋敷遺跡の北部域は土地利用のありかたが共通していることが明らかになった。

縄文時代後期

第4遺構面と第5遺構面との間にある青灰色粘土から下位は、縄文時代後期の遺物のみが出土しており第5遺構面は後期と判断できる。後期の遺物は、古屋敷遺跡の中ではこの調査区から最も多く出土している。縁帯文期のものが主体であるが、磨消縄文土器群である暮地式もわずかながら認められ、これは古屋敷遺跡では最古段階のものである。また、後期の遺物包含層からは、九州の影響を受けた土器が数点出土している。縁帯文期の沖丈式に併行する時期のもので、当該地域との交流がうかがえる。

検出した遺構では、確実なものは地床炉3基で、ほかに南壁で確認された竪穴住居状の落ち込みがある。地床炉については検出数が少ないが、遺構面の検出範囲も極めて狭いため、晩期前半に見られた地床炉の減少傾向が後期にさかのぼるのかは不明である。落ち込みについては壁面での確認にとどまったが、縄文時代後期に古屋敷遺跡が居住域として利用されていた可能性を示すものである。

2. 古屋敷遺跡A区～I区発掘調査の総括

古屋敷遺跡の発掘調査は、平成25年度から27年度にかけて3年間にわたり、A区からI区の9地区に調査区を分割して実施された。各調査区では縄文時代晩期を中心とした調査が行われ、調査区ごとに発掘調査報告書が作成されている（島根県教委2017a・b・c・d）。この調査では、とくに晩期の遺構・遺物について重層的に確認されたことは重要である。

各報告では「第1遺構面」「第2遺構面」・・・と遺構面ごとに報告されているが、調査区によって遺構面の時期が異なるため、各遺構面の整理を行う必要がある。そのため、層位や遺構出土土器に基づいて晩期編年を整備し、その後に各遺構面・遺構の時期的な整理を行うことにする。なお、A区報告書（島根県教委2017a）でA区の資料を使い編年を試みているが、本稿では全ての調査区の資料を検討した。そのため、前稿とは若干の齟齬がみられるが、古屋敷遺跡では本稿が最終的な編年となる。

(1) 縄文晩期の土器編年

晩期前葉1期（第82図1～8） 三田谷Ⅰ遺跡SD04出土土器に類似した土器（岡田・千2006）を抽出した。おおむね近畿地方の滋賀里Ⅱ式に相当する。F区第3遺構面がこの時期に相当する可能性があるが、この層では出土土器が少ないため古屋敷遺跡では晩期初頭を明確にすることはできない。B区第4遺構面やH区第4・第5遺構面で少数出土しており、これを図示した。

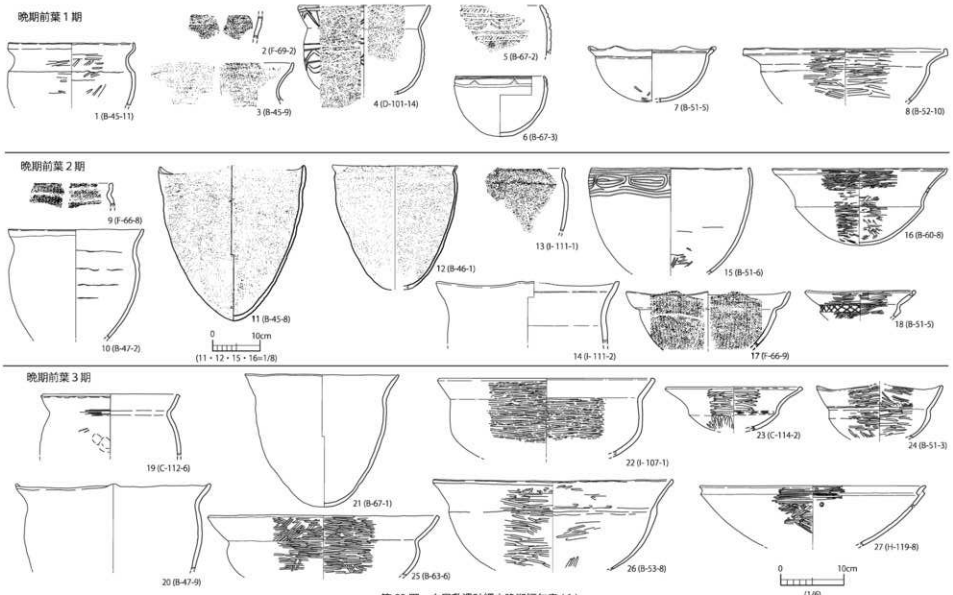
深鉢（1～3）は口縁部が短く屈曲し頸部が緩く外反する。肩部には明瞭な稜がつく。2は山形の文様が施されている。浅鉢は櫛原文様（5）やそれに類似した文様（6）をもつボウル形が伴うと考えられる。4のような山形文様は、大阪府向出遺跡の事例からこの時期と考えられる（財団法人大阪府文化財調査研究センター2000）。口縁部が短く屈曲する長頸浅鉢（8）や短頸浅鉢（7）が組成する可能性がある。

晩期前葉2期（第82図9～18） B区第4遺構面・H区第4・第5遺構面出土土器から抽出した。口縁部の屈曲がなくなり、外面がわずかに肥厚するもの（10）や口頸部境界に稜がつくような深鉢（11・14）が、型式学的には1期に後続すると考えられる。また、口縁部や頸部が凹線様にくぼむもの（12・13）もこの段階に含めた。型式学的には2時期に分けるべきかもしれないが、層位的に分離できず一括資料にも恵まれないことから、ここでは同時期として扱う。浅鉢は、櫛原文様が崩れたと考えられる楕円形意匠を連ねた文様（15）や多重沈線文が描かれたボウル形（F区66図3・4）がこの時期まで存在する。長頸浅鉢（16・18）や短頸で口縁部が長く伸びるもの（17）も組成すると考えられるが、層位的なまとまりがなく1期または3期との識別はできていない。長頸浅鉢は、口縁部の屈曲がゆるくなる傾向にあるようである（16）。近畿地方の滋賀里Ⅲa式に相当する。

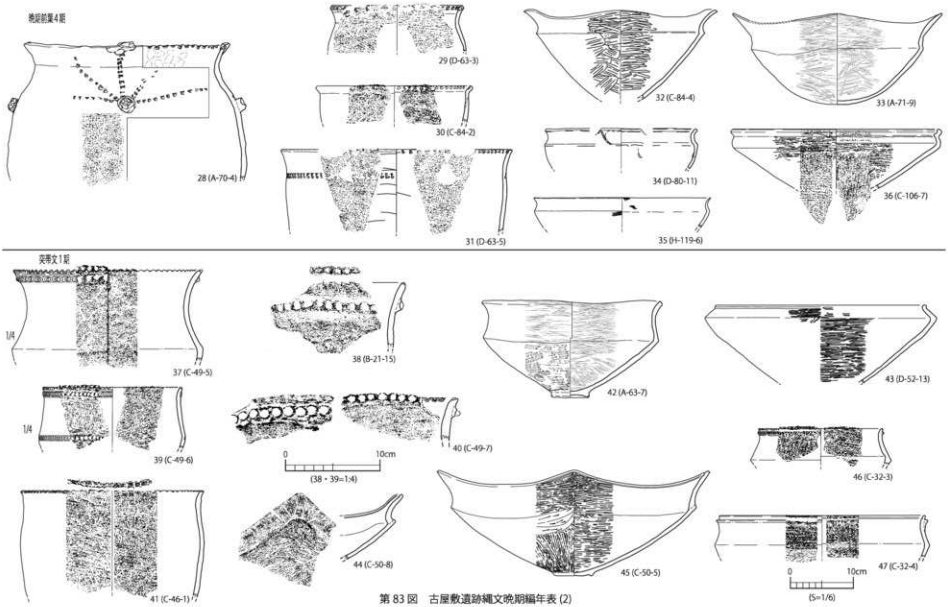
Ⅰ区炭だまり06では、屈曲口縁の名残りがみえる深鉢（14）と口縁部を凹線様に若干くぼませる深鉢（13）が共に出土しており、共時性がうかがえる。また、F区第2遺構面出土土器のうち、後期土器を除いたもの（9・17）は一括性が高い。

晩期前葉3期（第82図19～27） Ⅰ区炭だまり（SK）18で一括して出土し、H区第5遺構面出土土器のほとんどがこの時期に相当する。深鉢は頸部が緩く外傾または外反するもの（20・21）が多く、19のように強く屈曲するものも含めた。これらは次期の原田式に似るが、比較的薄い作りで、全面に比較的ていねいなナデ・ミガキ調整が施される。また、原田式に特徴的な口縁部内面の刺突文や刻み目文は施されていない。頸部屈曲部にはごくわずかだが水平方向にナデが加えられた痕跡があり、肩部には鈍い稜がつくものが多い。これは2期にみられた口頸部を区別する意識が残存していると思われる。文様・器形に特徴がないため、個体では識別困難かもしれないが、原田式には二枚貝条痕が一定量混じること、口縁内面の刺突文や口唇部の刻み目文が相当量存在することなどから、この段階との区別が可能である。器面調整にナデ調整が多用される特徴は、滋賀里式3期の調整と同調していると思われる（岡田・千2006）。篠原式古段階に相当するかもしれない。

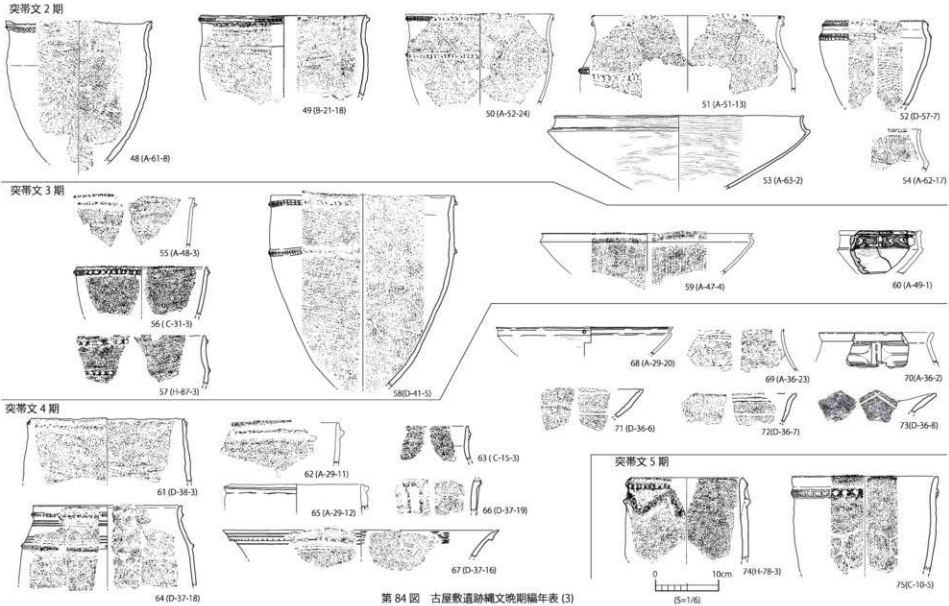
浅鉢はボウル形の器形が消失する。長頸浅鉢はⅠ区第5遺構面では出土していないが、Ⅰ区第4遺構面、同第3遺構面で16に類似した口縁端部の屈曲が緩いものや内面が段化したもの（23）が存在するので、この時期まで存続していると考えられる。24・25なども長頸浅鉢の系譜と考えられる。また、26のようにヘルメット形を呈するものがあるなど浅鉢の器形は多様化する。口径の大きな短頸浅鉢（27）がこの段階から出現する。



第 82 図　古屋敷遺跡縄文晩期編年表 (1)



第 83 図　古屋敷遺跡縄文晩期編年表 (2)



第 84 図　古屋敷遺跡縄文晩期編年表 (3)

晩期前葉4期（第83図28～36）　口縁部内面の刺突文や口唇部の刻み目文を特徴とする時期で、岡田憲一によって原田式とされたものである（岡田・千2006）。D区第5遺構面炭だまり4やH区炭だまり17で一括性の高い資料が得られている。

深鉢の器形は、口縁部が強めに外反するもの（28～30）が多い。30は口頸部が短く明瞭に屈曲し、古い様相を保持している。内面の刺突文は、古屋敷遺跡では円形のもの（29）は少なく、方形あるいは叉状工具（31）による刺突文が目立つ。また、胴部外面にも刺突文が施されるもの（31）が一定量存在する。この段階から、二枚貝条痕が多用される。

浅鉢は、胴部に稜を持ち口縁部が外反する器形が主体となる（32～35）。口縁部は長短あり、短頸化を指向するもの（34～36）と長頸を指向するもの（32・33）がみられる。36は前段階の長頸浅鉢が短頸化し口縁内面に段を有するものだが、この系譜の浅鉢はこの段階ではほとんど消失していると思われる。

突帯文1期（第83図37～47）　B区SK13・同SX01・C区第5遺構面・D区炭だまり3で一括性が高い。深鉢は口縁部に突帯文を付すものが出現し（37～40）、刻み目文を持つ単純口縁深鉢（41）と共存する。器面に二枚貝条痕が施されることが多い。

突帯文土器は、厚みを持った口唇部と突帯上に「O」字または「D」字の大きな刻み目文（37～40）が施され、突帯文は口縁部の下位に位置する。口唇部と突帯上に刻み目文を有すのが基本だが、少数ながら口唇部が無文のものがある。これは突帯文の位置が38のようなかなり下位にあり、層位的にも古く位置づけられる。また、40のように突帯文を付しながら口縁部内面に刺突文が施されるものがごくわずかに存在する。これは前段階からの型式学的連続性を示している。

B区SK13・同SX01・D区炭だまり3の出土状況からは、上記の突帯文と口唇部に刻み目文を有した単純口縁の深鉢（41）が伴うと考えられる。口唇部の内側を刺突するものは認められる（B区SX01　第33図3など）が、内面刺突文土器はこの段階では消失している可能性がある。胴部の刺突文も前段階に継続している（39）。上述した突帯文の出土数が少ないことを考えると、むしろ単純口縁の深鉢が主体的だった可能性が高く、この段階は口唇部刻み目文が施された単純口縁の深鉢に少数の突帯文土器が組成すると考えられる。

浅鉢は口縁部が直立または外反する胴部屈曲浅鉢（42）が主体的となり、短頸の屈曲浅鉢（43）も出現していると思われる。上面観が方形を呈す方形浅鉢（44・45）は主にこの段階と思われる。また、C区第5遺構面では口縁部に突帯文を付した胴部屈曲器形の浅鉢が出土している（46・47）。

突帯文2期（第84図48～54）　A区第7層出土土器のうち、突帯文1期以前のものを除いた一群がこの時期に相当する。二条突帯文（50～51）が出現するが、組成率は低いと思われる。刻み目文を有する単純口縁深鉢はこの時期も継続して存在する。器面には二枚貝条痕が観察できるものの、消失する傾向にある。

深鉢は口頸部が外反（48･50）または内傾気味の器形（51・52）のほか、寸胴に近い器形（49）がある。突帯文の位置は口唇部近くに上昇するものが増え（48・49・52）、口唇部が先細状になるもの（49）がみられる。口唇部の刻み目文は省略されるもの（49）が出現し、口唇部に施文されるものでは刺突文が著しく小型化したもの（50）がある。胴部の屈曲が顕著な深鉢（48）は出土数が少ないが、二条突帯文と同調して出現すると思われる。突帯文深鉢の以上のような変化は、

A区第7層から第6層、D区第6遺構面から第3遺構面にかけて漸移的に遷移する様相がうかがえ、従来の変遷観（家根 1994）に適合する。

浅鉢は前段階に出現した薄手の「く」の字形口縁（53）が主体的になるが、長頸化し壺形を指向するもの（54）がこの時期には出現している。これらは口縁端部が外面に屈曲する特徴がある。前段階で出現した胴部屈曲浅鉢（42）はこの段階にも存続するが、器壁がやや厚いこと、口縁端部が単純であることなどから、54と区別できる。方形浅鉢（44・45）や突帯文を付す浅鉢（46・47）は、この時期まで存続している可能性がある。

突帯文3期（第84図55～60） 二条突帯文土器に寸胴器形（58）が多くなる時期である。A区SR3出土土器は若干古相の土器を含むものの一括性が高い一群で、A区6層土器だまり1の大部分もこの時期の可能性がある。器面は平滑に仕上げられるものが多く、二枚貝条痕の退潮が著しい。刻み目文は小型で浅く刻まれ(55)、深鉢の口唇部は先細か突帯が口唇部に接する。刻み目文は口唇部には施されないもの（56）が増加するが、突帯文2期との個体識別は困難である。二条突帯文深鉢は、胴部突帯が胴部最大径の位置につくもの（58）のほか、口縁部突帯との間隔が狭いものがある（57）。

浅鉢は前段階同様「く」の字形の短頸（59）の浅鉢が主体を占めるほか、小型の浅鉢（60）が出現する。

突帯文4期（第84図61～73） A区3層・D区第2遺構面でまとまって出土している。深鉢は「V」字刻み目文（61）が多数を占め、無刻み目の突帯文（62・65）が一定量存在する。この時期、二条突帯文は減少する。この時期から弥生前期土器（遠賀川式）が出現しており、A区第3層では弥生土器はわずかであるが、D区第1遺構面では弥生前期土器が突帯文を凌いでいる。突帯文の位置は口唇部に接しているものもある（61・65）が、やや下位に位置するものもある（62）。64・67は中山B式に似た土器で、64は沈線文が二条突帯文土器に写されたものと考えることができる。66は垂下する突帯文が特徴的で、濱田竜彦によって「イキスタイプ」とされた土器（濱田 2005）である。A区第3層やD区第2遺構面の出土状況からは、中山B式やイキスタイプはこの時期に出現するようである。これらの深鉢は器面の仕上げが雑なものが多い（61）。

浅鉢は、口縁部がやや長く内傾したもの（69）が主体だが、口径部が短く屈曲したもの（68）も存続している。68は53などと比べて口頸部が短くなっている。皿形の内面に沈線文が施されるもの（71～73）が少数存在し、山陰地方に特徴的な三田谷文様（70）はこの時期と考えられる。

突帯文5期（第84図74・75） H区SR01出土土器のうち、内面刺突文・口唇刻み目文土器を除いたものが相当する。H区SR01やC区第1遺構面では弥生前期土器の出土は少ないが、この時期には弥生前期土器が主体的になっていると考えられる。

深鉢は、太い突帯文が付され、74のように蛇行する意匠を描くものもある。刻み目文は「V」字刻み目文（74）のほか、大きな「O」字刻み目文（75）が施される。器面はナデ調整が施され、比較的平滑に仕上げられている。

浅鉢は、C区第1遺構面で三田谷文様が描かれたものが1点出土している（C区第10図6）だけで、この時期には浅鉢はあまり使用されていないと思われる。

(2) 検出された遺構の性格

以上の編年と従来の後期土器編年を踏まえて、各地区各遺構面の時期を第1表に、各地区の遺構の時期を第2表にまとめた。各遺構面・遺構の併行関係はこれを参考にしていただきたい。

古屋敷遺跡の土地利用は後期初頭以降だが、比較的まとまって出土したのは後期中葉・沖丈式である。とくにD区第8遺構面G10土器だまりに集中的に出土しており、この近辺で集落が営まれていた可能性がある。その後権現山式から晩期初頭・滋賀里式2期の間、土器の出土数は極めて少なく、調査区外の近隣に主体があったと思われる。

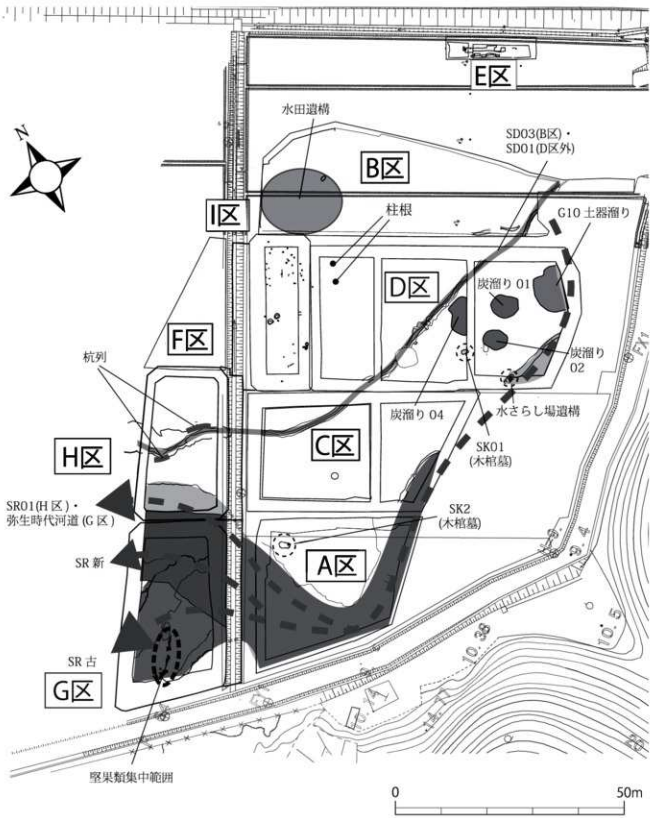
遺跡の中心となるのは晩期前葉3期から突帯文5期/弥生前期Ⅰ－2様式の間である。各調査区からは多数のピット群、炭だまり（土坑を含む）50、地床炉344、配石4、集石6、土器だまり9、木棺墓3、貯蔵穴1、水さらし場遺構1などが検出された。これらは主に晩期前葉3期から突帯文5期（弥生第1－2様式）にかけての遺構である。このうち、配石、集石、木棺墓以外は中国地方で一般的な縄文時代集落の組成である。報告では明確な建物跡が検出されなかったとするが、C区第2遺構面SX06（突帯文3期）、D区第5遺構面炭だまり1（突帯文2期）・3・4（突帯文1期）が竪穴建物跡の可能性がある。いずれも平面形が略楕円形あるいは不整形の浅い落ち込みで、長径5～7mと縄文時代晩期の竪穴建物跡と同等の規模である。西日本では、同様の不整形な遺構を竪穴建物跡として認定されており（山田2002）、これらの遺構も竪穴建物跡の可能性を完全に排除するものではない。このほか、柱穴がD区第5遺構面F10付近・第8遺構面G8付近ピット群は配列が規則的で、建物跡の可能性が高い。その他のピットも建物跡の痕跡と考えられ、竪穴建物と平地建物が併存していた可能性がある。

各調査区では河川跡が合計9検出された。これらは一時期には一つの流れだったと考えられ、上記遺構群とほぼ時期を同じくして流れていたようである。B区南東端（SR01）・D区南東端・A区東側とおおむね北東から南西に向けて流れ、A区中央で大きく蛇行していた。河川跡の状況と先述の集落遺構を重ねると、古屋敷遺跡は河川が蛇行する地点に営まれた集落景観が復元できる（第85図）。また、河岸近くには水さらし場遺構（D区）、貯蔵穴（D区）、堅果類集中箇所があることから、河川が積極的に利用された状況が窺える。

この河川は、最初は現在の市道に沿って流れていた（G区SR古）が、突帯文3期にA区・G区でやや北寄りに流れを変え（G区SR新）、さらに突帯文4期にG区弥生時代河道・H区SR01へと次第に北に向きを変えている。この河川跡は、晩期前葉4期から突帯文5期（弥生Ⅰ－2様式）まで存在し、これ以後埋没したと考えられる。ピット群は突帯文4期以降分布の中心を東寄りに変えており、これは河川の流路変更に連動しているように思われる。さらに、河川が北寄りに流路をとることによってB区西側が湿地となり、ここが水田に適した環境となったことから、ここにB区水田遺構が造られるようになったと考えられる。

生業遺構としては、D区で水さらし遺構（突帯文4期）が、G区第5遺構面（突帯文3～4期）で堅果類集中箇所が、第2遺構面（同）でクルミ集中出土箇所が確認された。出土した堅果類はトチの実とクルミが中心で、縄文時代の貯蔵穴に一般的に貯蔵されるカシ類ドングリ（柳浦2004）はほとんど出土していない。種実がトチの実とクルミに偏る状況は特異で、縄文時代晩期の植物質食料について古屋敷遺跡のありかたが特殊かどうか検討する必要がある。

古屋敷遺跡では344箇所もの地床炉が検出された。大多数はやはり晩期前葉3期から突帯文4



第 85 図　古屋敷遺跡主要遺構・河道位置図

期にかけて累積的に形成されたものである。調査面積が広く、累積の結果とはいえ、1遺跡の検出数としてこの数は異常である。火を炊く作業としては、日常的な調理、堅果類の熱処理などがもっとも考えやすいが、日常的な調理だけでは大量の地床炉が形成されることはないと思われる。堅果類の加熱処理施設のほか、祭儀に伴う饗宴の準備の可能性（川島 2015）も考慮しておきたい。

墓は、A区とD区で木棺墓3基が検出された。いずれも突帯文4期で、県内最古の木棺墓として注目される。これらは墓群を形成せず単独で築かれている点で縄文時代的であるが、板材を組み合わせた木棺を使用している点では弥生時代的である。いわば新旧が混交しており、移行期の状況がよく分かる例として重要である。

配石・集石は、合計10箇所が検出された。いずれも下部に土坑などの施設を持たず、礫は被熱を受けていないことから、墓や炉跡と考えることはできない。配石・集石は祭儀に関わる遺構として捉えられることが多く（中四国縄文研究会 2011）、本遺跡の配石・集石も同様の性格を有しているのかもしれない。これは、後述のように呪術具とされる「岩版類」が古屋敷遺跡で大量に出土したことに関係があるように思われる。

古屋敷遺跡では、白色軟質の凝灰岩を利用したいわゆる線刻礫が12点出土した。ほかに孔が穿たれたり研磨痕が著しい同質石材の石器が多数出土し、合計すると100点を超える。特に、丁寧に整形されたC区第33図7・8などは東北地方の岩版に酷似しているという（山田 2017）。部分的に研磨痕があるものも、軟質のため磨石としては使用できないので、精粗はあるもののこれらはやはり岩版類として分類されるべきであろう（大野 2007）。

岩版類の出土、多数の地床炉、配石・集石の存在を併せて考えると、古屋敷遺跡は集落というだけではなく祭儀・儀礼の場だったことを示唆している。地床炉や岩版類の多さから、祭儀の主体者は古屋敷遺跡のみならず、千後田遺跡、川向遺跡など、近隣集落との共同祭儀が行われた場所として位置付けることができよう。

【参考文献】

仁摩町教育委員会 1999『五丁地区遺跡群発掘調査報告書』

島根県教育委員会 2006『浜寄・地方遺跡』2006

島根県教育委員会 2017 a『古屋敷遺跡（A・E区）』

島根県教育委員会 2017 b『古屋敷遺跡（D区）』

島根県教育委員会 2017 c『古屋敷遺跡（C・F・H・I区）』

島根県教育委員会 2017 d『古屋敷遺跡（G区）』

大野淳也 2007「北陸地方における岩版類について－桜町遺跡出土品を中心に」『富山県小矢部市　桜町遺跡発掘調査報告書　縄文時代総括編』富山県小矢部市教育委員会

岡田憲一・千葉幸 2006「二重口縁と孔列土器」『古文化談叢』第55号　九州古文化研究会

川島尚宗 2015『生産と饗宴からみた縄文時代の社会的複雑化』六一書房

中四国縄文研究会 2011『中四国地方の縄文時代の精神文化』

濱田竜彦 2005「山陰地方における縄文時代晩期土器について」『縄文時代晩期の山陰地方』中四国縄文研究会

山田康弘 2002「中国地方の縄文集落」『島根考古学会誌』第19集　島根考古学会

山田康弘 2017「縄文時代研究からみた古屋敷遺跡」『季刊文化財　第141号』島根県文化財愛護協会

柳浦俊一 2004「西日本縄文時代貯蔵穴の基礎的研究」『島根考古学会誌』第20・21集　島根考古学会

家根祥多 1994『近畿地方の土器』『縄文文化の研究4　縄文土器Ⅱ』雄山閣

第1表　各遺構・包含層の時期

区	遺構面	遺構	後期 前葉	後期 中葉	後期 後葉	後期 末葉	晩期前葉 1	晩期前葉 2	晩期前葉 3	晩期前葉 4	突帯文 1	突帯文 2	突帯文 3	突帯文 4	突帯文 5	弥生 I-2
A区	第1・2層	包含層												○		
	第1・2層	ピット群	(弥生以降)													
	第3層	SX1												○		
		SK2												○		
		地床炉														
		ピット														
		集石1・2														
		河道(SR1)										?	○	○		○
		河道(SR2)										○	○			
		河道(SR3)										?	○			
	第5層	包含層											○			
	第6層	包含層									?	○				
		土器だまり1									?	○	○			
		ピット								○		○				
	第7層	包含層									○	○				
	第7層	土器だまり2								○						
	第7層	土器だまり4								○	○					
	第8層	包含層								○	○					
	第10層	包含層		?	?	?		?								
	第11層	包含層		?		?										
B区	第1遺構面	SR1											?	?		○
	第2遺構面	包含層							?		○	○	○			
	第3遺構面	包含層								?	○	○				
		SK04						○								
		SK05								?						
		SK13									○					
		SX01									○					
		ピット群						○				○				
		地床炉														
	第4遺構面	第4遺構面及び灰色粘土Ⅱ						○	○							
		SK12														
		SD09					?									
		土器溜まり1					?	○	○							
		地床炉														
		ピット群														
		湿地		?				?	?	?	○	○	?			
	第5遺構面	地床炉														
		緑灰色粘土					○		○							
		青灰色粘土		○												
		暗オリーブⅠ		○												
		暗オリーブⅡ	○	○												
		青灰色砂礫	○	○												
C区	第1遺構面	包含層													?	○
		SR01														○
	第2遺構面	包含層												○		○
		SX06												○		
		SD01												○		
	第3遺構面	包含層												○	?	?
	第4遺構面	包含層											○	?		?
	第5遺構面	包含層									○					
		土器だまり1									○					
		配石遺構1														
		集石遺構1														
		地床炉														
	第6遺構面	包含層								?	○	?				
		土器だまり2								○	?					
		土器だまり3									○					
		SD02								○						
		集積2・3									○					
		SD02								○						
		SD03									?					
		SX72								?						
		SX83								?						
		SK04								?						
		ピット94									○					
	第7遺構面	包含層								○	?					
		ピット群														
		土坑														
		地床炉														
	第8遺構面	包含層									○					
		土坑														
		地床炉														
		ピット群														
	第9遺構面	包含層									?					
D区	第1遺構面	包含層												○		○
		SD01												○		○
		SX01														○
		SX02														○
		SX03														
	第2遺構面	包含層											○	○		○
		SK01											○			
		SK02												○		○
		地床炉														
		ピット群														
	第3遺構面	包含層										○	○	?		
		土器だまり1											○			
		地床炉														
	第4遺構面	包含層									○	○	○	?		
		配石1														
		土器だまり3								○	○					
		地床炉														
		ピット群														
D区	第5遺構面	包含層							?	?	○					
		炭だまり1									○	?				
		炭だまり2														
		炭だまり3									○					
		炭だまり4								○						
		地床炉108								○						
		地床炉														
		貯蔵穴(Pit68)														
		SX12														
		ピット群														
		水さらし場遺構												○		
	第6遺構面	包含層							○	○	○	?				
		配石3														
		地床炉														
		ピット群														
	第7遺構面	包含層		○			?		○	○						
		SK13								?						
		SK15								?						
		SK19		○												
		SX21		○					?							
		ピット群														
	第8遺構面	包含層		○					?							
		G10土器だまり		○	?	?										
		柱根														
		ピット群														
F区	第1遺構面	包含層									?					
		地床炉														
	第2遺構面	包含層		?		?			○							
	第3遺構面	包含層					?									
G区	第1遺構面	包含層												○		
		弥生の川跡												○		○
	第2遺構面	包含層									?	○	○			
		地床炉											○			
		ピット群														
		クルミ集中範囲											○	○		
		SX00(地床炉)											○			
		SX01(地床炉)									?					
		SX05(地床炉)											?			
		SX12(地床炉)											○			
		SX14(地床炉)											?			
		SX18(地床炉)										?				
		SX23(地床炉)									?					
	第3遺構面	包含層									○	○	○	?		?
		ピット群														
		SX25(地床炉)									?					
		地床炉														
	第4遺構面	包含層									○	○				
		SR新	?	?							?	○	○	?		?
		SX32(地床炉)									○					
	第5遺構面	包含層									○	?				
		堅果類集中1										?				
		堅果類集中2										○				
		堅果類集中7												○		
	第6遺構面	SR古	○	○					?	○	○	○	○		?	
H区	第1遺構面	包含層										?	○	?		
		SD01													?	?
		SD02・03														
		SR01												○	○	○
		地床炉														
		炭だまり														
	第2遺構面	暗青灰色粘質土							?		○?	?				
		黒灰色粘質土							?			○				
		炭だまり17								○						
	第3遺構面	包含層								○						
	第4遺構面	包含層					?		○			?				
	第5遺構面	包含層		?					○							
	第6遺構面	包含層			?											
	第7遺構面	包含層	○	?												
	第8遺構面	黒褐色粘質土	○													
		黒褐色レキ														
		白灰色砂礫														
		白灰色粘質土	○													
		濃褐色粘質土	○													
I区	第1遺構面	包含層									?	○		?		
	第2遺構面	暗青灰色粘質土									○	?	○			
		黒灰色粘質土									○					
		地床炉														
		炭だまり														
	第3遺構面	包含層				?			○	?	?					
		炭だまり02								?						
		炭だまり03							○							
		炭だまり27						?	○							
		炭だまり28							○							
		配石														
		ピット群														
	第4遺構面	包含層							?	○						
		炭だまり06						○								
		炭だまり07						○								
	第5遺構面	包含層		○			?									
		炭だまり18							○							
	第6遺構面	包含層		○												
	第7遺構面	包含層	?	○												
	第8遺構面	黒褐色粘質土	○													
		黒褐色レキ	○													
		白灰色砂礫	○													
		白灰色粘質土														
		濃褐色粘質土	○													

※　○は主体的に出土した型式。？は少数か時期が断定しづらいもの。空欄は土器が出土していない遺構。
後期前葉：暮地式～崎ヶ鼻式
後期中葉：沖丈式～権現山式
後期後葉：宮滝式
後期末葉：滋賀里Ⅰ式

第2表　各遺構面の時期

区	遺構面	後期				晩期前葉				突帯文					弥生
		前葉	中葉	後葉	末葉	1	2	3	4	1	2	3	4	5	I
A区	第1・2層												○		
	第3層										○	○	○		
	第5層												○		
	第6層								○	○	○	○			
	第7層								○	○	○				
	第8層								○	○					
	第10層		？	？	？		？								
	第11層		？		？										
B区	第1遺構面											？	？		○
	第2遺構面							？		○	○	○			○
	第3遺構面						○		？		○				
	第4遺構面					？	○	○							
	第5遺構面	○	○			○		○							
C区	第1遺構面													？	○
	第2遺構面												○		
	第3遺構面												○		
	第4遺構面											○	？		
	第5遺構面									○					
	第6遺構面								○	○	？				
	第7遺構面								○	？					
	第8遺構面									○					
	第9遺構面									？					
D区	第1遺構面												○		○
	第2遺構面										○	○	？		○
	第3遺構面											○	○		
	第4遺構面								○	○	○	○	？		
	第5遺構面							？	○	○	？				
	第6遺構面							○	○	○	？				
	第7遺構面		○					？							
	第8遺構面		○	？	？			？							
F区	第1遺構面									？					
	第2遺構面		？		？			○							
	第3遺構面					？									
G区	第1遺構面												○		○
	第2遺構面									？	○	○	○		
	第3遺構面									○	○	○	？		？
	第4遺構面									○	○	○	？		？
	第5遺構面									○	○		○		
	第6遺構面	○	○					？	○	○	○	○		？	
H区	第1遺構面										？	○	○	○	○
	第2遺構面							？	○	○	？				
	第3遺構面								○						
	第4遺構面					？		○			？				
	第5遺構面		？					○							
	第6遺構面			？											
	第7遺構面	○	？						○						
	第8遺構面	○													
I区	第1遺構面									？	○	？			
	第2遺構面									○	？	○			
	第3遺構面				？		？	○	？	？					
	第4遺構面						○	？	○						
	第5遺構面		○					○							
	第6遺構面		○												
	第7遺構面		○												
	第8遺構面	○													

○は主体的に出土した型式。？は少数か時期が断定しづらいもの

第3表　古屋敷遺跡(B区)出土土器観察表

挿図番号		器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	出土地点	出土遺構・層位	PNo	胎土(砂粒)	色調	調整及び文様等	備考
6	1	鉢					試掘		3mm以下	(外) にぶい黄橙10YR7/3 (内) にぶい橙7.5YR7/4	(外) 縄目縄文?、ナデ? (内) 条痕、ナデ	嶋ヶ鼻式
6	2	深鉢				E4E5	試掘		2mm以下	(外) 灰黄褐10YR6/2 (内) 黒N1.5/	(外) 刻目、刺突文、条痕? (内) 条痕	晩期
6	3	浅鉢					試掘		2mm以下	(外) 灰黄褐10YR4/2 (内) 灰黄褐10YR5/2	(外) 穿孔、条痕、ナデ (内) 条痕	
6	4	甕	(25.0)			E10	包含層		3mm以下	(外) にぶい黄橙10YR6/3 (内) 明褐7.5YR5/6	(外) 刻目、沈線、ハケメ (内) 風化のため不明	
6	5	甕	(18.6)				包含層	1	3mm以下	(外) にぶい褐7.5YR5/4 (内) にぶい黄橙10YR6/4	(外) ヨコナデ、ハケメ (内) ヨコナデ、ケズリ	
6	6	甕	(16.0)		26.5	C5	包含層	2	3mm以下	(外) 橙7.5YR7/6 (内) 灰白10YR7/1	(外) ナデ、ハケメ (内) ハケメ、ケズリ	
6	7	高坏				D5	包含層		3mm以下	(外) 灰白2.5Y8/1 (内) にぶい黄橙10YR7/2	(外) 沈線、ミガキ (内) ミガキ、ケズリ?	
6	8	脚部					包含層	2	2mm以下	(外) 暗灰黄2.5Y5/2 (内) にぶい黄橙10YR6/3	(外) 孔、ミガキ (内) ナデ	
6	9	底部		(8.8)			包含層		3mm以下	(外) 灰白2.5Y8/2 (内) 灰白10YR8/2	(外) ハケメ (内) 風化のため不明	
6	10	底部		(8.2)			表土中		1mm以下	(外) 灰黄褐10YR5/2 (内) 灰黄褐10YR6/2	(外) 風化のため不明 (内) 風化のため不明	
12	1	甕	(20.0)			E5	SD01		1mm以下	(外) 橙7.5YR6/6 (内) 橙7.5YR7/6	(外) ヨコナデ (内) ヨコナデ、ケズリ	
12	2	甕				E7	SD01		1mm以下	(外) 黄灰2.5Y6/1 (内) にぶい黄褐10YR5/4	(外) 風化のため不明 (内) 風化のため不明	
12	3	甕				E5	SD01		4mm以下	(外) 橙5YR6/8 (内) 橙2.5YR6/8	(外) 風化のため不明 (内) 風化のため不明	
12	4	高坏					SD01		4mm以下	(外) 橙5YR6/8 (内) 明赤褐5YR5/6	(外) 風化のため不明 (内) 風化のため不明	
12	5	脚部		(7.6)			SD01		2mm以下	(外) 橙2.5YR6/8 (内) 灰白7.5Y7/1	(外) 風化のため不明 (内) 風化のため不明	
12	6	脚部(高坏)		(9.6)		F4	SD01		1mm以下	(外) 灰白10YR8/2 (内) 灰白2.5Y8/1	(外) ハケメ? (内) ナデ?	
12	7	[illegible]					SD01		0.5mm以下	(外) 灰白N8/ (内) 灰白N7/	(外) 刺突文、沈線、穿孔、回転ナデ (内) 回転ナデ	
12	8	甕	(34.4)			D10 E10	SD03		3mm以下	(外) にぶい橙7.5YR7/4 (内) 浅橙5YR8/4	(外) 刻目、刺突文、紐、ヨコナデ、ハケメ (内) ナデ、ハケメ	石見I-2
12	9	壺					SD03		2mm以下	(外) 浅黄2.5Y8/3 (内) 灰白5Y8/1	(外) 風化のため不明 (内) ミガキ?	石見I-2
12	10	甕	(23.4)				SD03		2mm以下	(外) 褐灰10YR5/2 (内) 浅黄橙10YR8/3	(外) 風化のため不明 (内) 風化のため不明	石見I-2
12	11	甕	(23.6)				SD03		2mm以下	(外) 黄灰2.5Y5/1 (内) 橙2.5YR6/8	(外) ヘラ描き沈線 (内) 風化のため不明	石見I-3
12	12	壺					SD03		1mm以下	(外) にぶい黄橙10YR7/4 (内) 浅黄橙10YR8/3	(外) ヨコナデ (内) ハケメ?	石見II-1
12	13	壺					SD03		2mm以下	(外) 浅黄2.5Y8/3 (内) 灰白2.5Y8/2	(外) 刻目突帯文、突帯文 (内) 風化のため不明	石見I-3
16	1	甕	(27.8)			F9	SR01		3mm以下	(外) にぶい黄橙10YR7/2 (内) にぶい黄橙10YR7/2	(外) 沈線、刻目、ヨコナデ、ハケメ (内) ハケメ	石見I-3
16	2	甕				F9	SR01		3mm以下	(外) にぶい黄橙10YR6/3 (内) 橙2.5YR6/6	(外) ヨコナデ、ハケメ (内) ヨコナデ、ハケメ	石見I-1〜2
16	3	甕	(23.6)			F9 E10 F10	SR01		4mm以下	(外) 灰白2.5Y7/1 (内) 黄灰2.5Y4/1	(外) ヘラ描沈線、ヨコナデ、ハケメ (内) ヨコナデ、ハケメ	石見I-2
16	4	甕				F9	SR01		3mm以下	(外) 灰黄2.5Y7/2 (内) 灰白2.5Y8/1	(外) ヨコナデ、ハケメ (内) ヨコナデ、ハケメ	石見I-2
16	5	壺	(14.2)			F9	SR01		3mm以下	(外) 浅黄橙7.5YR8/4 (内) 灰白2.5Y8/2	(外) 段、ヨコナデ、ハケメ (内) ハケメ、ナデ	石見I-2
16	6	壺	17.2	8.8	25.1	F9	SR01	162	2mm以下	(外) 橙5YR6/6 (内) 橙7.5YR6/6	(外) 羽状文、重弧文、沈線、ミガキ (内) 風化のため不明	石見I-2
16	7	壺	(19.0)			F9	SR01		1mm以下	(外) 明黄褐10YR6/6 (内) にぶい黄橙10YR6/3	(外) ハケメ、ミガキ (内) 突帯、ミガキ	石見I-3〜4　口縁内面に突帯
16	8	底部		(9.0)		F9	SR01		2mm以下	(外) 浅黄橙7.5YR8/3 (内) 橙5YR7/6	(外) 穿孔、ミガキ? (内) 風化のため不明	
16	9	底部		(8.3)		F9	SR01		3mm以下	(外) 灰白2.5Y7/1 (内) 浅黄橙10YR8/3	(外) ハケメ、ナデ (内) ハケメ	
17	1	深鉢				F9 F10	SR01		1mm以下	(外) にぶい黄橙10YR7/4 (内) にぶい橙7.5YR6/4	(外) 刻目、突帯、条痕? (内) ナデ	晩期IV〜V
17	2	浅鉢				F9 F10	SR01		1mm以下	(外) にぶい黄橙10YR7/2 (内) 褐灰10YR6/1	(外) ミガキ (内) 沈線、ミガキ、赤彩	晩期II
17	3	甕	(18.8)			F9 F10	SR01		2mm以下	(外) にぶい黄橙10YR7/4 (内) 灰白10YR8/2	(外) 沈線、ヨコナデ、ハケメ (内) ヨコナデ、ハケメ	石見I-2
17	4	甕	(21.4)			F9 F10	SR01		2mm以下	(外) 黄灰2.5Y6/1 (内) 灰黄2.5Y7/2	(外) ヨコナデ、ハケメ、ミガキ (内) ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	石見I-2
17	5	壺				F9 F10	SR01		1mm以下	(外) にぶい橙7.5YR7/4 (内) にぶい橙5YR7/4	(外) ヘラ描重弧文、ミガキ (内) ハケメ	石見I-1
17	6	甕				F9 F10	SR01		-	(外) 黄灰2.5Y6/1 (内) にぶい橙7.5YR6/4	(外) 刻目、ハケメ、ナデ (内) ハケメ、ナデ	石見I-2
17	7	底部		(9.0)		F9 F10	SR01		3mm以下	(外) 橙7.5YR7/6 (内) 褐灰10YR6/1	(外) ハケメ (内) ナデ	
17	8	深鉢				E3	水田畦畔		4mm以下	(外) にぶい黄褐10YR5/4 (内) 黒褐2.5Y3/1	(外) 突帯、刻目 (内) 風化のため不明	晩期IV〜V
17	9	浅鉢				E5	水田畦畔		1mm以下	(外) 灰黄2.5Y6/2 (内) 灰黄2.5Y7/2	(外) ミガキ? (内) ミガキ?	晩期I
21	1	鉢	(17.4)			E4	包含層		2mm以下	(外) 褐灰10YR4/1 (内) 褐灰10YR4/1	(外) ミガキ (内) ミガキ	晩期II
21	2	深鉢				D5 D6	包含層		3mm以下	(外) にぶい橙7.5YR6/4 (内) 橙7.5YR7/6	(外) 刻目、条痕 (内) 条痕?	晩期III
21	3	鉢	(17.0)			E7	包含層		1mm以下	(外) 灰黄褐10YR4/2 (内) 灰白2.5Y8/1	(外) 刻目、条痕、ナデ (内) 条痕、ナデ	晩期III
21	4	深鉢				E4 E5	包含層		3mm以下	(外) 灰白5Y7/1 (内) 灰5Y6/1	(外) 風化のため不明 (内) 孔列文?	晩期III
21	5	深鉢				E6	包含層		3mm以下	(外) 灰白10YR8/2 (内) 灰黄2.5Y7/2	(外) 刻目 (内) 風化のため不明	晩期III
21	6	深鉢				E6 F6	包含層		2mm以下	(外) 灰黄褐10YR4/2 (内) にぶい黄橙10YR7/3	(外) 条痕 (内) 風化のため不明	晩期III
21	7	深鉢				D6	包含層		3mm以下	(外) にぶい黄橙10YR6/4 (内) 橙2.5Y6/8	(外) 条痕、ナデ (内) 風化のため不明	晩期III
21	8	深鉢				E6	包含層		3mm以下	(外) 灰白N8/ (内) 灰白N7/	(外) 刻目 (内) 風化のため不明	晩期III
21	9	深鉢				D4 D5	包含層		3mm以下	(外) にぶい赤褐5YR5/4 (内) 明赤褐2.5YR	(外) 刺突、巻貝条痕 (内) ナデ	
21	10	深鉢				E7 F7	包含層		1mm以下	(外) 灰黄褐10YR4/2 (内) 褐灰N2/	(外) 沈線 (内) 風化のため不明	
21	11	深鉢				D6	包含層	38	2mm以下	(外) にぶい黄褐10YR5/4 (内) 黒褐10YR3/1	(外) 突帯、刻目、沈線、ナデ? (内) ナデ	晩期IV
21	12	深鉢				D6	包含層		2mm以下	(外) にぶい黄橙10YR7/3 (内) にぶい黄橙10YR7/3	(外) 突帯、刻目 (内) 風化のため不明	晩期IV
21	13	深鉢				D6	包含層		2mm以下	(外) 灰黄褐10YR4/2 (内) 灰白10YR7/1	(外) 突帯、刻目、条痕、ナデ (内) 条痕?	晩期IV
21	14	深鉢				D6	包含層		2mm以下	(外) 橙7.5YR6/6 (内) にぶい黄橙10YR7/4	(外) 浮文、刺突、条痕 (内) 条痕?	晩期IV
21	15	深鉢				E4 E5	包含層		3mm以下	(外) にぶい黄褐10YR4/3 (内) にぶい黄橙10YR6/4	(外) 突帯、刻目、条痕 (内) 風化のため不明	晩期IV
21	16	深鉢				E6	包含層		3mm以下	(外) にぶい黄橙10YR6/3 (内) にぶい黄褐10YR5/4	(外) 突帯、刻目 (内) 風化のため不明	晩期IV
21	17	深鉢				E4 E5	包含層		4mm以下	(外) 橙2.5YR6/6 (内) にぶい橙5YR6/4	(外) 突帯、刻目 (内) 風化のため不明	晩期IV
21	18	深鉢					包含層	341	3mm以下	(外) にぶい黄橙10YR7/3 (内) にぶい黄橙10YR7/2	(外) 突帯、刻目、条痕 (内) 条痕、ナデ	晩期V
21	19	深鉢				E6	包含層		3mm以下	(外) にぶい黄褐10YR5/3 (内) にぶい黄橙10YR7/3	(外) 突帯、刻目、条痕? (内) 風化のため不明	晩期V
21	20	深鉢				E6	包含層		2mm以下	(外) にぶい黄橙10YR7/2 (内) 灰黄2.5Y7/2	(外) 突帯、刻目、条痕 (内) 条痕	晩期V
21	21	深鉢				E6	包含層		2mm以下	(外) 灰黄2.5Y7/2 (内) 灰白2.5Y7/1	(外) 突帯、刻目 (内) 条痕	晩期V
21	22	深鉢				E6	包含層		2mm以下	(外) にぶい黄褐10YR5/3 (内) 黒N2/	(外) 突帯、刻目、条痕? (内) 風化のため不明	晩期V
21	23	深鉢				E6 F6	包含層		2mm以下	(外) オリーブ褐2.5Y4/3 (内) にぶい黄橙10YR6/4	(外) 突帯、刻目 (内) 風化のため不明	晩期V

挿図番号		器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	出土地点	出土遺構・層位	PNo.	胎土(砂粒)	色調	調整及び文様等	備考
21	24	深鉢				E6 F6	包含層		1mm以下	(外)灰白10YR8/2 (内)灰白2.5Y8/2	(外)突帯、刻目 (内)風化のため不明	晩期Ⅴ
21	25	深鉢				E6 F6	包含層		3mm以下	(外)にぶい黄褐10YR4/3 (内)にぶい黄褐10YR5/4	(外)突帯、刻目 (内)風化のため不明	晩期Ⅵ
21	26	深鉢				E6	包含層		2mm以下	(外)灰白5Y8/1 (内)暗灰N3/	(外)突帯、刻目、条痕 (内)条痕	晩期Ⅵ
21	27	深鉢				E6	包含層		2mm以下	(外)にぶい黄橙10YR6/3 (内)にぶい黄橙10YR5/3	(外)突帯、刻目 (内)風化のため不明	晩期Ⅵ
21	28	深鉢				E6	包含層		2mm以下	(外)灰黄褐10YR6/2 (内)にぶい黄橙10YR6/4	(外)突帯、刻目 (内)風化のため不明	晩期Ⅵ
21	29	深鉢				E6	包含層		2mm以下	(外)灰黄褐10YR5/2 (内)灰黄褐10YR4/2	(外)突帯、刻目 (内)条痕？	晩期Ⅵ
22	1	壺？注口？				E4 E5	包含層		2mm以下	(外)黒7.5Y2/1 (内)オリーブ黒7.5Y3/1	(外)沈線 (内)風化のため不明	晩期Ⅰ
22	2	浅鉢				D6	包含層	29	3mm以下	(外)黄灰2.5Y4/1 (内)黄灰2.5Y4/1	(外)ミガキ、条痕？ (内)ミガキ	晩期Ⅲ
22	3	浅鉢				E6	包含層		1mm以下	(外)褐灰10YR4/1 (内)灰N4/	(外)ミガキ、ケズリ？ (内)ミガキ	
22	4	浅鉢				E7 F7	包含層		1mm以下	(外)暗灰N3/ (内)黒7.5Y2/1	(外)ミガキ、ケズリ？ (内)ミガキ	
22	5	浅鉢				E7	遺構面	40	2mm以下	(外)灰黄褐10YR6/2 (内)黒N2/	(外)刻目、条痕、ミガキ (内)ミガキ	晩期Ⅴ～
22	6	浅鉢				E8	包含層	66	2mm以下	(外)オリーブ黒5Y3/1 (内)褐灰10YR6/1	(外)ナデ、条痕？ (内)風化のため不明	晩期Ⅳ?
22	7	浅鉢				D7	遺構面	61	2mm以下	(外)灰白5Y8/1 (内)橙5YR7/6	(外)ミガキ、ケズリ (内)ミガキ	方形浅鉢　晩期Ⅳ?
22	8	浅鉢				D6	包含層	12	1mm以下	(外)灰7.5Y4/1 (内)灰N4/	(外)ミガキ、ナデ (内)ミガキ	
22	9	浅鉢				D7	包含層		2mm以下	(外)黒褐2.5Y3/1 (内)黄灰2.5Y4/1	(外)穿孔、ミガキ (内)ミガキ	方形浅鉢　晩期Ⅴ古?
22	10	浅鉢				E8	包含層		2mm以下	(外)灰黄褐10YR6/2 (内)灰黄2.5Y7/2	(外)風化のため不明 (内)沈線	
22	11	浅鉢	(26.6)			D6	包含層	23	2mm以下	(外)灰黄2.5Y7/2 (内)黄灰2.5Y4/1	(外)ミガキ (内)ミガキ	晩期Ⅴ
22	12	深鉢				D7	包含層		1mm以下	(外)オリーブ黒7.5Y3/1 (内)灰7.5Y4/1	(外)風化のため不明 (内)沈線	
22	13	浅鉢				E8	包含層		2mm以下	(外)黒褐10YR3/1 (内)褐灰10YR6/1	(外)ナデ、ケズリ (内)風化のため不明	
22	14	鉢				E9	包含層		2mm以下	(外)にぶい黄2.5Y6/3 (内)浅黄2.5Y8/3	(外)ミガキ (内)ミガキ	晩期Ⅴ
22	15	鉢				E7 F7	包含層		2mm以下	(外)灰白2.5Y8/2 (内)灰白2.5Y8/2	(外)ミガキ (内)ミガキ	晩期Ⅴ
22	16	浅鉢				E4 E5	包含層		2mm以下	(外)橙7.5YR6/6 (内)黒N2/	(外)ミガキ？ (内)ミガキ？	晩期Ⅴ
22	17	浅鉢				E7 F7	包含層		1mm以下	(外)灰黄褐10YR5/2 (内)にぶい橙7.5YR6/4	(外)ミガキ (内)ミガキ	晩期Ⅵ
22	18	鉢				E8	包含層		2mm以下	(外)黒褐2.5Y3/1 (内)黄灰2.5Y5/1	(外)ミガキ (内)	晩期Ⅵ
22	19	浅鉢？				D5 D6	包含層		1mm以下	(外)黒褐2.5Y3/1 (内)灰5Y4/1	(外)沈線、ミガキ (内)ミガキ	晩期Ⅵ
22	20	浅鉢				E7	包含層		2mm以下	(外)黒N2/ (内)黒N2/	(外)沈線、ミガキ？ (内)ミガキ？	晩期Ⅵ
22	21	深鉢				EF6	包含層		1mm以下	(外)黒褐2.5Y3/2 (内)暗灰黄2.5Y4/2	(外)ミガキ？ (内)風化のため不明	晩期Ⅵ
27	1	浅鉢					SK04		4mm以下	(外)褐灰10YR6/1 (内)褐灰10YR6/1	(外)ミガキ (内)ミガキ	晩期Ⅲ
27	2	浅鉢					SK04		2mm以下	(外)暗灰黄2.5Y5/2 (内)にぶい黄橙10YR7/3	(外)ミガキ (内)ミガキ	晩期Ⅲ
27	3	浅鉢					SK04		2mm以下	(外)黒N1.5/ (内)黄灰2.5Y6/1	(外)ミガキ (内)ミガキ	晩期Ⅲ
27	4	浅鉢					SK05		1mm以下	(外)灰黄褐10YR5/2 (内)暗灰N3/	(外)ミガキ (内)ミガキ	
27	5	浅鉢					P49		3mm以下	(外)灰5Y4/1 (内)鈍い黄橙10YR7/2	(外)風化のため不明 (内)風化のため不明	
27	6	深鉢					P60	60	2mm以下	(外)オリーブ黒5Y3/1 (内)黒7.5Y2/1	(外)ミガキ (内)沈線、ミガキ	
27	7	深鉢					P76		2mm以下	(外)灰5Y7/1 (内)橙5YR6/8	(外)突帯文、刻目 (内)風化のため不明	晩期Ⅴ
30	1	深鉢				E9	SK13		3mm以下	(外)黄灰2.5Y4/1 (内)灰黄褐10YR4/2	(外)刻目 (内)条痕	晩期Ⅲ？
30	2	深鉢				E9	SK13	540	2mm以下	(外)黒N1.5/ (内)黒N1.5/	(外)刻目、条痕 (内)条痕、ナデ	晩期Ⅲ？
30	3	深鉢				E9	SK13	546	2mm以下	(外)暗灰黄2.5Y5/2 (内)黄灰2.5Y5/1	(外)条痕、ナデ (内)条痕、ナデ	晩期Ⅳ
30	4	深鉢				E9	SK13	590	3mm以下	(外)黄灰2.5Y6/1 (内)褐灰10YR6/1	(外)風化のため不明 (内)条痕	晩期Ⅳ
30	5	深鉢				E9	SK13	554	3mm以下	(外)橙2.5YR6/8 (内)灰白2.5Y8/2	(外)刻目、突帯、条痕、ナデ (内)条痕、ナデ	晩期Ⅳ
30	6	深鉢				E9	SK13	551	3mm以下	(外)明赤褐5YR5/6 (内)灰白2.5Y7/1	(外)刻目、突帯 (内)条痕	晩期Ⅳ
30	7	浅鉢				E9	SK13	539	2mm以下	(外)黒褐2.5Y3/1 (内)〃	(外)ミガキ (内)ミガキ	晩期Ⅲ？
30	8	浅鉢				E9	SK13	543	2mm以下	(外)灰黄褐10YR3/2 (内)暗灰黄2.5Y5/2	(外)ミガキ (内)条痕、ミガキ	晩期Ⅲ？
30	9	浅鉢				E9	SK13		2mm以下	(外)黒N2/ (内)黒7.5Y	(外)ミガキ (内)沈線、ミガキ	方形浅鉢か　晩期Ⅲ？
30	10	浅鉢				E9	SK13	527	1mm以下	(外)黄灰2.5Y4/1 (内)にぶい褐7.5YR5/4	(外)ミガキ (内)ミガキ	晩期Ⅲ？
30	11	浅鉢				E9	SK13	549	1mm以下	(外)黒褐10YR3/1 (内)黒褐2.5Y3/1	(外)赤彩、沈線、ミガキ (内)赤彩、沈線、ミガキ	後期末～晩期初頭？
30	12	浅鉢				E9	SK13		2mm以下	(外)黄灰2.5Y5/1 (内)黒褐2.5Y3/1	(外)沈線、ミガキ、赤彩 (内)沈線、ミガキ、赤彩	後期末～晩期初頭？
30	13	浅鉢				E9	SK13		2mm以下	(外)黒N1.5/ (内)黒N1.5/	(外)沈線、ミガキ、赤彩 (内)沈線、赤彩、ミガキ	後期末～晩期初頭？
30	14	浅鉢	(20.2)			E9	SK13	553	2mm以下	(外)灰黄2.5Y6/2 (内)橙5YR6/6	(外)突帯 (内)沈線、ミガキ	
30	15	鉢				E9	SK13	526	2mm以下	(外)にぶい黄橙10YR6/3 (内)橙5YR6/6	(外)突帯、ミガキ (内)沈線、ミガキ	
30	16	底部(浅鉢？)		(4.6)		E9	SK13	588	2mm以下	(外)黄灰2.5Y4/1 (内)黄灰2.5Y5/1	(外)ミガキ (内)ミガキ	
33	1	深鉢				D6	SX01		3mm以下	(外)にぶい黄橙10YR7/2 (内)灰白2.5Y8/2	(外)刻目、条痕 (内)条痕？	晩期Ⅲ
33	2	深鉢				D6	SX01		2mm以下	(外)黒7.5Y2/1 (内)黒褐2.5Y3/1	(外)刻目、条痕 (内)条痕	晩期Ⅲ
33	3	浅鉢				D6	SX01	464	3mm以下	(外)にぶい黄橙T10YR6/4 (内)にぶい黄橙10YR7/3	(外)条痕 (内)刻目、条痕	晩期Ⅲ
33	4	深鉢				D6	SX01		3mm以下	(外)紫黒5RP1.7/1 (内)灰5Y4/1	(外)刻目、条痕 (内)条痕？	晩期Ⅲ
33	5	深鉢				D6	SX01		3mm以下	(外)灰白2.5Y7/1 (内)暗灰N3/	(外)刻目、刺突、条痕 (内)条痕	晩期Ⅲ
33	6	深鉢				D6	SX01	460	2mm以下	(外)明黄褐10YR6/6 (内)褐灰10YR6/1	(外)浮文、刺突文、条痕？ (内)ナデ	晩期Ⅲ
33	7	深鉢	(30.0)			D6	SX01	470	3mm以下	(外)にぶい橙7.5YR6/4 (内)褐灰7.5YR4/1	(外)ナデ？ (内)条痕	
33	8	深鉢				D6	SX01		3mm以下	(外)黄灰2.5Y6/1 (内)灰5Y4/1	(外)突帯、刻目 (内)風化のため不明	晩期Ⅳ
35	1	深鉢				D6	遺構面	388	3mm以下	(外)にぶい黄褐10YR5/3 (内)黒N#1.5/	(外)沈線、条痕 (内)刺突、風化のため不明	晩期Ⅲ？
35	2	深鉢				E7	遺構面	223	2mm以下	(外)にぶい黄橙10YR6/3 (内)灰白2.5Y8/2	(外)刻目、条痕 (内)風化のため不明	晩期Ⅲ
35	3	深鉢					遺構面		4mm以下	(外)灰白2.5Y8/1 (内)灰N4/	(外)条痕・刻目 (内)不明	晩期Ⅲ
35	4	深鉢				E7	遺構面	135	3mm以下	(外)褐灰10YR6/1 (内)灰白2.5Y8/1	(外)刻目、条痕 (内)風化のため不明	晩期Ⅲ
35	5	深鉢				D6	遺構面	388	3mm以下	(外)灰黄2.5Y7/2 (内)灰白2.5Y8/1	(外)刻目、条痕 (内)条痕	晩期Ⅲ？
35	6	深鉢				E8	遺構面		3mm以下	(外)暗灰黄2.5Y5/2 (内)浅黄2.5Y7/3	(外)条痕 (内)風化のため不明	晩期Ⅲ？
35	7	深鉢				D6	遺構面	209	3mm以下	(外)明黄褐10YR6/6 (内)褐灰10YR6/1	(外)刻目、条痕、 (内)ナデ	晩期Ⅲ？
35	8	深鉢				D6	遺構面		4mm以下	(外)にぶい黄橙10YR5/3 (内)灰5Y4/1	(外)刻目、条痕 (内)ナデ	晩期Ⅲ？

挿図番号		器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	出土地点	出土遺構・層位	P№	胎土(砂粒)	色調	調整及び文様等	備考
35	9	深鉢				E9	包含層		2mm以下	(外) 黒7.5Y2/1 (内) にぶい黄橙10YR6/3	(外) 刷目、条痕？ (内) 条痕	後期Ⅲ？
35	10	深鉢				E7	遺構面	230	2mm以下	(外) 黄灰2.5Y4/1 (内) オリーブ黒5Y3/1	(外) 刷目、ミガキ？、条痕、ナデ (内) ミガキ？	後期Ⅲ？
35	11	深鉢				D6	遺構面		1mm以下	(外) 黒N2/ (内) 灰黄褐10YR4/2	(外) 刷目、条痕 (内) 条痕	後期Ⅲ
35	12	浅鉢	(29.8)			D6	遺構面	391	1mm以下	(外) 黒7.5Y2/1 (内) にぶい黄橙10YR6/3	(外) 刷目、条痕 (内) 条痕	後期Ⅲ
35	13	深鉢	(19.4)			E7	包含層		2mm以下	(外) にぶい黄橙10YR6/3 (内) にぶい黄橙10YR6/3	(外) 条痕 (内) 条痕、ナデ	後期Ⅲ？
35	14	深鉢					包含層	261	3mm以下	(外) にぶい黄褐10YR4/3 (内) 橙7.5YR6/6	(外) 条痕、ナデ？ (内) 沈線、ナデ？	後期Ⅲ？
36	1	深鉢				E9	包含層		5mm以下	(外) 灰5Y6/1 (内) 灰黄2.5Y7/2	(外) 突帯、刷目 (内) 風化のため不明	後期Ⅳ
36	2	深鉢				D6	遺構面		3mm以下	(外) 橙7.5YR6/6 (内) 明赤褐2.5YR5/6	(外) 突帯、刷目 (内) 条痕	後期Ⅳ
36	3	深鉢				E7	遺構面	223	5mm以下	(外) にぶい橙7.5YR6/4 (内) にぶい橙7.5YR5/4	(外) 突帯、刷目 (内) 条痕？	後期Ⅳ
36	4	深鉢				D6	遺構面	390	4mm以下	(外) 灰5Y4/1 (内) 灰7.5Y4/1	(外) 突帯、刷目 (内) 風化のため不明	後期Ⅳ
36	5	深鉢				E9	包含層		2mm以下	(外) 灰黄2.5Y7/2 (内) 浅黄橙10YR8/3	(外) 突帯、刷目、条痕、ナデ (内) 条痕	後期Ⅳ
36	6	深鉢				D5	遺構面	200	2mm以下	(外) にぶい黄橙10YR7/2 (内) 灰白2.5Y8/2	(外) 突帯、刷目、条痕 (内) 条痕	後期Ⅳ
36	7	深鉢				D6	遺構面	399	4mm以下	(外) 灰オリーブ5Y5/2 (内) 灰5Y4/1	(外) 突帯、条痕、ナデ (内) 風化のため不明	後期Ⅳ
37	1	浅鉢				E9 E10	包含層		3mm以下	(外) 黒褐10YR3/1 (内) 黒7.5Y2/1	(外) ミガキ、ケズリ？ (内) ミガキ？	後期Ⅲ？
37	2	浅鉢	(22.0)			C5	包含層	173	2mm以下	(外) オリーブ黒5Y3/2 (内) 暗灰N3/	(外) ミガキ (内) ミガキ	後期Ⅲ？
37	3	鉢				D5	遺構面	190 198	2mm以下	(外) 灰黄褐10YR5/2 (内) 黒N2/	(外) ミガキ (内) 風化のため不明	後期Ⅲ？
37	4	浅鉢					遺構面		2mm以下	(外) 黒褐10YR3/1 (内) 明褐7.5YR5/6	(外) ミガキ (内) 風化のため不明	後期Ⅲ？
37	5	浅鉢				D5	包含層		1mm以下	(外) 黒N2/ (内) 黒2.5Y3/1	(外) ミガキ (内) ミガキ	後期Ⅲ？
37	6	浅鉢				D6	遺構面	391	2mm以下	(外) 灰7.5Y4/1 (内) オリーブ黒7.5Y3/1	(外) ミガキ、条痕 (内) ミガキ	後期Ⅲ？
37	7	深鉢				D5	遺構面	203	1mm以下	(外) 灰黄2.5Y7/2 (内) 灰白2.5Y8/2	(外) ナデ、条痕 (内) 条痕	後期Ⅲ？
37	8	浅鉢					遺構面	453	3mm以下	(外) 暗灰黄2.5Y5/2 (内) 黄灰2.5Y6/1	(外) ミガキ、ケズリ？ (内) ミガキ	後期Ⅴ？
37	9	浅鉢	(24.8)				遺構面	440	3mm以下	(外) 褐灰10YR4/1 (内) 浅黄2.5Y7/3	(外) ミガキ、条痕 (内) ミガキ	後期Ⅴ？
37	10	浅鉢	(21.2)				遺構面	454	3mm以下	(外) 灰黄褐10YR5/2 (内) 灰黄2.5Y7/2	(外) 風化のため不明 (内) 風化のため不明	後期Ⅴ？
37	11	浅鉢				E9	包含層		1mm以下	(外) 黒5Y2/1 (内) 黒2.5Y2/1	(外) 赤彩、ミガキ？ (内) 赤彩、ミガキ？	後期Ⅴ？
37	12	浅鉢					遺構面	74	2mm以下	(外) 黄灰2.5Y6/1 (内) オリーブ黒7.5Y3/1	(外) 突帯、ミガキ (内) ミガキ	後期Ⅴ？
37	13	浅鉢				D6	遺構面	13	2mm以下	(外) 灰7.5Y4/1 (内) 灰N4/	(外) ミガキ (内) ミガキ	後期Ⅴ？
37	14	浅鉢				D6	遺構面	15	1mm以下	(外) 暗灰N3/ (内) 灰5Y4/1	(外) ミガキ (内) ミガキ	後期Ⅴ？
37	15	深鉢				E6	包含層		2mm以下	(外) 灰黄2.5Y7/2 (内) 灰白2.5Y8/2	(外) ミガキ (内) ミガキ	後期Ⅴ？
37	16	浅鉢	(36.8)			E6	遺構面	350-a	3mm以下	(外) 黒7.5Y2/1 (内) 黒7.5Y2/1	(外) ミガキ、条痕 (内) ミガキ	後期Ⅴ？
45	1	鉢				E4 E5	SD09		1mm以下	(外) 暗灰N3/1 (内) 黄灰2.5Y5/1	(外) 沈線、ミガキ、赤彩 (内) ミガキ	後期？
45	2	浅鉢				E6	P211	211	3mm以下	(外) 黄灰2.5Y5/1 (内) 灰N5/	(外) ミガキ (内) ミガキ	後期？
45	3	浅鉢	(19.0)			D6	土器溜り1	2008	3mm以下	(外) 橙7.5Y7/6 (内) 黄灰2.5Y6/1	(外) 沈線、刺突 (内) 沈線	後期Ⅰ？
45	4	鉢				D6	土器溜り1	2827	2mm以下	(外) 褐灰10YR4/1 (内) 灰白2.5Y7/1	(外) ミガキ (内) ミガキ	後期Ⅰ？
45	5	深鉢	(33.6)			D6	土器溜り1	3081 3097	2mm以下	(外) 黒7.5Y2/1 (内) 灰7.5Y4/1	(外) ミガキ (内) ミガキ	後期Ⅰ？
45	6	鉢	(15.8)		11.5	D6	土器溜り1	2692	4mm以下	(外) 灰褐10YR5/2 (内) 橙7.5YR7/6	(外) ミガキ、ナデ (内) ミガキ、ナデ？	後期Ⅰ？
45	7	深鉢	(17.2)			D6	土器溜り1	2619	2mm以下	(外) 褐灰10YR4/1 (内) 褐灰10YR6/1	(外) 条痕、ナデ (内) 条痕、ナデ	後期Ⅰ？
45	8	深鉢	(30.0)		(33.0)	D6	土器溜り1	3035	2mm以下	(外) 灰黄2.5Y6/2 (内) 暗灰黄2.5Y4/2	(外) 条痕、ナデ (内) 条痕、ナデ	後期Ⅱ
45	9	浅鉢？	(32.7)			D6	土器溜り1	2925	1mm以下	(外) 灰黄褐10YR5/2 (内) 灰黄褐10YR6/2	(外) ミガキ (内) ミガキ	
45	10	深鉢				D6	土器溜り1		2mm以下	(外) 灰白10YR8/1 (内) 灰白2.5Y8/1	(外) 条痕、ナデ (内) 条痕、ナデ	後期Ⅱ期？
45	11	深鉢	(18.7)			D7	土器溜り1	455	2mm以下	(外) 黒褐2.5Y3/1 (内) 黄灰2.5Y4/1	(外) ミガキ (内) ミガキ	
46	1	深鉢	(26.0)		(26.1)	D6	土器溜り1	2702	2mm以下	(外) にぶい黄橙10YR7/2 (内) 灰白10YR7/1	(外) 条痕、ナデ (内) 条痕、ナデ	後期Ⅱ
46	2	深鉢				C5	土器溜り1	301	1mm以下	(外) 灰黄褐10YR6/2 (内) 浅黄橙7.5YR8/3	(外) 風化のため不明 (内) ナデ	後期Ⅱ
46	3	深鉢				D6	土器溜り1		2mm以下	(外) にぶい黄橙10YR7/3 (内) にぶい黄橙10YR7/2	(外) 条痕、ナデ (内) 条痕、ナデ	後期Ⅲ？
46	4	深鉢				D6	土器溜り1		3mm以下	(外) 黄灰2.5Y6/1 (内) 灰白2.5Y7/1	(外) 風化のため不明 (内) ミガキ	
46	5	深鉢	(33.6)			D6	土器溜り1	2976	1mm以下	(外) 灰黄褐10YR5/2 (内) 灰白2.5Y8/2	(外) ナデ？ (内) ミガキ	
46	6	鉢				D6	土器溜り1	2414	1mm以下	(外) 黄灰2.5Y6/1 (内) 〃	(外) 条痕 (内) ナデ	
46	7	深鉢	(31.2)			D6	土器溜り1	2325	2mm以下	(外) 褐灰10YR5/1 (内) 浅黄7.5Y7/3	(外) 条痕、ナデ (内) 条痕、ナデ	
46	8	深鉢				D6	土器溜り1	2514	1mm以下	(外) 灰白2.5Y8/1 (内) 灰白2.5Y7/1	(外) 補修孔、ナデ、条痕 (内) ナデ	
46	9	鉢	(10.0)			D6	土器溜り1	2650	2mm以下	(外) 橙5YR7/6 (内) 橙5YR6/8	(外) 風化のため不明 (内) 風化のため不明	
46	10	深鉢				D6	土器溜り1	2674	2mm以下	(外) にぶい黄橙10YR7/2 (内) 明赤褐5YR5/6	(外) 条痕？ (内) 風化のため不明	
47	1	深鉢	22.6		(16.5)	D6	土器溜り1	3117 3133	2mm以下	(外) 黄灰2.5Y4/1 (内) 黄灰2.5Y6/1	(外) 条痕、ナデ (内) 条痕、ナデ	
47	2	鉢	21.1			D6	土器溜り1	3158	1mm以下	(外) にぶい橙7.5YR6/4 (内) 褐灰7.5YR4/2	(外) ナデ (内) ナデ	
47	3	深鉢	(22.4)	(4.8)	(21.9)	D6	土器溜り1	2905	1mm以下	(外) 暗灰黄2.5Y5/2 (内) にぶい黄褐10YR5/3	(外) ミガキ (内) ミガキ	
47	4	深鉢	(20.3)			D6	土器溜り1	2658	1mm以下	(外) 灰黄褐10YR5/2 (内) にぶい黄橙10YR7/2	(外) ミガキ (内) ミガキ、ナデ	
47	5	深鉢	(17.6)			D6	土器溜り1	3020 3027	3mm以下	(外) 灰白5Y7/1 (内) 橙7.5YR6/6	(外) ナデ？ (内) ナデ？	
47	6	深鉢	(23.8)			D5	土器溜り1	503	-	(外) 褐灰10YR4/1 (内) にぶい黄褐10YR5/3	(外) 条痕、ナデ (内) 条痕、ナデ	
47	7	深鉢				D6	土器溜り1	2519	1mm以下	(外) 暗灰N3/1 (内) 灰5Y5/1	(外) 条痕、ナデ (内) ナデ	
47	8	深鉢				D6	土器溜り1	3046	2mm以下	(外) 暗灰黄2.5Y5/2 (内) 黒褐2.5Y3/2	(外) ナデ (内) ナデ	
47	9	深鉢	(30.4)			D6	土器溜り1	2507	2mm以下	(外) にぶい橙7.5YR6/4 (内) 灰黄2.5Y7/2	(外) ナデ？ (内) ナデ？	
48	1	深鉢	(37.4)				土器溜り1		2mm以下	(外) 灰黄褐10YR6/2 (内) にぶい黄橙10YR7/2	(外) 条痕、ナデ (内) 刺突、条痕	後期Ⅲ期
48	2	深鉢				D6	土器溜り1		1mm以下	(外) にぶい橙7.5YR7/3 (内) にぶい黄橙10YR7/3	(外) 刷目 (内) 条痕？	後期Ⅲ期
48	3	深鉢				D6	土器溜り1		1mm以下	(外) 暗灰黄2.5Y4/2 (内) 黄灰2.5Y6/1	(外) 刷目、条痕 (内) 条痕、ナデ	後期Ⅲ期
48	4	鉢	(15.8)			D6	土器溜り1	2982	1mm以下	(外) 灰黄2.5Y6/2 (内) 灰黄褐10YR6/2	(外) 条痕、ナデ？ (内) 条痕、ナデ？	後期Ⅲ期
48	5	深鉢	(33.0)			D6	土器溜り1	2925	1mm以下	(外) 灰黄褐10YR6/2 (内) にぶい黄橙10YR7/3	(外) 条痕、ナデ (内) 条痕、ナデ	後期Ⅲ期
48	6	深鉢	(35.0)			D6	土器溜り1		2mm以下	(外) 暗灰黄2.5Y5/2 (内) にぶい黄橙10YR7/2	(外) 条痕、ナデ (内) ナデ	後期Ⅲ期
48	7	鉢	(25.4)			D6	土器溜り1	2500	3mm以下	(外) 黄灰2.5Y4/1 (内) 暗灰色N3/1	(外) 風化のため不明 (内) 風化のため不明	後期Ⅲ期

挿図番号		器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	出土地点	出土遺構・層位	P№	胎土(砂粒)	色調	調整及び文様等	備考
48	8	鉢				D6	土器層Ⅳ1	2794	2mm以下	(外) 灰黄褐10YR (内) 暗灰N3/	(外) 補修孔、ミガキ (内) ミガキ	晩期Ⅲ期
49	1	深鉢	(25.4)			D6	土器層Ⅳ1	2689	3mm以下	(外) 褐灰5YR5/1 (内) 灰褐7.5YR5/2	(外) 条痕 (内) 条痕?	晩期Ⅲ期
49	2	深鉢				D6	土器層Ⅳ1	2333	4mm以下	(外) 灰5Y7/1 (内) 灰5Y6/1	(外) 条痕? (内) 条痕?	晩期Ⅲ期
49	3	深鉢				D6	土器層Ⅳ1	2828	1mm以下	(外) 黒褐10YR3/1 (内) 黄灰2.5Y6/1	(外) ナデ (内) ナデ	晩期Ⅲ期
49	4	深鉢	(35.6)			D6	土器層Ⅳ1	3204	1mm以下	(外) 灰黄褐10YR6/2 (内) にぶい黄橙10YR7/2	(外) 穿孔、ナデ (内) ナデ	晩期Ⅲ期
50	1	深鉢	(35.6)			D6	土器層Ⅳ1	2536	3mm以下	(外) 褐灰10YR6/1 (内) 灰白2.5Y7/1	(外) 条痕、ナデ (内) 条痕、ナデ	晩期Ⅲ期
50	2	深鉢	(26.1)			D6	土器層Ⅳ1	3104	2mm以下	(外) 灰白2.5Y7/1 (内) 灰黄2.5Y7/2	(外) 条痕、ナデ (内) 条痕、ナデ	晩期Ⅲ期?
50	3	深鉢				D6	土器層Ⅳ1	3104	2mm以下	(外) 褐灰10YR5/1 (内) 〃	(外) 条痕? (内) 条痕?	晩期Ⅲ期?
50	4	深鉢				D6	土器層Ⅳ1	2610	1mm以下	(外) 暗灰黄2.5Y4/2 (内) 灰黄褐10YR5/2	(外) 条痕 (内) 条痕	晩期Ⅲ期?
50	5	深鉢	16.6			D6	土器層Ⅳ1	3158	2mm以下	(外) 灰黄褐10YR4/2 (内) 灰黄2.5Y7/2	(外) ナデ (内) ナデ	晩期Ⅲ期?
50	6	深鉢	(25.0)			D6	土器層Ⅳ1	2868	1mm以下	(外) 灰褐7.5YR5/2 (内) 灰N4/	(外) ナデ (内) ナデ	晩期Ⅲ期?
51	1	浅鉢	(17.0)			D6	土器層Ⅳ1	3171	1mm以下	(外) 黒7.5Y2/1 (内) 黒N2/	(外) 斜格子の沈線、ミガキ (内) ミガキ	九州系(三万田?) 晩期Ⅰ期
51	2	鉢				D6	土器層Ⅳ1	2507	1mm以下	(外) 黄灰2.5Y4/1 (内) 黒N2/	(外) ミガキ (内) ミガキ	晩期Ⅰ期
51	3	浅鉢	(19.4)			D6	土器層Ⅳ1	3098	2mm以下	(外) 灰黄2.5Y7/2 (内) 黒N1.5/	(外) ミガキ (内) ミガキ	晩期Ⅰ期
51	4	浅鉢				D6	土器層Ⅳ1	2067	3mm以下	(外) にぶい黄褐10YR5/3 (内) 灰黄2.5Y7/2	(外) ミガキ (内) ミガキ	晩期Ⅰ期
51	5	浅鉢	(19.6)			D6	土器層Ⅳ1	2952	1mm以下	(外) 灰黄褐10YR6/2 (内) 灰黄褐10YR6/2	(外) わずかに赤彩?、ミガキ (内) 沈線、ミガキ?	晩期Ⅰ期
51	6	浅鉢	(32.8)			D7	土器層Ⅳ1	2971	2mm以下	(外) 灰白2.5Y8/1 (内) 灰黄2.5Y7/2	(外) 沈線(羊歯文様?)、ミガキ? (内) ミガキ?	晩期Ⅰ期
51	7	壺?				D6	土器層Ⅳ1		2mm以下	(外) 黒2.5Y2/1 (内) にぶい褐7.5YR	(外) 縄文(LR)、沈線 (内) ミガキ	晩期Ⅰ期
51	8	浅鉢				D6	土器層Ⅳ1		1mm以下	(外) 暗灰黄2.5Y5/2 (内) 灰黄2.5Y7/2	(外) ミガキ (内) -	晩期Ⅰ期
51	9	浅鉢				D6	土器層Ⅳ1	3035	2mm以下	(外) にぶい黄橙10YR6/2 (内) 灰黄2.5Y7/2	(外) 沈線(羊歯文様?)、ミガキ (内) ナデ	晩期Ⅰ期
51	10	鉢	(33.8)			D6	土器層Ⅳ1	2896	5mm以下	(外) 灰黄2.5Y7/2 (内) にぶい黄橙10YR7/3	(外) 沈線(疑似羊歯文様?)、ミガキ (内) ミガキ	晩期Ⅰ期
51	11	浅鉢	(31.2)				土器層Ⅳ1	495	2mm以下	(外) 灰黄2.5Y7/2 (内) 黒N1.5/	(外) ミガキ (内) ミガキ	晩期Ⅱ期
52	1	浅鉢				D6	土器層Ⅳ1	2062	1mm以下	(外) 灰5Y4/1 (内) 〃	(外) ミガキ (内) ミガキ	晩期Ⅱ期
52	2	浅鉢				D6	土器層Ⅳ1	3215	2mm以下	(外) 褐灰10YR4/1 (内) にぶい黄橙10YR7/3	(外) 沈線、ミガキ (内) ミガキ	晩期Ⅱ期
52	3	浅鉢	(29.6)			D6	土器層Ⅳ1	2782 2854 2916 3172	1mm以下	(外) 黄灰2.5Y4/1 (内) 暗灰N3/	(外) ミガキ (内) ミガキ	晩期Ⅱ期
52	4	深鉢				D6	土器層Ⅳ1		2mm以下	(外) 暗灰黄2.5Y5/2 (内) 黄灰2.5Y6/1	(外) 条痕、ナデ (内) 条痕、ナデ	晩期Ⅲ期
52	5	浅鉢	(29.6)			D6	土器層Ⅳ1	3008	1mm以下	(外) オリーブ黒5Y3/1 (内) 暗灰N3/	(外) ミガキ (内) ミガキ	晩期Ⅲ期
52	6	浅鉢				D6	土器層Ⅳ1		2mm以下	(外) にぶい黄橙10YR7/2 (内) 灰白10YR8/1	(外) ミガキ (内) ミガキ	晩期Ⅲ期
52	7	深鉢				D6	土器層Ⅳ1		1mm以下	(外) 灰5Y4/1 (内) 暗灰N3/	(外) ミガキ (内) 沈線、ミガキ	晩期Ⅲ期
52	8	浅鉢?				D6	土器層Ⅳ1	2067	2mm以下	(外) 灰黄2.5Y7/2 (内) 灰黄褐10YR6/2	(外) ミガキ (内) ミガキ	晩期Ⅲ期
52	9	浅鉢	(25.2)			D6	土器層Ⅳ1	2594 2619 2910 3000 3033	1mm以下	(外) 黒7.5YR2/1 (内) 黒N1.5/	(外) ミガキ (内) ミガキ	晩期Ⅲ期
52	10	浅鉢	(31.6)			D6	土器層Ⅳ1	2199 2420	1mm以下	(外) 黒10YR1.7/1 (内) 灰黄褐10YR4/2	(外) ミガキ (内) ミガキ	晩期Ⅲ期
52	11	浅鉢				D6	土器層Ⅳ1	2998	1mm以下	(外) 黒7.5Y2/1 (内) 緑黒5G1.7/	(外) ミガキ (内) ミガキ	晩期Ⅲ期
53	1	浅鉢	(30.0)			D6	土器層Ⅳ1	2943	1mm以下	(外) 黒1.5N/ (内) 〃	(外) ミガキ (内) ミガキ	晩期Ⅲ期
53	2	浅鉢				D6	土器層Ⅳ1	2904 3238	1mm以下	(外) にぶい黄橙10YR6/3 (内) 灰白2.5Y7/1	(外) ミガキ (内) ミガキ	晩期Ⅲ期
53	3	浅鉢				D6	土器層Ⅳ1	2102	1mm以下	(外) 黄灰2.5Y5/1 (内) 灰5Y4/1	(外) ミガキ (内) ミガキ	晩期Ⅲ期
53	4	浅鉢				D6	土器層Ⅳ1	3393	1mm以下	(外) 暗灰黄2.5Y5/2 (内) 灰黄2.5Y7/2	(外) ミガキ (内) ミガキ	晩期Ⅲ期
53	5	鉢				D6	土器層Ⅳ1		2mm以下	(外) 黒褐2.5Y3/1 (内) 黄灰2.5Y4/1	(外) ミガキ (内) ミガキ	晩期Ⅲ期
53	6	深鉢				D6	土器層Ⅳ1		1mm以下	(外) 灰黄2.5Y6/2 (内) 暗灰黄2.5Y5/2	(外) ミガキ (内) ミガキ	晩期Ⅲ期
53	7	浅鉢				D6	土器層Ⅳ1		2mm以下	(外) 灰白2.5Y8/2 (内) 黒褐2.5Y3/1	(外) ミガキ (内) ミガキ	晩期Ⅲ期
53	8	浅鉢	(32.8)			D6	土器層Ⅳ1	2998	1mm以下	(外) 暗灰黄2.5Y5/2 (内) 灰白2.5Y8/1	(外) ミガキ (内) ミガキ	晩期Ⅲ期
53	9	浅鉢?				D6	土器層Ⅳ1	3001	2mm以下	(外) にぶい橙7.5YR6/4 (内) 灰N5/	(外) 沈線、ミガキ? (内) 風化のため不明	
53	10	鉢	(13.5)		4.8	D6	土器層Ⅳ1	2908	3mm以下	(外) 灰黄褐10YR5/2 (内) 〃	(外) ミガキ? (内) 条痕、ミガキ	
53	11	鉢				D6	土器層Ⅳ1	3117 3133	2mm以下	(外) 黄灰2.5Y5/1 (内) にぶい黄2.5Y6/3	(外) ミガキ (内) ミガキ	
53	12	鉢	(13.6)			D6	土器層Ⅳ1	2064	1mm以下	(外) 灰黄褐10YR6/2 (内) にぶい黄橙10YR7/2	(外) ナデ (内) ナデ	
53	13	浅鉢	(13.6)			D5	土器層Ⅳ1	2126	2mm以下	(外) 灰黄褐10YR5/2 (内) 灰黄褐10YR5/2	(外) 風化のため不明 (内) 風化のため不明	
53	14	浅鉢				D6	土器層Ⅳ1	2918	1mm以下	(外) 灰黄2.5Y7/2 (内) 浅黄2.5Y7/3	(外) ミガキ (内) ミガキ	晩期Ⅴ期
53	15	注口土器				C6	土器層Ⅳ1	508	2mm以下	(外) 黒N1.5/ (内) 黒N1.5/	(外) ミガキ (内) ナデ?	
53	16	壺(肩部)				D6	土器層Ⅳ1		3mm以下	(外) 橙5YR6/6 (内) 黒褐2.5Y3/1	(外) 風化のため不明 (内) 条痕、ナデ	晩期初頭?
53	17					D6	土器層Ⅳ1		1mm以下	(外) 暗灰N3/ (内) 黒N1.5/	(外) 沈線、ミガキ (内) ミガキ	晩期初頭?
53	18	鉢?				D6	土器層Ⅳ1	2969	1mm以下	(外) にぶい黄橙10YR7/3 (内) 灰黄褐10YR6/2	(外) 刺突、沈線 (内) 風化のため不明	晩期初頭?
53	19	底部(深鉢)				D6	土器層Ⅳ1	2828	2mm以下	(外) 黄灰2.5Y6/1 (内) 灰黄2.5Y7/2	(外) 風化のため不明 (内) 風化のため不明	
53	20	底部		(5.2)		D6	土器層Ⅳ1	2610	4mm以下	(外) 灰黄2.5Y7/2 (内) 灰白5Y7/1	(外) 条痕 (内) ナデ	
60	1	鉢				E5	遺構面	439	2mm以下	(外) 灰黄褐10YR5/2 (内) 灰白2.5Y7/1	(外) 風化のため不明 (内) ミガキ	晩期Ⅱ期
60	2	深鉢	(30.2)			D7	包含層	2722 2731	2mm以下	(外) 黄灰2.5Y6/1 (内) 灰オリーブ5Y5/2	(外) 条痕、ナデ (内) 条痕、ナデ	晩期Ⅱ期
60	3	深鉢				E5	遺構面	444	2mm以下	(外) 黒N1.5/ (内) 浅黄橙7.5YR8/4	(外) 条痕 (内) 風化のため不明	晩期Ⅱ期?
60	4					D5	包含層		1mm以下	(外) 浅黄橙10YR8/3 (内) 灰黄褐10YR4/2	(外) 多条の沈線 (内) ミガキ?	晩期Ⅰ期
60	5	深鉢				E6	包含層		1mm以下	(外) 黄灰2.5Y6/1 (内) 黒N1.5/	(外) ミガキ (内) ミガキ	晩期Ⅲ期
60	6	浅鉢	(15.8)		(8.4)	D7	包含層	2733	3mm以下	(外) 黄灰2.5Y5/1 (内) 黒褐2.5Y3/1	(外) ミガキ (内) ミガキ	晩期Ⅲ期
60	7	浅鉢				D5	包含層		1.5mm以下	(外) 黒7.5YR2/1 (内) 〃	(外) 沈線、縄文(LR)、ミガキ? (内) 沈線、ミガキ?	晩期Ⅰ～Ⅱ期
60	8	浅鉢	(35.4)			E9	遺構面	490	2mm以下	(外) 黄灰2.5Y6/1 (内) 黒N2/	(外) ミガキ (内) ミガキ	晩期Ⅲ期
60	9	注口土器				D6	遺構面		2mm以下	(外) 灰白2.5Y8/2 (内) 暗灰黄2.5Y5/2	(外) 沈線 (内) 風化のため不明	晩期
62	1	深鉢				D7	河道		2mm以下	(外) 暗灰黄2.5Y5/2 (内) にぶい黄褐10YR5/3	(外) 刻目、条痕 (内) 条痕	晩期Ⅲ期
62	2	深鉢				E8	河道		2mm以下	(外) オリーブ黒7.5Y3/1 (内) 黒7.5Y2/1	(外) 刻目、条痕 (内) 条痕	晩期Ⅲ期
62	3	深鉢				E10	河道	385	2mm以下	(外) 暗灰黄2.5Y4/2 (内) 黒褐2.5Y3/1	(外) 条痕、ナデ (内) 刻目、条痕	晩期Ⅲ期
62	4	深鉢				E8	河道		3mm以下	(外) 橙5YR6/6 (内) 黄灰2.5Y6/1	(外) 刻目、条痕 (内) 条痕?	晩期Ⅲ期

挿図番号		器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	出土地点	出土遺構・層位	P№	胎土(砂粒)	色調	調整及び文様等	備考
62	5	深鉢					河道		2mm以下	(外) にぶい黄橙10YR7/3 (内) 灰黄2.5Y7/2	(外) 刻目、条痕 (内) 条痕	晩期Ⅲ期
62	6	深鉢					河道		3mm以下	(外) にぶい黄橙10YR7/3 (内) にぶい黄橙10YR7/2	(外) 突帯、刻目、条痕、ナデ (内) 条痕	晩期Ⅳ期
62	7	深鉢				D7	河道		2mm以下	(外) 灰黄2.5Y7/2 (内) にぶい黄橙10YR6/3	(外) 刻目、突帯、条痕？ (内) 条痕	晩期Ⅳ期
62	8	深鉢					河道	268	3mm以下	(外) 灰黄2.5Y7/2 (内) 黄灰2.5Y4/1	(外) 突帯、刻目、条痕 (内) 条痕？	晩期Ⅴ期
62	9	深鉢				E9	河道		1.5mm以下	(外) 灰黄褐10YR4/2 (内) 黒褐10YR3/1	(外) 突帯、刻目、条痕 (内) ナデ	晩期Ⅴ期
62	10	深鉢				E10	河道		1.5mm以下	(外) 浅黄2.5Y6/3 (内) 黄灰2.5Y5/1	(外) 突帯、刻目 (内) 条痕	晩期Ⅵ期
62	11	深鉢				E10	河道		1mm以下	(外) 灰黄褐10YR4/2 (内) 灰黄2.5Y6/2	(外) 突帯、刻目、条痕、ナデ (内) 条痕	晩期Ⅵ期
62	12	深鉢					河道		2mm以下	(外) 灰黄2.5Y7/2 (内) 浅黄2.5Y7/4	(外) 条痕？、ナデ (内) 条痕、ナデ	
63	1	鉢				E10	河道		微砂粒	(外) 灰黄褐10YR6/2 (内) 〃	(外) 3条の沈線、ナデ (内) ナデ？	磨消縄文か 沖丈式
63	2	浅鉢				D8 E8	河道		微砂粒	(外) 明赤褐5YR5/6 (内) 褐灰5YR6/1	(外) 沈線、ナデ (内) 風化のため不明	橋状文様類似 晩期Ⅰ期
63	3	浅鉢	(26.6)		(9.2)	E10	河道		1mm以下	(外) 黄灰2.5Y4/1 (内) 暗灰色N3/	(外) ミガキ (内) 沈線、ミガキ	晩期Ⅱ期
63	4	浅鉢				E9	河道		5mm以下	(外) 黄灰2.5Y4/1 (内) 黄灰2.5Y4/1	(外) ミガキ (内) 沈線、ミガキ？	晩期Ⅱ期
63	5	浅鉢					河道		2mm以下	(外) 暗灰N3/ (内) 黒7.5Y2/1	(外) ミガキ (内) ミガキ	晩期Ⅱ期
63	6	浅鉢	(36.0)			D7	河道		3mm以下	(外) 暗灰黄2.5Y5/2 (内) 黒N2/	(外) ミガキ (内) ミガキ	晩期Ⅱ期
63	7	浅鉢				E8	河道		2mm以下	(外) 黒褐2.5Y3/1 (内) 灰5Y4/1	(外) ミガキ、条痕、ナデ (内) ミガキ	晩期Ⅲ期
63	8	浅鉢					河道	374	2mm以下	(外) オリーブ黒5Y3/1 (内) 灰黄褐10YR5/2	(外) ミガキ、条痕 (内) ミガキ、条痕	晩期Ⅲ期
63	9	浅鉢					河道	377	1mm以下	(外) 灰5Y5/1 (内) 黒N2/	(外) ミガキ、条痕？ (内) ミガキ	晩期Ⅲ期
63	10	浅鉢				D7	河道		2mm以下	(外) 黄灰2.5Y4/1 (内) 灰黄2.5Y6/2	(外) ミガキ (内) ミガキ	晩期Ⅲ期
63	11	鉢	(25.8)			D7	河道	225	3mm以下	(外) 暗灰N3/ (内) 黒N+1.5/	(外) ミガキ (内) ミガキ	晩期Ⅴ〜Ⅵ期
63	12	鉢					河道		1mm以下	(外) 灰黄褐10YR6/2 (内) 灰白10YR7/1	(外) 刻目、ミガキ (内) ミガキ	晩期Ⅴ〜Ⅵ期
63	13	鉢	(14.4)			E8	河道		2mm以下	(外) 灰白2.5Y8/1 (内) にぶい黄橙10YR7/2	(外) 条痕？、ナデ？ (内) 条痕？、ナデ？	
63	14	鉢	(26.6)			D7	河道	60	1mm以下	(外) 灰黄褐10YR5/2 (内) 黒10YR2/1	(外) ミガキ (内) ミガキ	
63	15	底部		7.6		E8	河道		3mm以下	(外) 黄灰2.5Y6/1 (内) 褐灰10YR4/1	(外) 風化のため不明 (内) 風化のため不明	
67	1	深鉢	(24.2)		21.1	E7	暗灰色粘土	742	2mm以下	(外) 灰黄褐10YR4/2 (内) にぶい黄褐10YR4/3	(外) 条痕、ナデ (内) 条痕、ナデ	晩期Ⅲ期
67	2	浅鉢					暗灰色粘土	331	1.5mm以下	(外) にぶい黄橙10YR5/3 (内) 浅黄橙10YR8/3	(外) 沈線、刻目、三角形抉り、ナデ (内) ミガキまたはナデ	晩期Ⅰ〜Ⅱ期
67	3	浅鉢	14.2		9.6	E7	暗灰色粘土	750	微砂粒	(外) 褐灰10YR6/1 (内) 褐灰10YR5/1	(外) 沈線、三角形抉り、 (内) 風化のため不明	晩期Ⅰ〜Ⅱ期
67	4	浅鉢	(36.8)				暗灰色粘土	277	微砂粒	(外) 黒褐2.5Y3/1 (内) 黒2.5Y2/1	(外) ナデ、ミガキ (内) ミガキ	晩期Ⅲ期
67	5	深鉢	(29.6)			E7	暗灰色粘土	738 742	2mm以下	(外) にぶい黄褐10YR4/3 (内) 褐灰10YR5/1	(外) 条痕、ナデ (内) 条痕、ナデ	
67	6	深鉢	27.9			E7	暗灰色粘土	738 739	3mm以下	(外) にぶい黄橙10YR7/2 (内) にぶい黄橙10YR7/3	(外) 条痕？ (内) 条痕？、ナデ？	
69	1	深鉢	(36.6)			E6	青灰色粘土	2217	1mm以下	(外) 灰褐7.5YR5/2 (内) 灰褐7.5YR6/2	(外) 沈線、擬似縄文(巻貝)、条痕 (内) 条痕	沖丈式〜権現山式古
69	2	深鉢				E6	青灰色粘土	2311	1mm以下	(外) にぶい黄褐10YR5/3 (内) 灰黄褐10YR5/2	(外) 擬似縄文、条痕 (内) 条痕	沖丈式〜権現山式古
69	3	深鉢				E6	青灰色粘土	2700	2mm以下	(外) 黒10YR2/1 (内) 黒褐10YR3/1	(外) 沈線、縄文(LR)、条痕 (内) 条痕、ナデ	権現山式古
69	4	深鉢				E6	青灰色粘土	2700	1mm以下	(外) 黒10YR2/1 (内) 〃	(外) 沈線、縄文(LR)、条痕 (内) 条痕、ナデ	権現山式古
69	5	深鉢				E6	青灰色粘土	2698	1mm以下	(外) 黒2.5Y2/1 (内) 〃	(外) 沈線、縄文(LR)、条痕 (内) 条痕、ナデ	権現山式古〜新
69	6	深鉢				E6	青灰色粘土		1.5mm以下	(外) 灰黄2.5Y6/2 (内) 灰黄褐10YR5/2	(外) 沈線内刺突、縄文、ミガキ、ナデ (内) ミガキ	権現山式古 九州(西平式)の影響？
69	7	深鉢				E6	青灰色粘土	2698	1.5mm以下	(外) 灰黄褐10YR4/2 (内) 黒褐10YR3/1	(外) 沈線、縄文(LR)、条痕 (内) 条痕、ナデ	権現山式古〜新
70	1	深鉢	41.4			D5	青灰色粘土	3219 3220	1mm以下	(外) にぶい黄橙10YR7/3 (内) 〃	(外) ナデ、条痕 (内) ナデ？	
70	2	深鉢	26.2			E6	青灰色粘土		1mm以下	(外) 浅黄2.5Y7/3 (内) 浅黄2.5Y7/3	(外) 条痕 (内) 条痕	
70	3	浅鉢	(19.0)			D6	青灰色粘土		2mm以下	(外) にぶい橙7.5YR6/4 (内) 灰黄褐10YR6/2	(外) 条痕 (内) 条痕	
70	4	浅鉢				E6	青灰色粘土	523	2mm以下	(外) 灰黄2.5Y6/2 (内) 暗灰黄2.5Y5/2	(外) 風化のため不明 (内) 風化のため不明	
70	5	深鉢				E6	青灰色粘土		2mm以下	(外) にぶい黄橙10YR7/2 (内) 灰黄2.5Y7/2	(外) 擬似縄文、ナデ (内) 条痕、ナデ	権現山式新
70	6	深鉢 (有文)				E6	青灰色粘土	524	3mm以下	(外) にぶい黄褐10YR5/3 (内) 灰黄褐10YR6/2	(外) 沈線、条痕 (内) 条痕	
70	7	深鉢？				E6	青灰色粘土		2mm以下	(外) にぶい黄橙10YR6/3 (内) 黒褐10YR3/1	(外) 縄文、沈線 (内) 風化のため不明	沖丈式〜権現山式古
70	8	深鉢				E6	青灰色粘土		1mm以下	(外) 黒7.5Y2/1 (内) 黒5Y2/1	(外) 沈線、刻目、ミガキ (内) ミガキ	権現山式新 元住吉山Ⅰ併行
70	9	浅鉢	24.6		8.8	E6	青灰色粘土	2107	微砂粒	(外) 褐灰10YR4/1 (内) 黒褐10YR3/1	(外) 沈線、擬似縄文(巻貝)、ミガキ (内) ナデ、ミガキ	権現山式新
70	10	注口土器？				E6	青灰色粘土	2108	3mm以下	(外) にぶい黄2.5Y6/3 (内) 灰白10YR8/2	(外) 沈線内連続刺突、縄文、ミガキ (内) 条痕？ナデ？	権現山式古〜新
73	1	深鉢				E9	暗オリーブ 灰色粘土Ⅰ		3mm以下	(外) 灰黄褐10YR6/2 (内) 褐灰10YR6/1	(外) 沈線、縄文？ (内) 風化のため不明	北白川上層式3 沖丈式併行
73	2	深鉢				E9	暗オリーブ 灰色粘土Ⅰ	847	5mm以下	(外) 褐灰10YR5/1 (内) 灰白2.5Y8/1	(外) 縄文(RL)、条痕 (内) 条痕、ナデ	沖丈式
73	3	鉢				E9	暗オリーブ 灰色粘土Ⅰ		1mm以下	(外) にぶい黄橙10YR7/2 (内) 褐灰10YR6/1	(外) 縄文、ミガキ、ナデ (内) ミガキ	崎ヶ鼻式
73	4	鉢				E8	暗オリーブ 灰色粘土Ⅰ		1mm以下	(外) 黒褐2.5Y3/2 (内) オリーブ黒5Y3/1	(外) 縄文、ミガキ (内) ミガキ	崎ヶ鼻式
73	5	深鉢					暗オリーブ 灰色粘土Ⅰ		3mm以下	(外) 褐灰10YR4/1 (内) 黄灰2.5Y5/1	(外) 縄文、ミガキ (内) ミガキ？	崎ヶ鼻式
73	6	深鉢	(20.4)				暗オリーブ 灰色粘土Ⅰ		2mm以下	(外) 灰黄褐10YR6/2 (内) 灰黄2.5Y7/2	(外) 縄文(RL)、ナデ (内) 条痕、ナデ	縄文地鉢 沖丈式
73	7	深鉢(注口)					暗オリーブ 灰色粘土Ⅰ		1mm以下	(外) 黒褐2.5Y3/1 (内) 灰黄2.5Y7/2	(外) 沈線、縄文(無節L)、ミガキ (内) ナデ	縄文地鉢？ 沖丈式
73	8	深鉢？				E9	暗オリーブ 灰色粘土Ⅰ		2mm以下	(外) 褐灰10YR6/1 (内) 橙7.5YR6/6	(外) 縄文、ミガキ (内) 縄文？、ミガキ	崎ヶ鼻式
73	9	深鉢				E9	暗オリーブ 灰色粘土Ⅰ		2mm以下	(外) 灰黄2.5Y6/2 (内) 黒褐2.5Y3/1	(外) 縄文(RL)、条痕？ (内) 縄文(RL)	沖丈式
73	10	深鉢				E8	暗オリーブ 灰色粘土Ⅰ		2mm以下	(外) 黄灰2.5Y5/1 (内) 黒7.5Y2/1	(外) 風化のため不明 (内) 風化のため不明	沖丈式
73	11	深鉢				E8	暗オリーブ 灰色粘土Ⅰ		4mm以下	(外) 黒5Y2/1 (内) 灰黄褐10YR4/2	(外) 沈線、縄文、条痕、ナデ (内) 条痕、ナデ	胴部 沖丈式
73	12	深鉢					暗オリーブ 灰色粘土Ⅰ		3mm以下	(外) 橙7.5YR7/6 (内) にぶい橙7.5YR7/4	(外) 条痕、ナデ (内) 指頭圧痕	内面肥厚粗製深鉢 崎ヶ鼻2式〜沖丈式
73	13	深鉢				E8	暗オリーブ 灰色粘土Ⅰ	704	3mm以下	(外) 灰白10YR7/1 (内) 灰白2.5Y7/1	(外) 条痕、ナデ (内) 指頭圧痕、条痕、ナデ	内面肥厚粗製深鉢 崎ヶ鼻2式〜沖丈式
73	14	深鉢	(29.7)			E8	暗オリーブ 灰色粘土Ⅰ	682	4mm以下	(外) 褐灰10YR4/1 (内) 灰黄2.5Y7/2	(外) 条痕、ナデ (内) 条痕	
73	15	深鉢	(24.4)			E9	暗オリーブ 灰色粘土Ⅰ	674	3mm以下	(外) にぶい橙7.5YR7/4 (内) 黄灰2.5Y6/1	(外) 条痕、ナデ？ (内) ナデ？	
73	16	浅鉢				E9	暗オリーブ 灰色粘土Ⅰ		2mm以下	(外) 灰5Y6/1 (内) 橙5YR6/6	(外) 沈線 (内) ナデ？	崎ヶ鼻式
73	17	浅鉢				E8	暗オリーブ 灰色粘土Ⅰ		2mm以下	(外) 灰黄2.5Y6/2 (内) 黒褐2.5Y3/2	(外) 沈線、縄文、ミガキ (内) ミガキ	崎ヶ鼻式
73	18	注口					暗オリーブ 灰色粘土Ⅰ		2mm以下	(外) 褐灰10YR4/1 (内) にぶい黄橙10YR6/3	(外) 沈線、ミガキ (内) ミガキ？	胴部 沖丈式
73	19	浅鉢				E8	暗オリーブ 灰色粘土Ⅰ		1mm以下	(外) 灰褐7.5YR4/2 (内) 黒褐10YR3/2	(外) 沈線 (内) 風化のため不明	沖丈式
73	20	深鉢					暗オリーブ 灰色粘土Ⅰ	318	2mm以下	(外) 黄灰2.5Y5/1 (内) 灰5Y5/1	(外) 沈線、ミガキ (内) ミガキ	崎ヶ鼻式

挿図番号		器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	出土地点	出土遺構・層位	P№	出土(移動)	色調	調整及び文様等	備考
73	21	浅鉢				E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅰ		1m以下	(外)黒7.5Y2/1 (内)黒7.5Y2/1	(外)沈線、縄文 (内)ミガキ	沖丈式
73	22	浅鉢				E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅰ		2m以下	(外)暗灰N3/ (内)黒N1.5/	(外)沈線、縄文(RL)、赤彩 (内)ミガキ	沖丈式
74	1	浅鉢	(25.2)			E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅰ		1m以下	(外)黒褐10YR3/1 (内)黒10YR2/1	(外)沈線、縄文(RL)、ミガキ (内)ミガキ	沖丈式併行 北久根山第一型式の影響
74	2	浅鉢					暗オリーブ灰色粘土Ⅰ	338	1m以下	(外)黒褐2.5Y3/1 (内)黒N2/	(外)沈線、縄文、ミガキ (内)ミガキ	沖丈式併行 北久根山第一型式の影響
74	3	鉢				E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅰ		2m以下	(外)にぶい褐7.5YR5/3 (内)にぶい褐7.5YR5/4	(外)沈線、条痕 (内)ミガキ?	沖丈式
74	4	浅鉢				E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅰ		1m以下	(外)灰黄褐10YR4/2 (内)黄灰2.5Y4/1	(外)沈線、縄文、ミガキ、赤彩 (内)ミガキ	沖丈式 併行 北久根山第一型式の影響 赤彩
74	5	注口or壺					暗オリーブ灰色粘土Ⅰ		1m以下	(外)灰黄2.5Y6/2 (内)灰白5Y7/2	(外)多条の沈線、縄文、刻目 (内)ナデ	崎ヶ鼻式
74	6	鉢	11.8		9.1	E9	暗オリーブ灰色粘土Ⅰ	674	2m以下	(外)灰黄褐10YR5/2 (内)灰白2.5Y8/1	(外)条痕、ナデ? (内)条痕?	
74	7	底部		(8.2)			暗オリーブ灰色粘土Ⅰ		2m以下	(外)灰黄2.5Y7/2 (内)灰黄2.5Y7/2	(外)風化のため不明 (内)風化のため不明	
74	8	底部		(9.0)		E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅰ		3m以下	(外)褐灰10YR6/1 (内)灰5Y6/1	(外)風化のため不明 (内)風化のため不明	
75	1	鉢	(24.4)			E7	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		1m以下	(外)橙5YR6/6 (内)〃	(外)風化のため不明 (内)ナデ	布勢式
75	2	深鉢				E7	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		2m以下	(外)橙7.5YR6/6 (内)灰褐7.5YR4/2	(外)刻目、沈線 (内)ナデ?	布勢式
75	3	深鉢	(25.6)			E7	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		2m以下	(外)橙7.5YR6/6 (内)明褐色7.5YR5/6	(外)沈線、刺突、突帯、縄文(RL) (内)風化のため不明	布勢式
75	4	深鉢				E7	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		1m以下	(外)黄灰色2.5Y5/1 (内)明褐7.5Y5/6	(外)縄文(RL) (内)ナデ	崎ヶ鼻1式
75	5	深鉢				E7	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		1m以下	(外)にぶい褐7.5YR5/3 (内)褐灰10YR5/1	(外)入組文、縄文、ミガキ (内)ミガキ	崎ヶ鼻1式
75	6	浅鉢				E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ	711	3m以下	(外)灰黄褐10YR4/2 (内)灰黄2.5Y6/2	(外)沈線、縄文、ミガキ (内)ミガキ	崎ヶ鼻式
75	7	深鉢				E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ	697	4m以下	(外)灰黄褐10YR5/2 (内)にぶい黄橙10YR7/3	(外)沈線(直線、渦巻状)、縄文 (内)ミガキ	沖丈併行 北白川上層3
75	8	深鉢				E7	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		2m以下	(外)灰白2.5Y8/2 (内)灰白5Y8/1	(外)沈線 (内)条痕	崎ヶ鼻式か
75	9	深鉢				E7	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		2m以下	(外)黒褐2.5Y3/1 (内)黄灰2.5Y4/1	(外)沈線、ミガキ? (内)ミガキ?	崎ヶ鼻式か
75	10	深鉢				E9	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		1m以下	(外)にぶい褐7.5YR5/3 (内)褐灰10YR5/1	(外)沈線 (内)ミガキ	崎ヶ鼻1式
75	11	鉢	13.4		12.7	E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ	685	2m以下	(外)にぶい黄橙10YR7/2 (内)灰黄2.5Y7/2	(外)縄文、ナデ (内)ナデ	崎ヶ鼻式
75	12	鉢	(30.2)			E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ	696	1m以下	(外)黄灰2.5Y4/1 (内)灰黄2.5Y6/2	(外)縄文、ミガキ (内)ミガキ	崎ヶ鼻式か
75	13	鉢	(12.4)			E9	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		3m以下	(外)明黄褐10YR6/6 (内)灰黄褐10YR6/2	(外)ナデ? (内)ナデ、条痕?	崎ヶ鼻2式 風化した縄文地鉢
75	14	鉢				E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		1m以下	(外)灰黄褐10YR4/2 (内)灰黄褐10YR5/2	(外)縄文(RL)、ミガキ (内)ミガキ	崎ヶ鼻式か
75	15	深鉢				E9	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		2m以下	(外)黄灰2.5Y4/1 (内)黄灰2.5Y5/1	(外)ナデ (内)ナデ?	崎ヶ鼻式か 風化した縄文地鉢
76	1	深鉢					暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		1.5m以下	(外)にぶい黄橙10YR7/3 (内)褐灰10YR5/1	(外)刻目(口縁外面・上面)、ナデ (内)ナデ	崎ヶ鼻式
76	2	深鉢				E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ	763	3m以下	(外)灰黄2.5Y6/2 (内)にぶい黄橙10YR7/2	(外)刻目、ナデ (内)ナデ	崎ヶ鼻式
76	3	深鉢				E9	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		3m以下	(外)橙5YR6/6 (内)明赤褐5YR5/6	(外)刻目、条痕 (内)条痕	崎ヶ鼻式
76	4	深鉢				E7	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		2m以下	(外)灰白5Y7/1 (内)にぶい黄橙10YR7/3	(外)刻目 (内)風化のため不明	崎ヶ鼻式
76	5	深鉢				E7	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		1m以下	(外)灰白2.5Y8/1 (内)灰白2.5Y8/2	(外)刻目、沈線? (内)条痕?	崎ヶ鼻式
76	6	深鉢				E9	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		1m以下	(外)灰黄褐10YR4/2 (内)灰黄褐10YR6/2	(外)刻目、条痕 (内)条痕	崎ヶ鼻式
76	7	深鉢				E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ	726	3m以下	(外)暗灰黄2.5Y5/2 (内)にぶい黄橙10YR6/4	(外)刻目、ナデ? (内)ナデ?	崎ヶ鼻式
76	8	深鉢				E9	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		2m以下	(外)にぶい黄橙10YR7/2 (内)灰白2.5Y8/2	(外)刻目、条痕 (内)条痕	崎ヶ鼻式
76	9	深鉢				E7	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		3m以下	(外)にぶい黄2.5Y6/3 (内)灰白2.5Y8/2	(外)突帯、条痕 (内)条痕	崎ヶ鼻式
76	10	深鉢				E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		2m以下	(外)褐灰10YR4/2 (内)暗灰黄2.5Y5/2	(外)条痕? (内)条痕?	崎ヶ鼻2式～沖丈式 内面肥厚粗製深鉢
76	11	深鉢				E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		2m以下	(外)橙5YR7/6 (内)浅黄橙10YR8/3	(外)風化のため不明 (内)内面肥厚	崎ヶ鼻2式～沖丈式 内面肥厚粗製深鉢
76	12	深鉢				E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ	692	2m以下	(外)灰黄2.5Y7/2 (内)にぶい黄橙10YR7/2	(外)条痕、ナデ (内)ナデ	
76	13	深鉢				E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		3m以下	(外)灰白5Y7/1 (内)橙5YR6/6	(外)風化のため不明 (内)風化のため不明	
76	14	深鉢				E7	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		2m以下	(外)灰白10YR8/2 (内)浅黄橙10YR8/3	(外)縄文? (内)風化のため不明	
76	15	深鉢	(21.4)			E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		3m以下	(外)灰黄褐10YR5/2 (内)にぶい黄橙10YR7/3	(外)口縁端部肥厚、縄文?、条痕 (内)条痕	崎ヶ鼻2式～沖丈式
76	16	深鉢				E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		4m以下	(外)灰5Y6/1 (内)灰白N7/	(外)風化のため不明 (内)風化のため不明	
76	17	鉢				E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		2m以下	(外)灰黄2.5Y6/2 (内)灰黄2.5Y7/2	(外)条痕? (内)条痕?	
76	18	鉢				E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		3m以下	(外)明赤褐5YR5/6 (内)にぶい橙5YR	(外)沈線 (内)条痕	沖丈式か
77	1	深鉢					暗オリーブ灰色粘土Ⅱ	711	5m以下	(外)にぶい褐7.5YR5/4 (内)にぶい橙7.5YR6/4	(外)条痕 (内)条痕	
77	2	深鉢				E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		2m以下	(外)灰白10YR8/2 (内)灰黄2.5Y7/2	(外)条痕 (内)条痕	
77	3	深鉢				E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		2m以下	(外)褐灰10YR5/1 (内)灰黄褐10YR6/2	(外)刻目、条痕 (内)条痕	
77	4	深鉢				E7	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		3m以下	(外)灰黄褐10YR4/2 (内)灰黄褐10YR5/2	(外)条痕?、ナデ? (内)風化のため不明	
77	5	深鉢				E7	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		3m以下	(外)橙7.5YR6/6 (内)灰オリーブ5Y6/2	(外)条痕、ナデ (内)条痕?	
77	6	深鉢				E9	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		3m以下	(外)にぶい黄褐10YR5/3 (内)灰白N7/	(外)刺突、条痕 (内)条痕?	
77	7	浅鉢	(32.0)			E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ	711	2m以下	(外)灰黄2.5Y7/2 (内)浅黄2.5Y7/3	(外)沈線、縄文、条痕 (内)条痕、ナデ	布勢式
77	8	浅鉢	(23.8)				暗オリーブ灰色粘土Ⅱ	770	1m以下	(外)黄灰2.5Y4/1 (内)灰黄2.5Y6/2	(外)赤彩、磨消縄文、ミガキ (内)ミガキ	沖丈式併行 北久根山第一型式の影響
77	9	浅鉢	(25.0)			E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ	694	2m以下	(外)黒褐2.5Y3/1 (内)黄灰2.5Y4/1	(外)磨消縄文(RL)、ミガキ (内)ミガキ	沖丈式併行 北久根山第一型式の影響
77	10	浅鉢				E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		1.5m以下	(外)灰白5Y7/1 (内)灰白5Y7/1	(外)沈線、擬似縄文、ミガキ (内)ミガキ	沖丈式
77	11	浅鉢				E9	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		2m以下	(外)灰黄褐10YR5/2 (内)黒N1.5/	(外)穿孔(2カ所)、ミガキ、ナデ (内)ミガキ	布勢式
77	12	浅鉢				E9	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		1m以下	(外)にぶい褐7.5YR5/3 (内)にぶい黄橙10YR6/2	(外)ミガキ (内)ミガキ	布勢式 77-11と同じ器種
78	1	浅鉢	(35.0)			E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		3m以下	(外)橙5YR6/8 (内)灰白2.5Y8/1	(外)風化のため不明 (内)風化のため不明	布勢式～沖丈式
78	2	浅鉢				E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		2m以下	(外)にぶい黄橙10YR6/3 (内)灰黄褐10YR4/2	(外)ミガキ (内)ミガキ	崎ヶ鼻式
78	3	浅鉢				E7	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		2m以下	(外)暗灰黄2.5Y5/2 (内)灰黄褐10YR5/2	(外)ミガキ? (内)風化のため不明	崎ヶ鼻式
78	4	浅鉢				E7	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		2m以下	(外)灰黄褐10YR5/2 (内)褐灰10YR4/1	(外)ミガキ (内)ミガキ	
78	5	深鉢	(40.4)			E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ	760	3m以下	(外)にぶい黄橙10YR7/2 (内)灰7.5Y5/1	(外)沈線、ミガキ (内)ミガキ	
78	6	深鉢				E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ	760	3m以下	(外)灰褐7.5Y4/2 (内)灰N6/	(外)ミガキ? (内)風化のため不明	
78	7	浅鉢				E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		3m以下	(外)にぶい褐7.5YR5/4 (内)灰黄褐10YR5/2	(外)ミガキ (内)ミガキ	
78	8	浅鉢				E9	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		3m以下	(外)黒褐2.5Y3/2 (内)灰黄褐10YR5/2	(外)ミガキ (内)ミガキ	崎ヶ鼻式 頸部無文浅鉢
78	9	浅鉢				E7	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		2m以下	(外)灰褐7.5YR5/3 (内)灰白5Y7/1	(外)ミガキ (内)風化のため不明	
78	10	浅鉢?				E7	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		2m以下	(外)にぶい黄橙10YR7/2 (内)暗灰N3/	(外)ミガキ (内)ミガキ	
78	11	双耳壺		6.3		E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ	781	2m以下	(外)黒褐10YR3/1 (内)褐灰10YR5/1	(外)沈線、穿孔、ミガキ、ナデ (内)ナデ?	暮地式(=晩1~2式)

挿図番号		器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	出土地点	出土遺構・層位	P№	胎土(砂粒)	色調	調整及び文様等	備考
78	12	底部		(12.0)		E9	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		3mm以下	(外) 灰黄2.5Y6/2 (内) 灰黄2.5Y7/2	(外) 風化のため不明 (内) 風化のため不明	
78	13	底部(深鉢)		(9.0)		E7	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		4mm以下	(外) にぶい黄橙10YR7/2 (内) にぶい橙5YR6/4	(外) 条痕 (内) 条痕	
78	14	底部		(10.7)		E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ	764	3mm以下	(外) 灰白7.5Y7/1 (内) 灰白2.5Y8/2	(外) ナデ (内) ナデ	
78	15	底部(深鉢)		(11.0)		E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		3mm以下	(外) 橙5YR6/6 (内) 灰白10YR8/1	(外) 風化のため不明 (内) 風化のため不明	
78	16	底部		(10.0)		E9	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		2mm以下	(外) にぶい黄橙10YR7/2 (内) 灰黄2.5Y7/2	(外) ナデ (内) ナデ	
78	17	底部		(9.4)		E9	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		2mm以下	(外) 灰黄2.5Y7/2 (内) にぶい黄橙10YR7/2	(外) ナデ (内) ナデ	
78	18	底部		(9.2)		E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ	731	3mm以下	(外) 灰5Y5/1 (内) 橙7.5Y6/6	(外) 風化のため不明 (内) ナデ？	
78	19	底部		(9.4)		E9	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		2mm以下	(外) にぶい黄褐10YR5/3 (内) にぶい黄褐7.5YR5/4	(外) ナデ (内) 風化のため不明	
78	20	底部		(9.7)		E9	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		2mm以下	(外) 灰5Y4/1 (内) 暗灰N3/	(外) ナデ (内) ナデ？	
78	21	底部(深鉢)		(9.2)		E7	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		3mm以下	(外) 灰白5Y7/1 (内) 灰黄2.5Y6/2	(外) 風化のため不明 (内) 風化のため不明	
78	22	底部		(9.6)		E9	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		3mm以下	(外) 黄灰2.5Y6/1 (内) 橙7.5YR6/6	(外) 条痕？ (内) 風化のため不明	
78	23	底部		(11.0)		E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		2mm以下	(外) 橙7.5YR7/6 (内) にぶい黄橙10YR7/4	(外) 条痕？ナデ？ (内) 条痕？	
78	24	底部		(12.4)		E9	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		3mm以下	(外) 灰白2.5Y8/2 (内) にぶい橙7.5YR7/4	(外) ナデ？ (内) 風化のため不明	
78	25	底部		(10.8)		E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ	729	2mm以下	(外) 灰白5Y8/1 (内) オリーブ黄5Y6/3	(外) 風化のため不明 (内) 風化のため不明	
78	26	底部(深鉢)		(11.6)			暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		2mm以下	(外) 浅黄2.5Y8/3 (内) 灰黄褐10YR6/2	(外) 風化のため不明 (内) 風化のため不明	
78	27	底部		(6.4)		E9	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ		1mm以下	(外) 黄灰2.5Y5/1 (内) 橙5YR6/6	(外) ミガキ (内) ミガキ	
79	1	深鉢				E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅰ+Ⅱ	710	3mm以下	(外) 灰黄褐10YR6/2 (内) にぶい黄橙10YR6/3	(外) 沈線、縄文 (内) 風化のため不明	沖丈式〜権現山式古？
79	2	深鉢				E9	暗オリーブ灰色粘土Ⅰ+Ⅱ	654	3mm以下	(外) 灰黄褐10YR4/2 (内) にぶい黄橙10YR6/4	(外) 沈線、ナデ (内) ナデ	沖丈式〜権現山式
79	3	浅鉢				E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅰ+Ⅱ		2mm以下	(外) 灰白10YR8/1 (内) 灰白10YR8/1	(外) ミガキ (内) 沈線、縄文、ミガキ	権現山式
79	4	深鉢				E9	暗オリーブ灰色粘土Ⅰ+Ⅱ		1mm以下	(外) にぶい黄褐10YR5/3 (内) 褐灰10YR5/1	(外) 縄文 (内) 風化のため不明	嶋ヶ鼻2式
79	5	鉢				E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅰ+Ⅱ	632	1mm以下	(外) 褐灰10YR4/1 (内) 褐灰10YR5/2	(外) 縄文(RL)、ミガキ (内) ミガキ	嶋ヶ鼻式
79	6	鉢	(12.8)			E9	暗オリーブ灰色粘土Ⅰ+Ⅱ		2mm以下	(外) 黄灰2.5Y4/1 (内) 灰白2.5Y8/2	(外) 風化のため不明 (内) 風化のため不明	嶋ヶ鼻2式 風化した縄文地鉢？
79	7	深鉢？				E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅰ+Ⅱ	617	2mm以下	(外) 灰黄褐10YR4/2 (内) にぶい黄橙10YR7/3	(外) 沈線、縄文 (内) 風化のため不明	沖丈式
79	8	深鉢				E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅰ+Ⅱ	620	2mm以下	(外) にぶい黄褐10YR5/3 (内) にぶい黄褐10YR5/3	(外) 縄文 (内) 沈線	沖丈式　縄文地鉢
79	9	鉢				E9	暗オリーブ灰色粘土Ⅰ+Ⅱ	654	3mm以下	(外) 黄灰2.5Y5/1 (内) 灰白5Y8/1	(外) 縄文(RL)、ナデ (内) ナデ	嶋ヶ鼻式か
79	10	深鉢				E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅰ+Ⅱ		2mm以下	(外) 灰5Y5/1 (内) にぶい黄橙10YR6/3	(外) 条痕 (内) 内面肥厚	嶋ヶ鼻2式〜沖丈式 内面肥厚粗製深鉢
79	11	深鉢				E9	暗オリーブ灰色粘土Ⅰ+Ⅱ	646	3mm以下	(外) にぶい橙7.5YR7/4 (内) 灰白2.5Y8/1	(外) 風化のため不明 (内) 風化のため不明	嶋ヶ鼻2式〜沖丈式 内面肥厚粗製深鉢
79	12	深鉢？				E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅰ+Ⅱ	597	5mm以下	(外) にぶい褐7.5YR5/3 (内) 橙5Y6/6	(外) 風化のため不明 (内) 風化のため不明	嶋ヶ鼻2式〜沖丈式 内面肥厚粗製深鉢
79	13	深鉢				E9	暗オリーブ灰色粘土Ⅰ+Ⅱ	646	1.5mm以下	(外) 黄灰2.5Y4/1 (内) 灰黄2.5Y7/2	(外) 条痕 (内) 条痕、ナデ	
79	14	浅鉢？				E9	暗オリーブ灰色粘土Ⅰ+Ⅱ	655	2mm以下	(外) 灰白7.5YR8/2 (内) 灰黄褐10YR6/2	(外) ミガキ (内) ミガキ	
79	15	深鉢？				E9	暗オリーブ灰色粘土Ⅰ+Ⅱ	673	1.5mm以下	(外) 灰白2.5Y8/2 (内) 灰黄2.5Y7/2	(外) ミガキ (内) ミガキ	
79	16	浅鉢	(29.9)			E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅰ+Ⅱ		1.5mm以下	(外) にぶい橙7.5YR7/4 (内) にぶい橙7.5YR7/3	(外) 沈線、磨消縄文、刺突文、ミガキ (内) ミガキ？	権現山式
79	17	鉢				E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅰ+Ⅱ	671	2mm以下	(外) 黄灰2.5Y4/1 (内) 黒7.5Y2/1	(外) 磨消縄文、ミガキ (内) ミガキ	沖丈式　赤彩あり
79	18	深鉢	(28.7)			E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅰ+Ⅱ		3mm以下	(外) 橙5YR6/6 (内) 黄灰2.5Y6/1	(外) 条痕？ (内) 条痕？	沖丈式か　初めから縄文をもたない
79	19	鉢？				E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅰ+Ⅱ		微砂粒	(外) にぶい黄橙10YR6/3 (内) 〃	(外) 沈線(J字文) (内) ナデ？	暮地式(ヶ鼻1〜2)
79	20	浅鉢				E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅰ+Ⅱ		2mm以下	(外) 黒7.5Y2/1 (内) 灰黄2.5Y6/2	(外) 沈線、刻目、ミガキ、赤彩 (内) ミガキ	権現山式新
81	1	深鉢	(25.8)			E8	青灰色砂礫	724	2mm以下	(外) 灰白10YR8/2 (内) にぶい黄褐10YR5/3	(外) J字の突帯、縄文(LR?) (内) 風化のため不明	布勢式新
81	2	深鉢				E7	青灰色砂礫		1mm以下	(外) にぶい橙7.5YR6/4 (内) 黒褐7.5YR3/1	(外) 沈線、刻目、縄文(R よりもどし)、ナデ (内) 条痕	布勢式新
81	3	深鉢	(30.8)			E10	青灰色砂礫	779 385	2mm以下	(外) 灰黄褐10YR5/2 (内) にぶい黄橙10YR7/2	(外) 入組文、刺突、縄文、ミガキ？ (内) ミガキ、ナデ	嶋ヶ鼻2式〜沖丈式
81	4	深鉢				E9	青灰色砂礫		3mm以下	(外) 灰白10YR8/1 (内) 灰黄2.5Y7/2	(外) 条痕、ナデ (内) 条痕、ナデ	沖丈式〜
81	5	深鉢				E9	青灰色砂礫	775	3mm以下	(外) 灰黄褐10YR6/2 (内) にぶい黄橙10YR6/3	(外) 口縁端部肥厚、条痕？ (内) 条痕？	
81	6	深鉢				E9	青灰色砂礫	690	3mm以下	(外) にぶい橙5YR6/4 (内) 灰白10YR8/2	(外) 条痕、ナデ (内) 条痕？	
81	7	深鉢				E8	青灰色砂礫		2mm以下	(外) 灰黄褐10YR5/2 (内) にぶい黄褐10YR6/3	(外) 条痕 (内) 内面肥厚？、条痕	嶋ヶ鼻2式〜沖丈式 内面肥厚粗製深鉢
81	8	深鉢				E9	青灰色砂礫		2mm以下	(外) 灰白2.5Y7/1 (内) 橙7.5YR6/6	(外) 風化のため不明 (内) 内面肥厚・指頭圧痕	嶋ヶ鼻2式〜沖丈式 内面肥厚粗製深鉢
81	9	深鉢	(24.6)			E9	青灰色砂礫	775	2mm以下	(外) 灰7.5Y6/1 (内) 灰白7.5Y7/1	(外) 条痕 (内) 風化のため不明	
81	10	深鉢				E9	青灰色砂礫		3mm以下	(外) 浅黄2.5Y7/3 (内) 黄灰2.5Y5/1	(外) 条痕、ナデ (内) 条痕	
81	11	深鉢					青灰色砂礫	774	2mm以下	(外) 灰黄褐10YR5/2 (内) にぶい黄橙10YR6/3	(外) 条痕？ (内) 条痕？	
81	12	浅鉢				E8	青灰色砂礫		3mm以下	(外) にぶい黄橙10YR7/4 (内) にぶい黄橙10YR7/2	(外) 風化のため不明 (内) 風化のため不明	
81	13	注口土器？				E9	青灰色砂礫		1mm以下	(外) 明赤褐5YR5/6 (内) 黒褐10YR3/1	(外) 風化のため不明 (内) ミガキ？	
81	14	浅鉢				E9	青灰色砂礫	775	3mm以下	(外) 黄灰2.5Y5/1 (内) 暗灰N3/	(外) ミガキ (内) ミガキ	
81	15	鉢				E8	青灰色砂礫	774	1mm以下	(外) 黄灰2.5Y5/1 (内) 灰黄褐10YR4/2	(外) 沈線、縄文、ミガキ (内) ミガキ	嶋ヶ鼻式
81	16	壺？注口？				E9	青灰色砂礫		2mm以下	(外) にぶい褐7.5YR5/3 (内) 橙5YR6/6	(外) 沈線 (内) 風化のため不明	嶋ヶ鼻1〜2式

第4表　古屋敷遺跡(B区)出土石器観察表

挿図番号		種別等	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	グリッド	遺構等	石材	備考
9	1	打製石斧	18.8	7.3	2	471.27	E10	第1遺構面	泥質片岩	刃部磨滅
9	2	磨製石斧	12.2	4.2	2.5	212.13	E4	第1遺構面	塩基性片岩	
9	3	線刻礫	7.9	3.9	0.7	35.38	D5	第1遺構面	砂岩	
9	4	石錘	10.2	4.6	0.7	54.63	E10	第1遺構面	貫岩	基部欠損、両刃
9	5	石包丁	5.2	5.7	0.3	14.07	E9	第1遺構面	貫岩	
18	1	磨石・敲石	9.4	10	5.9	786.23	E9 10		SR01	凝灰岩	長軸端を中心に使用(敲打？)痕　祭祀遺物の可能性
18	2	磨製石斧	6.5	4.4	3.9	196.69	E10		SD03	緑色片岩	基部、刃部欠損
18	3	打製石斧	7.2	5.1	1.2	61.56	E9 F9		SD04	デイサイト	
18	4	模石	9.1	10.4	3.7	378.06	E9 F9		SD04	凝灰質砂岩	表・裏面磨滅
18	5	石包丁	5.9	5.7	0.7	31.24	E9 F9		SD04	貫岩	
18	6	吸石	17.9	8	7.8	1336.38	F9		SD04	流紋岩	表裏面と長軸側面の3面を使用、長軸側面に擦痕
18	7	石錘	1.6	0.9	0.3	0.37	E5		水田耕作	安山岩	
23	1	石錘	2.8	2	0.5	2.63	E7	第2遺構面	安山岩	未成品
23	2	磨製石斧	9	5.6	2.6	146.27	E7 E8	第2遺構面	片岩	基部、刃部欠損、全体に強く磨滅
23	3	打製石斧	13.9	5.9	1.6	156.44	E9 F9	第2遺構面	泥質片岩	刃部面研磨
23	4	線刻礫	6.3	4.5	0.8	27.59	E4 E5		SK04	泥岩	
23	2	打製石斧	9.2	7.1	2.4	149.88	D5		SK08	流紋岩	未成品
23	3	石錘	1.7	1.3	0.4	0.49	E9		SK13	安山岩	
23	4	石錘	1.8	1	0.3	0.41	E9		SK13	安山岩	
23	5	石錘	2.7	1.3	0.2	0.45	E9		SK13	安山岩	
23	6	石錘	2.3	1.4	0.4	0.68	E9		SK13	安山岩	
23	7	石錘	2.4	1.6	0.2	0.88	E9		SK13	安山岩	
23	8	線刻礫	5	4.7	1	22.5	E9		SK13	凝灰岩	
23	9	不明石器	6.3	2.1	1.1	18.67	E9		SK13	緑色片岩	表面磨滅、一部裏変　祭祀遺物？
23	10	吸石	6.7	2.4	4.5	88.34	E9		SK13	流紋岩	表面のみ使用痕
34	11	凹石	28.7	24.4	13.9	9500	E9		SK13	砂岩	表面磨滅、周囲に凹み、敲打痕
34	12	吸石？	8.4	6	2.8	180.69	D6		SX01	砂岩	
34	13	打製石斧	14.7	6.8	1.65	242.04	D6		SX01	緑色片岩	刃部著しく磨滅
34	14	打製石斧	11.4	5.7	1.6	142.68	D6		SX01	緑色片岩	
38	1	打製石斧	10.8	5.8	2	153.85	E6	第3遺構面	泥質片岩	刃部磨滅
38	2	打製石斧	9.4	5.4	2	144.06	D5	第3遺構面	泥質片岩	刃部欠損
38	3	磨製石斧	10.7	3.8	3.3	203.53	E7	第3遺構面	泥質片岩	刃部著しく磨滅　敲打後研磨で整形
38	4	磨製石斧	10.4	4.5	3.7	231.17		第3遺構面	泥質片岩	刃部欠損
38	5	磨製石斧	11.2	4.8	3	233.08	E6	第3遺構面	緑色片岩	敲打後研磨で整形
38	6	スクレイパー	6.1	8.6	0.7	50.79	C5	第3遺構面	安山岩	
38	7	スクレイパー	3	2.8	0.6	5.23		第3遺構面	安山岩	
38	8	スクレイパー	7	3.5	0.7	17.37	D4 D5	第3遺構面	安山岩	
38	9	磨石・敲石	11.1	10.5	6.2	889.17	D6	第3遺構面	デイサイト	表・裏面磨滅、側面に敲打(使用？)痕
38	10	吸石？	15.5	10.1	3.4	684.4	D6	第3遺構面	凝灰岩	表面のみ磨滅
38	1	石棒	14.2	4.1	4.9	461.97	D7	第3遺構面	緑色片岩	くびれを表すような線刻
39	2	石棒	7.9	5.7	3.2	166.9	D8	第3遺構面	凝灰岩	軟質　くびれを表したような線刻
39	3	不明石器	16.1	5.7	2.7	227.03	D9	第3遺構面	凝灰岩	表面磨滅、側面、逆面は敲打痕のみ　祭祀遺物？
39	4	不明石器	8.2	3.6	2.9	108.44		第3遺構面	凝灰岩	周縁全体、両側面に擦痕(横刃状)、敲打痕　祭祀遺物？
39	5	玉	3.1	1.1	1.1	5.05	E6	第3遺構面	凝灰岩	本来は緑色凝灰岩？　孔径0.8
39	1	磨石・敲石	6.5	5.5	5	255.84	E4 E5		SD09	デイサイト	長軸端使用痕、逆面中央に擦痕・敲打痕
54	2	線刻礫	4.8	3.2	1.5	16.85	E4 E5		SD09	凝灰岩	女性器か正中線
54	3	臼	23.2	23.3	8	4350	E4 E5		SD09	流紋岩	表面に擦痕
55	1	打製石斧	11.7	6.4	1.3	126.9	D6	土器溜まり1	流紋岩	刃部磨滅し使用痕か
55	2	打製石斧	12.7	6.15	1.65	153.96	D6	土器溜まり1	安山岩	
55	3	打製石斧	10	8.4	3	252.83	D6	土器溜まり1	流紋岩	
55	4	打製石斧	9.8	10.3	3.3	321.38	E7	土器溜まり1	デイサイト	刃部に使用痕
55	5	打製石斧	12.2	8.5	2.1	215.09	D6	土器溜まり1	安山岩	
55	6	打製石斧	11.9	8.3	2.7	256.22	D6	土器溜まり1	流紋岩	先端部欠損
55	7	打製石斧	12.9	8.5	4	512.97	D6	土器溜まり1	デイサイト	未成品
55	8	打製石斧？	8.3	7.4	1.8	173.36	D6	土器溜まり1	デイサイト	未成品？
55	9	打製石斧	9.1	6.9	2.2	149.03	D6	土器溜まり1	安山岩	
55	1	磨製石斧	11.8	5.8	3.2	317.9	D6	土器溜まり1	緑色片岩	
55	2	磨製石斧？	10.2	6.1	3.5	280.55	D6	土器溜まり1	緑色片岩	使用時の欠損あり
55	3	石錘	2.2	1.3	0.3	0.71	D5	土器溜まり1	安山岩	未成品
56	4	石錘	2.2	1.6	0.35	0.98	D6	土器溜まり1	安山岩	
56	5	スクレイパー	7	3.5	0.55	14.71	D6	土器溜まり1	流紋岩	
56	6	スクレイパー	8.9	9.9	1.5	117.34	D6	土器溜まり1	デイサイト	
56	7	スクレイパー	5.9	7.8	1.3	59.7	D6	土器溜まり1	安山岩	
56	8	スクレイパー	3.8	6.4	0.8	16.05	D7	土器溜まり1	安山岩	
56	9	スクレイパー	2.8	4.6	0.6	7.1	D6	土器溜まり1	流紋岩	
56	10	スクレイパー	6.7	11.1	1.9	100.48	D6	土器溜まり1	流紋岩	
56	11	スクレイパー	7.5	7.3	1.5	72.81	D6	土器溜まり1	流紋岩	
56	12	スクレイパー	9.6	5.7	1	47.21	D6	土器溜まり1	安山岩	
56	13	スクレイパー	7.3	4	1	27.53	D6	土器溜まり1	流紋岩	
56	14	スクレイパー	3.2	4.5	1.1	19.28	D7	土器溜まり1	安山岩	
56	15	スクレイパー	6.3	8.8	1.4	65.7	C5	土器溜まり1	デイサイト	
56	16	スクレイパー	3.1	5.9	0.8	12.94	D6	土器溜まり1	安山岩	
56	17	剥片	4.4	3.7	1.1	13.21	D6	土器溜まり1	安山岩	
57	1	磨石・敲石	14.2	10.6	6.6	1625.59	D6	土器溜まり1	流紋岩	表・裏面磨滅、表面敲打と凹み、側面も敲打
57	2	磨石・敲石	19.3	5.9	4	720.65	D6	土器溜まり1	デイサイト	
57	3	磨石・敲石	9.5	8.6	4.3	516.46	D6	土器溜まり1	デイサイト	
57	4	磨石・敲石	9.3	7.9	5.2	484.91	D6	土器溜まり1	デイサイト	凹み・磨滅・敲打痕いずれもあり
57	5	石皿？	20.5	7.2	7.3	3650	D5	土器溜まり1	流紋岩	表面やや湾らかだが使用痕か？　側面は整形痕
57	6	磨石・敲石	14.1	7.8	6.8	1088.22	D6	土器溜まり1	流紋岩	磨滅面あり
58	1	石刀？	13.1	3.9	0.9	71.72	D6	土器溜まり1	泥質片岩	
58	2	石版？	10.7	8.1	1.9	162.03	D6	土器溜まり1	凝灰岩	全面磨滅　軟質
58	3	石棒？	13.8	2.9	2.8	115.57	D6	土器溜まり1	凝灰岩？	全体に磨滅、表面は擦痕、逆面は敲打痕？
58	4	石版？	9.9	6.3	2	117.92	D6	土器溜まり1	凝灰岩	全面磨滅　軟質
58	5	凹石	10	6	4.6	308.37	D5	土器溜まり1	凝灰岩	軟質　祭祀遺物の可能性
58	6	石版か？	8.6	5.2	2.1	88.03	D6	土器溜まり1	凝灰岩	軟質　長辺端部に剥離
58	7	石棒	8	4.1	2.9	162.87	D6	土器溜まり1	デイサイト	
58	8	石棒	7.2	6.2	4	289.85	E7	土器溜まり1	緑色片岩	全面磨滅、くびれの表現
58	9	不明石器	7.2	7.4	6.4	247.66	D6	土器溜まり1	凝灰岩	表面磨滅し、同じ面に凹み
58	10	不明石器	14	10.3	1.7	288.25	D6	土器溜まり1	凝灰岩	表面敲打痕　裏面擦痕
59	1	石錘	12.2	9.4	1.6	244.38	D7	土器溜まり1	凝灰岩	被熱有り

挿図番号		種別等	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	グリッド	遺構等	石材	備考
59	2	石錘	8.9	5.8	3.8	146.6	D6	土器溜まり1	凝灰岩	短軸側面と長軸端の一方を打ち欠き
59	3	石錘	9.5	9.3	2.4	198.22	D6	土器溜まり1	デイサイト	被熱により赤変
61	1	打製石斧	11	6.4	21.5	160.79	E6	第4遺構面	泥質片岩	刃部の磨滅(使用痕)著しい
61	2	磨製石斧	12.8	3.7	2.7	191.02	E6	第4遺構面	泥質片岩	敲打後研磨で整形
61	3	磨製石斧	10.8	4.7	1.5	122.42		第4遺構面	泥質片岩	基部欠損、全体に強う磨滅、先端部使用に伴う欠け
61	4	磨製石斧	9.6	4.4	3.2	234.12	E7	第4遺構面	泥質片岩	
61	5	板状石核	10.5	7.3	0.8	94.83	E6	第4遺構面	安山岩	両面とも大きな剥離
61	6	板状石核	12.7	16	1.7	471.5		第4遺構面	安山岩	両面とも大きな剥離
61	7	磨石・敲石	11	9.5	5.5	761.27		第4遺構面	流紋岩	表面は磨滅と敲打痕、裏面は縁辺が磨滅、側面は磨滅
61	8	凹石	15.2	7.5	5.8	627.51	D4 D5	第4遺構面	凝灰岩	祭祀遺物か
64	1	磨製石斧	12	5.1	3.2	324.68	E9	河道	緑色片岩	
64	2	磨石・敲石	10.5	4	2.3	123.27	E10 E11	河道	泥岩	長軸端に敲打痕　石斧の可能性
64	3	石皿	14.4	15.6	4.9	899.63	D7	河道	凝灰岩	表・裏面磨滅、表面には敲打痕も
64	4	石棒？	15.5	9.7	8.5	1993.44		河道	凝灰岩	表面は磨滅、外は剥離と自然摩耗か
68	1	打製石斧	11.2	7.2	1.8	190.66	D7	緑灰色粘土	泥質片岩	未成品か
68	2	石斧？	10.3	5.6	3.2	256.49	D7	緑灰色粘土	泥質片岩	全面剥離による整形　未成品
68	3	磨石・敲石	10.1	8.1	4.9	497.77	E7	緑灰色粘土	流紋岩	表、裏面磨滅、表・裏面・側面に敲打痕
68	4	磨石・敲石	18.7	11.9	3.9	1439.91	E8	緑灰色粘土	デイサイト	全面磨滅、表・裏面に敲打、擦痕
68	5	石皿	18.5	11.4	3.4	1020.52	E7	緑灰色粘土	凝灰岩	表面磨滅、側面は加工(整形)痕か
68	6	石棒	21.6	5.7	4.7	770.98	E7	緑灰色粘土	流紋岩	全面磨滅、長軸端一方に敲打痕
71	1	砥石	27.6	12.1	2.7	1239.15	E8	青灰色粘土	凝灰岩？	表裏面非常に滑らかに磨滅
71	2	砥石	9.6	5.8	6.1	552.73	E6	青灰色粘土	安山岩	表面と側面の一部に磨滅面
71	3	磨石・敲石	7.9	6.9	5	478.94	D5	青灰色粘土	閃緑岩	表、裏面は磨滅　表、裏、側面に敲打痕
71	4	石棒	12.7	5.5	4.1	562.14	D6	青灰色粘土	塩基性片岩	
72	1	線刻礫	13.3	13.1	3.1	506.28	E6	青灰色粘土	凝灰岩	
72	2	不明石器	18.2	12.1	3.5	872.91	D6	青灰色粘土	凝灰岩	全面弱く磨滅、敲打痕　線刻礫素材
80	1	磨製石斧	10	4.6	3.35	210.91	E9	暗オリーブ灰色粘土Ⅰ	緑色片岩	成形時の敲打痕
80	2	磨製石斧	6.1	4.9	2.5	111.2	E9	暗オリーブ灰色粘土Ⅰ	緑色片岩	基部欠損、全体に強い磨滅、先端部使用に伴う欠け
80	3	スクレイパー	5.1	2.7	0.5	6.54	E9	暗オリーブ灰色粘土Ⅰ	安山岩	
80	4	スクレイパー	8.1	5.3	1.3	51.5	E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅰ	安山岩	
80	5	線刻礫	5.6	6.9	3.4	187.68	E9	暗オリーブ灰色粘土Ⅰ	凝灰岩	
80	6	不明石器	7.5	4	2	32.06	E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅰ	凝灰岩	全面に磨滅　黒変あり(被熱？)
80	7	磨製石斧	8.8	2.4	1.6	61.6	E9	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ	片岩？	小形
80	8	スクレイパー	6.3	7.2	2.8	126.28	E7	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ	デイサイト	
80	9	スクレイパー	2.8	5.6	1.1	11.67	E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ	流紋岩	
80	10	スクレイパー	4.8	5	3	52.16	E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ	玉髄	
80	11	スクレイパー	6.4	9.9	1.7	68.94	E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ	安山岩	
80	12	磨石・敲石	10.3	8.8	4.3	578.07	E8	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ	玄武岩	上・下面強く磨滅　側面2カ所破損
80	13	石皿	9.1	10.5	4	662.37	E7	暗オリーブ灰色粘土Ⅱ	流紋岩	

図版番号		種別等	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	グリッド	遺構等	石材	備考
57	1	剥片	12.3	8.2	4.8	270.01	D6	土器溜まり1	デイサイト	
57	2	石核	12.3	10.5	3.2	449.67	D6	土器溜まり1	デイサイト	
57	3	石核	7.6	9.4	5.4	408.88	D6	土器溜まり1	凝灰岩	
57	4	石核	10.3	12.2	5.6	764.79	D6	土器溜まり1	デイサイト	
57	5	石核	9.8	9.4	2.1	154.82	D6	土器溜まり1	安山岩	
57	6	石核	11	12	5.1	837.57	D6	土器溜まり1	安山岩	
57	7	石斧	9	7.3	2.1	164.23	D6	土器溜まり1	泥質片岩	未成品
57	8	石核	8.3	7.4	3.1	220.76	D6	土器溜まり1	流紋岩	
57	9	剥片	7.9	5.4	3.8	188.9	D6	土器溜まり1	泥質片岩	
57	10	石斧	9.9	10	2.5	277.56	D6	土器溜まり1	デイサイト	未成品
57	11	石斧	7.4	16.1	3.8	455.31	D6	土器溜まり1	デイサイト	未成品
57	12	石核	11	10.6	4.2	487.97	D6	土器溜まり1	流紋岩	
57	13	石斧	8.1	10.4	4.8	355.36	D6	土器溜まり1	デイサイト	未成品

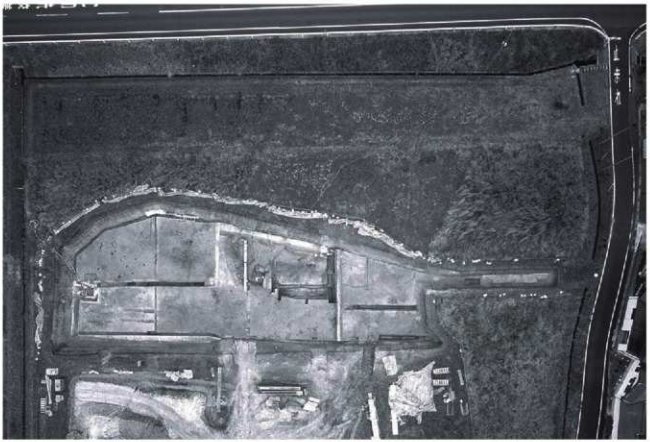
第5表　古屋敷遺跡(B区)出土土製品観察表

挿図番号		種別	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	出土地点	出土層位・遺構	胎土(砂粒)	色調		備考
22	22	環状耳飾か？	外径 2.1	孔径 0.35	0.7	D7		密　径1mm未満の砂粒若干含む	(外)	灰白2.5Y7/1	ナデ
									(内)	黄灰2.5Y6/1	
33	9	土製円盤	外径 2.8		0.4	D6 D7	SX01	密　径1mm以下の砂粒を多く含む	(外)	褐灰10YR6/1	
									(内)	橙7.5YR6/6	
33	10	土製円盤	外径 3.5		0.3	D6 D7	SX01	密　径1mm以下の砂粒を多く含む	(外)	黒2.5Y2/1	
									(内)	黒N*1.5/	
33	11	土製円盤	外径 4.1		0.3	D6 D7	SX01	密　径2mm以下の砂粒を多く含む	(外)	暗灰黄2.5Y5/2	
									(内)	褐灰10YR4/1	
79	21	耳栓	外径 3.2		0.5～1.0	E8		密　径0.5mm以下の砂粒若干含む	(外)	黒2.5Y2/1	ナデ・赤彩
									(内)	黄褐2.5Y5/3	
79	22	耳栓	外径 2.8		0.2～0.9	E9		密　径1mm以下の砂粒多く含む	(外)	灰白2.5Y8/2	
									(内)		

写真図版

B 区全景（東から）

図版２



B区全景

南壁土層上半（１）

南壁土層上半（２）

南壁土層下半（１）

図版 4

南壁土層下半（2）

9 ライン土層

SD01全景

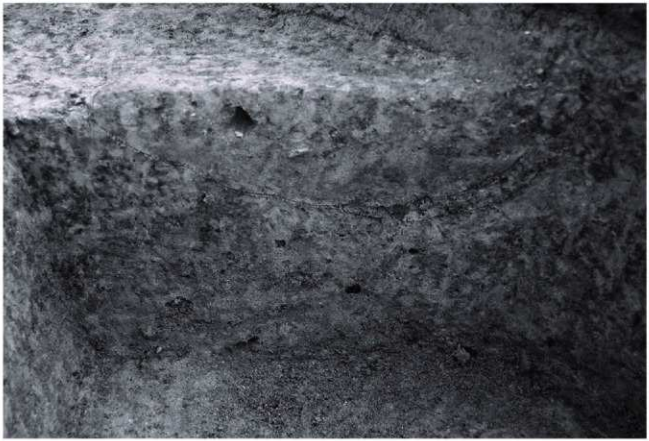
SD01土層

図版６

ＳＤ０１遺物出土状況

ＳＤ０３南側

SD03北側



SD03土層

図版 8

ＳＤ０４全景

ＳＤ０４土層

ＳＤ０７全景

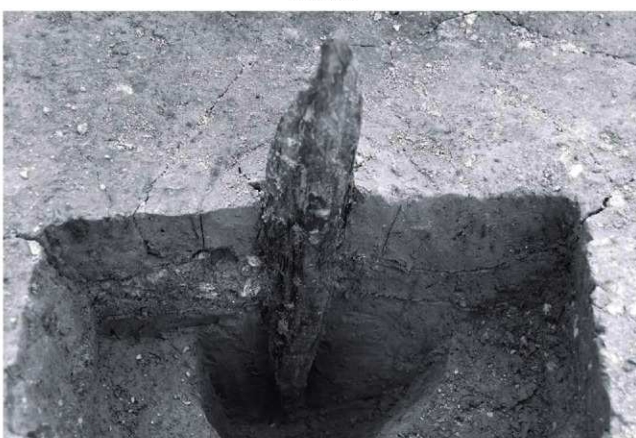
水田遺構全景

図版 10

水田遺構

畦畔土層 1

畦畔土層 4



P 1 土層

図版 12

Ｐ５土層

ＳＲ０１全景

ＳＲ０１土層

ＳＲ０１遺物出土状況

図版 14

地床炉 1 検出状況

地床炉 1 土層

第 2 遺構面　地床炉検出状況

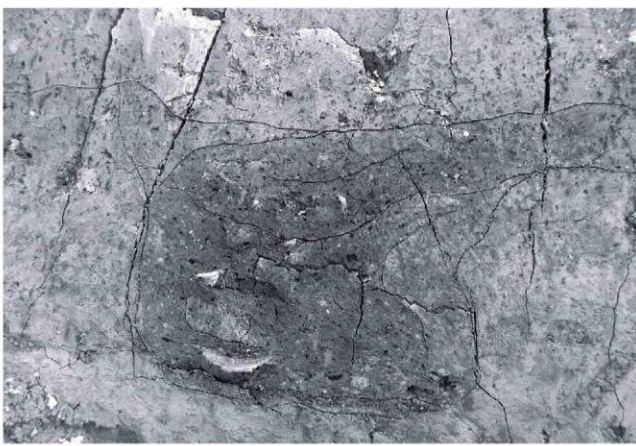
第 3 遺構面全景（東から）

図版 16

第３遺構面全景（西から）

ＳＫ０４全景

SK05全景



SK05土層

図版 18

ＳＫ１３全景

ＳＫ１３土層

ＳＫ１３遺物出土状況

ＳＸ０１検出状況

SK12全景1

SK12全景2

ＳＫ１２石材検出状況１

ＳＫ１２石材検出状況２

図版 22

ＳＤ０９全景

土器溜まり１（西から）

土器溜まり１土層

土器溜まり１遺物出土状況

図版 24

地床炉 51 ～ 53 検出状況

地床炉 51 土層

地床炉 52 土層

地床炉 53 土層

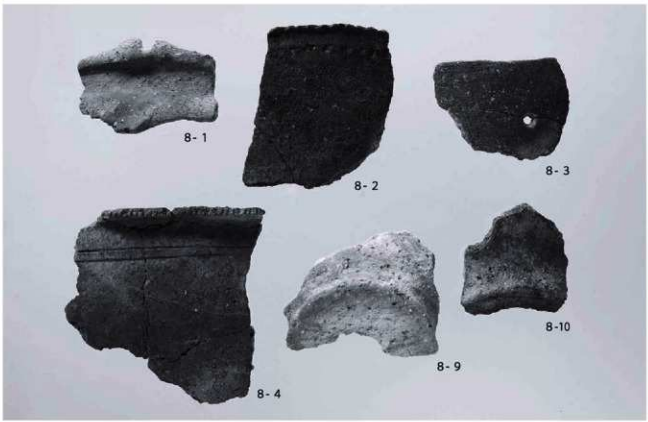
図版 26

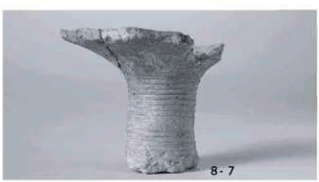
完掘状況（東から）

完掘状況（西から）

赤彩土器・土製品

赤彩土器・土製品

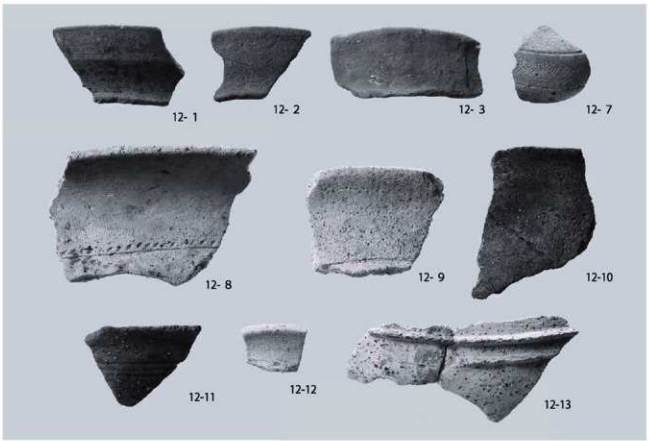




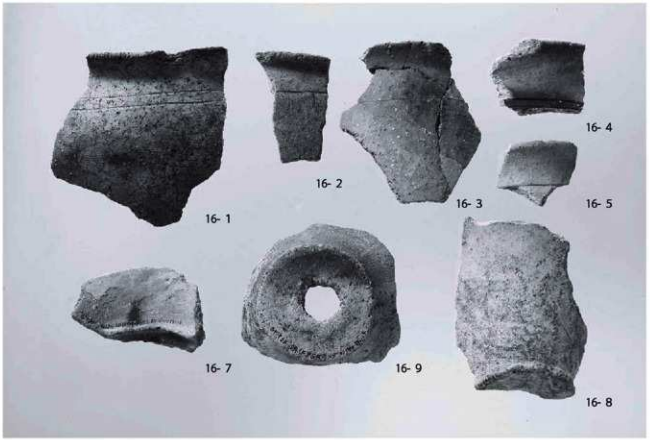
試掘調査・第 1 遺構面包含層出土土器

第 1 遺構面　包含層出土土器

SD01・03 出土土器



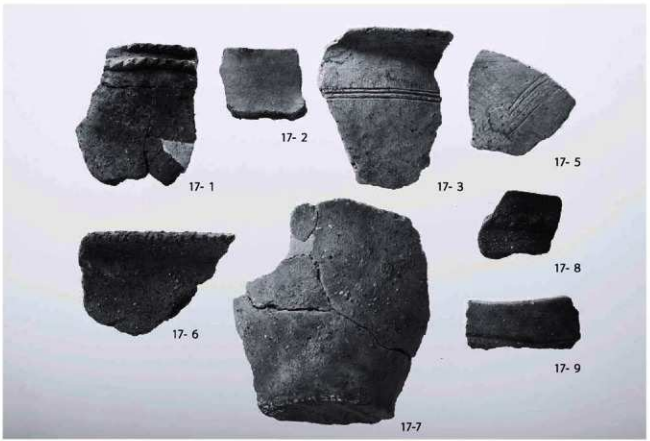
SD01・03 出土土器



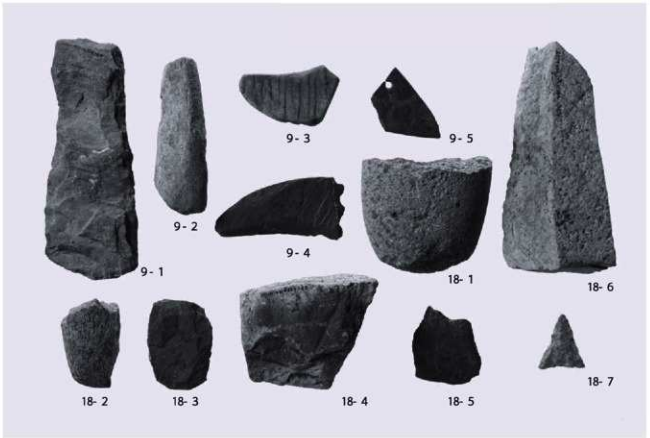
SR01 出土土器

SR01 出土土器

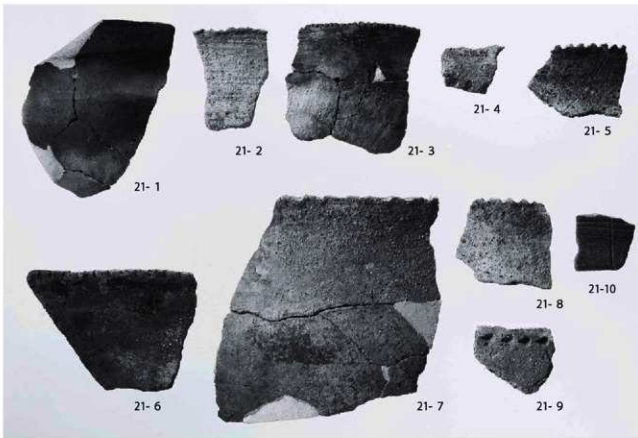
SR01 出土土器



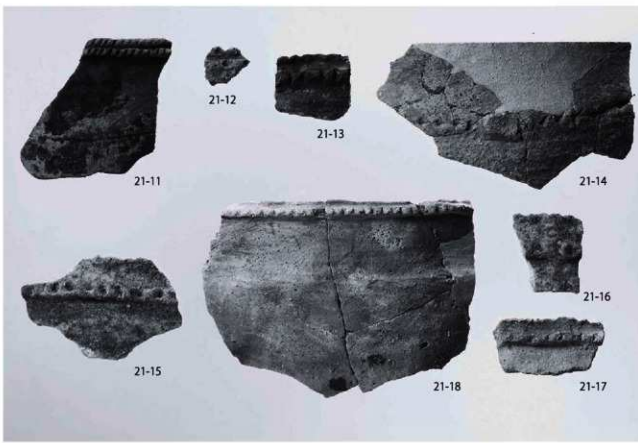
SR01・水田畦畔出土土器



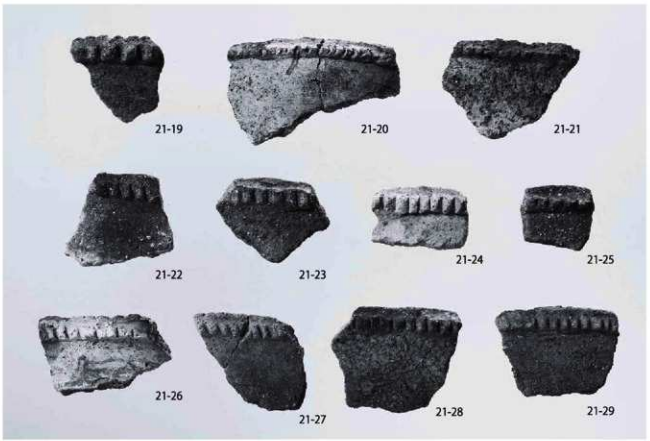
第 1 遺構面出土石器



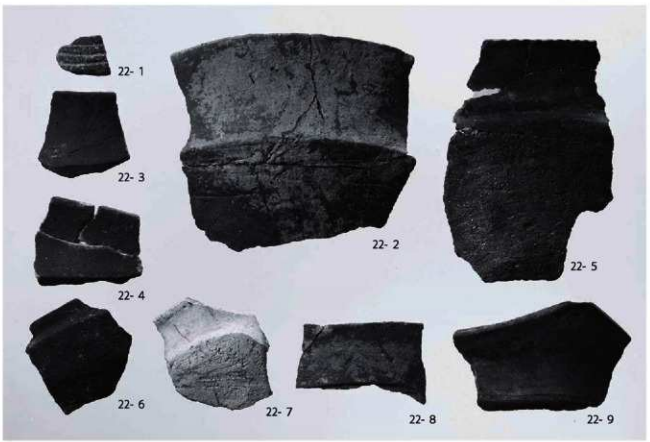
第 2 遺構面出土土器



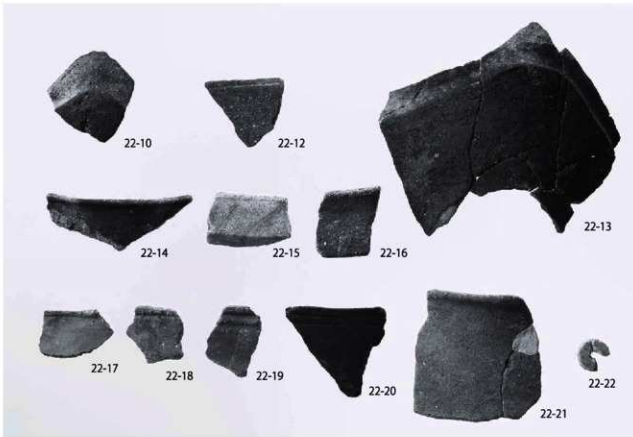
第 2 遺構面出土土器



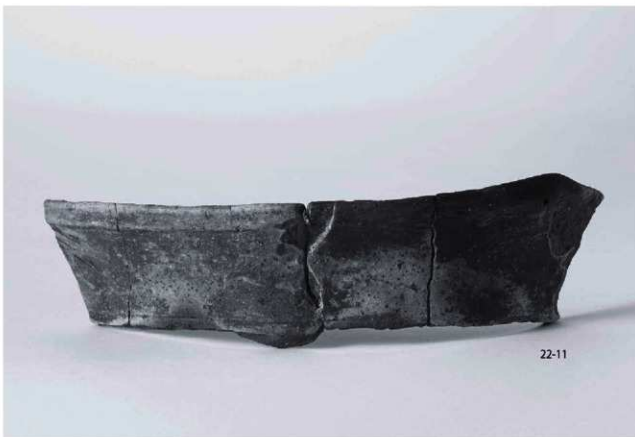
第 2 遺構面出土土器



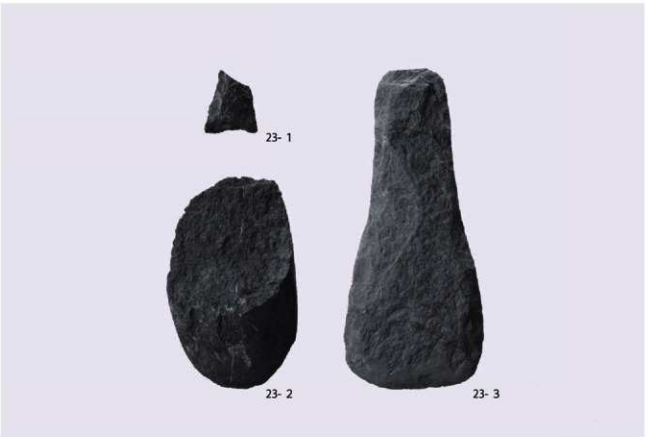
第 2 遺構面出土土器



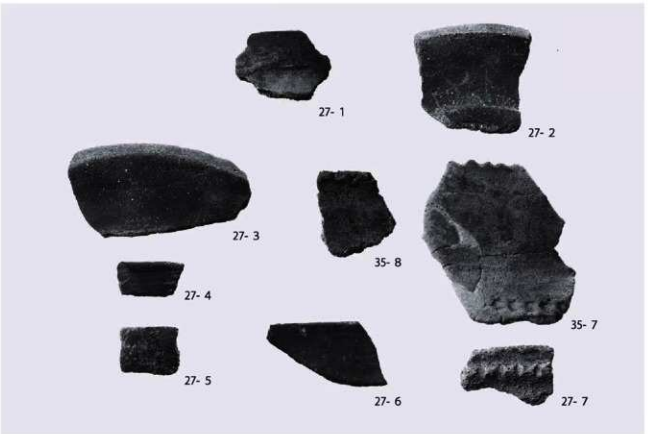
第 2 遺構面出土土器・土製品



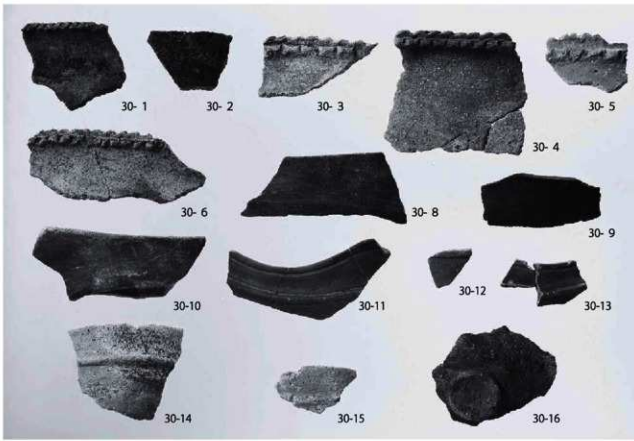
第 2 遺構面出土土器



第 2 遺構面出土石器

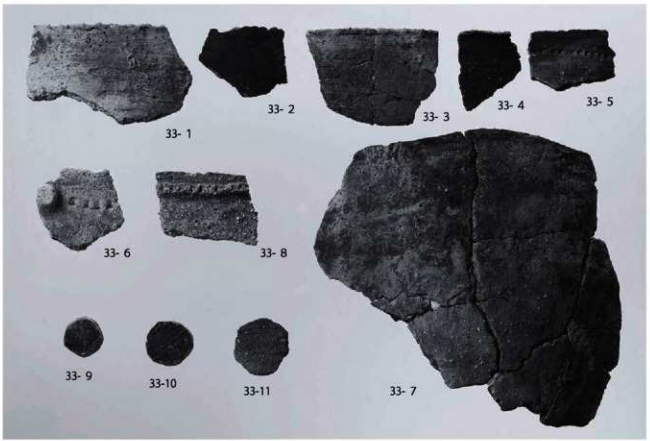


第 3 遺構面　遺構・遺構面出土土器

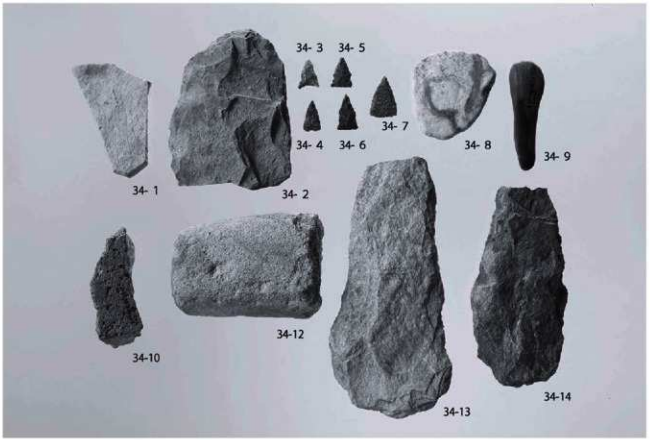


SK13 出土土器

SK13 出土土器

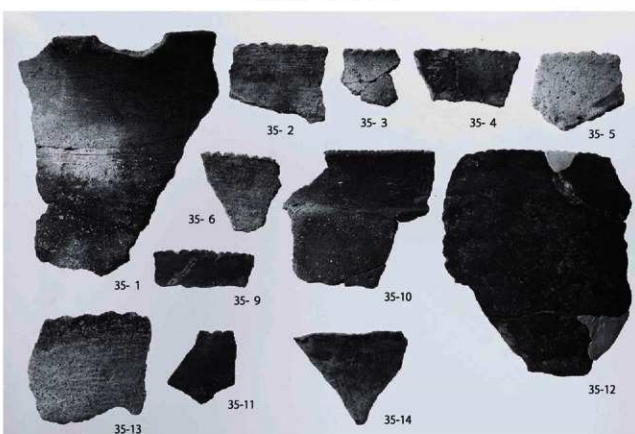


SX01 出土土器

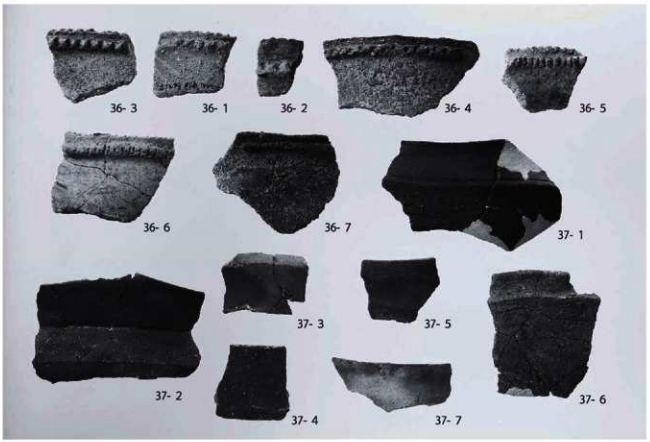


第 3 遺構面　遺構出土石器

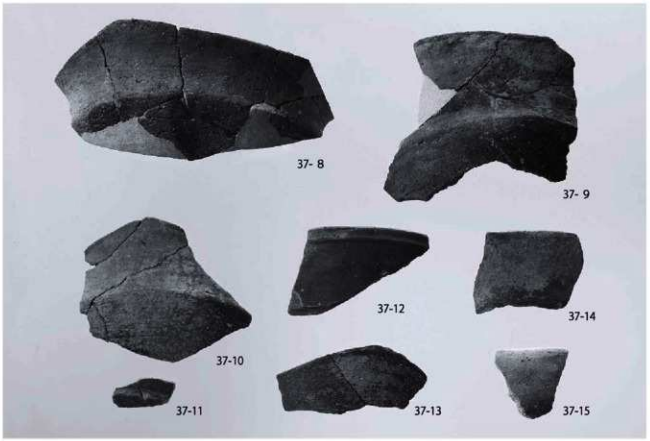
第 3 遺構面　遺構出土石器



第 3 遺構面出土土器

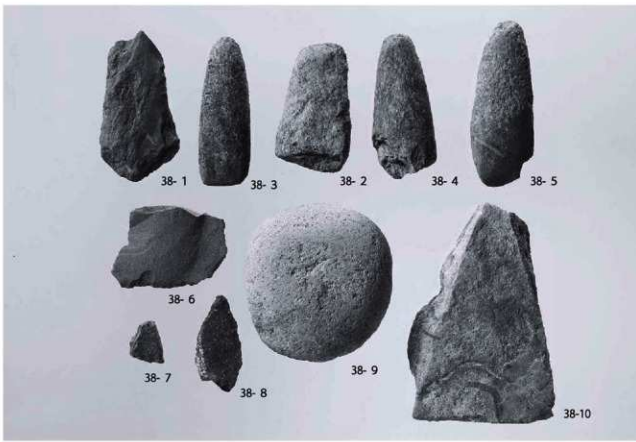


第 3 遺構面出土土器

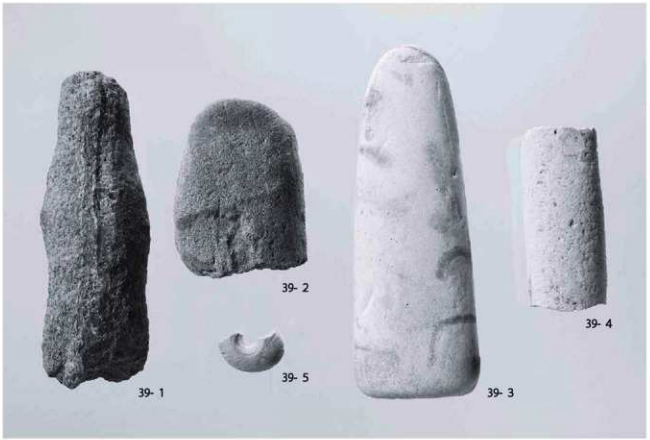


第 3 遺構面出土土器

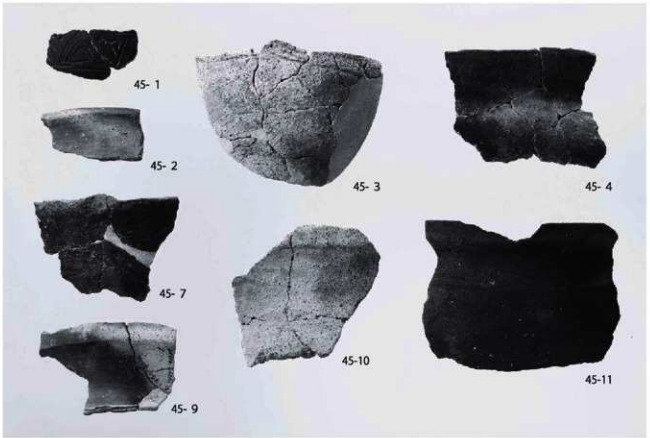
第 3 遺構面出土土器



第 3 遺構面出土石器



第 3 遺構面出土石器

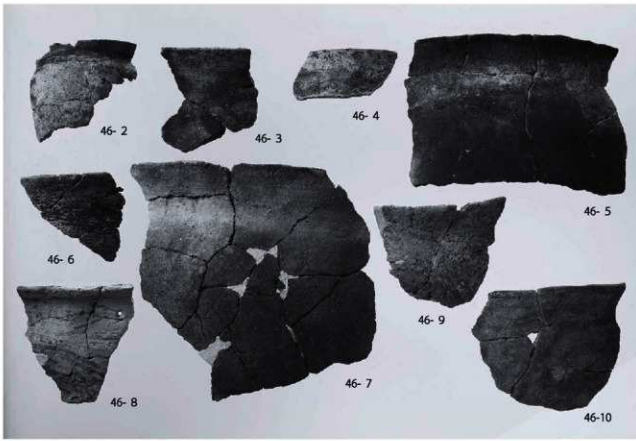


第 4 遺構面　遺構・土器溜まり 1 出土土器

土器溜まり 1 出土土器

土器溜まり 1 出土土器

土器溜まり 1 出土土器

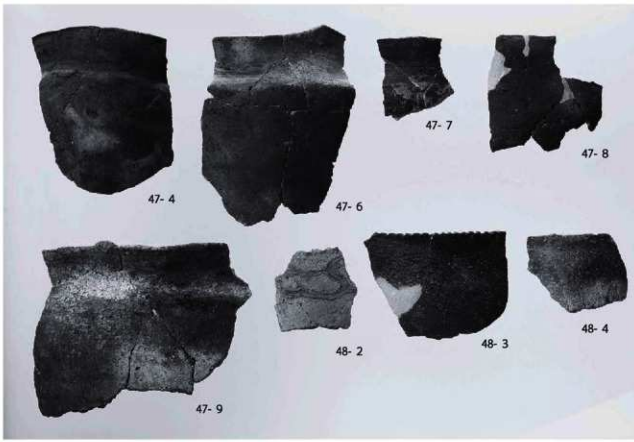


土器溜まり 1 出土土器

土器溜まり 1 出土土器

土器溜まり 1 出土土器

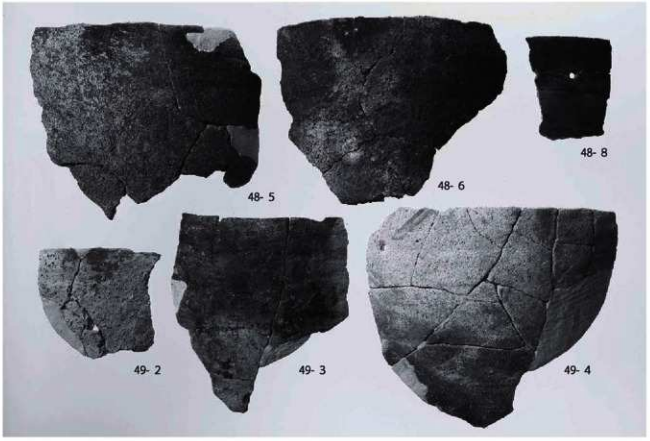
土器溜まり 1 出土土器



土器溜まり 1 出土土器

土器溜まり 1 出土土器

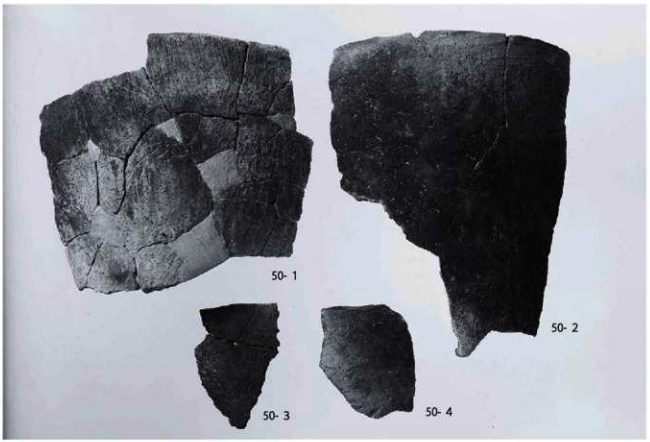
土器溜まり 1 出土土器



土器溜まり 1 出土土器

土器溜まり 1 出土土器

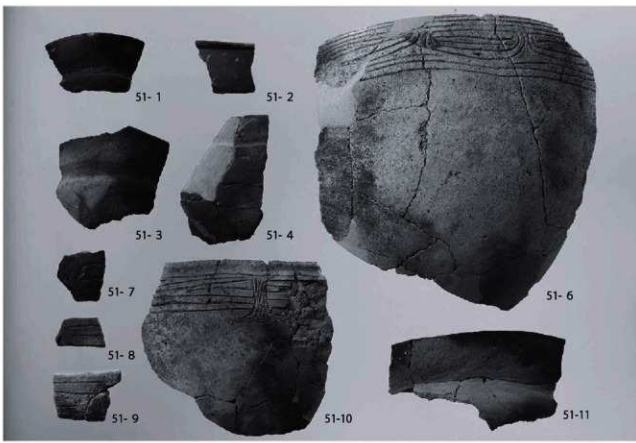
土器溜まり 1 出土土器



土器溜まり 1 出土土器

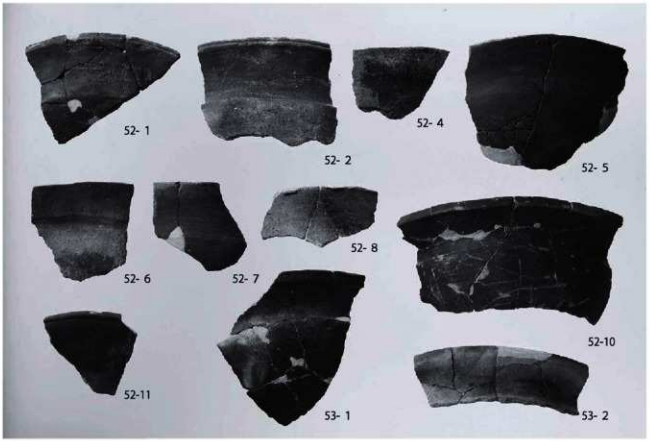
土器溜まり 1 出土土器

土器溜まり 1 出土土器



土器溜まり 1 出土土器

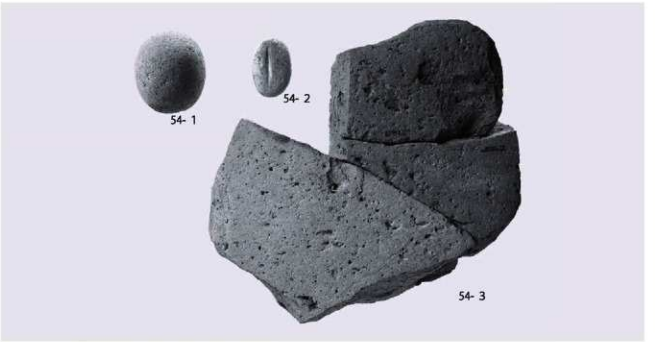
土器溜まり 1 出土土器



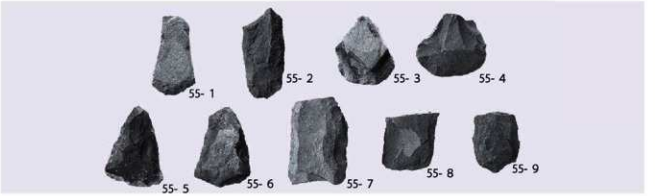
土器溜まり 1 出土土器

土器溜まり 1 出土土器

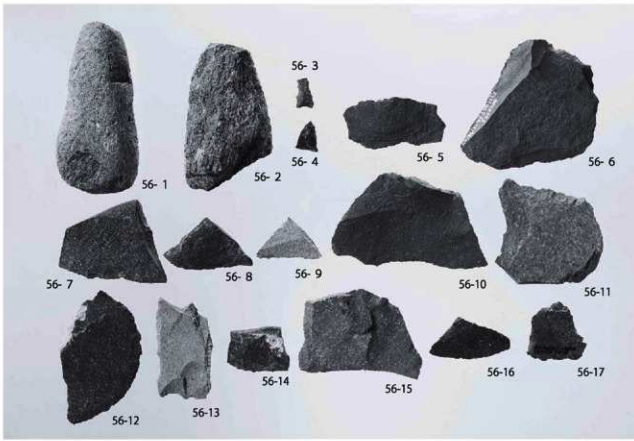
土器溜まり 1 出土土器



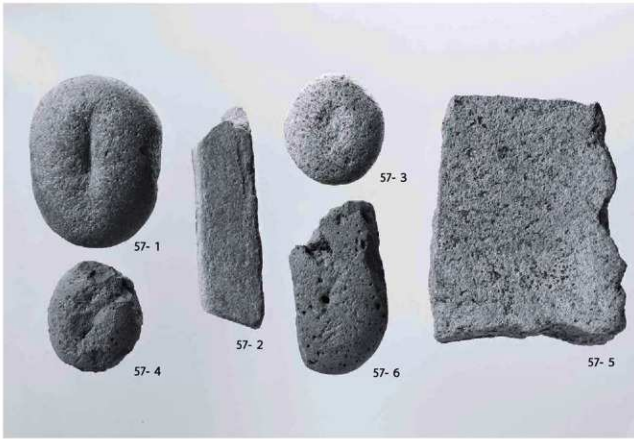
SD09 出土石器



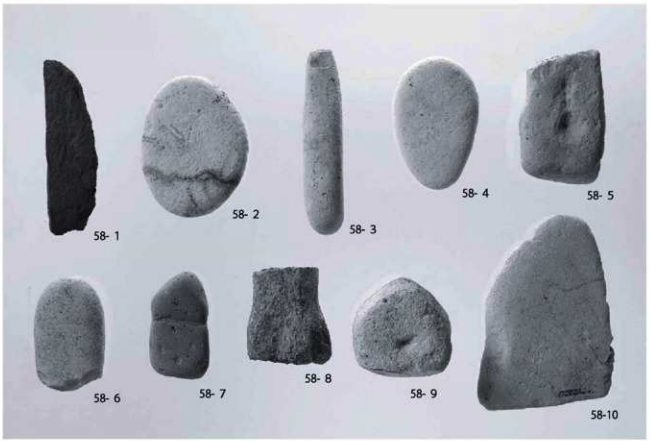
土器溜まり 1 出土石器



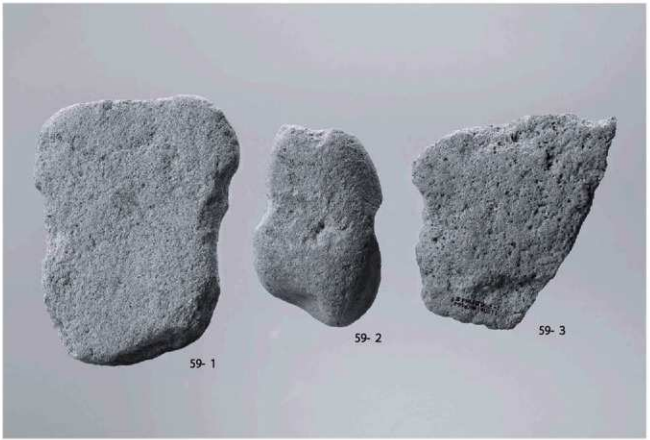
土器溜まり 1 出土石器



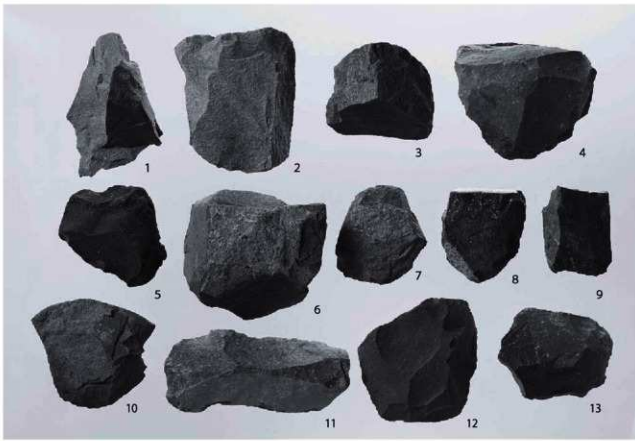
土器溜まり 1 出土石器



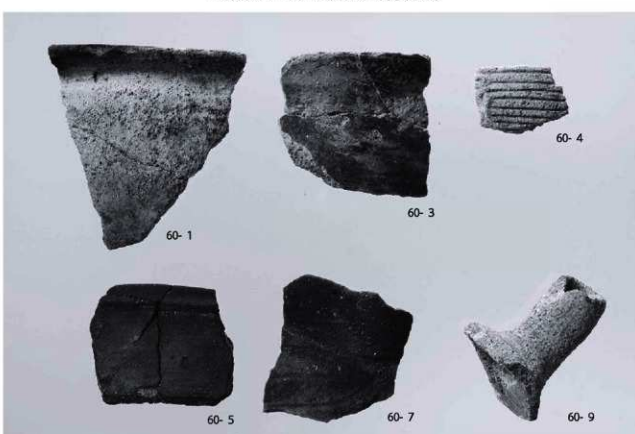
土器溜まり 1 出土石器



土器溜まり 1 出土石器



土器溜まり 1 出土石核ほか（写真のみ）



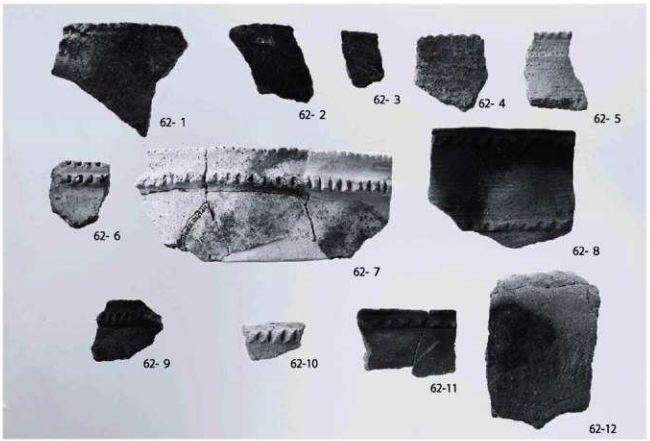
第 4 遺構面出土土器

第 4 遺構面出土土器

第 4 遺構面出土土器

第 4 遺構面出土土器

第 4 遺構面出土石器



河道出土土器

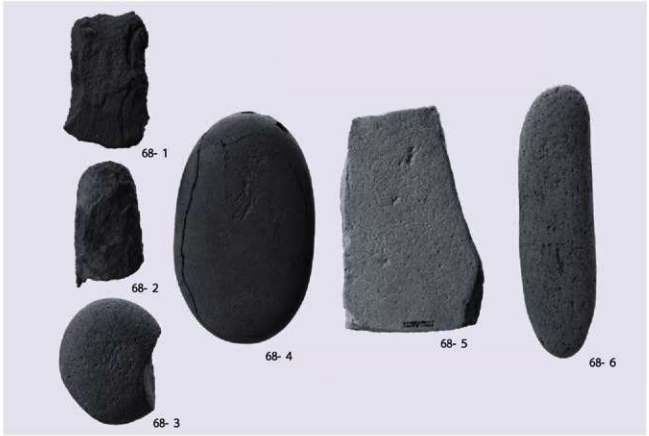
河道出土土器

河道出土遺物

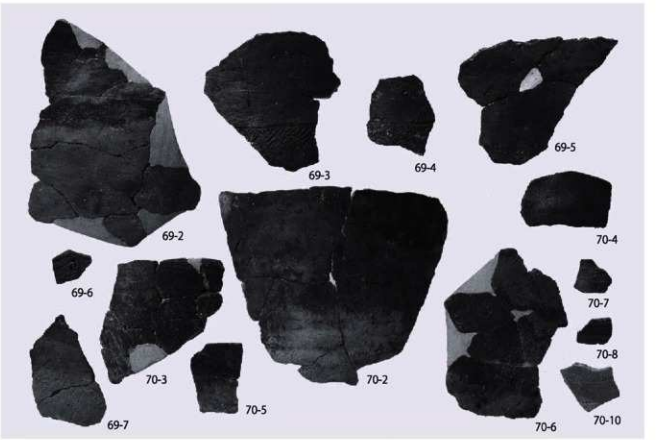
緑灰色粘土出土土器

緑灰色粘土出土土器

緑灰色粘土出土土器



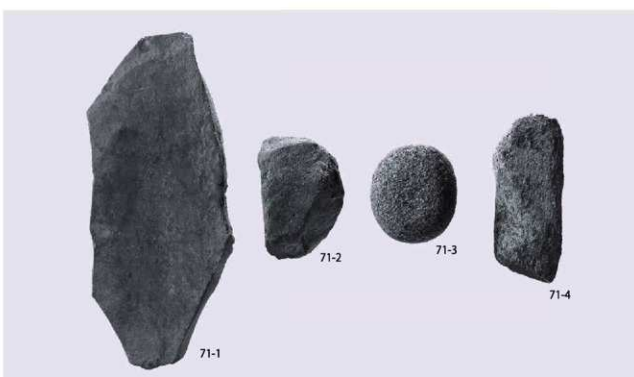
緑灰色粘土出土石器



青灰色粘土出土土器

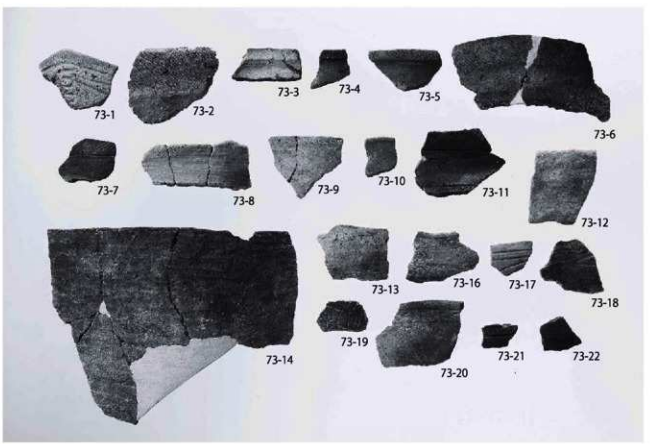
青灰色粘土出土土器

青灰色粘土出土土器



青灰色粘土出土石器

青灰色粘土出土石器

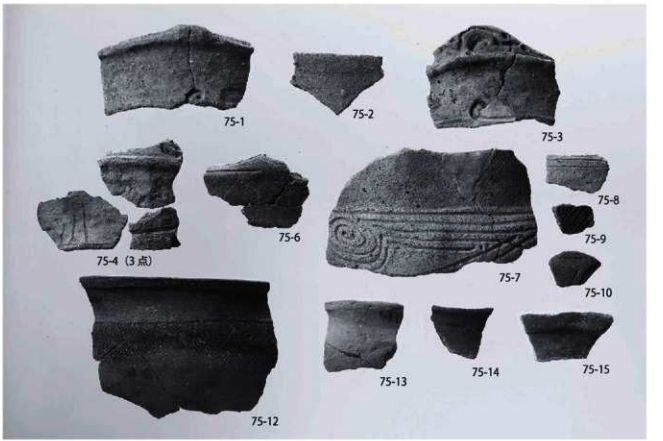


暗オリーブ灰色粘土 I 出土土器

暗オリーブ灰色粘土 | 出土土器

暗オリーブ灰色粘土 | 出土土器

暗オリーブ灰色粘土 I 出土土器

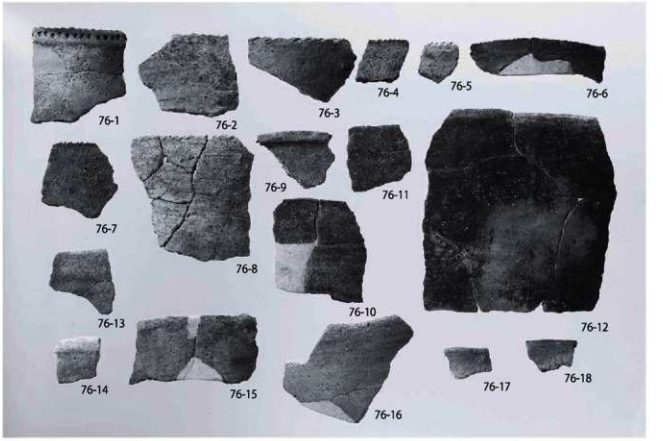


暗オリーブ灰色粘土 II 出土土器

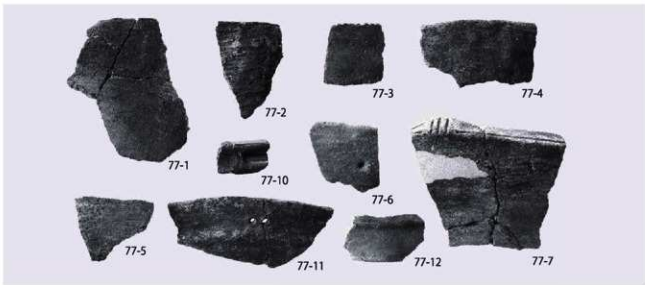
暗オリーブ灰色粘土 II 出土土器

暗オリーブ灰色粘土 II 出土土器（75-5 と同一個体）

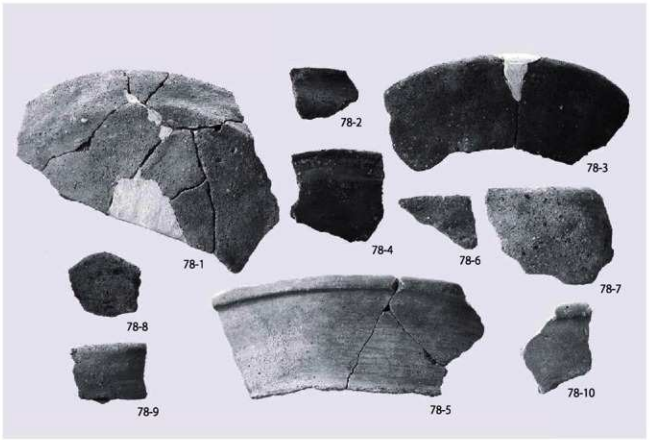
暗オリーブ灰色粘土Ⅱ出土土器



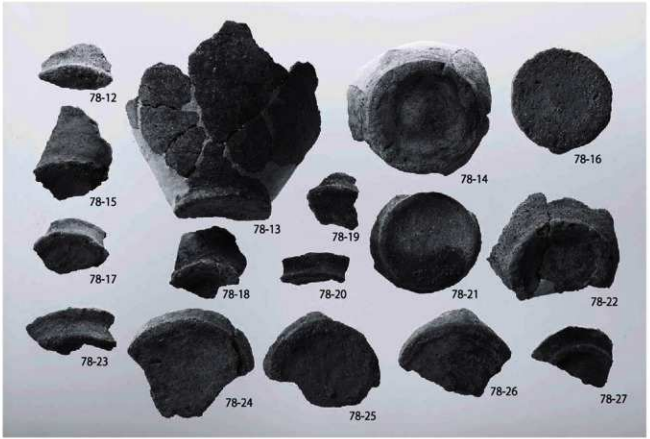
暗オリーブ灰色粘土Ⅱ出土土器



暗オリーブ灰色粘土 II 出土土器

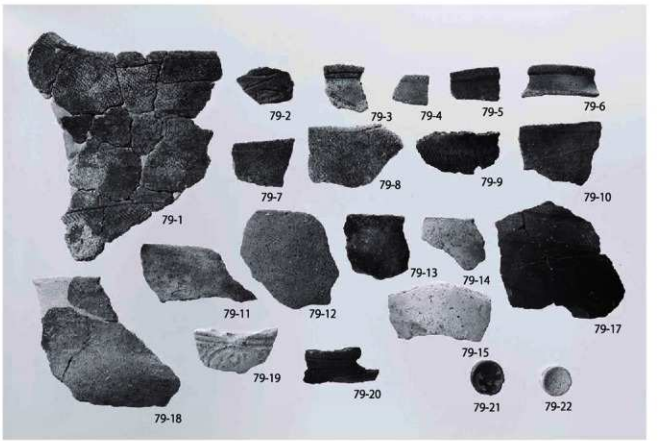


暗オリーブ灰色粘土 II 出土土器



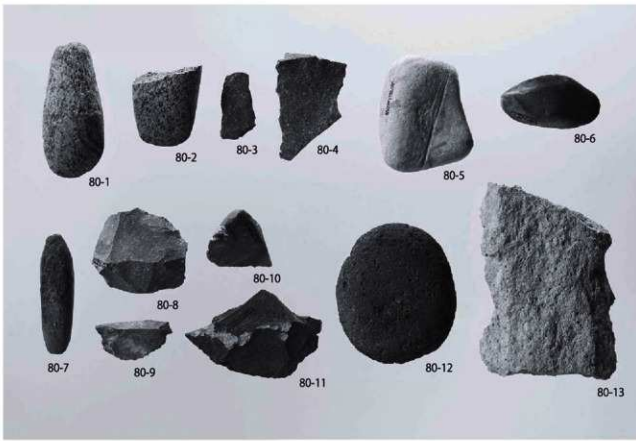
暗オリーブ灰色粘土 II 出土土器

暗オリーブ灰色粘土 II 出土土器

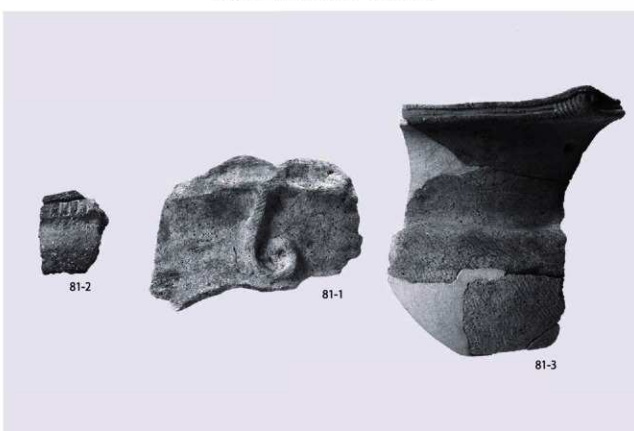


暗オリーブ灰色粘土Ⅰ・Ⅱ出土土器・土製品

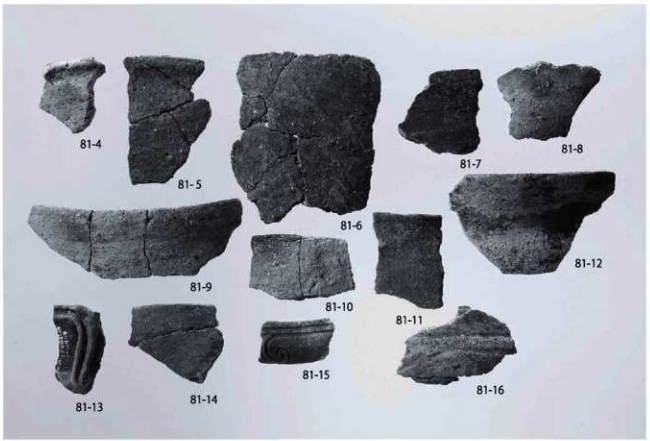
暗オリーブ灰色粘土Ⅰ・Ⅱ出土土器



暗オリーブ灰色粘土Ⅰ・Ⅱ出土石器

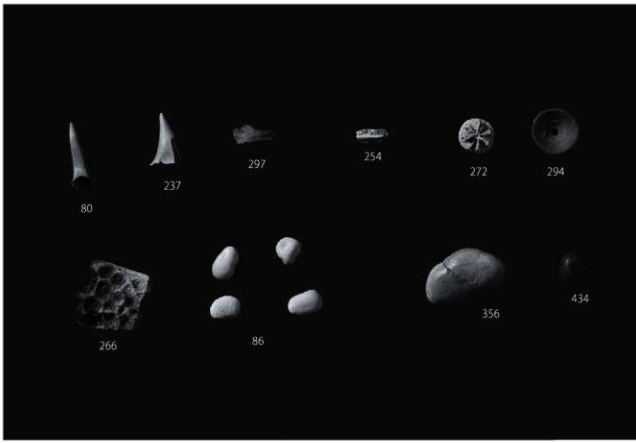


青灰色砂礫出土土器

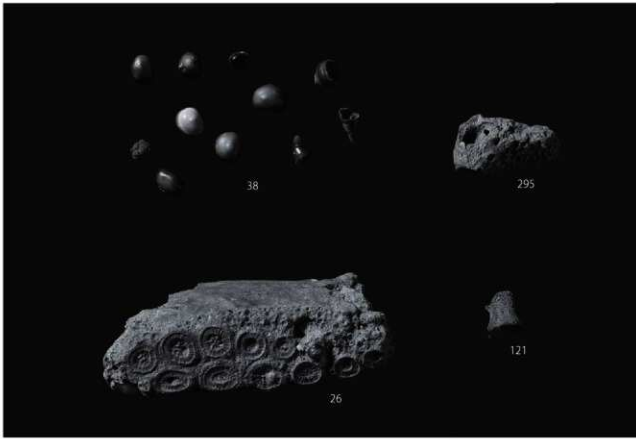


青灰色砂礫出土土器

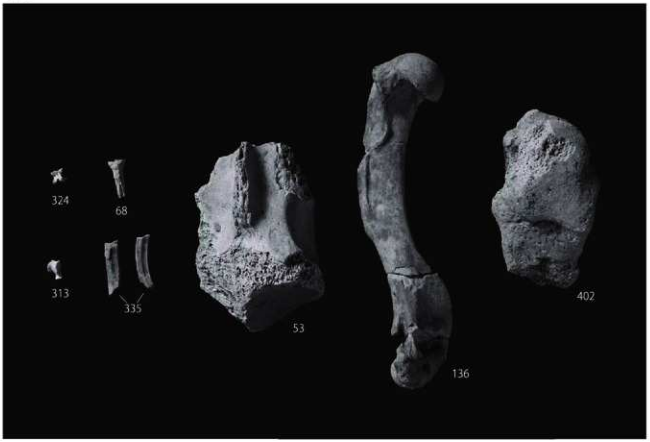
青灰色砂礫出土土器：81-3 と同一個体



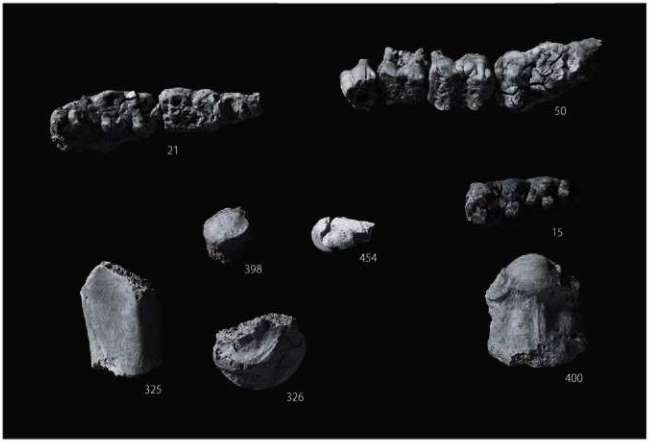
動物遺存体 1（番号は第 5 章 P96 〜の第 2 表と一致する：以下同）



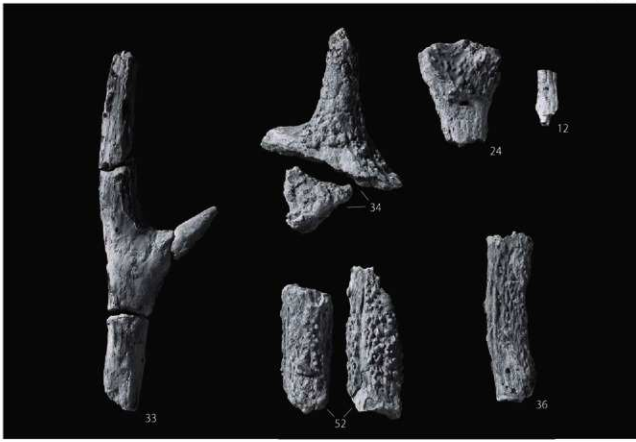
動物遺存体 2



動物遺存体 3



動物遺存体 4



動物遺存体 5

動物遺存体 6

報告書抄録

ふりがな	ふるやしきいせき（B く）
書名	古屋敷遺跡 (B 区)
シリーズ名	一般国道 9 号 (静間仁摩道路) 改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	5
編著者名	宮本正保・柳浦俊一・石丸恵利子・上山晶子・渡辺正巳
編集機関	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
	http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/
所在地	〒　690-0131　島根県松江市打出町 33 番地
	E-mail:maibun@pref.shimane.lg.jp
発行年月日	2017(平成 29) 年 6 月 30 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード 市町村	 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
ふるやしきいせき 古屋敷遺跡	しまねけん　おおだし 島根県　大田市 にまちょう　おおぐに 仁摩町　大国	32205	B61	35° 23′ 36″	132° 55′ 01″	20130610 ～ 20140218	2,200㎡	道路建設

遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
古屋敷遺跡	集落	縄文 弥生	地床炉 土器溜まり 溝状遺構・水田	弥生土器・縄文土器 石器・石製品 土製品	島根県内では数少ない弥生時代の水田跡を検出。

要約

古屋敷遺跡は大田市仁摩町大国の沖積平野東端に位置する、縄文時代後期から弥生時代前期の遺跡。本調査区では、弥生時代の水田跡や縄文時代晩期を中心とする多くの地床炉・ピットが検出された。またこれらに伴い、縄文土器・石器など様々な遺物が大量に出土した。

本調査では、土器型式の変化や水田の導入など、縄文時代後期から弥生時代前期における遺跡の変遷を把握することができた。この地域が、水田農耕社会へと変化していく様子を検討する上で、貴重な資料を得た。

（緯度・経度は世界測地系による）

古屋敷遺跡 (B 区)

一般国道 9 号 (静間仁摩道路) 建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 5

発行　2017(平成 29) 年 6 月
発行者　国土交通省中国地方整備局松江国道事務所
島根県教育委員会
編集　島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
〒 690-0131　島根県松江市打出町 33 番地
電話　0852-36-8608
http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/
印刷　さんきゅう印刷　株式会社